

グローバル COE プログラム
生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点



平成 20 年度
自己点検評価報告書

目次

- 1. はじめに 1**
- 2. プログラムの目標と進捗 2**
- 3. 運営体制の整備 5**
 - 3.1 運営体制と教育研究プログラム
 - 3.2 委員会・部会組織と人員配置
 - 3.3 事務局体制の整備
 - 3.4 平成 20 年度予算と配分状況
- 4. 運営委員会の活動 7**
 - 4.1 概要
 - 4.2 特定助教（G-COE）および特定研究員（G-COE）の採用
- 5. 人材育成センターの活動 8**
 - 5.1 大学院教育部会および若手養成・研究部会の組織運営
 - 5.2 新専攻「グローバル地域研究」持続型生存基盤論講座の設置について
 - 5.3 海外派遣助成
 - 5.4 アジア・アフリカ人材育成
- 5-1. 大学院教育部会の活動 12**
 - 5-1.1 ASAFAS 新専攻「グローバル地域研究」および「持続型生存基盤論講座」について
 - 5-1.2 TA・RA プログラム
 - 5-1.3 フィールド・ステーションを活用した若手研究者の育成
- 5-2. 若手養成・研究部会の活動 21**
 - 5-2.1 特定助教（G-COE）・特定研究員（G-COE）の活動
 - 5-2.2 次世代イニシアティブ・研究助成の交付
 - 5-2.3 研究会・シンポジウム等の開催
 - 5-2.4 インドネシア・チビノンで開講された生存圏科学国際スクールとシンポジウムへの若手部会のメンバー派遣
 - 5-2.5 G-COE 国際シンポジウムでの発表

6. 研究イニシアティブ	27
6.1 パラダイム研究会	
6.2 研究イニシアティブ1	
6.3 研究イニシアティブ2	
6.4 研究イニシアティブ3	
6.5 研究イニシアティブ4	
7. 広報成果発信部会の活動	42
7.1 研究成果発信	
7.2 ニュースレター	
7.3 ウェブページ	
8. 拠点基盤整備部会の活動	55
8.1 情報基盤	
8.2 データベース	
8.3 図書	
8.4 展望	
9. 国際アドバイザリーボード部会の活動	60
9.1 国際シンポジウムとの連携	
9.2 国際アドバイザリーボードによる外部評価	
10. 平成20年度 主要獲得外部資金	63
11. 自己点検評価委員会	66
11. おわりにー今後の展望ー	68

Appendix

- 1 G-COE ワーキング・ペーパーリスト**
- 2 G-COE 19-20 年度業績リスト**

1. はじめに

本プログラムは、アジア・アフリカ地域の持続的発展に関する学際的研究を、グローバルで長期的な視野から、多面的に行うために創出された。われわれは、アジア・アフリカの地域研究に携わる研究者と、先端技術の開発に関わる科学者との学問的対話を促進するために、「持続型生存基盤パラダイム」という新しい考え方を提案し、地球温暖化のアジア・アフリカの地域社会への影響といった緊急の課題に対応しつつ、ローカルな、あるいはリージョナルな持続的発展径路を追究したいと考える。

本プログラムの主幹部局である東南アジア研究所は、強い学際的な志向を持った京都大学の地域研究の伝統のなかで発展してきた。本プログラムは、アジア・アフリカ地域研究研究科が東南アジア研究所と協力して行った21世紀COEプログラム(2002-2007年)の成果を受け継ぎ、フィールドワークと臨地教育にもとづく大学院教育を継続するとともに、「持続型生存基盤コース」を新設し、若手研究者の養成を図る。さらに、生存圏研究所などから森林科学・木質科学、気象学・大気圏科学、物質循環論、エネルギー科学など「サステナビリティ学」に関連するハードサイエンスの領域を加えて、地域研究における科学的研究の幅を広げる。それによって、先端科学技術の知識を、伝統的な地域研究を支えてきた生態学、政治学・経済学、社会学・人類学、歴史学、医学の知識と融合させ、これまでの体制よりもはるかに幅広い人文科学、社会科学、自然科学の諸分野につうじた地域研究の専門家や科学者を養成する。

2年目にあたる平成20年度の第一の目標は、研究活動を本格化し、中間的な成果を生み出すとともに、パラダイム形成の方向を見出すことだった。まず、広い学際性を維持しつつ共通の枠組を作るために、パラダイム研究会を12回、国際シンポジウム・セミナーを19回、その他、イニシアティブ研究会・ワークショップを多数主催・共催した。また、その成果を速報として公開するワーキングペーパー73冊を刊行した。さらに、新しいパラダイムの形成を現段階で総括した論文集を編集した。来年度前半に刊行の予定である。

もう一つの特筆すべき進展は、本プログラムの開始を契機として、大学院アジア・アフリカ地域研究研究科において、新しい専攻である「グローバル地域専攻」が設置され、そのなかに「持続型生存基盤論講座」が設置されたことである。新しい教授ポストが二つつくことになり、定員8名(新専攻全体)で2009年度からスタートした。

このように、共同研究によるパラダイム形成と人材育成のための制度改革を両輪とする本プログラムの構想は着実に進展している。次年度においては、上記論文集のほか、いくつかの本格的な研究成果を出すとともに、パラダイム形成の成果を東南アジアにおける森林プロジェクトなどの具体的な研究に反映させることによって、さらにその射程を広げていきたい。

平成21年5月31日

拠点リーダー 杉原 薫

2. プログラムの目標と進捗

パラダイムの形成

本拠点形成の第一の目的は、自然生態、政治経済、社会文化を包摂した総合的地域研究に人類の生存基盤を左右する先端的科学技術研究を融合させて、「持続型生存基盤パラダイム」研究を創成することである。

近年のアジア・アフリカにおける総合的地域研究の成果から、人間の活動範囲が政治経済のグローバリゼーションによって地理的・空間的に拡大しつつあることに加え、地域はグローバリゼーションの単なる受け手ではなく、地域間交流などを通じて、グローバリゼーションそのものに影響を与える能動的な主体であることが明らかになった。一方、現代社会の要請に応え、地球環境問題、エネルギー問題を視野に入れた 21 世紀世界を展望するには、資本主義が前提としてきた私的所有権からの発想を相対化し、地表から宇宙までの空間的広がりをもった「生存圏」の物質・エネルギー循環に関わる研究を取り込み、ローカルにもグローバルにも持続可能で、かつ、科学技術・社会制度・価値観の考察を包摂した、新たな生存基盤持続型発展径路を構築するためのパラダイムを創出する必要がある。

具体的には以下の 4 つの研究イニシアティブを通じてパラダイム研究を推進する。イニシアティブ 1 「環境・技術・制度の長期ダイナミクス」は、人類が「生存基盤の確保」を主たる課題としてきた社会から、生活水準の向上や人口の増加、国力の増大を目指す「開発」型の社会に変化してきた過程を歴史的に解明し、先端科学の知見とつきあわせることによって、現代のアジア・アフリカ地域の環境、技術、制度にかかわる問題群を再検討する。イニシアティブ 2 「人と自然の共生研究」は、従来の地域に根ざした資源利用システム研究と、物質・エネルギー循環の危機を背景にした新しい研究・知見を融合させて、社会文化的に実現可能な資源利用システムを提言する。イニシアティブ 3 「地域生存基盤の再生研究」では、より大きな一地域（スマトラ・パレンバンなど）をとりあげ、森林の再生、第一次産品輸出経済の発展と周囲の植生、制度、雇用、地方政治との絡み合いを総合的に考察し、持続型発展のモデルを追究する。イニシアティブ 4 「地域の知的潜在力研究」は、人類の多様性を保証してきた文化、価値観のなかに、生存基盤の持続的発展の要因を探る。

これら 4 つの研究イニシアティブにおける取り組みの成果として、これまでに明らかになった知見は、次の二点にまとめられる。その第一は、人間と自然環境の関係を、これまでのように人間（開発）の側からだけ、あるいは自然環境の維持の立場だけから考えるのではなく、両者の相互関係を考慮した上で、人類の「生存基盤」をどのように持続させていくかという視点が重要だということである。われわれは、そうした視点を確立するために、グローバル・ヒストリーを書き直したり、人間開発指数に代わる「生存基盤指数」の開発を試みたり、生命を連鎖体として見る在来の「生存基盤の思想」を読み解いたりした。

第二は、人間と自然環境との関係を二項対立的に捉えるのではなく、「地球圏」、「生命圏」、「人間圏」という、長い歴史と固有の運動の論理をもった三つの圏が交錯して成立する「生存圏」として捉えることによって、これまで注目されていなかったさまざまな領域の問題を可視化し、総合化することができるのではないかということである。具体的には、大気の動きと降雨、植生の関係を学際的に研究することによって「熱帯生存圏」の諸相を

理論的に解明するとともに、東南アジアの大規模植林をとりあげて、そこにおける生態系と生物多様性の維持、地域社会との関係、バイオエネルギーの開発などのテーマを総合的、体系的に解明しようとした。これらの作業の中間的な成果は、近く刊行される『地球圏・生命圏・人間圏－持続型生存基盤とは何か－』（京都大学学術出版会、印刷中）にまとめられており、本プログラムを通じて新しいパラダイムの萌芽が見えてきている。

成果の発信

平成 20 年度においては、本プログラムメンバーに加えて、国内外から関連研究者を招へいして、パラダイム研究会を 12 回、国際シンポジウム・セミナーを 19 回、その他、イニシアティブ研究会・ワークショップを多数主催・共催し多。また、その成果を速報として公開するワーキングペーパー 73 冊を刊行した。国際学会での招待講演も、Santa Fe Institute Conference on ‘History, Big History and Metahistory: An Approach through the Sciences of Complexity’における“The West, East Asia and the Tropics in Global Economic Development”（杉原薫）等、積極的に実施している。また国際誌への投稿論文に関しても、“Transparent nanocomposites based on cellulose produced by bacteria offer potential innovation in electronics device industry”（*Advanced Materials*、矢野浩之）等、本プログラムの成果が現れ始めている。これらの成果を、「生産から生存へ」、「地表から生存圏へ」、そして「温帯から熱帯へ」の 3 つの視点を柱としてとりまとめた単行本『地球圏・生命圏・人間圏－持続型生存基盤とは何か－』（京都大学学術出版会）を印刷中である。さらに、本プログラムによるこうした刊行物に加えて、『東南アジア研究』、『アジア・アフリカ地域研究』、『*Kyoto Review of Southeast Asia, African Study Monographs*』などにおいても徐々に、本プログラムに関係する論考が現れ始めている。

教育・人材養成

本拠点の第二の目的は、パラダイム形成の現場に触れた、本格的な文理融合型研究を担う若手研究者を養成することである。本プログラムの特徴は、21 世紀 COE プログラム「世界を先導する総合的地域研究拠点の形成」によってアジア・アフリカ地域に設置した 14 ヶ所のフィールド・ステーションを継承・発展させ、フィールドワークから国際ワークショップにいたるまで、研究パラダイム形成の現場に博士後期課程の大学院生・ポスドク研究員・助教からなる若手研究者を主体的に参加させることによって、人材育成と研究を融合させるところにある。そのために、「生存基盤地域研究人材育成センター」を設置して、グローバルな人材発掘からはじめ、研究・教育を経て、国際キャリア支援にいたる、文理融合型の国際的人材育成システムを構築する。

また、海外の地域研究拠点（コーネル大学・ロンドン大学・ライデン大学・オーストラリア国立大学等）と連携し、アカデミック・ディベートを通じて地域研究や専門分野を超えたパラダイム形成能力を養成する。国際的発信能力強化のために、国際学術雑誌への論文掲載や単行本出版のための支援を行うとともに、コミュニケーション能力の向上や研究会・プロジェクトの企画運営能力の向上を目的とした人材育成プログラムを推進する。

これらのプログラムによって、これまでの実績以上の博士修了者を、世界の学術界を先導する大学・研究機関そして世界で活躍する民間企業に送り込む。また、国際連合、世界

銀行、世界自然保護連合などの国際機関、政府行政機関、世界各地で活動を展開している NGO にもアジア・アフリカ研究の専門家を輩出し、持続型生存基盤の構築に向けた国際的な公論形成に貢献する人材や、地域に根ざした技術開発をリードできる人材を供給する。

平成 20 年度においては、大学院生を対象としたフィールド・ステーション派遣、海外観測拠点派遣支援や論文投稿料支援、若手研究者を対象とした次世代研究イニシアティブ助成や海外派遣助成を実施した。またアジア・アフリカ諸国の優秀な若手研究者を対象として、本拠点に招へいし、最先端の研究現場での議論への参加を促進する若手研究者交流を実施するとともに、修士号取得者を対象とした博士号取得支援の準備を進めている。

これらの成果を踏まえて、新しいパラダイムのもとでの人材育成を制度化するため、平成 21 年 4 月より、大学院アジア・アフリカ地域研究研究科にグローバル地域研究専攻を新設するとともに、新専攻に設置される持続型生存基盤論講座に新規で教授 2 名を採用する。本講座は、「持続型生存基盤研究の方法」や「国際環境医学論」、「熱帯乾燥域生存基盤論」、「熱帯森林資源論」、「人間環境関係論」、「生存圏科学論」等の科目を提供するとともに、本プログラム終了後の教育・人材育成の中核を担う。

世界拠点の形成

生存基盤地域研究人材育成センターは、大学院アジア・アフリカ地域研究研究科における「持続型生存基盤講座」の新設を全面的にサポートした。

本プログラム終了後、このセンターを、京都大学の将来構想と連動させ、持続型生存基盤パラダイムによる科学技術研究融合型地域研究の展開と戦略的な人材育成を目的とする京都大学地域研究グローバルユニット（仮称）として再編する。本ユニットは、アジア・アフリカ地域だけでなく欧米を含む世界の関連教育研究ネットワークの中心となる。将来的には学内の新たな教育研究組織として発展・改組を構想している。

持続型生存基盤パラダイムの創出により、地域研究が国際的に活性化され、世界の学術イニシアティブにおける地域研究の地位が向上し、さらにこれらを通じて日本の総合的学術研究の国際的プレゼンスが強化される。また国際機関などにおける環境・エネルギー研究をアジア・アフリカ地域の実態を踏まえたものにし、アジア・アフリカの地域社会における価値観や政策を持続型発展へと方向づけ、それらの転換における日本の発信力の向上に貢献する。

3. 運営体制の整備

3.1 運営体制と教育研究プログラム

本プログラムは、地域研究を核とした幅広い文理融合による持続型生存基盤パラダイムの構築、パラダイム形成の現場における教育・人材育成、そしてこれらを通じた世界に類を見ない学際融合の拠点形成を目指すものである。そのために、以下の3点に配慮した運営を実施した。

- 1) プログラムに参加する研究者の研究領域間、そして所属する教育研究組織間での円滑で効率的な連携を推進すること
- 2) 国内での教育・人材育成とアジア・アフリカ地域でのフィールドワークの現場での教育・人材育成をリンクさせること
- 3) 最先端の研究活動と大学院教育・若手研究者の育成をリンクさせること

運営体制は、平成19年度と同様である。プログラム全体を総括し、運営の基本方針に関する意思決定を担う運営委員会のもとに、人材育成センターと大学院教育部会、若手養成・研究部会、広報成果発信部会、拠点基盤整備部会の4つの部会を配置した。これらのセンター・部会が、大学院教育制度の整備、海外拠点を活用した臨地教育、若手研究者のイニシアティブによる研究活動の支援などの人材育成と拠点整備を担っている。研究活動については、持続型生存基盤パラダイムの構築に向けて、研究領域を横断するテーマを掲げる4つの研究イニシアティブとそれらを統合するためにパラダイム研究会を組織した。パラダイム研究会、4つの研究イニシアティブ、さらにそのもとで展開される個別の研究プロジェクトと重層的な研究推進体制とすることにより、研究領域間の融合を促進している。

さらに、これらの諸活動を点検・評価するために、自己点検評価委員会と国際アドバイザーボードを設置した。自己点検評価委員会は、毎年度、自己点検評価報告書を取りまとめ、プログラム運営の絶えざる改善に努める。また国際的に活躍する研究者をメンバーとする国際アドバイザーボードからは、世界に類を見ない学際融合の拠点形成の推進に向けたアドバイスをお願いしている。

3.2 委員会・部会組織と人員配置

本プログラムは、23名の事業推進担当者に加えて、東南アジア研究所、大学院アジア・アフリカ地域研究研究科、生存圏研究所、地域研究統合情報センター等に所属する多数の教員、研究員および大学院生の協力によって実施している。そこで、これらの関係者全員がいずれかの研究イニシアティブに参加し、研究活動を展開するとともに、中核メンバーはセンター・部会に参加し、本プログラムの運営を担っている。いずれのイニシアティブ、あるいはセンター・部会に関しても、人員配置が研究組織・領域横断的になるよう配慮した。

3.3 事務局体制の整備

事務局は、総務、会計などの一般事務のみならず、情報基盤やホームページ、ニューズレターなど、拠点形成にとって不可欠な研究支援業務の補佐も担っている。そこで、複数の教員、研究員に加えて、一般事務に事務補佐員2名、研究支援業務に技術補佐員4名を配置した。事業推進の日常活動のエンジンとして、健全に機能している。

3.4 平成20年度予算と配分状況

平成20年度予算は、直接経費161,300千円、間接経費24,195千円で、合計185,495千円であった。これを、プログラム開始後、4つの部会と研究グループ、事務局で配分した。ほぼ当初の予定通りに予算を執行することができた。

表3-1 平成20年度予算と配分状況 (単位：円)

	平成20年度								間接経費	合計
	G-COE									
	大学院教育部 会	若手養成・研究 部会	広報・成果出版 部会	拠点基盤整備 部会	研究グループ	事務局	人材育成センタ-	小計		
設備備品費	0	0	150,000	0	700,000	0	0	850,000	0	850,000
支出額	1,496,602	549,430	922,618	308,100	491,925	663,957	0	4,432,632	1,242,378	5,675,010
(残 高)	-1,496,602	-549,430	-772,618	308,100	208,075	-663,957	0	-2,966,432	-1,242,378	-4,208,810
国内旅費	0	800,000	0	0	1,950,000	0	0	2,750,000	0	2,750,000
支出額	75,040	1,011,580	0	0	3,462,320	286,193	32,100	4,867,233	284,570	5,151,803
(残 高)	-75,040	-211,580	0	0	-1,512,320	-286,193	-32,100	-2,117,233	-284,570	-2,401,803
外国旅費	11,710,000	800,000	0	0	3,600,000	0	0	16,110,000	0	16,110,000
支出額	9,106,582	2,686,637	0	0	8,881,522	5,393,320	1,461,787	27,529,848	0	27,529,848
(残 高)	2,603,418	-1,886,637	0	0	-5,281,522	-5,393,320	-1,461,787	-11,419,848	0	-11,419,848
人件費	2,770,000	29,400,000	4,900,000	860,000	6,050,000	6,950,000	22,500,000	73,430,000	16,000,000	89,430,000
支出額	1,329,076	28,324,555	1,104,895	1,174,000	4,443,272	6,860,161	21,722,539	64,958,498	12,648,197	77,606,695
(残 高)	1,440,924	1,075,445	3,795,105	-314,000	1,606,728	89,839	777,461	8,471,502	3,351,803	11,823,305
事業費	5,320,000	8,345,000	8,000,000	14,720,000	11,700,000	7,600,000	1,500,000	57,185,000	2,195,000	59,380,000
支出額	7,792,700	4,772,756	11,022,487	14,097,900	6,720,961	1,346,369	783,574	46,536,747	4,019,855	50,556,602
(残 高)	-2,472,700	3,572,244	-3,022,487	622,100	4,979,039	6,253,631	716,426	10,648,253	-1,824,855	8,823,398
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
支出額	0	2,000,042	0	0	0	0	0	2,000,042	0	2,000,042
(残 高)	0	-2,000,042	0	0	0	0	0	-2,000,042	0	-2,000,042
予算額合計	19,800,000	39,345,000	13,050,000	15,580,000	24,000,000	14,550,000	24,000,000	150,325,000	18,195,000	168,520,000
支出額合計	19,800,000	39,345,000	13,050,000	15,580,000	24,000,000	14,550,000	24,000,000	150,325,000	18,195,000	168,520,000
残高合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
生存圏研究所										
予算額合計	1,900,000	1,155,000	650,000	4,270,000	3,000,000			10,975,000	6,000,000	16,975,000
支出額合計	1,900,000	1,155,000	650,000	4,270,000	3,000,000			10,975,000	6,000,000	16,975,000
残高合計	0	0	0	0	0			0	0	0
総合計	21,700,000	40,500,000	13,700,000	19,850,000	27,000,000	14,550,000	24,000,000	161,300,000	24,195,000	185,495,000
総支出額合計	21,700,000	40,500,000	13,700,000	19,850,000	27,000,000	14,550,000	24,000,000	161,300,000	24,195,000	185,495,000
総残高合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

4. 運営委員会の活動

4.1 概要

運営委員会は、拠点リーダーと人材育成センター、4つの部会、自己点検委員会、国際アドバイザーボードの担当者、パラダイム研究会と4つの研究イニシアティブの幹事、事務局長によって構成し、本プログラムの活動計画について審議するとともに、活動内容を確認した。プログラム開始以来、毎月一回、定例で開催した。開催日は以下のとおりである。

第10回運営委員会	2008年4月7日
第11回運営委員会	2008年5月12日
第12回運営委員会	2008年6月2日
第13回運営委員会	2008年7月7日
第14回運営委員会	2008年9月1日
第15回運営委員会	2008年10月6日
第16回運営委員会	2008年11月10日
第17回運営委員会	2008年12月1日
第18回運営委員会	2009年1月6日
第19回運営委員会	2009年2月9日
第20回運営委員会	2009年3月2日

4.2 特定助教（G-COE）および特定研究員（G-COE）の採用

本プログラムを推進するために、2007年8月と2008年1月に、特定助教（G-COE）および特定研究員（G-COE）を公募し、2007年10月1日に特定助教（G-COE）1名と特定研究員（G-COE）3名、2008年4月1日に特定助教（G-COE）2名と特定研究員（G-COE）4名を採用した。このうち、2007年10月1日に採用した特定研究員（G-COE）1名は、2008年3月31日付けで埼玉大学経済学部専任講師として異動し、また2008年4月1日に採用した特定助教（G-COE）は2009年4月1日付けで東南アジア研究所准教授に昇進したので、2009年4月1日現在の人員は、G-COE助教2名と研究員（G-COE）6名である。

5. 人材育成センターの活動

人材育成センターの主たる責務は、本プログラムにおいて展開される先端的な研究と人材育成を融合させるとともに、文理融合型の国際的人材育成システムを構築することである。そのために推進すべき柱として、3つを掲げてきた。すなわち、(1) アジア・アフリカ地域に設置したフィールド・ステーションをさらに発展させ、そこにおいて博士後期課程の（またはそれに相当する）大学院生の積極的な参加を得て、フィールドワークや国際ワークショップを活発に展開すること、(2) 博士後期課程の大学院生・ポスドク研究員・助教からなる若手研究者がプログラム全体に主体的に参画することを促進して、彼らを新世代研究者として育成するとともに、若手研究者がパラダイム形成から個別研究に至るまで実質的に貢献できるよう支援すること、(3) 地域研究の全国的・国際的な拠点としての京都大学の将来構想と連動しつつ、新世代研究者の育成を図るための制度設計をおこない、文理融合型の地域研究の国際的拠点を発展させる戦略立案をおこなうこと、である。

5.1 大学院教育部会および若手養成・研究部会の組織運営

(1) (2) のために、大学院教育部会および若手養成・研究部会を設け、集中的な活動展開をおこなってきた（詳細については、5-1 および 5-2 を参照のこと）。また、若手育成を推進するための具体的施策として、選抜した若手研究者を長期に海外に派遣することをおこなった（詳細については、5.3 を参照のこと）。

5.2 新専攻「グローバル地域研究」、持続型生存基盤講座の設置について

(3) については、本プロジェクト終了後に構想していた「京都大学地域研究グローバルユニット（仮称）」に関連して、初年度に、研究と人材育成を融合するための構想の立案を集中的におこなった結果、大学院教育において研究成果を還元すると同時に、本プロジェクトが開拓する新分野の若手研究者を育成していくことがもっとも重要であるとの結論を得た。そのため、プロジェクトの終了を待たずに、ただちにその実現に向かって着手することとなった。

具体的には、本プロジェクト参加部局の中で、大学院教育に特化している京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科（ASAFAS）において、他の本プロジェクト参加部局、特に東南アジア研究所、生存圏研究所、地域研究統合情報センターの協力を得ながら、「グローバル地域研究」専攻を新設することを企画し、文科省、大学設置・学校法人審議会に申請をおこなった。その結果、「グローバル地域研究」専攻が平成21年4月より新設されることになった。この新専攻では、本プロジェクトによる持続型生存基盤研究と連動する「持続型生存基盤論」講座、従来からASAFASの東南アジア地域研究専攻にあった連環地域論講座（南・西アジア地域研究）を発展させた「イスラーム世界論」講座、「南アジア・インド洋世界論」講座が設置されることになった。後者の2講座も、持続型生存基盤に関する研究において、持続型生存基盤論講座と緊密に連携する体制がとるものとなっている。2月には新専攻のための大学院入学試験

を実施し、第1期生となる受験生が合格した。

本プロジェクトの全体的な進展との関連で言えば、当初の計画では、第2年度をめどに「持続型生存基盤コース」を設置することをうたっていたが、「コース」の段階を超えて、第3年度に一気に持続型生存基盤論を研究する大学院生に博士号を授与することができる制度的な発展をなしえたことは、特記すべき成果であろう。プロジェクト終了後に設置を予定していた「京都大学地域研究グローバルユニット（仮称）」についても、その基幹部分の機能がすでに実現したことになり、成果の制度化という観点から見ると、予定を大きく前倒しすることができた。また、新専攻を通じて本プロジェクトの発展や成果をただちに大学院教育に直結させることによって、さらに所期の目的をよりよく達成していく見通しがたった。

5.3 海外派遣助成

国際的なディベート力を向上するために、若手研究者海外派遣助成を実施している。平成20年度には、特定助教1名を半年間、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスに派遣した。これにより、派遣者の英語での発表およびディベート能力が格段に向上するとともに、研究ネットワークをヨーロッパ諸国へと広げる効果があった。派遣された特定助教については、帰国後の国際発信がおおいに期待されている。

5.4 アジア・アフリカ人材育成

優秀な大学院生に対する経済的支援は本プログラムの目的の一つである。そこで、平成20年度より博士号取得支援と若手研究者交流を開始した。

博士号取得支援については、平成21年1月に3名の若手研究者（マレーシア、バングラデシュ、インドネシア各1名）を招へいし、ワークショップを開催するとともに、大学院アジア・アフリカ地域研究研究科への編入を推薦した。3名とも編入が認められ、平成21年4月から当大学院に編入した。このうち1名については、編入後、本プログラムのRAとして採用、1名は日本学術振興会特別研究員（DC）（グローバルCOE枠）に採用、そして残りの1名は本国政府からの奨学金を財政的基盤とするものである。

若手研究者交流については、日本学術振興会より若手研究者交流支援事業の助成を得て、平成21年3月に2週間、本プログラムが運営しているフィールド・ステーションのカウンターパート機関の若手研究者14名（インドネシア、ミャンマー各4名、カンボジア、ラオス、インド各2名）を招へいし、本プログラムにおけるパラダイム形成のための最先端の研究現場に参画させるとともに、本学大学院生との研究交流を実施した。

若手研究者交流による招へい者は以下のとおりである。

ラオス国立大学：Mr. Saithong Phommavong, Mr. Saychai Syladeth

林業大学（ミャンマー）：Mr. Tin Htun, Mr. Hla Maung Thein

イエジン農業大学（ミャンマー）：Dr. Theingi Myint, Ms. May Thuzar Moe

王立農業大学（カンボジア）：Mr. Kim Soben

王立プノンペン大学（カンボジア）：Mr. Thol Dina

タミルナードゥ農業大学（インド）：Dr. Arunachalam Ramasamy, Mr. Periyar Ramasamy Duraiyappan

ハサヌディン大学（インドネシア）：Dr. Novaty Eny Dunga, Mr. Hamzah Tahang, Mr. Subhan Amir, Mr. Supratman

また主な活動内容は以下の通りである。

1) オリエンテーション（3月2日）

各招へい研究者が京都大学に参集し、プログラム日程および活動内容についての説明を受ける。各フィールド・ステーション（インド、ミャンマー、インドネシア、ラオス、カンボジア）ごとに日本側若手研究者（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科大学院生およびポスドク研究者）をファシリテーターとして配置し、招へい研究者とファシリテーターとの協力のもとにワークショップの準備を行った。

2) 若手ワークショップ（3月3日～4日）

（一日目）各招へい研究者が、若手ワークショップ”New Paradigm for Human Beings and Nature: Frontier of Asian Area Studies”にて研究発表および討論を行う。五か国から参集した政治学、文化人類学、農学、林学等の学問的背景を有する研究者のあいだで、地域横断的かつ学際的な地域研究のありかたについて討論を行った。

（二日目）招へい研究者とファシリテーター（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科の大学院生およびポスドク若手研究者）との共同により、各フィールド・ステーション HP のコンテンツを拡充。その成果を発表するとともに、研究フィールド紹介を、五か国のフィールド・ステーションごとに行った。

3) エクスカーション（3月5日～7日）

京都大学が国内に有する京滋フィールド・ステーションを訪問し、日本の農村における現在の問題、および地域おこしの現状について視察するとともに、日本国内のフィールドワーク拠点での活動に参加した。

（一日目）亀岡フィールド・ステーション（京都府亀岡市）を訪問。NPO プロジェクト保津川と保津川遊船企業組合の協力を得て、保津川下りの実演と参与観察を行い、川下りを利用した地域おこしに関する説明を受ける。夕刻には同南丹市を訪問し、同市美山町北集落の「かやぶき屋根の里」にて民泊。

（二日目）午前には南丹市美山町北集落にて、かやぶき集落の見学、および民俗資料館の見学を行い、資料館長より伝統的集落景観の保全について説明を受ける。午後は滋賀県琵琶湖環境科学研究センター（滋賀県大津市）を訪問し、琵琶湖の環境問題の現状と水質保全のための官民の取り組みについて説明を受ける。夕刻に守山市に移動し宿泊。

（三日目）午前中は守山漁業協同組合婦人会を訪問し、琵琶湖の伝統的食文化に関する説明を受け、その実演を見学する。午後は同漁協の協力を得て琵琶湖の伝統的漁法に関する参与観察を行う。同日夕刻に京都に帰着。

4) 国際シンポジウム (3月9日～11日)

5) 総括討論会 (3月13日)

本プログラムの成果について、各参加者が最終レポートを提出するとともに意見交換を行う。

若手研究者交流の成果は、若手人材交流の双方向化、交流相手国（または機関）の若手人材育成への協力、若手研究者の知的ネットワーク形成に要約することができる。

第一点については、日本と東アジア諸国（含インド）との若手人材交流は、これまで、留学などの場合を除けば主に日本から相手国へという一方的な人の流れとして実現される傾向にあった。そうした傾向を、人材交流の双方向化によって是正するというのが本プログラムの目標のひとつであり、今回の招へい実績はその重要な一歩とみなしうる。各招へい研究者は、日本での若手ワークショップや国際シンポジウムへの参加のみならず、エクスカーションでは日本国内のフィールドワーク拠点の活動への参加なども行い、成果発表やフィールドワークなどにおける人の流れの部分的な双方向化を実現した。また今回の交流事業に際し、交流拠点となったフィールド・ステーション（インド、ミャンマー、ラオス、インドネシア、カンボジア各国）の拠点機能の強化もあわせて行われた。これらフィールド・ステーションは従来、日本側研究者による一方的な研究拠点としての性格が強かったが、今回の若手ワークショップの一環として日本側、相手国側双方の若手研究者の協力により、フィールド・ステーションHPのコンテンツ拡充など発信機能の強化が実現した。以上の活動について、ワークショップの成果は論集 *New Paradigm for Human Beings and Nature: Frontier of Asian Area Studies* として京都大学東南アジア研究所より公刊し、フィールド・ステーションの発信機能強化についてはウェブサイトの更新版として反映した。

第二点については、今回の招へいメンバーは、政治学、文化人類学、農学、林学など多様な学問的背景をもつ研究者によって構成されているが、若手ワークショップや国際シンポジウムでの討論への参加を通じ、研究分野や国家の壁を越えた分離融合型の学際的・国際的地域研究という視角から相互に知的啓発を行った。またエクスカーションに際しては、日本の農村における問題や地域おこし活動の現場を見ることを通じ、日本の農村との比較という新たな視点を提供した。

第三点については、各フィールド・ステーションごとに、そこでの活動に関連のある大学院生（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）およびポスドク若手研究者をファシリテーターとして配置し、招へい者へのオリエンテーション、若手ワークショップ、フィールド・ステーションHPのコンテンツ拡充といった作業を行った。これは招へい者の日本滞在を円滑ならしめることのほかに、各招へい者と問題関心を共有する京都大学の若手研究者とのあいだに人的パイプを形成することを目的とするものである。そのほか、レセプション・ディナーやプログラム終了時の送別パーティーなど、学術活動の外でも京都大学の若手研究者と交流する機会を公式非公式に設けることで、人的ネットワークの強化を行った。

5-1 大学院教育部会

大学院教育部会では今年度大きく分けて二つのことを行った。一つは、①大学院アジア・アフリカ地域研究研究科（ASAFAS）で、G-COE『生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点』が掲げる持続型生存基盤に関する講義および演習を実現するための検討の開始であり、いま一つは、②21世紀COEでASAFASの臨地教育で大きな成果を上げたフィールド・ステーションを活用した、若手研究者の育成を推進するための学生の現地派遣である。

5-1.1 ASAFAS 新専攻「グローバル地域研究」および「持続型生存基盤論講座」について

大学院アジア・アフリカ地域研究研究科はカリキュラムの改善を進めている。本プログラムで創出しようとしている持続型生存基盤論（Humanosphere Studies）の中核科目として、平成20年度から、大学院アジア・アフリカ地域研究研究科の共通科目として「持続型生存基盤研究の方法」、「イスラーム世界生存基盤論」、「国際環境医学論」の提供を開始した。その講義内容は以下のとおりである。

持続型生存基盤研究の方法 I（前期2単位、杉原薫）

アジア・アフリカ地域の生存基盤（人間社会とそれをとりまく「生存圏」－森林や水域。大気圏なども含む）の構造と変動を考察するためのさまざまなアプローチを紹介しつつ、歴史的な観点からの総合化を図る。理科系、文化系を問わず、地域研究の側から環境問題に関心を持つ大学院生を対象とする。

持続型生存基盤研究の方法 II（後期2単位、河野泰之）

東南アジアを中心とする熱帯における農業開発、水利開発、農村開発委、農業生産と環境保全の競合などを含む自然資源の利用と開発、管理に関する基本的な視点を考察し、社会経済的側面を含む総合的な調査研究手法を学ぶ。

イスラーム世界生存基盤論（後期2単位、小杉泰）

乾燥オアシス地帯である中東に、イスラーム的なシステムがいかに成立、発展したかを歴史的に考察すると共に、現代において、固有の地域的特徴のなかで、いかに生存基盤を持続させながら、政治・経済・社会の維持・発展を試みているか、実証的に検討する。特に湾岸産油国や、オルタナティブとしてのイスラーム経済にも注目する。

国際環境医学論A（前期2単位、松林公蔵）

疾病と老化に関する基本的事項を総論的に解説したのち、人の疾病、老化と自然生態系ならびに文化に関する諸問題について、各受講生の関心領域との関連で、自由討議をおこなう。この過程を経て、各自のテーマと医学は関連する事項を考察する。

国際環境医学論B（後期2単位、松林公蔵）

東南アジア諸国における地域在住高齢者の健康実態に関するフィールド医学的知見を紹介し、個々の問題点に関する各論的討論を通じて、より具体的な課題の発見とその解決法を模索する。

加えて、平成 21 年 4 月に大学院アジア・アフリカ地域研究研究科グローバル地域研究専攻および持続型生存基盤論講座を新設した。また同講座に新規で教授ポスト 2 を措置した。事業推進担当者を中心とする他部局の関連教員も、この講座の教育研究活動に協力教員として参画することにより、本プログラムで創生する持続型生存基盤研究 (Humanosphere Studies) を自主的・恒常的に継続・発展させることができる。同講座では、平成 21 年度に、「持続型生存基盤研究の方法 I」、「持続型生存基盤研究の方法 II」、「熱帯乾燥域生存基盤論」、「熱帯森林資源論」、「人間環境関係論」、「国際環境医学論 I」、「国際環境医学論 II」、「生存圏科学論」の 8 つの講義を開講し、自然生態、政治経済、社会文化を包摂した総合的地域研究と人類の生存基盤を左右する先端的科学技術研究を融合させた教育研究活動を継承・発展させる。

熱帯乾燥域生存基盤論 (前期 2 単位、小杉泰)

熱帯乾燥域である中東・北アフリカについて、歴史的にどのような生存基盤持続型の社会・経済・政治システムが展開してきたのか、その特徴とは何か、またそのような文明的な遺産を現代的に展開しつつあるイスラーム金融などの発展からいかなる将来的な展望が描きうるのか、考察する。

熱帯森林資源論 (後期 2 単位、小林 繁男)

熱帯林における生態資源の現状を地域住民の生活との関連で説く。森林生態資源を生物資源と環境資源に区分し、前者を住民の生存基盤として人間の安全保障、後者を生存基盤として地球環境問題との関連性を言及し、熱帯林生態資源の持続的利用について考察する。

人間環境関係論 (前期 2 単位、田辺 明生)

人間と環境の相互作用的な関係について、社会と技術と生態の連関に注目しながら論じる。持続型生存基盤の構築に向けて、人間と環境の関係をどのように再構築できるかを地球と地域の両方の視点から考察する。

生存圏科学論 (後期 2 単位、山本衛 他)

人類の生存圏である人類生活圏、森林圏、大気圏、宇宙圏などにおいて、人類社会の持続的発展を考える上で重要となる自然あるいは人為起源の現象がどのように生起しているのかについて明らかにする。特に、地球大気環境の精密な計測手法について紹介するとともに、観測情報の統合的な解析を通してそのメカニズムを総合的に分析する。また、森林の作用に注目しながら、生命科学的観点から森林資源としての木質の形成機構の解析・統御方法について考察するとともに森林の環境修復を目指した研究を紹介する。

また、これらを補完するために、地球環境学舎を受け皿として全学的な講義体制を構築している京都サステイナビリティ・イニシアティブ (KSI) のサステイナビリティ学コースにおいて、以下の講義を提供している。

生存圏開発創成科学論 (前期 2 単位、川井秀一・矢野浩之・大村善治 他)

人類の生存圏である人類生活圏、森林圏、大気圏、宇宙圏などにおいて、人類の生存を脅かすさまざまな事象が発生している。この生存圏の悪化の現状を打破し「治療」に結びつく方策について考察するとともに、宇宙空間から地表に至る生存圏の新たな開発創成の可能性について、太陽エネルギーの利用を軸として、持続的社会的構築に向けた木質資源の循環システム構築のための技術開発、および宇宙太陽発電や人類の宇宙活動を左右する宇宙電磁環境の衛星観測や計算機シミュレーションなど人類の宇宙への生存圏の拡大のための技術開発の現状と展望について述べる。

東南アジアの環境と社会（平成 20 年度は前期、平成 21 年度は後期 2 単位、速水洋子・河野泰之・水野広祐・松林公蔵 他）

東南アジアとその周辺域における自然資源の持続的利用、およびより広く環境と人間生活に関わる諸問題について、技術的・生態学的観点からのみならず、民族、開発、社会経済システムやポリティクスといった点からも幅広くとりあげ、南アジア、日本との比較の視点を含め個別事例的に検討する。

大学院アジア・アフリカ地域研究研究科は、5 年一貫性大学院なので、これらの科目はいずれも、前期課程・後期課程に関わらず履修することができる。多くの大学院生は、第一年次や第二年次にこれらの科目を履修し、第三年次以降は、研究分野を横断する 3 名の指導教員による指導のもと、博士論文に向けた研究に専念する。

5-1.2 TA・RAプログラム

RA については、以下の要領で公募した。

京都大学
GCOE プログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」
平成 20 年度リサーチ・アシスタント募集要項

平成 20 年 5 月 1 日

GCOE プログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」では、アジア・アフリカ地域におけるフィールド調査にもとづいた地域研究を推進する目的で、広く学内よりリサーチ・アシスタント（RA）を募集します。

1. 採択予定者数：4 名
2. 採用期間：10 ヶ月（平成 20 年 6 月～平成 21 年 3 月）
3. 勤務時間および待遇：
週 19 時間を上限に勤務予定を組んで頂きます。勤務日および時間は相談に応じます。
時給は原則として 1,407 円です。
4. 応募資格：
 - (1) 大学院博士後期課程（5 年一貫制の場合は 3 年次以上）に在籍し、本プログラムの趣旨に沿った研究補助に従事することができる者は、所属研究科を問わず応募資格があります。
 - (2) 国費留学生、日本学術振興会特別研究員、および他のプログラム等で RA に採用されている者は応募資格がありません。

5. RA の職務および責務：

海外フィールドワークの実施およびその成果の公開に関連した研究補助が主な職務です。加えて、GCOE が主催する研究会に積極的に参加することが望まれます。

6. 応募方法

RA 申請書に必要な事項を記入の上、<gcoe_eduoffice@cseas.kyoto-u.ac.jp>宛に送信してください。

7. 審査方法および採用通知

GCOE 教育部会 ASAFAS 委員会において審査の上、採否を決定します（必要に応じて面接をおこなうことがあります）。

8. GCOE プログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」とは

本プログラムは、アジア・アフリカ地域の持続的発展に関する学際的研究を、グローバルで長期的な視野から、多面的に行うために創出されました。われわれは、アジア・アフリカの地域研究に携わる研究者と、先端技術の開発に関わる科学者との学問的対話を促進するために、「持続型生存基盤パラダイム」という新しい考え方を提案し、地球温暖化のアジア・アフリカの地域社会への影響といった緊急の課題に対応しつつ、ローカルな、あるいはリージョナルな持続的発展径路を追究したいと考えます。

本プログラムの主幹部局である東南アジア研究所は、強い学際的な志向を持った京都大学の地域研究の伝統のなかで発展してきました。本プログラムは、大学院アジア・アフリカ地域研究研究科が東南アジア研究所と協力して行った 21 世紀 COE プログラムの成果を受け継ぐとともに、生存圏研究所などから森林科学・木質科学、気候学・大気圏科学、物質循環論、エネルギー科学など「サステイナビリティ学」の専門家を加えて、地域研究における科学的研究の幅を広げます。それによって、先端科学技術の知識を、伝統的な地域研究を支えてきた生態学、政治学・経済学、社会学・人類学、歴史学、医学の知識と融合させることによって、これまでの体制よりもはるかに幅広い人文科学、社会科学、自然科学の諸分野につうじた地域研究の専門家や科学者を養成します。

こうした試みは、国際的に見ても例のない、知のフロンティアへの挑戦であると同時に、地域社会にとって喫緊の課題とも直接の関わりを持つ、実践的な性格も持っています。

詳しくは、本プログラムのウェブページをご覧ください。

<http://www.humanosphere.cseas.kyoto-u.ac.jp/>

この公募に対して 2 名の応募があり、次の 2 名を採用した。

佐川徹（平成 20 年 7 月～10 月）

八塚春菜（平成 20 年 11 月～平成 21 年 2 月）

活動は、フィールド・ステーション派遣の対象者に対して、渡航計画書を作成するための指導補助、および調査報告書を提出するための指導補助をおこなった。

5-1.3 フィールド・ステーションを活用した若手研究者の育成

フィールド・ステーションを活用した若手研究者の育成に関しては、21世紀COEにおいてフィールド・ステーションを開設したASAFASと、インドネシアのパソ森林保護区で臨地研究を実施する生存圏研究所は、学生の募集を別々に行うことになっており、本年度もその方式を踏襲した。

大学院教育部会のASAFAS委員会では、年に前・後期の二回募集を行うこととし、前期の募集期間を4月22日－5月8日、後期を8月15日－9月15日に設定してそれぞれ募集した。なお、募集要領は以下の通りである。

公募要領

グローバルCOEプログラム 「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」 2008年度フィールド・ステーション等派遣経費支援の申請について

グローバルCOE 大学院教育部会

下記の通り、フィールド・ステーション等派遣支援の募集を行います。これは、グローバルCOEプログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」の一環として、ASAFASが臨地教育の拠点としてきたフィールド・ステーションを継承、発展させながら、大学院生の教育研究を推進しようとする事業です。当支援では、博士予備論文の内容を拡充し、それを博士論文につなげるためのフィールド調査を奨励しています。

希望者は申請書に記入の上、電子メールに添付して、**5月8日正午**（後期は9月15日）**までに**グローバルCOE 教育部会宛に送信してください。送信先のアドレスは<sun@cseas.kyoto-u.ac.jp>とし、件名は「フィールド・ステーション等派遣経費の申請」としてください。

1. 申請資格

申請者は、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科の大学院生で、博士予備論文を提出し合格した院生、他研究科で修士号を取得して本研究科に編入・転研究科した院生、および本研究科の研修員で博士号を取得していない者にかぎります。なお申請にあたっては、必ず指導教員の承諾を得てください。

2. 助成内容

2008年度中の派遣に対して、旅費、滞在費等を支援します。ただし、備品の購入は対象外です。

3. 選考基準

研究計画の質、実行可能性、博士予備論文との関連性、ならびに博士論文への発展性を考慮して選考を行います。

4. 審査結果の通知

提出された申請書は、グローバルCOEプログラム教育部会において厳正に審査の上、5月末日までに審査結果をメールで通知します。

5. 報告書の提出

派遣を終了し帰国した日から45日以内に、調査結果を要約した報告書の提出を求めます。報告書は、[1]派遣報告書（A4一枚の簡単なもの）、[2]ホームページ掲載用の和文報告書（2,000字以下）、および[3]ホームページ掲載用の英文報告書（400語程度）の三点を提出してもらいます。また[2]および[3]には、調査研究の様子がわかる写真を添付してもらう必要があります。

6. 他のグローバルCOEプログラム研究助成との併願について

グローバルCOE事務局からは、4月10日付で「次世代研究イニシアティブ研究助成」の申請も公募しています。「フィールド・ステーション等派遣経費支援」と「次世代研究イニシアティブ研究助成」の両方に応募することはできません。また両方で応募資格、申請書式および申請書の提出先が異なりますので、注意してください。

公募の結果ASAFASの公募では、前期は7名、後期は募集期間に9名、計16名の応募があり、応募締め切り直後に選考委員会を開催した。その後、辞退者もあり、2008年度はそれぞれ6名と8名、計14名を派遣した(添付書類1参照)。

また、生存圏研究所におけるフィールド・ステーション実際の現地調査については添付書類2にあるとおりである。

これに加えて、海外拠点を活用した研究支援体制の強化を進めている。本プログラムでは、アジアに4カ所（ラオス国立大学、イエジン農業大学等（ミャンマー）、ハサスディン大学（インドネシア）、タミルナードゥ農業大学（インド））、アフリカに6カ所（アジスアベバ大学（エチオピア）、ナイロビ大学等（ケニア）、ソコイネ農業大学等（タンザニア）、ザンビア大学、ナミビア砂漠研究所、ヤウンデ第一大学（カメルーン））のフィールド・ステーションと、6カ所の海外観測拠点（インドネシア科学院生物材料研究センター、パムングMFレーダー観測所、ポンティアナックMHレーダー観測所、赤道大気観測所、ムシフタンペルサダ社造林地（以上、インドネシア）、ペルサハーン・コシナール社造林地（マレーシア））を設置して、大学院生の研究活動に活用している。同時に、現地調査を支援するために、フィールド・ステーション派遣助成を実施し、平成19年度には11人（のべ569日）、平成20年度には16人（のべ948日）の大学院生が現地調査に従事している。これらのフィールド・ステーションや海外観測拠点には、教員も頻繁に訪問しており、現地調査期間中も教育・論文指導を実施できる体制を構築している。

5.1 添付書類 1. 2008 年度 ASAFAS の学生派遣一覧 院生派遣状況

	氏名	専攻	指導教員	渡航先	支給額	申請書の渡航期間		日数	題目
						出発日	帰国日		
前期申請者	1 佐藤慶子	アジア	藤田幸一	インド	340	09/01/10	09/03/14	64	南インド半乾燥地帯溜池灌漑農村における自治組織の機能の調査
	2 鈴木遥	アジア	小林繁男	インドネシア	255	09/01/29	09/03/13	44	インドネシア東カリマンタン州におけるボルネオテツボク(Eucideroxylon zwageri Teijsm.& Binn.)のこけら板生産の現状と地域住民による嗜好
	3 Sharmeen Shaila	アジア	田辺明生	バングラディッシュ	480	08/08/04	08/10/28	86	Ethnicity, Exclusion and Entitlement: Politics of Development and Articulation of Indigenous Identity among the Mundas of Northwest Bangladesh
	4 平野淳一	アジア	小杉泰	イラン	270	09/01/27	09/02/18	23	現代イスラーム世界における汎イスラーム主義と諸学派近接運動
	5 CHAKMA Shishir Swapan	アジア	安藤和雄	バングラディッシュ	437	08/11/16	09/02/16	93	Fallow, productivity and local responses: The Study of Jum (Shifting) Cultivation in the Baghaichari muk village of Chittagong Hill Tracts of Bangladesh through participatory rural appraisal (PRA) method linked with an local NGO named (Adibashe Krishak Kalyan Samittee)
	6 樺沢麻美	アフリカ	山越言	シエラレオネ	600	08/07/28	08/10/28	93	シエラレオネにおける人々とチンパンジーのかかわりとその保全
	7 宮田寛章	アフリカ	重田真義	マリ	辞退				西アフリカ都市住民の共同体と生活世界に関する研究
後期申請者	8 加川真美	アジア	小林繁男	フィリピン	200	09/01/08	09/01/27	20	フィリピン農村部における食のグローバル化の浸透と健康問題
					190	09/02/05	09/02/22	18	
	9 柳沢英輔	アジア	平松幸三	ベトナム	辞退				ゴング文化を通して見る文化の継承と変容 -ベトナム中部高原の事例から-
	10 Jafar Suryomenggolo	アジア	水野広祐	オランダ	255	08/11/09	08/12/04	26	Labour in Indonesia during the revolution (1945-1950)
	11 Rosy Ne Win	アジア	竹田晋也	ミャンマー	360	08/11/04	09/01/28	86	An Ecological Study on Regeneration of Teak Bearing Forests in the Bago Mountains, Myanmar
12 Syafwina	アジア	小林繁男	インドネシア	220	08/12/13	09/01/13	32	A comparative study of rehabilitation and reconstruction process of natural disaster destroyed areas in Aceh and Yogyakarta Province, Indonesia	

13	片山祐美子	アフリカ	市川光雄	ガンビア	250	08/12/23	09/02/11	51	ガンビア川中流域におけるイネ品種と土地所有および労働形態との関係
14	佐藤宏樹	アフリカ	山越言	マダガスカル	400	08/10/13	08/11/08	27	マダガスカル南部、半砂漠有刺林における種子散布者として重要なキツネザル類の生態調査
15	久田信一郎	アフリカ	重田真義	エチオピア	400	08/08/26	09/03/31	218	地域住民の参加型研究を可能にする空間情報活用のためのインターフェイス開発の試みーエチオピア農村における土地利用の分析のためにー
16	山根裕美	アフリカ	山越言	ケニア	600	08/12/01	09/03/31	121	ケニア、ナイロビ国立公園およびその周辺地域におけるヒョウ(Panthera pardus)と人の関係
合計					5257			1497	

5.1 添付書類 2. 生存圏研究所関係の学生派遣一覧
生存圏研究所

氏名	研究室	指導教員	支給額	渡航先	出発日	帰国日	滞在 日数	研究テーマ
1 田畑悦和	生存研	山本衛	402,500	インドネシア	08/03/08	08/03/22	15	境界層レーダーとラジオゾンデを用いた観測実習
2 足立透	生存研	山本衛	182,250	インドネシア	08/12/04	08/12/27	23	雷観測カメラのメンテナンス及び赤道大気レーダー観測
3 今村祐嗣	生存研		192,640	インドネシア	09/03/25	09/03/28	3	Humanosphere Science School 2009 に講師として参加
4 梅村研二	生存研		216,420	インドネシア	09/03/25	09/03/29	4	同上
5 Joko Sulistiyo	生存研	今村祐嗣	121,700	インドネシア	09/03/25	09/03/31	6	Humanosphere Science School 2009 を受講
6 田畑悦和	生存研	山本衛	192,635	インドネシア	09/03/25	09/03/28	3	同上
計			1,308,145				54	
生存研院生+教員			1,246,430					

5-2 若手養成・研究部会

若手養成・研究部会の活動は、主に以下の2本の柱から成る。1) 特定助教(G-COE) 3名と特定研究員(G-COE) 6名を4月1日付けで採用し、本プロジェクトの中核となって調査研究を推進することを指導し支援した。2) 13件の個人・グループの調査研究のために、総額675万円の「次世代研究イニシアティブ・研究助成」経費を支給し、その活動を支援した。

それら理系・文系の広い分野にまたがる若手研究者が、随時研究会を開いて情報・意見交換を行い、生存基盤持続型の発展を目指した学際的共同研究の可能性を積極的に探求することを奨励した。その他、成果の英語出版(単著、論文)を目的としたセミナーを2回開催した。また、生存研研究所およびインドネシア科学院(LIPD)とともに、2009年3月インドネシア・チビノンで「生存圏科学スクール(Humanosphere Science School)」を共催した。

特定助教と特定研究員以外で若手養成部会が予算的に研究支援した若手研究者は、平成19年度が博士課程大学院生11名、ポスドク研究員18名、平成20年度が博士課程大学院生16名、ポスドク研究員13名である。このうち、新たな職を得た者は、特定助教の甲山治(京都大学東南アジア研究所准教授、平成21年4月1日)、ポスドク研究員の伊藤雅之(農業環境技術研究所特別研究員、平成20年4月)、古市剛久(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科特定助教、平成20年11月)、白石壮一郎(関西学院大学大学院社会学研究科特任助教、平成20年12月)、近藤史(神戸大学農学部地域連携センター地域連携研究員、平成20年12月)である。また、平成21年3月には3名の博士課程大学院生が博士号を取得し、そのうち佐藤靖明が平成21年4月に大阪産業大学人間環境学部客員講師に着任した。

5-2.1 特定助教(G-COE)・特定研究員(G-COE)の活動

3名の助教と6名の研究員は、各自が各々の専門分野の論文を執筆するとともに、生存基盤に係わる問題系に積極的に取り組んで調査研究を行った。個々人の主な業績を以下に簡単に紹介する。

助教の3名、すなわち生方は、G-COEの若手派遣プログラムでイギリス・ロンドン大学LSEに半年の研修機会を得たことを活かし、英語で単著論文を5本、共著論文を1本発表した。甲山は、単著日本語論文1点、共著日本語論文4本(うち第1著者2点、第2著者1点)、共著英語論文2本を発表した。木村は、査読付論文1本、短報4本のほか、口頭発表を15回行った(うち英語が2回)。

研究員の6名について、和田は査読付共著英語論文を6本(うち第1著者1点、第2著者2点)と、査読なし論文および共著短報を4本(日英各2点、うち第1著者は2点)発表した。西は単著書1冊(『現代アフリカの公共性』昭和堂289p)のほか、査読付論文を日本語と英語で各1本発表し、4回の口頭報告を行った。藤田も査読付論文を日本語と英語で各1本発表したほか、学会等のプロシーディングに英語3本日本語1本の短報を発表した。孫は英語単著論文3本のほか、口頭発表を英語で2回、日本語で1回行った。小

林は、英語共著論文2本（ともに第1著者）、英語短報1本を発表した。佐藤は共著論文2本（うち第1著者は1点）のほか、英語の研究報告が2回、英語の招待講演が1回ある。

5-2.2 次世代研究イニシアティブ・研究助成の交付

以下の13件の若手研究者・グループに助成した。

1. 海田るみ（生存圏研究所 非常勤研究員）「熱帯人工林持続のための樹木の育種研究」
2. 木村周平（特定助教（G-COE））「ローカルな潜在知としての災害の記憶・トルコ・台湾・インドネシアの地域間比較から」
3. 黒崎龍悟（大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 研究員）「農村開発のフィードバック・プロセスを内包した実践的地域研究の確立に関する研究」
4. 甲山治（特定助教（G-COE））「多くの水問題を抱える国際河川流域における問題解決型の水文学の実践・中央アジア・アラル海流域を事例として」
5. 近藤史（大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 研究員）「タンザニア南部高地における造林焼畑の持続可能性の検討・アフリカ農村の社会基盤に根ざした「人為植生の循環利用」モデルの構築にむけて」
6. 白石壮一郎（大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 非常勤研究員）「持続的な社会を構築するための「参加的民主主義」の検討・現代アフリカにおけるローカルな政治実践の経験から学ぶ」
7. 相馬貴代（大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 博士課程）「導入樹種 *Leucaena leucocephala* の除去がワオキツネザルの生態に及ぼす影響」
8. 孫曉剛（特定研究員（G-COE））「アジアとアフリカの牧畜社会における生業の多角化と持続型発展に関する比較研究」
9. 田畑悦和（生存圏研究所・理学研究科 博士後期課程）「インドネシア海洋大陸域における日変化特性の研究」
10. 藤岡悠一郎（大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 博士課程）「南部アフリカ・乾燥地域における農牧民の生存基盤としてのローカル・フロンティアの役割とその動態」
11. 藤田素子（特定研究員（G-COE））「熱帯大規模アカシア植林地における生物多様性の評価および鳥類相の変化に起因する物質循環への影響」
12. 古市剛久（東南アジア研究所 非常勤研究員）「島嶼部東南アジアにおける流域スケールの土地利用変遷とその主要な影響としての表土流出」
13. 和田泰三（特定研究員（G-COE））「地域在住高齢者の老年症候群とそのケアの実態・タイ・日本の国際間比較」

5-2.3 研究会・シンポジウム等の開催

以下の研究会・シンポジウムを開催した。

G-COE 若手養成研究部会・第4回研究会(2008/4/12)

2007年度次世代イニシアティブ研究助成の対象となった18の研究課題の成果報告会を開催した。報告者および発表題目は以下のとおりである。

- 1.古市 剛久（京大生存基盤科学研究ユニット 研究員）
「東南アジア社会における生存基盤としての土地・水資源の管理—流域スケールでの土地利用変遷の分析とその分離統合型土地・水資源管理指針への統合—」
- 2.丸尾聡（京大アジア・アフリカ地域研究研究科 非常勤研究員）
「アフリカ・バショウ科作物文化圏における資源利用と生業基盤の持続性に関する比較研究」
- 3.佐藤靖明（京大アジア・アフリカ地域研究研究科 博士課程）
「東アフリカの生業基幹作物バナナ (*Musa spp.*) とエンセーテ (*EnseteVentricosum*) の遺伝資源をめぐる在来知の変容プロセス」
- 4.生方史数（京大東南アジア研究所 助教）
「『プカランガン』からみたジャワ系移民の生活世界」
- 5.中山節子（京大アジア・アフリカ地域研究研究科 研究員）
「マラウイ湖漁労者による湖沼資源認識の変遷に関する歴史人類学的研究」
- 6.中村香子（京大アジア・アフリカ地域研究研究科 特任助手）
「『知的潜在力』としてのアイデンティティの『柔軟性』と『重層性』—東アフリカ牧畜社会における社会的生存基盤に関する研究—」
- 7.遠藤環（京大東南アジア研究所 G-COE 研究員）
「都市におけるインフォーマル経済とコミュニティの機能：都市下層民の視点から」
- 8.北村由美（京大東南アジア研究所 助教）
「生存基盤としての宗教—世俗的イスラーム国家インドネシアにおける華人の宗教—」
- 9.Ragil Widyorini (Mission Research Fellow, RISH Kyoto University)
“Evaluation of biomass production of plantation forest in tropical area: A case study of Acacia plantation forest, PT Musi Hutan Persada, South Sumatra, Indonesia”
- 10.風戸真理（京大地域研究統合情報センター 研究員）
「現代モンゴルの都市と地方における貴金属の文化的な価値：銀製品に注目して」
- 11.細田尚美（京大東南アジア研究所 非常勤研究員）
「可能性としてのハイパー・モビリティ—生存基盤持続型社会の潜在力の表現としての人の移動に関する広域比較研究・序説」
- 12.佐藤孝宏（京大東南アジア研究所 G-COE 研究員）
「東南アジア諸地域におけるバイオエネルギー生産と関連制度整備の現状調査」
- 13.伊藤雅之（京大大学院農学研究科 研究員）
「熱帯森林生態系における温室効果ガス動態解明のための安定同位体的研究」
- 14.加瀬澤雅人（国立民族学博物館・外来研究員）
「民族医療の文化的側面と技術・資源的側面の相互関係性及び、伝統医療の持続的な活用に関する研究」
- 15.藤田素子（京大生存圏研究所 研究機関研究員）
「熱帯大規模アカシア植林地における生物多様性の評価および鳥類相の変化に起因する物質循環への影響」

- 16.西真如（京大東南アジア研究所 G-COE 研究員）
「開発論における「参加」と「リスク」概念の批判的再検討」
- 17.海田るみ（京大生存圏研究所 非常勤研究員）
「熱帯人工林持続のための樹木の分子育種」
- 18.足立透（京大生存圏研究所 非常勤研究員）
「東南アジア域における雷放電活動のモニタリング」

G-COE 若手養成研究部会「ジャレド・ダイヤモンドを読む会」（2008/5/26）

発表者：星川圭介

G-COE 若手養成研究部会・英語出版に向けたワークショップ（2008/6/19）

Prof. Mark Selden

"The Future of Publishing in the Asia-Pacific Has Arrived: From Paper to Online Publication"

G-COE 若手養成研究部会・シンポジウム「災害に立ち向かう地域／研究」（イニシアティブ 4 研究会、若手研究者養成部会・イニシアティブ 4 および萌芽科研「防災教育・自然災害復興支援のための地域研究を目指して」共催）（2008/7/11－12）

- 清水展（東南アジア研究所）「生存基盤が壊れるということ：ピナトゥボ山大噴火（1991）と先住民アエタの被災と新生の事例から」
- 西芳実（東京大学大学院総合文化研究科）「『災害に強い社会』を考える：2004年スマトラ沖地震津波の経験から」
- 遠藤環（埼玉大学経済学部）「都市のリスクと人びとの対応：バンコクのコミュニティにおける火災の事例から」
- 木村周平（東南アジア研究所）「将来の地震の不安と地域社会：トルコ、イスタンブールの事例から」
- 甲山治（東南アジア研究所）「温暖化および気候変動にどう対応するか？：水災害を事例として」
- 佐藤孝宏（東南アジア研究所）「農業水利変容とその影響：インド・タミルナドゥ州の事例」
- 生方史数（東南アジア研究所）「塩と共に生きる？：タイ東北部における塩害と生存基盤」
- 西真如（東南アジア研究所）「ウイルスと民主主義：エチオピアのグラゲ県における HIV/AIDS 問題と地域社会の取り組み」
- 山本博之（地域研究統合情報センター）「自然災害で現れる『地域のかたち』－インドネシアの地震・津波災害の事例から」

G-COE 若手養成研究部会・シンポジウム「生存を支える『地域／社会』の再編成」（2009/1/23－25）

- 西垣有（阪大） 「公共空間をつくる－ポスト社会主義期、モンゴル・ウランバ

ートル市の事例から」

- 細田尚美（東南ア研） 「移動と交歓—フィリピン向都移民の民族誌」
- 長倉美予(ASAFAS) 「レソト山岳地の生業とその変遷」
- 鈴木 玲治（生存研ユニット・東南ア研）「ミャンマー・カレンの営む焼畑土地利用の履歴と森林植生の長期的変化」
- 小河久志（総研大） 「「正しいイスラーム」をめぐるポリティクス：タイ南部インド洋津波被災地における宗教実践の変容を事例に」
- 池田昭光（都立大） 「レバノン内戦の記憶に関する予備的考察：宗派という視点」
- 佐川徹（ASAFAS） 「暴力と歓待の境界：東アフリカ牧畜民による可傷性への対処」
- 久保忠行（神戸大） 「ビルマ：紛争の現代的特徴と難民キャンプの生活世界」
- 山北輝裕（関学） 「野宿者にとって<地域福祉>とはなにか」
- 倉田誠（神戸大） 「住民の末端化／主体化の力学：小規模国家サモアにおける保健医療サービスの展開から」

G-COE 若手養成研究部会・研究会

「持続的な社会を構築するための『参加的民主主義』の検討：アジア・アフリカにおけるローカルな政治実践の経験から学ぶ」（2009/3/16）

白石壮一郎（関西学院大学大学院社会学研究科）

「アジア・アフリカにおける"市民社会"と"参加"の概念(研究会趣旨説明)」

真崎克彦（清泉女子大学地球市民学科）

「ブータンの政治改革：「王政」から「民政」への移行？—ある農村でのシティズンシップ実践を事例として」

西真如（京都大学東南アジア研究所）

「政治実践としてのコミュニティ開発 —エチオピアのエジャ開発委員会の経験」

5-2.4 インドネシア・チビノンで開講された生存圏科学国際スクールとシンポジウムへの若手部会のメンバー派遣

生存圏研究所、東南アジア研究所、G-COE プログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」、およびインドネシア科学院(LIPI)とが共催し、京都大学国際交流推進機構支援事業からの支援を得て、平成21年3月25～28日に開催された生存圏科学スクール(Humanosphere Science School; 以下ではHSS)に、若手研究員を派遣した(佐藤孝宏・和田泰三(東南アジア研究所)、相馬貴代、樺沢麻美(アジア・アフリカ地域研究研究科)、田畑悦和(生存圏研究所))。本部会の若手研究者の田畑悦和が Wind Profiler radar observations over Indonesian Maritime Continent, 相馬貴代が How introduced plant species influence the ecology of an endemic primate、樺沢麻美が Chimpanzee Conservation and Sanctuaries in West Africa の報告を行った。

5-2.5 G-COE国際シンポジウムでの発表

3月12~14日に開催された国際シンポジウム”Biosphere as a Global Force of Change”においてG-COE助教3名、研究員5名が発表を行った。発表のみならず、その企画段階から、若手研究者が積極的に参加し、それぞれの専門分野と生存基盤プロジェクトを具体的にいかに結びつけ、発展させるかを真剣に考え、議論した。

6. 研究イニシアティブ

6.1 パラダイム研究会

研究イニシアティブは、プログラムのメンバーが4つのイニシアティブにわかれて共同研究を行うために設置された。パラダイム研究会は、本報告書の2で述べた「パラダイム形成」という目標を担うとともに、イニシアティブ相互の関連や全体の流れを議論する、本プログラムの中心となる研究会である。平成20年度は10回（特別研究会を含めると12回）開催された。詳細は以下の通りである。

- 第7回研究会（2008/04/21）
「生存基盤持続型発展を目指した研究活動報告」
杉原薫「生存圏研究におけるズームイン・ズームアウト」
河野泰之「熱帯の自然とは、その潜在力を生かす技術とは」
石川登「時空間のなかのバイオマス資源社会」
田辺明生「持続型生存基盤と地域の潜在力」
- 第8回研究会（2008/05/19）
「生存の意味：現代社会におけるその変容をどう理解するか」
松林公蔵「脳科学から見た高齢化社会－生存の意味をめぐるパラダイム転換」
討論者：落合恵美子（京都大学文学部）「アジアの少子高齢化と家族」、杉原薫
- 第9回研究会（2008/06/16）
「遺伝子組み換え作物の可能性と危険性」
小泉望（大阪市立大学）「遺伝子組み換え作物の可能性と危険性」
討論者：神崎護
- 第10回研究会（2008/07/14）
「社会基盤の創生とリスクマネジメント」
岡田憲夫（京都大学防災研究所）「社会基盤創生とその持続的なマネジメント：計画的アプローチ」
討論者：安藤和雄「地域社会から見た災害」、余田成男（京都大学大学院理学研究科）
「東南アジア地域の気象災害軽減国際共同研究」
- 第11回研究会（2008/09/22）
「化石資源世界経済における熱帯地域の世界戦略」
杉原薫「化石資源世界経済」の形成と構造－エネルギー効率の改善と環境破壊の200年－
討論者：石原慶一（京都大学大学院エネルギー科学研究科）、深尾葉子（大阪大学大学院経済学研究科）
- 第12回研究会（2008/10/20）
「熱帯地域における緑の革命－南アジアとアフリカ」
藤田幸一「『緑の革命』と経済的離陸：インドの経験から何を学ぶか？」
若月利之（近畿大学農学部）「水田農業の普及によるアフリカの緑の革命実現とアフリカ」

カ型里山集水域の創造」

➤ 特別研究会 (2008/11/04)

「希少気候予測の可能性と限界」

住明正(東京大学サステナビリティ学連携研究機構)「希少気候予測の可能性と限界」

討論者：松下和夫(京都大学大学院地球環境学堂)、田辺明生

➤ 第13回研究会 (2008/11/17)

「モンスーンアジアの気候生態史観」

安成哲三(名古屋大学地球水循環センター)「モンスーンは森を創り、森はモンスーンを維持する—そして人は森もモンスーンも変えていく?—ユーラシア大陸における気候・生態系相互作用とその変化—」

討論者：高谷好一(清泉大学)、酒井章子(総合地球環境学研究所)

➤ 第14回研究会 (2008/12/15)

「生存圏科学とバイオ材料」

矢野浩之(京都大学生存圏研究所)「生存圏科学とバイオ材料—未来の車は植物から創る」

討論者：阿部健一(総合地球環境学研究所)

➤ 第15回研究会 (2008/01/19)

「アンデス文明における権力の盛衰」

関雄二(国立民族学博物館)

討論者：永渕康之(名古屋工業大学)

➤ 特別セミナー：パラダイム研究会・イニシアティブ2合同研究会 (2008/02/09)

「アグロフォレストリーと土地利用持続性」

P. K. Ramachandran Nair (Florida University) 「アグロフォレストリーと土地利用持続性」

討論者：竹田晋也、Oekan Soekotjo Abdoellah

➤ 第16回研究会 (2008/02/18)

「エコ・コモンズの可能性—持続と破綻のはざま」

秋道智彌(総合地球環境学研究所)「エコ・コモンズの可能性—持続と破綻のはざま」

討論者：池谷和信(国立民族学博物館)、河野泰之

昨年度のパラダイム研究会は、柳澤、河野、杉原を中心に、研究会ごとに結果を議論し、プログラムの進行状況にあわせて次の研究会を設定するかたちで組織されたが、平成20年度においては、篠原を中心に、杉原、河野、清水、神崎とGCOE助教・研究員のメンバーでアイデアを出し合い、必要に応じて外部から報告者、コメンテーター、参加者を招待するかたちで研究会を設定していった。

今年度開催された10回(特別研究会を含めると12回)のパラダイム研究会では「生存圏」の概念を導入した新しい地域研究について活発な議論を行っている。パラダイム研究会では毎回講演者と討論者、及びフロアで活発な議論が行われ、2時間の予定時間をいつも超過し、懇親会でも議論が継続されることがほとんどである。地域研究に社会・制度・経済

等のグローバル化の視点を導入することはこれまでも行われてきたが、さらに気候や生態等の自然科学の視点とテクノロジーの視点を取り入れることで新たなパラダイム形成を狙っている。逆に理論・技術の一般化の限界が叫ばれ研究の複合化が期待される自然科学者や技術者にとってローカルな視点を導入するは研究を新たな地平へと導くこととなる。パラダイム研究会の活動を通じ「文理融合」「視点のズームイン・ズームアウト」「圏間の融合」「生産から生存へ」「つながり・ネットワーク」「Humanosphere」等のキーワードが生まれ、新しいパラダイムの萌芽が見えるようになってきた。パラダイム研究会の活動は4つのイニシアチブの活動にからスピノフインされ、グローバル COE として新たなパラダイムの萌芽が始まっている印象を受ける。

6.2 研究イニシアティブ1

研究イニシアティブ1「環境・技術・制度の長期ダイナミクス」の課題は、人類が技術と制度の発展を通じてアジア・アフリカ地域の環境に与えてきた影響を歴史的にたどることによって、将来の技術・制度変化の方向を探ることである。初年度の主たる目的は、歴史学、政治学、経済学、人類学などを専攻するメンバーの専門的な報告を聞く全体研究会を組織し、本プログラムとの関連を探ること、および、より専門的な4つの班を組織し、生存基盤研究を開始するとともに、これまでの学問的「常識」を再検討すること、の2点であった。2年目である平成20年度は、これら4つの研究班と全体研究会を継続発展させることで、活動を活発化させることに徹した。

全体研究会

- 研究会 (2008/05/12)
 - 小泉順子「近代タイ=中国「外交」関係—地域的・歴史的再検討」
 - 討論者：籠谷直人（京大人文研）
 - 生方史数「コモンズにみるローカルな制度形成プロセスの現代性」
 - 討論者：竹田晋也（ASAFAS）
- 合同研究会 Comparing Human Development in India and China(2008/06/12)
 - Dr. Devin Joshi (Assistant Professor, University of Denver) Comparing Human Development in India & China
 - Dr. Giorgio Shani (Associate Professor, Ritsumeikan University) Globalization, The 'War on Terror' and Human In/Security in South Asia
- 第5回研究会(2008/06/23)「地域サステナビリティ指数の作成にむけて」
 - 佐藤孝宏「環境・生態に関連する指標からのアプローチ」
 - 和田泰三（GCOE 研究員）「人間に関連する指標からのアプローチ」
 - 佐藤・和田「Tentative な地域サステナビリティ指数による地域持続性評価と選択指標の相互関連性」
 - コメンテーター：神崎護（農学研究科）田辺明生（人文科学研究所）
- 合同ワークショップ「地域研究と大学院教育の未来」（2008/12/03）
 - 杉原薫（京都大学東南アジア研究所教授）「持続型生存基盤パラダイムの創成一環境・政治・経済を総合する新しいアジア研究—」

小杉泰（京都大学イスラーム地域研究センター長）「発展するイスラーム地域研究の地平：ネットワーク型研究拠点形成と大学院教育」

田辺明生（京都大学人文科学研究所准教授）「躍動するインドの新しい姿と南アジア研究の今後」

東長靖（京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科准教授）「スーフィズム／タリーカ研究における文献研究とフィールドワークの技法」

- GCOE 単行本に関する研究会(2008/12/15)
杉原薫「グローバル・ヒストリーと複数発展径路」
佐藤孝宏・和田泰三「生存基盤指数から見る世界」
- 合同ワークショップ"Labour-intensive Industrialisation in South and Southeast Asia"(2008/12/20-21) 14 speakers
- 合同ワークショップ(2009/01/28)
Hakimi Shafiai, "Profit Sharing Contract in Felcra from Islamic Perspectives"
Mohammad Najmul Islam, "Socio-economic Impacts of Bank Erosion of the River Padma at Zanjira, Bangladesh"
Haris Gunawan, "A Study of the Role of Peat Swamp Forest Remnants to Maintain the Native Tree Diversity in A Timber Estate on Tropical Peatlands"
- 研究会「アジアの政治・経済・歴史」(2009/02/17)
Dr Pierre Van der Eng (Australian National University) Government Promotion of Labour-Intensive Industrialisation in Indonesia, 1930-1975
Dr David Clayton (University of York, U.K.) The Political Economy of Broadcast Technologies in the British Empire, c.1945-1960

「古典のなかのアジア経済史」研究会（代表 籠谷直人）

現時点におけるアジア経済史研究でしばしば言及される文献を取り上げて、その研究史的意義を検討する。

- 第4回 研究会(2008/05/31)
城山智子（一橋大学・経済学部）「Mark Elvin の"The High-Level Equilibrium Trap"論について」
- 第5回 研究会(2008/06/28)
籠谷直人（人文科学研究所）「ロイ・ビン・フオン『チャイナ・トランスフォームドゥ』及び、ケネス・ポメランツ『大いなる分岐—ヨーロッパ、中国、および近代世界経済の形成』をよむ。
- 第6回 研究会(2008/09/20)
大島真理夫「トマス C.スミス論を考える」
- 第7回 研究会(2008/10/25)
藪下信幸（近畿大学）「K.N.チョードリー、A.リードのインド洋海域史論を読む」
- 第8回 研究会(2008/10/25)
谷口賢次（大阪市立大学経済学研究科 博士後期）「H.V. Bowen 論について」
- 第9回 研究会(2008/12/13)

籠谷直人「山田盛太郎：再論」

西村雄志（松山大学経済学部）「ケインズのインド通貨論について」

「中東・イスラーム地域における環境・技術・制度の長期ダイナミクス」研究会（代表 小杉泰）

（１）生存基盤持続型のイスラーム・システムの史的展開、（２）湾岸地域と産油経済の長期戦略、（３）資本主義のオルタナティブとしてのイスラーム経済を主たるテーマとして研究する。本年度は、以下のような研究会・ワークショップを行った。

- 国際ワークショップ Dynamics of Social and Political Transformation(2008/08/02-3)
18 speakers
- 研究会「イスラーム的システムの史的展開」(2008/11/01)
三浦徹（お茶の水大学副学長）「マムルーク朝」
- 研究会「イスラーム経済を考える：比較文明論および生態基礎論から」(2008/11/20)
小杉泰「イスラーム経済を考えるー比較文明論および生態基礎論から」
長岡慎介「現代イスラーム金融の理念と現実ー普遍化と独自化をめぐるダイナミズム」
- 国際ワークショップ"Middle East & Asia Studies Workshop: New Approaches in Central-South Asia and Middle Eastern Scholarship" (2009/02/07)
13 speakers
- 講演会「イスラーム金融講演会」(2009/02/16)
武藤幸治（立命館アジア太平洋大学・教授）「顧客はイスラーム金融をどうみているか」
Dr. Muhammad Umer Chapra（Senior advisor to Islamic Research and Training Institute, Islamic Development Bank）「世界金融危機とイスラーム金融」
- イスラーム国際ワークショップ(2009/02/18) "Islamic Economic System and Divergent Paths of Economic Development"
Six speakers

「日本の自治村落とアジアの農村」研究会（代表 藤田幸一）

わが国では近世以来の小農社会の成立に伴って、現在にいたる農村制度の骨格ができあがった。高度な自治機能を備える「自治村落」はその中核的存在の一つである。本研究では、近世に期限をもつ農村諸制度の発展の歴史的過程を念頭に置き、その研究を深化させるとともに、それとの対比でアジア農村の諸制度について分析・考察する。

本年度は、第1回研究会を2008年11月29日（土）に東京大学で開催し、大鎌邦雄『行政村の執行体制と集落』農業総合研究所、1994年を読んだ。日本の典型的な「自治村落」の構造的特質、および特に明治政府の推進した部落有林統一政策とそれに対する行政村や集落の対応について、議論を深めた。日本の「自治村落」も、自治村落間にまたがる問題については無力で、上位権力の調停等があってはじめて問題が解決し、共同体も安定する、などの重要な教訓を得た。第2回目は鹿児島大学にて2009年2月20日（金）、21日（土）の2日間をかけて実施した。初日には坂根嘉弘『分割相続と農村社会』九州大学出版会、1996年を読み、日本の他地域とは異なる鹿児島地方の分割相続制度とそれに関連した特異な家族・村落制度につ

いて議論を深めることができた。鹿児島に見られる制度は、タイなど東南アジアとの類似性がある。また第2日目には、鹿児島県南さつま市の旧加世田に行き、そこで古老の方2人を囲んで、鹿児島地方の特異な家族・村落制度について座談会を開催した。座談会では、「門」（かど）と呼ばれる（擬似）親族集団が今でも生きていることが明らかになった。また男子の末子相続が基本であることも明らかになった。座談会の後、実際に古老の家と「門」、および「門」の墓地を実地見学した。以上のように、本年度は、日本のムラおよびそれとはやや異なる形態を見せる鹿児島の村落について研究を深めた。

「東南アジアの工業化と資源」研究会（代表 杉原薫）

戦後の東南アジアにおける急速な工業化の背景には、一方ではこの地域が西洋列強の植民地支配やアメリカ主導のグローバリゼーションの影響を受けると同時に、明治の日本に始まる東アジア型工業化の影響を受けたという歴史的事情がある。本グループでは、西洋の資本集約型・資源集約型工業化とは異なる労働集約型・資源節約型の工業化が東南アジアでどの程度実現したのかについての理解を深めたい。

本年度は、2008年12月20~21日に、基盤研究B「インドにおける労働集約型経済発展と労働・生活の質に関する研究」および拠点大学事業・プロジェクト9「アジアの国際経済秩序」（2006-2008年度）との共催で、「東南・南アジアの労働集約型工業化」を比較経済史的に検討するための国際ワークショップを開催した。インド研究からは、招待した Tirthankar Roy 氏（ロンドン大学）と主要メンバー6名が成果を発表し、東南アジア・プロジェクトからは、タイと日本からそれぞれ二人のメンバーが成果を報告した。また、グローバル COE で進めている比較史的視点と融合させるべく、外部からインド（石井一也）、中国（リンダ・グローブ）、日本（谷本雅之）の専門家を呼んで、労働集約型工業化と環境制約の地域差との関係について議論した。これらの試みの一部は、2009年8月にユトレヒトで開催される世界経済史会議のセッションでも続けられる。

プロシーディングズのほか、バンコクの工業化に関する Porphant Ouyyanont 氏の報告の改稿版がワーキングペーパーとして、急逝された Somboon Siriprachai 氏の報告が、遺稿集の一部として、それぞれ刊行される予定である。

6.3 研究イニシアティブ2

研究イニシアティブ2では、人間の生存圏（*humanosphere*）が *sustainable* であるためには、地球圏（*geosphere*）や生命圏（*biosphere*）に蓄積された資源を切り取って利用するのではなく、地球圏における水・熱・大気の循環する力と、生命圏における動植物の再生する力を利用した新しい人と自然の関係について考えることを1年目の課題としてかかげた。人間側の論理を前提にするのではなく、地球圏や生命圏の成立の歴史を理解し、その論理を十分にふまえた未来型の技術開発や制度構築を考えるために、我々の活動方針を *Nature-Inspired Technology and Institutions* として議論を進めた。

2年目である2008年度においては、地球圏・生命圏・人間圏の関係性に焦点をあてた研究活動をおこなった。それぞれの圏の形成と維持に他の圏がどのように関わっているのか、また、地球圏・生命圏の論理と、人間圏の論理とはどの程度整合的なのかについても検証した。そうした課題を、国内研究会、海外連携フィールドワーク、国際シンポジウム

の3つの活動を通じて考えてきた。以下では、それぞれの活動について述べる。

国内研究会

国内研究会では、他の研究会とも連動しつつ、地球圏・生命圏・人間圏の関係性に焦点をあてたさまざまな研究会を開催した。地球圏と生命圏の関係性については、地球圏における水・熱循環と植生変化、熱帯の離島における太陽エネルギーの有効利用、人為的な水利用の変化による地域レベルの気象の変化等を議論した。生命圏と人間圏の関係性については、人為的な土地利用変化と生物多様性、不安定な降雨に依存した植生変化と遊牧生活を支える社会組織、外部経済の変化による地域生態系の変化等を議論した。研究会での発表者・タイトルは以下の通りである。

- 研究会"Towards sustainable land-use in tropical Asia"(2008/04/23-26)
- 研究会(2008/04/28)
 - 甲山 治「水熱循環研究からみた自然の変動と潜在力に関する考察」
 - 孫曉剛「グローバル社会における生業牧畜民の適応戦略：非平衡生態系、脆弱性と持続可能性」
- 研究会(2009/05/09)
 - 高橋洋（海洋研究開発機構 地球環境フロンティア研究センター）「東南アジアモンスーン域の降水季節進行：平均場を形成するマルチタイムスケール現象」
- 合同研究会(2008/06/19)
 - パトリック・コリンズ（麻布大学経済環境研究室）「宇宙太陽光発電（SPS）のオペレーショナル・デモンストレーター用レクテナ（受電アンテナ）についての赤道直下の国での現地調査から」
- 東南アジア自然と農業研究会(2008/06/27)
 - フォンリュブケ留奈子（オーストラリア国立大学太平洋アジア研究科）「タイ北西部における山村農業の変遷—伝統的農耕に及ぼす市場志向要因の影響」
- 合同セミナー"Biosaline Agriculture approach: from problem to opportunity (case study ICBA-CAC 2004-2008)"(2008/07/04)
 - Dr. KRISTINA TODERICH(International Center for Biosaline Agriculture [ICBA-CAC sub-office, Tashkent , Uzbekistan]) 「Biosaline Agriculture approach: from problem to opportunity (case study ICBA-CAC 2004-2008)」
 - Dr. Muhiddin Khujernazavoh (Uzbekistan Science Academy, Samarkand Branch)
「Petroglifis in Centaral Asia」
- 懇話会「アジア諸地域の水利社会」(2008/11/12)
 - 岡本雅美（日本大学名誉教授）
- 合同研究会「アグロフォレストリーと土地利用持続性」(2008/02/09)
 - P. K. Ramachandran Nair (Florida University)
 - コメンテーター：竹田晋也（京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科), Oekan Soekotjo Abdoellah (東南アジア研究所)

海外連携フィールドワーク

国内研究会での議論を受け、アジア・アフリカの現場で異分野の研究者が共通のテーマについて議論する場を持つため、海外連携フィールドワークを実施した。今年度は、ケニア北部とタイ北部・東北部を訪問した。ケニア北部を含む東アフリカの乾燥地帯では、ラクダなどの家畜放牧を生業とする民族が居住する。中でもレンディーレと呼ばれる人びとは特に乾燥の厳しい条件下で暮らし、生活のほとんどを牧畜に依存する。レンディーレの地を訪問し、気象条件の不安定性、放牧形態、放牧のための労働力を提供する堅固な年齢階梯組織、周辺民族との軋轢と協力をテーマとして議論した。タイでは、北部と東北部を訪問した。北部では、お茶という世界的な商品作物に依存した生業活動を展開しながらも、経済的かつ環境的に安定した基盤を確保する人たちの生存戦略について検討した。東北部では、降水条件の不安定な地域における在来の技術と制度について検討した。いずれも当該地域の調査経験の豊富な地域研究者の案内のもと、他地域あるいは異分野の研究者がともに同一の現場でさまざまな側面から地球圏・生命圏・人間圏の関係性について議論した。これらの具体的な成果はワーキングペーパーや国際会議での口頭発表により公表された。

ケニア北部の海外連携フィールドワーク

日程：2008年10月7日～10月19日。

主要な訪問地：Nairobi, Nanyuki, Isioro, Marusabit, Korr, Tuum, Lake Baringo, Nakuru

参加者：甲山治、河野泰之、孫暁剛、藤田素子、柳澤雅之

タイ北部・東北部の海外連携フィールドワーク

日程：2009年1月20日～1月29日

主要な訪問地：チェンマイ、スコタイ、ナコンラチャーシーマ（パクトンチャイ）、スリン、バンコク

参加者：佐々木綾子、畑俊充、星川圭介、柳澤雅之、山田明德、渡辺一生

国際シンポジウム

2009年3月9日～11日に開催されたG-COE国際シンポジウムにおけるイニシアティブ2班のセッションタイトルは、“Learning from the Dynamics of Geosphere and Biosphere”であり、地球圏・生命圏・人間圏の関係性に焦点をあてた4つの研究発表から構成された。柳澤は、3つの圏の関係性についてレビューし、今後の新しい関係性を試論として提出した。甲山は、中央アジア乾燥地帯を事例に、人間圏の資源利用の変化が、地球圏・生命圏におよぼす影響について論じた。藤田は、都市域の拡大が鳥の生態および物質循環におよぼす影響を示し、人間圏の中の生命圏の創出の可能性について論じた。孫は、ケニア北部の乾燥地帯を事例に、地球圏・生命圏の不安定性に対して人間側は技術や制度を含む総体で対応していることを論じた。イニシアティブ2班メンバーによるこれらの発表に対し、海外からの招聘研究者によるコメントをベースに総合討論をおこない、トピックの選択が時宜にかないう、文理融合が効果的な研究会であるという評価を受けた。

6.4 研究イニシアティブ3

本研究イニシアティブは、生存圏研究所と東南アジア研究所のこれまでの研究の蓄積を踏まえ、同じフィールドで共同研究を進めて実践的な文理融合を行うものである。近年、森林破壊の著しいインドネシアにおいて、産業植林は、持続的森林圏の構築のため重要な役割をもつ。アカシア林などはその例であるが、土壌の劣化、単一樹種植林による病気の蔓延、更に自然林の違法伐採は森林破壊を助長している。また、近隣住民の対立による紛争問題も起きている。科学的に社会学的に森林持続の科学と地域住民の生存基盤の仕組みを理系と文系の研究者が互いに融合（文理融合）できる場として「持続的森林圏」の創生を研究課題とした。

研究サイトの模索

本研究グループは、もともとスマトラ島パレンバン近郊のアカシア林（19万ha）のサステナビリティ研究をテーマに文理融合の研究を進める計画であった。会社側（M社）が、好む研究と好まない研究の分けを示し、研究テーマにクレームをつけたため、研究を進めることができなくなってきた。そこで2008年度の研究については、フィールドを限定せずに各々の設定したフィールドで研究を進めてもらい、その研究成果を共有して解析するタイプの研究グループに変更した。情報交換の場とするだけでなく、他のフィールドへの共同研究を促進する場への試みも行った。イニシアティブ3の研究が、産業人工林のサステナビリティをテーマにした実践研究であり、フィールドを1か所に限定しないけれども、各々のフィールドで実践的な研究を基本に進めた。今年度研究費を配分された、個人またはグループの氏名と研究プロジェクトを記す。

- 1) 小林祥子、甲山 治、大村善治、川井秀一：地上観測および衛星観測データを用いたスマトラ島南部における森林バイオマスの動態評価（50万円）
- 2) 渡辺隆司、大橋康典：東カリマンタンのバイオ燃料開発の現状と動向（35万円）
- 3) Retno Kusumaningtyas、水野広祐：Integrating industry based bio-fuel production from timber with traditional local community crop production in Indonesia（25万円）
- 4) Wil de Jong：Balancing Tropical Forest Property - Regulatory - Support Regimes（25万円）
- 5) 田中耕司、岡本正明、島上宗子、藤田素子：政治・社会・生態空間としての混合樹園地：地方分権下の森林地帯のガバナンス（55万円）
- 6) 石川 登：人工林と地元コミュニティの関係、東マレーシアの事例（25万円）
- 7) 藤田素子：生物多様性はなぜ維持されないのか？熱帯大規模人工林をモデルケースとした生態学的・社会的アプローチ（25万円）
- 8) 鈴木史朗、梅澤俊明：熱帯アカシアの育種（35万円）
- 9) 海田るみ、林 隆久：熱帯早生樹の育種的改良（25万円）

イニシアティブ3の研究会においては、互いの共同研究を促進することに主眼を置き、フィールドにおける実践的な研究成果の報告を行った。特に研究費を配分した個人またはグループには、ワーキングペーパーの提出をお願いした。また、3月9日～11日の国際シンポ

ジウムでは、研究成果をポスター発表してもらい、メンバーとのディスカッションや交流を図った。

同時に、研究フィールドとすべき他の産業林地を模索した。8月には、カリマンタン島ポンチアナク近郊のS社産業林予定地を視察した。S社産業林予定地は、まだインドネシア政府からの許可が下りていない状況で視察したため、研究活動を始めるにはまだ先数年かかるというものであることが分かった。

スマトラ島ペカンバル近郊にRiau Biosphere Reserveが設立されつつあることをインドネシア科学院 (LIPI) より情報を入手した。そこで、11月にペカンバルに行き、リアウ大学、林業省リアウ支所 (Natural Resources Conservation Agency of Riau (BBKSDA))、Sinar Mas Forestry研究所、そしてRiau Biosphere Reserveのコアゾーン (自然林地域) を訪問した。得られた情報を持ち帰り、研究会で検討した結果、前向きに進めていくことになった。

翌年2月20日にリアウ大学で、イニシアティブ3が主体となってワークショップを開催した。その結果、下記の研究プロジェクトが承認された。

1. Collaborative natural resource management between local community and timber plantation (Equitable partnerships between corporate and small-holder partners in timber plantation industry)
Culture
Empowerment of local people
Eco-tourism
Illegal logging and encroachment
2. Dynamic evaluation of forest biomass in plantation forest using ground-based and satellite remote sensing data
3. Water/carbon cycle and soil moisture control, hydrological mapping, weather observation in the peat swamp
4. Case study on biofuel production: from pulp to bioethanol
5. Biodiversity observation of Riau biosphere reserve
Aquatic and Terrestrial (Conservation status)
Valuation and development
6. Peat land Management and conservation
Fire peat land
Hydrology management
Restoration
Peat land physical and nutrition improvement

この案に沿ってRiau Biosphere でイニシアティブ3の研究活動を開始させることが正式に決定した。

また、Cibinong の Biology 研究所の講演ホールにおいて、3月26～27日の2日間、Humanosphere Science School 2009 と題した現地講義を昨年度に引き続き実施した。これは、G-COE が蓄積してきた研究成果を社会に還元すると共に、Riau Biosphere プロジ

エクトを目指し、若手人材の育成と将来の共同研究の一層発展へ展開させることを目的としたものである。本年度はグローバルCOEプログラム、インドネシア科学院、生存圏研究所と共同で開催した。本学より若手研究者及び大学院学生を参加させ、現地の若手研究者との交流を行った。

6.5 研究イニシアティブ4

本研究イニシアティブは、生存基盤持続型発展のための、地域の知的潜在力を発見し理解することを目的としている。2008年度においては、生存基盤の成り立ちについて、生命論、再生産論、在来知論、災害・リスク論、科学技術論、貧困論などの観点から原理論的に考察すると同時に、生存を確保するためのいかなる知的潜在力が世界の諸地域に存在するのかについて人類学的・社会学的・歴史学的な検討を行った。その結果、生存基盤を考えるためには、単に食糧や住居などの要素を単独で考えるのではなく、むしろ生命過程を支る社会生態的なネットワークの全体的な質を視野に入れなくてはならないことがあきらかになった。そのなかで、人間圏と生命圏と地球圏をつなぐ「連鎖的生命」の働きや、生命のかたちを後世へと伝えていく「イノチのつながり」、生存基盤を構築する「人ともとの生きもののネットワーク」、そうした生存基盤を持続し発展するための「在来知」と現代技術の媒介の可能性などについて、キーワードがあぶりだされ、議論が焦点化してきた。今後はこうした概念の有効性について、実際のフィールドにおいて検証していくことが重要となるだろう。2年目となる今年、15回の全体研究会、7回のシンポジウム、1回の国際ワークショップを開催した。

研究会・ワークショップ

- イニシアティブ4研究会（2008年4月21日）
 - 山越言（大学院アジア・アフリカ地域研究研究所）
「"創られた"森林景観 -チンパンジーが住む森のなりたち-」
 - 亀井敬史（生存基盤科学研究ユニット）「都市のエネルギー需要最適化に向けた住まいの窓利用に関する研究」
- イニシアティブ4研究会「アフリカ在来知研究会」（2008年5月8日）
 - 佐々木綾子（大学院アジア・アフリカ地域研究研究科/日本学術振興会）
Transformations of Land-use and Forest Resource Management in 'Miang Tea Gardens', northern Thailand.
- イニシアティブ4研究会（2008年5月9日）
 - 田辺明生（人文科学研究所）「イノチの人類学へ向けて」
- イニシアティブ4研究会「アフリカ在来知研究会」（2008年5月13日）
- イニシアティブ4研究会（2008年5月19日）
 - 清水展（東南アジア研究所）「生存基盤が壊れるということ：ピナトゥボ山大噴火（1991）による先住民アエタの被災と新生の事例から」
- イニシアティブ1・4合同研究会（2008年6月12日）"Comparing Human Development in India & China"
 - Dr. Devin Joshi (Assistant Professor, University of Denver) "Comparing

Human Development in India & China”

- Dr. Giorgio Shani (Associate Professor, Ritsumeikan University)
“Globalization, The 'War on Terror' and Human In/Security in South Asia”
- イニシアティブ 4 研究会「アフリカ在来知研究会」(2008 年 6 月 17 日)
 - 金子守恵 (大学院アジア・アフリカ地域研究研究科/日本学術振興会)「予備調査報告：エチオピアにおける生活技術」
- イニシアティブ 2・4 合同研究会 (2008 年 6 月 17 日)
 - パトリック・コリンズ (麻布大学経済環境研究室)「宇宙太陽光発電 (SPS) のオペレーショナル・デモンストレーター用レクテナ (受電アンテナ) についての赤道直下の国での現地調査から」
- イニシアティブ 4 研究会 (2008 年 6 月 20 日)
 - 木村周平 (東南アジア研究所)「人・モノ・技術のネットワークへのイントロダクション」
 - 足立明 (大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)「活動における多様な知のありよう」
- イニシアティブ 4 研究会 (2008 年 7 月 4 日)
 - 速水洋子 (東南アジア研究所)「生のつながりへの想像力—三つのカレン社会の事例に見る再生産の文化」
- シンポジウム「災害に立ち向かう地域／研究」(イニシアティブ 4 研究会、若手研究者養成部会・イニシアティブ 4 および萌芽科研「防災教育・自然災害復興支援のための地域研究を目指して」共催) (2008 年 7 月 11—12 日)
 - 清水展 (東南アジア研究所)「生存基盤が壊れるということ：ピナトゥボ山大噴火 (1991) と先住民アエタの被災と新生の事例から」
 - 西芳実 (東京大学大学院総合文化研究科)「『災害に強い社会』を考える：2004 年スマトラ沖地震津波の経験から」
 - 遠藤環 (埼玉大学経済学部)「都市のリスクと人びとの対応：バンコクのコミュニティにおける火災の事例から」
 - 木村周平 (東南アジア研究所)「将来の地震の不安と地域社会：トルコ、イスタンブールの事例から」
 - 甲山治 (東南アジア研究所)「温暖化および気候変動にどう対応するか？：水災害を事例として」
 - 佐藤孝宏 (東南アジア研究所)「農業水利変容とその影響：インド・タミルナドゥ州の事例」
 - 生方史数 (東南アジア研究所)「塩と共に生きる？：タイ東北部における塩害と生存基盤」
 - 西真如 (東南アジア研究所)「ウイルスと民主主義：エチオピアのグラゲ県における HIV/AIDS 問題と地域社会の取り組み」
 - 山本博之 (地域研究統合情報センター)「自然災害で現れる『地域のかたち』—インドネシアの地震・津波災害の事例から」
- シンポジウム (イニシアティブ 4 と京都人類学研究会の合同)「自立・連帯・生存～

ネオ・リベラリズム時代の「貧困」をめぐる社会学と人類学の対話～」（2008年7月26日）

- 平井秀幸（日本学術振興会特別研究員）「ネオリベラリズムから社会的なものへの再考／再興へー「ポリリズムとしてのネオリベラリズム」への抵抗に向けて」
 - 居郷至伸（横浜国立大学 大学教育総合センター）「日本のコンビニエンスストア—個人化と搾取のメカニズム、および打開に向けた手がかり」
 - 仁平典宏（日本学術振興会）「現代日本における「ホームレス」の生と構造—自立と連帯のあいだ」
 - 森田良成（大阪大学 人間科学研究科）「「怠け者」たちの労働と生存—西ティモールの廃品回収人の事例」
 - 小川さやか（日本学術振興会）「都市社会を生き抜く騙しの技法—タンザニアの零細商人の生計実践と仲間関係を事例に」
- 国際シンポジウム Preserving local knowledge in the Horn of Africa (2008年9月17日、Harar, Ethiopia にて開催)
- イニシアティブ4から重田眞義、田辺明生らが参加
- イニシアティブ4研究会「ネパール—共和制への道—」（2008年10月10日）
- C. K. Lal
- シンポジウム（公益信託澁澤民族学振興基金民族学振興プロジェクト助成およびイニシアティブ4）「人類学的リスク研究の探求」（2008年10月11日）
- 市野澤潤平（東京大学大学院）「未来のふたつの顔：津波後プーケットの在住日本人社会と風評災害」
 - 松村直樹（名古屋大学大学院）「生活を脅かす“リスク”と浮遊する“安全な水”：バングラデシュ飲用水砒素汚染問題の事例から」
 - 福井栄二郎（島根大学）「老いはリスクか？：介護の現場から考える」
 - 松尾瑞穂（日本学術振興会／京都大学）「生命という不確実性とそのリスク化：インドにおける不妊治療と胎児選別をめぐる」
 - 新ヶ江章友（名古屋市立大学）「日本における HIV/AIDS とリスクの構築：「ゲイ・コミュニティ」の生成プロセスに関する視点から」
 - 西真如（京都大学）「不一致と関与：エチオピアのグラゲ県における HIV/AIDS 問題と地域住民の取り組み」
 - 木村周平（京都大学）「不安、リスク、不確実性：人類学的リスク研究への一考察」
 - 東賢太朗（宮崎公立大学）「降りる、逃げる、旅立つ：リスク社会の人類学的オルタナティブ構想」
- イニシアティブ4研究会（2008年10月21日）
- 篠原真毅「生存圏に宇宙は必要なのか - イノチのつながりと人と世界 -」
- シンポジウム「生のつながりへの想像力：再生産再考」（2008年11月4日）
- 宇田川妙子（国立民族学博物館）「人の断片化か、新たな関係性か：イタリアの生殖技術論争の事例から」

- 砂川秀樹（実践女子大学）「同性愛者のパートナーシップと家族、次世代への継承」
- 工藤正子（東京大学）「国際結婚にみる「つながり」の形成—パキスタン人移住労働者と結婚した日本人女性たちの事例から—」
- 鈴木七美（国立民族学博物館）「次世代コミュニティ・デザイン・ケア・教育をめぐるオルタナティブ思想・実践から考える。」
- イニシアティブ4研究会（2008年11月14日）
 - 松村圭一郎（京都大学人間・環境学研究科）「生存を支える地域／社会の再編成—ザンビア南部州における食糧援助の事例から」
- ワークショップ（イニシアティブ1・4合同）「地域研究と大学院教育の未来」
 - 杉原薫（京都大学東南アジア研究所）「持続型生存基盤パラダイムの創成—環境・政治・経済を総合する新しいアジア研究—」
 - 小杉泰（京都大学イスラーム地域研究センター長）「発展するイスラーム地域研究の地平：ネットワーク型研究拠点形成と大学院教育」
 - 田辺明生（京都大学人文科学研究所）「躍動するインドの新しい姿と南アジア研究の今後」
 - 東長靖（京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科）「スーフィズム／タリーカ研究における文献研究とフィールドワークの技法」
- イニシアティブ4研究会（2008年12月14日）
 - 田辺明生（京都大学人文科学研究所）「人間圏の構造変動と地域社会の潜在力—生命・文化・政治—」
 - 重田眞義（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）「アフリカにおける多元共生社会と内発的発展の未来可能性」
 - 清水展（京都大学東南アジア研究所）「宇宙船地球号という想像共同体：環境保全のために連携する先住民運動と市民社会の行方」
- シンポジウム（イニシアティブ4と京都人類学研究会の合同）「学生運動と人類学—全共闘世代の人類学者に聞く—」（2008年12月20日）
 - 菅原和孝（京都大学大学院人間・環境学研究科）「儀礼的暴力と自己言及の言説 — 大学闘争と人類学の現在 — 」
 - 船曳建夫（東京大学大学院総合文化研究科）「全共闘のころを懐かしむ」
- イニシアティブ4研究会（2009年1月20日）
 - 木村周平「災害から見る生存基盤のネットワーク（仮）」
 - 西真如「ウイルスと民主主義：エチオピアのグラゲ県住民による HIV/AIDS への取り組みの経験」
- シンポジウム「生存を支える『地域／社会』の再編成」（2009年1月23-25日）
 - 西垣有（阪大） 「公共空間をつくる—ポスト社会主義期、モンゴル・ウランバートル市の事例から」
 - 細田尚美（東南ア研） 「移動と交歓—フィリピン向都移民の民族誌」
 - 長倉美予(ASAFAS) 「レソト山岳地の生業とその変遷」
 - 鈴木 玲治（生存研ユニット・東南ア研）「ミャンマー・カレンの営む焼畑土地

利用の履歴と森林植生の長期的変化」

- 小河久志（総研大） 「「正しいイスラーム」をめぐるポリティクス：タイ南部インド洋津波被災地における宗教実践の変容を事例に」
- 池田昭光（都立大） 「レバノン内戦の記憶に関する予備的考察：宗派という視点」
- 佐川徹（ASAFAS） 「暴力と歓待の境界：東アフリカ牧畜民による可傷性への対処」
- 久保忠行（神戸大） 「ビルマ：紛争の現代的特徴と難民キャンプの生活世界」
- 山北輝裕（関学） 「野宿者にとって<地域福祉>とはなにか」
- 倉田誠（神戸大） 「住民の末端化／主体化の力学：小規模国家サモアにおける保健医療サービスの展開から」

7. 広報成果発信部会の活動

広報成果発信部会の活動は、大きく三つに分かれる。1) 本プログラムの研究成果発信の場を設け、あるいは、既存の研究成果発信の場を本プログラムの研究成果発信のために補助促進する。2) ニュースレターの発行。3) ウェブページ作成、である。この他、本プログラムを推進していく上での、対外的なPRに関わる業務も、事務局と共同で進めている。例えば、発足当初のロゴの作成なども本部会が担当した。これらの業務を、四つの基幹部局の教員・若手スタッフと、事務局メンバーとで担っている。以下、追って平成20年度の活動を紹介する。

7.1 研究成果発信

- ① 既存の *Kyoto Working Paper Series on Area Studies* に、*G-COE Series* を設け、年度内に 75 号出版した。資料 1 参照。
- ② *African Monograph Series*
African Study Monograph の下記 4 号の刊行にあたり出版を補助した。
 - African Study Monograph 29-2*
 - African Study Monograph 29-3*
 - African Study Monograph 29-4*
 - African Study Monograph 30-1*
- ③ *Kyoto Review of Southeast Asia* (ネットジャーナル)
多言語ネットジャーナルの編集 (特に中国語翻訳) を補助した
2008 年 第 10 号刊行
- ④ 京都大学東南アジア研究所叢書出版
英文叢書出版の出版費用を補助した
RAMBO, et al. (Eds.) 2009. Farming with Fire and Water: The Human Ecology of a Composite Swiddening Community in Vietnam's Northern Mountains, (Kyoto Area Studies on Asia 19)
- ⑤ 地域研究叢書
和文叢書出版の出版費用を補助した
坪内良博 2009. 『東南アジア多民族社会の形成』
- ⑥ 若手投稿費助成
若手研究者の投稿費用を 20 年度に 3 件助成した
 - ・ *Sri Hartati* (若手担当) 8,918,163 円
 - Dartmouth Journal service (Plant Physiology)*

・海田 るみ (若手担当) 3,908,118 円
 Elsevier Service (Phytochemistry)
 ・甲山 治 (若手担当) 2,721,747 円
 水工学論文集第 53 巻

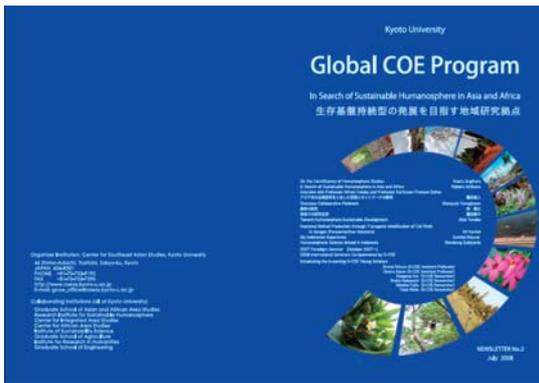
7.2 ニュースレター

本年度は 2008 年 7 月に第 2 号、2009 年 2 月に第 3 号を発刊した。ニュースレターは国内 2,850 ヲ所のみならず、海外 680 ヲ所にも送付している。

第 2 号は、2008 年 3 月に開催された第一回シンポジウムを核にし、各イニシアティブの活動紹介を掲載した。第 3 号は、「若手研究者の夏」をテーマに 2008 年前半きの若手の活動を中心にコラムなども交えて編集した。画像を駆使してページを魅力的にし、内容も若手研究者の勢いを感じさせるものができた。

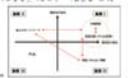
ニュースレターは、ウェブページにも掲載している。

第 2 号



水産資源の持続可能な利用

水産資源の持続可能な利用は、生態系を健全に保ちながら、将来世代にわたって資源を利用できるようにすることです。本稿では、持続可能な水産資源管理の重要性と、そのための取り組みについて紹介します。

持続可能な水産資源管理の重要性は、生態系を健全に保ちながら、将来世代にわたって資源を利用できるようにすることです。本稿では、持続可能な水産資源管理の重要性と、そのための取り組みについて紹介します。

Overseas Collaborative Network

Researcher's Perspective

Overseas Collaborative Network (OCN) is a platform for researchers to share their expertise and collaborate on projects. This section highlights the benefits of such networks and the role of researchers in advancing global research.




Overseas Collaborative Network (OCN) is a platform for researchers to share their expertise and collaborate on projects. This section highlights the benefits of such networks and the role of researchers in advancing global research.

水産資源の持続可能な利用

水産資源の持続可能な利用は、生態系を健全に保ちながら、将来世代にわたって資源を利用できるようにすることです。本稿では、持続可能な水産資源管理の重要性と、そのための取り組みについて紹介します。




水産資源の持続可能な利用は、生態系を健全に保ちながら、将来世代にわたって資源を利用できるようにすることです。本稿では、持続可能な水産資源管理の重要性と、そのための取り組みについて紹介します。

Toward Humosphere-Sustainable Development

Editor's Perspective

This section discusses the challenges and opportunities of achieving sustainable development in the humosphere. It emphasizes the need for interdisciplinary research and collaboration to address complex global issues.




This section discusses the challenges and opportunities of achieving sustainable development in the humosphere. It emphasizes the need for interdisciplinary research and collaboration to address complex global issues.

Improved Soil Fertility through Transgenic Modification of *Brassica napus*

Researcher's Perspective

This article explores the potential of transgenic modification to improve soil fertility in *Brassica napus*. It discusses the genetic engineering techniques used and the resulting benefits for soil health and crop productivity.




This article explores the potential of transgenic modification to improve soil fertility in *Brassica napus*. It discusses the genetic engineering techniques used and the resulting benefits for soil health and crop productivity.

2008 International Seminars Co-organized by GCOE

This section provides a detailed overview of the international seminars organized by GCOE in 2008. It lists the topics, speakers, and dates for each event, highlighting the global reach and collaborative nature of the program.

Topic	Speaker	Date
The Role of GCOE in Sustainable Development	Dr. [Name]	[Date]
Transgenic Modification of <i>Brassica napus</i>	Dr. [Name]	[Date]
Humosphere-Sustainable Development	Dr. [Name]	[Date]
Overseas Collaborative Network	Dr. [Name]	[Date]

第3号

Kyoto University

Global COE Program

In Search of Sustainable Humosphere in Asia and Africa
生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点

February 2009



Featuring G-COE Young Scholars' Summer Activities 特集・若手の夏

1 Introduction of G-COE Young Scholars with the Expansion of Greater Asia
2 Research Group Activities
3 Research Group Activities
4 Research Group Activities
5 Research Group Activities
6 Research Group Activities
7 Research Group Activities
8 Research Group Activities
9 Research Group Activities
10 Research Group Activities
11 Research Group Activities
12 Research Group Activities
13 Research Group Activities
14 Column
15 Research Group Activities
16 Research Group Activities
17 Research Group Activities
18 Research Group Activities
19 Research Group Activities
20 Research Group Activities
21 Research Group Activities
22 Research Group Activities
23 Research Group Activities
24 Research Group Activities

7.3 ウェブページ

本年度のWEB運営は、初年度に導入したCMS(Content Management System)機能利用をさらに深め、①HP運営体制とコンテンツ基盤構築 ②HPレイアウトの改善 ③HPコンテンツの充実化に努めた。

① HP 運営体制とコンテンツ基盤構築

更新作業が効率よくすすめられるよう「HP運営体制」と「コンテンツ基盤構築」の枠組みを整えた。

HP 運営体制

広報・成果発信部会小部会では「HP運営管理」と「HP原稿管理」にわけ運営体制を分割し担当を明確にした。また、各部局には、独自でHP更新がすすめられるよう、アカウントを作成・配布した。更新方法については説明会を開催した。サーバ管理に関しては、情報整備基盤部会より支援を受けた。

■HP 運営管理（広報・成果発信部会）

- 主に CMS システム保守・開発、HP コンテンツ構築・運用管理、サーバ管理、技術的なHP更新を行う

■HP 原稿管理（広報・成果発信部会）

- 主に HP 用原稿依頼・英語コンテンツの翻訳・HP更新を行う

■HP 原稿執筆(各部会：事務局部会・若手研究者養成部会、大学院教育部会、国際シンポジウム、 図書小部会)

- 主に原稿執筆と独自コンテンツの簡易更新を行う

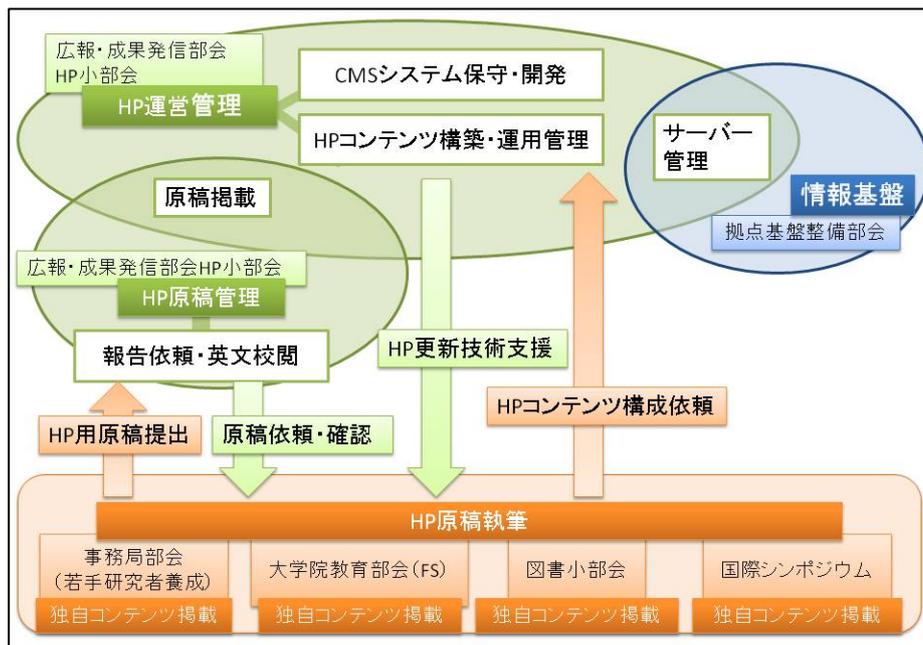


図1: ウェブサイトに関わる運営体制図

コンテンツ基盤構築

多様な情報が集まる大型プログラムウェブサイトでは、運営初期にコンテンツ構成の枠組となるコンテンツ基盤構築を設定する必要がある。

本サイトでは CMS 機能の「話題」わけを利用し、コンテンツ情報の整理につとめている。

現在は72個の「話題」を中心に HP 掲載情報の入力すすめた。

《編》 ワークショップ 編集	プログラムメンバー 編集	国際集会・国際シンポジウムなど 編集	G-COE/パラダイム研究会 編集
公募・お知らせ 編集	関連する学会・研究会など 編集	イニシアティブ1 編集	イニシアティブ2 編集
イニシアティブ3 編集	イニシアティブ4 編集	若手養成・研究会 編集	ニューズレター 編集
教育/フィールド・ステーション 編集	その他の研究会 編集	査読付論文 編集	国際会議 編集
国際会議・学会発表 編集	その他の論文 編集	ナイロビFS 編集	メンバー_教員 編集
メンバー_研究員 編集	メンバー_次世代 編集	メンバー_大学院生 編集	図書館部 編集

図2:「話題」編集画面

② HP レイアウトの改善

コンテンツ増加に伴い、文字のみの情報から、閲覧しやすいレイアウトに改善した。



図3: 本拠点をめざすもの



図4: 大学院教育

若手研究者養成

- G-COEプログラム 若手研究者メンバー
平成19年度、平成19年度～20年度
- 次世代研究イニシアティブ(申請者/研究課/共同研究者)
平成19年度、平成20年度

研究情報

- [2009-04-02] 『次世代イニシアティブ』研究発表報告会(若手養成・研究部会、研究会)
- [2009-03-25] 『イノベシア・フロンティアスクール』(Humansphere Science School)若手養成・研究部会、研究会
- [2009-03-16] 『持続可能な社会構築するための『参加型民主主義』の模範:アフリカ・アジアにおけるローカルな社会制度の模範から学ぶ』(若手養成・研究部会、研究会)
- [2009-01-23] 『生存基盤科学の発展/社会の再編成/シンポジウム』(若手養成・研究部会、研究会)
- [2008-05-26] 『生存基盤科学の発展/社会の再編成/シンポジウム』(若手養成・研究部会、研究会)
- [2008-07-11] 『持続可能な社会構築のための地産地消推進』(若手養成・研究部会、研究会)
- [2008-06-19] 『持続可能な社会/アフリカ/シンポジウム』(若手養成・研究部会、研究会)
- [2008-05-26] 『生存基盤科学の発展/社会の再編成/シンポジウム』(若手養成・研究部会、研究会)
- [2008-04-12] 『第2回研究会』(若手養成・研究部会、研究会)
- [2008-03-18] 『イノベシア・フロンティア』(研究イノベシア)若手養成・研究部会、研究会
- [2008-03-17] 『次世代の地域研究』(若手養成・研究部会、研究会)
- [2008-03-16] 『生存基盤科学の発展/社会の再編成/シンポジウム』(若手養成・研究部会、研究会)

若手研究者養成

「若手養成・研究部会」の活動は、①若手研究者(ポストドク研究者)、②次世代研究イニシアティブ・研究部会(若手養成)の2本の柱から成ります。理念・文化の近い分野にまたがる若手研究者は、若手養成・研究部会の教員や他の部会の教員らとともに、随時(G-COE助成・研究費の申請(2回～2回)研究会を開設して)随時・意見交換を行い、学際共同研究を積極的に行っています。

GCOE 若手研究者メンバー

若手研究者(ポストドク研究者)をGCOE助成・GCOE研究員として招聘。生存基盤科学の発展をめざす研究を推進しています。

平成19～21年度
平成20年度
平成19年度

海外派遣活動

生立支援
「海外派遣紹介」

拠拠: Development Studies Institute(DSI), The London School of Economics and Political Science

アフリカ・アジア人材育成

アフリカ・アジア地域の大学院生・ポストドク研究員に対する教育・研究支援プログラムです。

若手研究者交流
博士号取得支援

若手養成・研究会 研究会情報 一覧 >>

- [2009-04-02] 『次世代イニシアティブ』研究発表報告会(若手養成・研究部会、研究会)
- [2009-03-25] 『イノベシア・フロンティアスクール』(Humansphere Science School)若手養成・研究部会、研究会
- [2009-03-16] 『持続可能な社会構築するための『参加型民主主義』の模範:アフリカ・アジアにおけるローカルな社会制度の模範から学ぶ』(若手養成・研究部会、研究会)
- [2009-01-23] 『生存基盤科学の発展/社会の再編成/シンポジウム』(若手養成・研究部会、研究会)
- [2008-07-11] 『持続可能な社会構築のための地産地消推進』(若手養成・研究部会、研究会)

図5: 若手研究者養成

研究/パラダイム形成

- 新しいパラダイムの創出
4つのイニシアティブを包括して、既存の学的制度的枠組に代わる新しいパラダイムを構築する
- イニシアティブ1『環境・技術・制度の長期ダイナミクス研究』
諸地域における長期にわたる歴史的発展/変遷の存在とその多様性を明らかにしつつ、今後100年間の地域社会のあり方と科学技術開発の方向性を見定める
- イニシアティブ2『人と自然の共生研究』
生存圏全体の物質・エネルギー一循環構造の解明と地域社会の生活・生産複合における資源循環システムとを有機的に結合する
- イニシアティブ3『地域生存基盤の再生研究』
森林生活圏の学際的事例研究を通じて持続的地域社会モデルを提示し、その先進的科学技术との融合過程を実証的に明らかにする
- イニシアティブ4『地域の知的潜在力研究』
地域の多様な文化や制度、技術に蓄積された生存基盤持続型の発展/変遷の発掘とそのモデル化

研究/パラダイム形成

新しいパラダイムの創出

イニシアティブ1
環境・技術・制度の長期ダイナミクス研究

イニシアティブ2
人と自然の共生研究

イニシアティブ3
地域生存基盤の再生研究

イニシアティブ4
地域の知的潜在力研究

「新しいパラダイムの創出」

新着情報 一覧 >>

- [2009-04-23] パラダイム_選択: 『第17回研究会』(G-COEパラダイム研究会) 『活動の記録』(活動)
- [2009-04-01] イニシアティブ3_選択: 『アフリカ・アジアの環境・制度・HSスクールについて』(イニシアティブ3研究会) 『活動の記録』(活動)
- [2009-03-03] イニシアティブ4_選択: 『シンポジウムに向けた構築要素(イニシアティブ4 研究会)』

研究会情報 『パラダイム』、『イニシアティブ4』 一覧 >>

- [2010-02-15] 『第26回研究会』(G-COEパラダイム研究会)
- [2010-01-18] 『第25回研究会』(G-COEパラダイム研究会)
- [2009-12-21] 『第24回研究会』(G-COEパラダイム研究会)
- [2009-11-16] 『第23回研究会』(G-COEパラダイム研究会)
- [2009-10-07] 『第22回研究会』(G-COEパラダイム研究会)
- [2009-09-07] 『第21回研究会』(G-COEパラダイム研究会)
- [2009-07-13] 『第20回研究会』(G-COEパラダイム研究会)
- [2009-06-15] 『第19回研究会』(G-COEパラダイム研究会)

お知らせ/カレンダー

コラム >>

カレンダー >>

図6: 研究/パラダイム形成

シンポジウム・セミナー案内

- G-COEパラダイム研究会
- イニシアティブ1
- イニシアティブ2
- イニシアティブ3
- イニシアティブ4
- 若手養成・研究会 研究会
- 国際集會・国際シンポジウムなど
- 関連する学会・研究会など
- 生存基盤科学研究ユニット 学際交流ワークショップ
- その他の研究会
- 研究会総合一覧 >>

シンポジウム・セミナー案内

研究会総合一覧

研究会名	開催日時	内容
パラダイム研究会	[2010-02-15]	G-COEパラダイム研究会 『第26回研究会』(G-COEパラダイム研究会)
イニシアティブ1	[2010-01-18]	G-COEパラダイム研究会 『第25回研究会』(G-COEパラダイム研究会)
イニシアティブ2	[2010-01-18]	G-COEパラダイム研究会 『第24回研究会』(G-COEパラダイム研究会)
イニシアティブ3	[2009-12-21]	G-COEパラダイム研究会 『第23回研究会』(G-COEパラダイム研究会)
イニシアティブ4	[2009-12-21]	G-COEパラダイム研究会 『第22回研究会』(G-COEパラダイム研究会)
若手養成・研究会	[2009-11-16]	G-COEパラダイム研究会 『第21回研究会』(G-COEパラダイム研究会)
国際集會・国際シンポ	[2009-10-19]	G-COEパラダイム研究会 『第20回研究会』(G-COEパラダイム研究会)
関連する学会・研究会	[2009-10-19]	G-COEパラダイム研究会 『第19回研究会』(G-COEパラダイム研究会)
その他の研究会		

カレンダー
研究会情報/閲覧できます

国際シンポジウム写真集 / ポスター
国際シンポジウム写真集

連携国際集會リスト
2008年/2007年

G-COE Sympo
*The Second International Workshop(2009/03/09-11)
*The First International Workshop(2008/3/12-14)

Paradigm Initiative1 Initiative2 Initiative3 Initiative4

図7: シンポジウム・セミナー案内

成果公開

- 研究成果公開
- 出版物
 - 自己点検評価報告書
 - G-COEワーキングペーパー 随時募集
 - G-COE成果出版物
 - プロシーディング
 - ポスター・パネル発表
 - 関係者出版物
 - ニュースレター
 - 地域研究叢書
 - 東南アジア研究叢書
 - Kyoto Area Studies on Asia
 - Monographs of Southeast Asian Studies
- 定期刊行物
 - アジア・アフリカ地域研究

成果公開

研究成果公開 出版物 定期刊行物 メディアギャラリー WEB開発/成果報告

- 自己点検評価報告書
- G-COEワーキングペーパー 随時募集
- G-COE成果出版物
 - プロシーディング
 - ポスター・パネル発表
 - GCOE関係者による出版物
 - 地域研究叢書
 - 東南アジア研究叢書
 - Kyoto Area Studies on Asia
 - Monographs of Southeast Asian Studies

お知らせ

- [2009-04-16] 現代アフリカ農村・変化を捉える地域研究の視み(GCOE関係者による出版物)
- [2009-04-07] アフリカ 可能性を生きた農民(GCOE関係者による出版物)
- [2009-04-07] 養蚕とつなぐの民族誌 - 北タイ山地カレン社会の民族誌とエッセイ(GCOE関係者による出版物)
- [2009-04-07] The Economic Transition in Myanmar After 1988(GCOE関係者による出版物)
- [2009-03-10] Working Paper: G-COE Series 77(March 2009)
- [2009-03-10] Working Paper: G-COE Series 76(March 2009)
- [2009-03-10] Working Paper: G-COE Series 75(March 2009)

>>ワーキングペーパー 募集

>>自己点検評価報告書

図8: 成果公開

③ HP コンテンツの充実化

研究活動の報告

本プログラムに関する活動報告は、HP に和文・英文両方の掲載がされるようすすめた。

【報告の種類】

- ・次世代イニシアティブ成果報告・大学院派遣報告
- ・研究会活動報告 (G-COE パラダイム研究会・イニシアティブ 1～4、若手養成・研究部会、国際集会・国際シンポジウム報告)

▶現在までの報告掲載数 合計：188 件（和文：96 件／英文：92 件）

名称	開催時期	開催場所	参加の共催組織	成果物
CSEAS and NIOD Joint International Workshop on "Chinese Identities and Inter-Ethnic Coexistence and Cooperation in Southeast Asia" 東アジア研究所・オランダ戦争資料研究所共催国際ワークショップ 「東アジアにおける華人のアイデンティティと民族共生」	2008/07/04-05	CSEAS, Kyoto University (京都大学東アジア研究所)	・Netherlands Institute for War Documentation (NIOD) （オランダ戦争資料研究所）	報告 写真
Re-conceptualization of Wildlife Conservation -Toward Resonatable Actions for Conservation- 「野生動物保全の再概念化：共生者が共鳴し得る活動に向けて」	2008/08/07	Kenya Embassy of Japan (multiple purpose hall) (ケニア日本大使館・多目的ホール)	・Japan Society for the Promotion of Science (JSPS) Nairobi Research Station ・Kenya Wildlife Services (KWS) (主催：JSPS・ケニア研究連絡センター、共催：ケニア野生動物公社)	報告 写真
Workshop on Ecosystem function and conservation of tropical forests 「熱帯林の生態機能と保全に関するワークショップ」	2008/08/12-13	National Institute for Environmental Studies The Center for Global Environmental Research (CGER)	・National Institute for Environmental Studies ・The Center for Global Environmental Research (CGER) ・Forestry and Forest Products Research Institute ・Hiroshima University （国立環境研究所、広島大学）	報告 写真
Pastoral Societies in Africa: New Possibilities for Sustainable Development through the Interaction of Scientific Researchers and Development Workers 「アフリカ牧畜社会の持続可能な発展に向けて：科学者と開発者の協働実践を報告するための新たな可能性を探る」	2008/09/04	University of Nairobi (ナイロビ大学)	・Institute of African Studies, University of Nairobi ・Japan Society for the Promotion of Science (JSPS) Nairobi Research Station ・Center for African Area Studies, Kyoto University （ナイロビ大学アフリカ研究所、日本学術振興会ナイロビ研究連絡センター、京都）	報告 写真

図 9：連携国際集会リスト

派遣先	研究テーマ	報告	写真
大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 (ASAFAS) ・加川真美 (ASAFAS 東南アジア地域研究専攻) 研究テーマ：フィリピン農村部における食のグローバル化の浸透と健康問題 派遣先：フィリピン		>>> >>E	
・片山祐美子 (ASAFAS アフリカ地域研究専攻) 研究テーマ：ガンビア川中流域におけるイネ品種の短期的動態 派遣先：ガンビア		>>>	
・樺沢麻美 (ASAFAS アフリカ地域研究専攻) 研究テーマ：シエラレオネにおける人々とチンパンジーのかかわりとその保全 派遣先：シエラレオネ		>>> >>E	
・佐藤慶子 (ASAFAS 東南アジア地域研究専攻) 研究テーマ：南インド半乾燥地帯灌漑農村における自治組織の機能の調査 派遣先：インド		>>> >>E	
・佐藤宏樹 (ASAFAS アフリカ地域研究専攻) 研究テーマ：マダガスカル南部、川辺乾燥地帯における種子散布者として重要なキツネガシ類の生態調査 派遣先：マダガスカル		>>> >>E	
・JAFAR SURYOMENGOL (ASAFAS 東南アジア地域研究専攻) 研究テーマ：Labour in Indonesia during the revolution (1945-1950) 派遣先：インドネシア		>>> >>E	
・鈴木道 (ASAFAS 東南アジア地域研究専攻) 研究テーマ：インドネシア東カリマンタン州における木材資源の生産と流通—住民による小規模な生産・流通活動に着目して— 派遣先：インドネシア		>>> >>E	

図 10：大学院派遣者リスト

大学院教育部会フィールド・ステーション (FS)、拠点 HP の設置

フィールド・ステーション HP 12 箇所、拠点 HP : 8 カ所を設置した。

また FS には、独自で HP 更新作業がすすめられるようアカウントを配布中である。



図 11 : FSHP (エチオピア FS)



図 12 : FSHP (ラオス FS)



図 13 : 拠点 HP

システム構築と開発

・社会貢献：GoogleMapAPI 導入と CMS プラグイン開発

本サイトのシステム充実のため、2008年3月～GoogleMapAPI 導入をめざした、CMS 業者との開発をすすめた。

この開発は CMS システム内で使用される GoogleMapAPI 関数を、地点情報として容易に表示可能にするものである。

さらに、一般利用を考慮し、プラグイン化をすすめた。このプラグインは、開発システムのサイト上に掲載されており、ダウンロード利用ができる。

こういった開発は、社会貢献の一つとしてあげられる。

また、このプラグインには、本プログラムのコピーライトの明記がされている。



図 14：開発について掲載された CNET Japan 2008/05/16

```
<?php
// Reminder: always indent with 4 spaces (no tabs).
// +-----+
// | function_tkgmaps.php |
// +-----+
// | Copyright (C) 2002 by the following authors: |
// | |
// |2008.05.14 v0.9 customized by G-COE, CSEAS. Addition of GoogleMapsEditor API Auto Tags
// |Authors: Kinoshita
// |Authors: Hiroron
// |Director: IVY WE CO.,LTD. Komma
// +-----+
```

図 15：開発依頼した CMS プラグイン内のコピーライト

メディアギャラリー

プログラムメンバーが調査で撮影してきた写真やシンポジウム写真、ポスター、出版物などの画像をアーカイブしている。

現在で 739 枚の画像が掲載されている。

今後は地点情報入力ソースとしても活用できるようにすすめていく予定である。



図 16 : メディアギャラリー画面

メールマガジン

アジア・アフリカ地域研究研究科 (ASAFAS) よりメールマガジン配信がすすめられている「アジア・アフリカ地域研究情報マガジン」について、2008年9月から発行協力を開始した。

- メールマガジンタイトル : アジア・アフリカ地域研究情報マガジン
- メールマガジン URL : <http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/kaikaku/index.html>
- 発行周期 : 月刊
- 発行部数 : 981 部

メールマガジンの内容には、ASAFAS 活動情報の他、GCOEHP にて掲載された報告紹介や研究活動などが掲載されている。

④ ウェブサイト解析と今後の課題

ウェブサイトのページ数

解析期間：2007年11月30日～2008年3月31日

日本語ページ数：952 ページ 英語ページ：460 ページ

合計：1412 ページ

アクセス数(日本語・英語ページ)

[解析期間]

日本語ページ：2007年11月30日～2009年3月31日

英語ページ：2008年1月28日～2009年3月31日

(※解析ツール：Google Analytics (<http://www.google.com/analytics/ja-JP/index.html>))

	日本語		英語	
	訪問者数	ページ閲覧数	訪問者数	ページ閲覧数
2007年度 (日:4ヶ月/英:2ヶ月)	13914	102031	3547	7941
2008年度	27859	247900	10596	67007
月平均閲覧	2610	21870	1010	5353

表1：ウェブサイト訪問者数とページ閲覧数

まとめ

本プログラムウェブサイトが公開されてから約2年半、ほぼ毎日のペースで更新作業がすすめられてきた。これらの公開されたページ数は、現在で日・英ページ合わせて1412ページである。

このページ数の増加は、①項で述べた「HP運営体制」で配置された役割をもとに、各担当者がコンテンツ作成作業を日々取り組んできた成果であると述べられる。

また、ウェブサイト訪問者数については、一月あたり日本語ページは2600件を超え、英語ページは、1000件に上る。これはSEO対策によって得られた数字でもある。

今後もひきつづき、閲覧・利用されるウェブサイトをめざし取り組んでいきたい。

来年度からは、サーバ利用方針が大きく前進する予定である。CMS利用とその開発をより深め、ウェブサイト充実を図っていきたい。

8. 拠点基盤整備部会の活動

拠点基盤整備部会は、1)G-COE 活動全体に関わる、情報その他の基盤を整備・サポートすることによって活動全体のアクティビティをあげ、成果公開を促進する、2)生存基盤に関するデータベースの構築、3) 生存基盤基本図書、地域研究関連図書、現地語資料等の収集、の3つの役割を担ってスタートし、それぞれ、情報基盤、データベース、図書の小部会にわかれて活動を開始した。以下にこれまでに得られた活動の成果と今後の展望について記す。

8.1 情報基盤

- ① 遠隔会議システムの運用開始。 モバイル遠隔会議機材 (Polycom VSX7000s) を主とするシステム 3 式を、東南アジア研究所ジャカルタ事務所、宇治生存圏研究所、旧工学部 4 号館に配備し、既設の東南アジア研究所との通信によって、遠隔会議、研究会が可能となる礎を築いた。特に、2007 年 11 月 26 日には、インドネシア科学院と東南アジア研究所を繋いで、G-COE 共催の「第 1 回京都大学東南アジアフォーラム」が開催され、海外も含めた拠点整備を始めている。特に海外において遠隔会議を行うためには時差およびネットワーク上の様々な問題があるので、今後はケースバイケースであるそれらについて調査を行うと共に、定常的な運用体制についても検討している。



遠隔会議の様子（基盤整備部会）



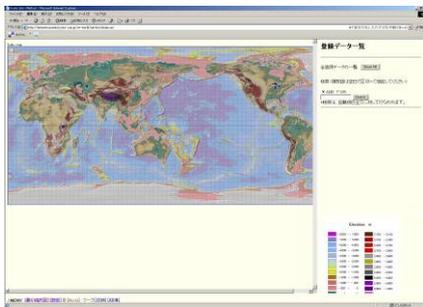
第 1 回東南アジアフォーラム

- ② HP サポート。 京都大学学術情報メディアセンターのレンタルサーバを運用して、G-COE ホームページの公開およびバックアップシステムの構築などのメンテナンスを開始した。
- ③ G-COE で利用しているデータベースサーバ、メール、メーリングリスト、事務処理、研究促進環境を安全・安定に提供するため、東南アジア研究所内ファイアウォール、統合管理型端末セキュリティシステムの強化・整備を行なった。また、今後集積される生存基盤データベース用のサーバを購入し、現在整備中である。これらの設備は、本年秋に予定されている稲盛財団新棟に移設が予定されている。これによって、ネットワーク利用帯域は現行の 100Mbps から 1Gbps へ拡張される予定である。

- ④ 平成 20 年度は、稲盛財団記念館の竣工にともない、ネットワーク、ファイアウォール、サーバの移設と管理移行をおこなった。遠隔会議システム、ネットワークセキュリティシステムの保守と管理を継続し、遠隔会議のサポート、GCOE 端末の保護をおこなった。

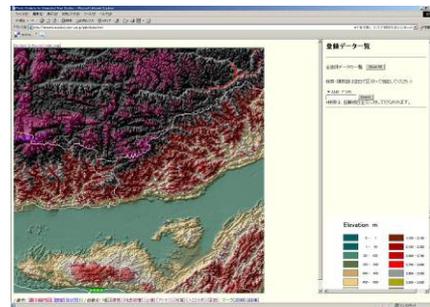
8.2 データベース

- ① 地点情報閲覧ツールの開発と運用。G-COE の研究成果は、逐次 HP 等で公開されるが、これらを汎用データベースとして集積することによって、その全貌を見通すことが可能になるばかりでなく、具体的な地点情報として明示することによって、様々な用途に使用することができる。これまで 21 世紀 COE プログラムで開発された、「地域研究画像データベース」の枠組みを全世界に拡大し、地点情報と写真、記載情報を表示すると同時に、リンクボタンを設けることによって文献、HP の URL などの情報源の参照が可能となった。



G-COE 地点情報データベース

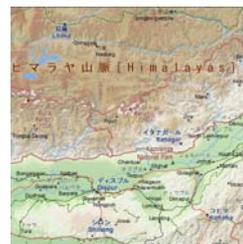
→
拡大



デジタルアトラス
との参照



リンクを張った
地点情報の提示



基本図は、NASA(米国航空宇宙局)提供のデジタル標高モデル(SRTM30 を加工したものを用い、参照図として、米国ランドマクナリ社の世界デジタルマップ (WDDDB) を、ジオカタログ社が日本語化したものを用いた。今後は、G-COE プロジェクト参加者が HP 情報を提出する際に地点情報の提供を求め、情報の集積を図る。この雛形は京大式地点情報入力/閲覧ツールとして、21 世紀 COE サーバに仮設収納中 (<http://areainfo.asafas.kyoto-u.ac.jp/ve/>) で、データサーバの運用開始をまつて移設される予定である。

- ② 生存基盤データベースの開発、整備。本プロジェクトの目指す「持続型生存基

盤パラダイム」の創生に不可欠な文理融合を、地理情報をベースとして推進すべく、「生存基盤データベース」の開発に着手した。2007年度は、イニシアティブ2「人と自然の共生研究」に属し、「水」という共通した研究テーマを持つ若手研究者5人で、数回のミーティングを行い、本データベースの持つべき特徴などについて議論を行った。また、ネット上に散在する各種地理情報を収集し、ブログサービスにより情報を共有しながら意見交換を進めた。2008年度は、イニシアティブ1「環境・技術・制度の長期ダイナミクス」を中心として、生存基盤科学研究ユニット「生存圏シミュレーションのためのデータベース構築」プロジェクトとも協同しながら、各イニシアティブの若手研究者の意見を集約し、データベースの構築を具体的に開始する。また、集められた情報を統合し、テナティブな「地域サステナビリティ指数」を作成し、イニシアティブ1研究会での議論を通じて、データベースおよび指数の充実を図っていく。

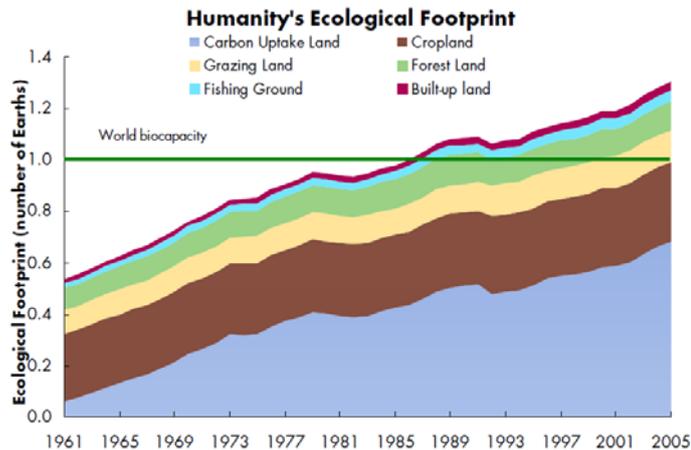
- ③ 平成20年度は、広報部会のHP作成と共同して、地点情報入力ツール、HP掲載バッチ処理ツール、地域研究画像データベースの改良に関する開発計画が作成され、作業が開始された。
- ④ また、東南アジア研究所プロジェクト「ハノイの三次元都市モデル」をサポートし、ハノイ中心部の都市区画地図(1km×1km)3枚を用いて、建物の区画(ポリゴン)データを抽出し、記載されてある建物階数をもとにGISを用いて3次元データを作成した。これにより、ハノイの都市計画ならびに都市変容を把握することが可能となり、都市問題に関連したGCOEの研究を支援することをめざす。



ハノイ中心部、建物3次元化の一例

- ⑤ イニシアティブ1における活動をデータ面からサポートするために、世界中のすべての国家における1961年～2005年の間(5年毎)のエコロジカル・フットプリントおよびバイオキャパシティ(環境収容力を表す指標)の推移を計算するためのデータおよびその算出過程(各国・各年毎に70個のデータシートを含む)を詳細に記載したNational Footprint Account 2005 Editionを購入した。現在同データを用いてエコロジカル・フットプリントの算出方法その他に関する解析を進めている段階であるが、2009年度におけるイニシアティブ1の活動を通じて、取得したデータのArcGISによる地図化を進めてゆく予定である。上述した生存基

盤データベースは、Web 上で公開されている各種統計データの地図化を通じて構築されている（2009 年 5 月現在 約 800 件の主題図により構成される）が、本データについても地図化終了後は同データベースに収録し、2009 年 6 月には内部公開の予定である。



National Footprint Account を利用した解析例:地球全体のエコロジカル・フットプリント経年変化(Ewing *et al.*,2008 から引用、単位:地球の個数)

8.3 図書

① 持続型生存基盤関連図書の整備

各イニシアティブで研究上必要な資料や G-COE 関連の講義に必要な資料を生存基盤関連図書として1箇所配架し、研究を促進するため、平成 19-20 年度には 181 冊の書籍が購入された。これらの書籍は、アジア・アフリカ地域研究研究科アジア専攻図書室が購入・整理・貸出し業務を行なっている。

② 地域研究関連図書の整備

現地語諸資料を中心とする図書の整備拡充を図るため、平成 19-20 年度には、東南アジア関係図書 1,485 冊、マイクロフィルム 49 リール、マイクロフィッシュ 610 枚、南アジア関係図書 1,449 冊、西アジア図書 2,051 冊、雑誌 16 タイトル、アフリカ関係図書 433 冊が購入された。これらは各部局の図書室に配架されるが、圧倒的に収納スペースが不足しているのが現状である。

③ 書籍登録、分類等

図書予算の約 2 割を非常勤雇用にあて、書誌情報の入力、図書整理をおこなっている。

④ HP 公開

図書小部会では、G-COE の HP に、新着情報、図書リスト、推薦図書などのコンテンツからなる購入図書情報を掲載し、常時アップデートしていく体制を整えている。

8.4 展望

拠点基盤整備部会は平成 19、20 年度の活動を通じて、その活動の大綱が定まったのち、順調に実行されている状況といえる。しかし、当初の目的を達成するためには、以下の諸点を留意しながら、活動の相互関連化をはかる必要がある。

1. データベース小部会では、パラダイム研究会、各イニシアティブ、次世代研究イニシアティブにおける諸成果をくみ上げることによって、文理融合型の生存基盤データベースを構築することを計画しているが、2 年間の活動を経た現在、相当量の情報が集積されつつあるので、地点情報化し、G-COE のゴールに則した情報の関連付けと整備をおこなう。
2. 参加部局内で現在進行中の地域情報学の成果（地域研究データベースシステム HUMAP、T2MAP）とどのような整合性、データの互換性を持たせていくかが今後の課題として残されている。
3. 各部局で異なる図書の分類法の統一化についての議論が進められている。特に現地語資料にどのような分類を用いるかについての基準がないため、十分な討議が必要である。

9. 国際アドバイザーボード部会の活動

9.1 国際シンポジウムとの連携

平成20年3月ならびに平成21年3月に開催した以下の国際集會に連携する形式で、国際アドバイザーミーティングを計3回開催した。国際集會への参加ならびに本プログラム参加者との交流を通して、助言を求めた外国人研究者からより質の高いアドバイスを受けることを目的とした。

The First International Conference "In Search of Sustainable Humanosphere in Asia and Africa" (平成20年度3月12日~14日)

The Second International Conference "Biosphere as a Global Force of Change" (平成21年度3月9日~11日)

9.2 国際アドバイザーボードによる外部評価

アドバイザーボードによる本グローバルCOEプログラムへの評価や助言は、各イニシアティブやパラダイム研究会のもとでの調査ならびに研究活動を国際的な学術環境に位置づけ、これをより良きものとするために必須である。初年度は、本プログラムのもとで推進されている諸活動を真に利するアドバイザーボード決定のための重要な準備期間として位置づけ、プログラム・リーダーと各イニシアティブの代表がそれぞれの活動に深く関わる海外の一線級の研究者との交信を開始した。このうちの若干名は平成20年度3月12日~14日に行われた第一回国際會議に招聘し意見交換を行った。2年度目である今年度においては、計二回のアドバイザーミーティングを通して、本プログラムに対する意見の収集を行った。第一回会合は、平成21年2月25日、第二回会合は平成21年3月11日に京都で開催した。初年度ならびに今年度の会合参加者は以下の通りである。

平成20年

アンガス・マディソン (グローニンゲン大学・教授) 経済史学

ケネス・ポメラント (カリフォルニア大学アーバイン校・教授) 歴史学

パトリック・オブライエン (ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス・教授) 歴史学

ルドルフ・デコンニク (モントリオール大学・教授) 地理学

ジェームス・スコット (エール大学・教授) 政治学

アンドリュー・ウォーカー (オーストラリア国立大学・太平洋・アジア研究所・教授) 文化人類学

アルフレッド・クロスビー (テキサス大学オースチン校・教授) 歴史学

デヴィッド・クリスチャン (カリフォルニア大学サンディエゴ校・教授) 歴史学

デヴィッド・ソネンフェルド (ニューヨーク州立大学アルバニー校・教授) 社会学

エンデン・スカラ (インドネシア科学院・研究部長) 生態学

サラ・ベリー (ジョンズホプキンス大学・教授) 文化人類学

ナンディニ・スンダー（デリ大学人類学部・教授）文化人類学
アナ・ツィン（カリフォルニア大学サンタクルーズ校・教授）文化人類学

平成 21 年

パスック・ポンパイチット（チュラロンコン大学・教授）経済学
クリス・ベーカー（オックスフォード大学出版会）歴史学
ビシユア・バラ（ジャムシェドゥプル大学ビジネス・人間資源学部・教授）開発経済学
ジェームス・ニッカム（東京女学館大学）生態学
サラ・カズンズ（ストックホルム大学部・准教授）自然地理学
アンドレ・ファージ（ユトレヒト大学）経済学
ターランス・マケイブ（コロラド大学）文化人類学
ハロ・マート（ワゲニンゲン大学）エネルギー科学
ディヴィッド・ピエツ（ワシントン州立大学）歴史学

本グローバル COE プログラムに対する評価や今後への期待については、以下のような意見が寄せられている。

研究テーマ

- ・「持続可能な発展」を非常に広い意味で捉えようとする本プログラムの試みは、国際的見地からみてもユニークである。
- ・人文・社会科学と先端科学技術研究を融合させようとする試みは世界中で広く行われているが、本プログラムは、新しいパラダイムの創出を目的としながら、きわめて新しいアプローチと方法論の提示に成功している。

独自性

- ・“Geosphere” “Biosphere” “Humanosphere”の関係理解という視点は、本研究プログラム独自のものであろう。
- ・本プログラムの研究視点と学際性の広さは、他の研究プログラムと比べても特筆すべきものである。

論点・疑問点へのアプローチ／プロジェクトの運営体制

- ・他の研究機関によるレビューや学術交流などによって、現在行われている研究活動をより絞り込むことが可能になるのではないか。
- ・学際研究の臨地調査の方策としては、地域を限定して学際的な研究を進めることも有効であると思われる。

各イニシアティブにおける研究テーマ・研究活動

- ・基本的には問題ないと考えられる。しかしながら、第三年度における制度設計に関しては現在のイニシアティブ構成を見直してみる必要もあるのではないか。

- ・本研究プログラムの持つ独自性をより発揮するためにも、社会科学研究を強化するとともに、他の研究分野と統合させるよう努めるべきである。

研究計画の実行

- ・この種の研究プログラムにおいてもっとも重要なことは、継続的な評価、得られた知見の強化、研究内容の変更、といった「反映性」にあり、アドバイザーボードによる外部評価の積み上げは有効と考える。

若手研究者支援

- ・研究活動を進める際に、若手研究者や大学院生の意見を積極的に登用しようとする姿勢は本プログラムのひとつの強みであろう。
- ・同様の研究を行っている国外の研究機関との連携を強化してゆくことも重要である。

第三年度以降、国際アドバイザーボードからの意見へのより良いフィードバックの具体化を念頭に、研究成果の国際的発信、臨地調査のための諸研究機関との制度的連携強化、学際研究のグローバル・ネットワーク構築などを、研究活動をさらに発展させてゆく必要がある。

10. 平成20年度 主な外部資金一覧

研究費の名称	期間	研究課題等	交付を受けた者	研究等経費総額(千円)
科研費基盤 (A)	平成18-20年	アフロ・アジアの多元的情報資源の共有化を通じた地域研究の新たな展開	田中耕司	31,700千円
科研費基盤 (A)	平成20-22年	歴史的建造物由来古材の材質評価データベースと海外研究協力ネットワークの構築	川井秀一	27,900千円
科研費基盤 (A)	平成19-22年	産業利用を目的とした遺伝子組換えポプラの野外試験	林隆久	47,320千円
科研費基盤 (B)	平成18-20年	インドにおける労働集約型経済発展と労働・生活の質に関する研究	杉原薫	14,100千円
科研費基盤 (B)	平成18-21年	東南アジア大陸部における土地利用変化のメカニズム-フィールドワークとRSの結合-	河野泰之	14,100千円
科研費基盤 (B)	平成19-22年	遺伝子組換え樹木:野外試験の海外調査	林隆久	10,660千円
科研費基盤 (B)	平成20-23年	グローバル化時代の東南アジアにおける地方政治の新展開-首都、エネルギー、国境	岡本正明	12,700千円
科研費基盤 (B)	平成20-22年	植物バイオマス資源からの均一ナノファイバー製造に関する基盤技術の構築	矢野浩之	14,300千円
科研費基盤 (B)	平成20-22年	ホイッスラーモード相対論加速による放射線帯形成過程の研究	大村善治	4,900千円 (平成21年度)
科研費基盤 (B)	平成20-23年	アフリカ諸語における統語構造と声調	梶茂樹	15,800千円
科研費基盤 (B)	平成20-22年	熱帯雲霧林の林冠内植物の多様性と動態:気候変動モニタリングに向けたサイト構築	神崎護	10,660千円
科研費基盤 (B)	平成19-21年	材料それぞれの持ち味を最大に生かせる新発想木造軸組構法の開発と耐力発現機構の解明	小松幸平	20,270千円
科研費基盤 (B)	平成20-22年	熱帯大規模人工林における木材劣化生物の多様性評価と持続的管理の提案、	吉村剛	12,900千円
科研費基盤 (C)	平成19-21年	19世紀アジアにおけるグローバル化とコレラ流行-南アジア	脇村孝平	4,550千円 (間接経費含む)

		アと東アジアの連関と比較		
科研費基盤 (C)	平成 20-22 年	「灌漑から天水へ:20 世紀東北タイにおけるコメ生産システム変容実態の面的把握」	星川圭介	3,300 千円
科研費基盤 (C)	平成 19-22 年	韓国軍のベトナム戦争参戦の記憶をめぐる韓越比較研究	伊藤正子	2,600 千円 (平成 20 年度から)
科研費基盤 (C)	平成 19-20 年	半乾燥地における水資源管理の変容が農業水利及び地下水涵養に与える影響評価	佐藤孝宏	2,700 千円
科研費萌芽研究	平成 19-20 年	防災教育・自然災害復興支援のための地域研究を目指して:コミットメントの経験から	清水展	3,400 千円
科研費特定領域研究	平成 20-21 年	土壌環境条件から根毛形態制御に至るシグナル伝達機構	青山卓史	3,400 千円
科研費萌芽研究	平成 19-20 年	細胞内情報解析のための光分子スイッチの開発	青山卓史	3,300 千円
科研費若手 (B)	平成 20-22 年	資源を巡る対立・協調の多元性と固有性:東南アジアの事例から	生方史数	2,700 千円
科研費若手 (B)	平成 19-20 年	地質情報を基盤とした東南アジア地域の地下と地上をつなぐ空間情報処理システムの構築	米澤剛	1,900 千円
拠点大学交流事業 (日本学術振興会)	平成 11-20 年	東アジア地域システムの社会科学的研究	東南アジア研究所	240,000 千円
アジア研究教育拠点事業 (日本学術振興会)	平成 21-25 年	グローバル時代における文明共生:東南アジア社会発展モデルの構築	速水洋子	58,800 千円
京都大学 特別教育 研究経費	平成 20-23 年	生存基盤科学におけるサイト型機動研究の推進	水野広祐	60,000 千円
トヨタ財団計画助成	平成 19-20 年	多声化する東南・東アジア:人々の声をむすび、地域間の対話を促進する (Kyoto Review)	水野広祐	5,000 千円
産学連携・共同研究	平成 20 年	ポストアライアンス(フレWG)フレキシブル基板に関する研究	矢野浩之	31,003 千円
バイオマスエネルギー 一先導研究 (NEDO)	平成 20-21 年	糖化され易い熱帯早生樹の研究開発	林隆久	38,931 千円

京都大学教育研究振興財団学術研究所刊行助成	平成 21 年	地球圏・生命圏・人間圏ー持続型生存基盤とは何かー	杉原薫	1,500 千円
エコイノベーション推進事業 (NEDO)	平成 20 年	サステナブルバイオによる軽量自動車部材の開発に関する調査	矢野浩之	7,999 千円
人間文化研究機構地域研究推進事業	平成 18ー22 年	イスラーム世界における国際組織	小杉泰	41,960 千円 (平成 18-20 年度/ 3 年分)
若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム (日本学術振興会)	平成 19ー24 年	地域研究のためのフィールドワーク活用型現地語教育	大学院アジア・アフリカ地域研究研究科	100,000 千円
若手研究者交流事業 (日本学術振興会)	平成 20 年	フィールドステーションを活用した先導的地域研究における若手研究者交流	大学院アジア・アフリカ地域研究研究科	8,000 千円
国際研究集会助成 (日本学術振興会)	平成 21 年	現代社会における「自然」概念を問う：文理融合的フィールド科学からのアプローチ	東南アジア研究所	3,500 千円
大学院教育改革支援プログラム (文部科学省)	平成 20ー22 年	研究と実務を架橋するフィールドスクールー社会に貢献する地域専門家の養成コースー	大学院アジア・アフリカ地域研究研究科	106,271 千円
小林三井物産環境基金	平成 19ー21 年	荒廃熱帯林の修復と森林とともにくらす地域住民の生活に関する研究	小林繁男	29,360 千円
国土交通省：建設技術研究開発費補助金	平成 19ー20 年	京都特有の自然素材を活用した低環境負荷・資源循環型木造住宅の開発	小松幸平	14,900 千円
松下国際財団研究助成	平成 20 年	熱帯アフリカにおける住民参加型の協働的森林資源管理 (CFM) 政策の進展と地域社会の対応に関する研究	白石壮一郎	450 千円

11. 自己点検評価委員会

自己点検評価委員会は、第21回運営委員会（2009年4月）において、昨年度の様式を基本に、中間評価ならびに外部評価報告書の内容を加えた平成20年度自己点検評価報告書の原案を提示し、承認された。その後、報告書案の目次と分担にしたがって執筆を依頼し、部会および委員会からの原稿を取りまとめた。原稿取りまとめと編集にあたっては、本委員会委員のほか、事務局ならびにG-COE助教（木村、生方）の協力を得た。

報告書の様式、目次案と分担を参考に記載する。

グローバルCOEプログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」

平成20年度自己点検報告書（案）

自己点検委員会 川井秀一

書式：A4，上下左右マージン 30mm、

MS明朝 11ポイント、40字／行、40行／頁

原案作成：4月19日まで（生方、木村）

原稿締め切り：4月末日（各担当）

原稿チェック：5月上旬（自己点検委員会）

目次と分担、分担ページ

1. はじめに（杉原） 1p
2. プログラムの目標と進捗（杉原） 4p
 - パラダイムの形成
 - 成果の発信
 - 教育・人材育成
 - 世界拠点の形成
3. 組織・運営体制（河野） 4p
 - 3.1 運営体制と教育研究プログラム
 - 3.2 委員会・部会組織と人員配置
 - 3.3 事務局体制の整備
 - 3.4 平成20年度予算と配分状況
4. 運営委員会の活動（事務局） 1p
 - 4.1 概要
 - 4.2 グローバルCOE助教および研究員の選考と採用
5. 人材育成センターの活動（小杉） 1p
 - 5.1 はじめに
 - 5.2 新専攻「グローバル地域研究」、持続型生存基盤講座の設置について
 - 5.3 海外派遣助成
 - 5.4 アジア・アフリカ人材育成
- 5-1. 大学院教育部会（伊谷） 10p
 - 大学院教育：グローバル地域研究専攻、持続型生存基盤論講座の設置

- TA・RA プログラム
 - フィールド・ステーションを活用した若手研究者の育成（臨地教育プログラム）
- 5-2. 若手養成・研究部会（清水） 5p
- 5-2.1 G-COE 助教・研究員の活動
 - 5-2.2 次世代イニシアティブ研究助成の交付
 - 5-2.3 研究会・シンポジウム等の開催
 - 5-2.4 生存圏科学国際スクールへの若手部会メンバーの派遣
 - 5-2.5 国際シンポジウムでの発表
6. 研究イニシアティブ 10p（それぞれ2ページ程度）
- 6.1 パラダイム研究会（篠原）
 - 6.2 研究イニシアティブ1（藤田）
 - 6.3 研究イニシアティブ2（柳沢）
 - 6.4 研究イニシアティブ3（林）
 - 6.5 研究イニシアティブ4（田辺）
7. 広報・成果出版部会（速水・林） 20p
- 7.1 研究成果発信
 - 7.2 ニュースレター
 - 7.3 ウェブページ
8. 拠点基盤整備部会（荒木・東長） 5p
- 8.1 情報基盤
 - 8.2 データベース
 - 8.3 史資料・図書
 - 8.4 情報基盤整備・施設整備：遠隔会議システム
9. 国際アドバイザーボード部会（石川） 1p
- 国際シンポジウムの開催
 - 国際アドバイザーボードによる外部評価
10. 平成20年度外部資金一覧
11. 自己点検委員会（川井） 1p
12. おわりにー今後の展望ー（杉原／川井／河野） 1p
- Appendix. 業績一覧

注)各項目の内容は提案で決まったものではありません。必要に応じて追加訂正ください。
また、ページは目安、参照程度に考えてください。

サンプル

1. はじめに（タイトル：ゴチック）

（1行空け）

今回は、農業発展径路に焦点をあてます。農耕の開始により人類は、人口支持力の増大、
さまざまな・・・

12. おわりに—今後の展望—

これまでの自己点検を総括し、評価と展望を加える。

アジア・アフリカの地域研究に携わる研究者と、先端技術の開発に関わる科学者との学問的対話を促進するために、「持続型生存基盤パラダイム」という新しい考え方を提案し、地球温暖化のアジア・アフリカの地域社会への影響といった緊急の課題に答える、ローカルな、あるいはリージョナルな持続的発展径路を追究することを目標として発足した本プログラムの20年度の活動を点検し、若干の評価と今後の課題について記す。

第一は研究分野横断型の研究推進についてである。平成20年度には20回の国際シンポジウム・セミナーを主催・共催し、研究成果の国際的な発信を積極的に推進した。とりわけ、平成21年3月に開催した "Biosphere as a Global Force of Change: The Second International Conference" (参加者95名、うち外国人30人)では、国際的に第一線で活躍する研究者やアジア・アフリカ諸国の開発の現場に関与する現地研究者等に参加していただき、社会と環境という21世紀の人類社会が共通して取り組むべき課題に対する独創的、総合的アプローチであると高い評価を得た。同時に、4つの研究イニシアティブとそれらを総括するパラダイム研究会の活動も活発に展開することができた。これらを通じて見出された知見は次の二点にまとめられる。その第一は、人間と自然環境の関係を、これまでのように人間（開発）の側からだけ、あるいは自然環境の維持の立場だけから考えるのではなく、両者の相互関係を考慮した上で、人類の「生存基盤」をどのように持続させていくかという視点が重要だということである。われわれは、そうした視点を確立するために、グローバル・ヒストリーを書き直したり、人間開発指数に代わる「生存基盤指数」の開発を試みたり、生命を連鎖体として見る在来の「生存基盤の思想」を読み解いたりした。第二は、人間と自然環境との関係を二項対立的に捉えるのではなく、「地球圏」、「生命圏」、「人間圏」という、長い歴史と固有の運動の論理をもった三つの圏が交錯して成立する「生存圏」として捉えることによって、これまで注目されていなかったさまざまな領域の問題を可視化し、総合化することができるのではないかということである。具体的には、大気の動きと降雨、植生の関係を学際的に研究することによって「熱帯生存圏」の諸相を理論的に解明するとともに、東南アジアの大規模植林をとりあげて、そこにおける生態系と生物多様性の維持、地域社会との関係、バイオエネルギーの開発などのテーマを総合的、体系的に解明しようとした。これらの作業の中間的な成果は、近く刊行される『地球圏・生命圏・人間圏—持続型生存基盤とは何か—』（京都大学学術出版会、印刷中）にまとめられている。今後は、これらの知見をさらに練り上げ、国際学術誌への発表を活発化するとともに、英文図書としてとりまとめ世界の公論形成への貢献を目指す。

第二は大学院教育の制度整備についてである。大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 (ASAFAS) に持続型生存基盤研究講座を設置する方向で制度改革の努力を進めてきた。ASAFAS と人材育成センターの緊密な連携のもとに、協力部局の全面的なサポートを得て、当初の計画だった「持続型生存基盤コース」の新設よりもさらに本格的な講座の設置を進めたのである。その結果、平成21年4月に大学院アジア・アフリカ地域

研究研究科にグローバル地域研究専攻を新設するとともに、新専攻のなかに持続型生存基盤論講座を設置し、新規に教授2名を採用することが決まった。今後は、この講座を中核として大学院教育を推進する。

第三は成果出版活動についてである。平成20年度には、学術図書71冊(共著含む)、学術論文243編に加えて、国際シンポジウム講演要旨7冊、ワーキングペーパー78冊(うち英文35冊)を発行することができた。とりわけワーキングペーパーでは、『トルコにおける地震の記憶の活用をめぐる』、『生存圏に宇宙は必要なのか—イノチのつながりと人と世界』、『生のつながりへの想像力—再生産の文化への視点』など、持続型生存基盤パラダイム形成に向けた多角的な試論を発表してきた。今後も、成果出版を積極的に展開する。

第四は広報活動についてである。国内外に向けた成果発信の基礎をなすホームページは、本プログラムの開始直後である平成19年7月に仮ページを公開したのち、情報基盤などを整備し、平成19年11月には日本語ページ、平成20年1月には英語ページを本格的に公開した。その後も改良を重ねており、本プログラムのほぼすべての活動内容をリアルタイムで世界に向けて発信する体制を構築することができた。これに応じてアクセス回数が増加傾向にあり、平成19年度と比較して、英語版の訪問者数は3倍に、ページ閲覧数は10倍となった。今後は、ホームページの内容の充実をさらに進める。

第五は、大学院生・若手研究者に対する支援体制についてである。リサーチアシスタント(RA)の雇用については、本プログラムに関連する大学院生の多くが、アジア・アフリカ諸国での長期のフィールドワークを主たる研究手法とするために、RA雇用が限定的にならざるをえなかった。そこで、RA雇用に加えて、フィールドステーション派遣旅費の支援や若手研究者の自発的研究活動を支援する研究費支援(次世代研究イニシアティブ)を強化した。これにより、大学院生の研究活動を当初計画通りに活性化することができた。同時に、当初の計画にしたがって、アジア・アフリカ人材発掘プログラムを開始した。具体的には、日本学術振興会より若手研究者交流支援事業の助成を得て、アジア・アフリカ諸国の若手研究者を本拠点に招へいして双方向の研究交流を推進する若手研究者交流を実施した。これらの支援を継続して実施する。

このように、共同研究によるパラダイム形成と人材育成のための制度改革を両輪とする本プログラムの構想は着実に進展している。次年度以降においては、上記論文集のほか、いくつかの本格的な研究成果を出すとともに、パラダイム形成の成果を東南アジアにおける森林プロジェクトなどの具体的な研究に反映させる。

拠点リーダー

自己点検評価委員会委員長

事務局長

杉原 薫

川井秀一

河野泰之

CSE AS	GCO E No.	発行年月	名前	所属	タイトル
3	1	2008.3.	Ho Dinh Duan/Mamoru Shibayama 柴山守	Institute of Resources Geography, HCMC, Vietnam/CSEAS	STUDIES ON HANOI URBAN TRANSITION IN 20th CENTURY BASED ON GIS/RS
4	2	2008.3.	Junichi Hirano 平野潤一郎	ASAFAS	Beyond the Sunni-Shiite Dichotomy: Rethinking al-Afghani and His Pan-Islamism
5	3	2008.6.	Kuppanan Palanisami/Muniandi Jegadeesan/Koichi Fujita 藤田幸一/Yasuyuki Kono 河野泰之	CSEAS	Impacts of the Tank Modernization Programme on Tank Performance in Tamil Nadu State, India
6	4	2008.9.	Dai Yamao 山尾大	ASAFAS	Struggle for Political Space in post-War Iraq: Contending Relations between ex-Exile Ruling Parties and Later-formed Parties
7	5	2008.9.	Fumikazu Ubukata 生方史数	CSEAS	The Institutional Formation Process of Communal Forest Management in Northeast Thai Villages
8	6	2008.10.	Yoko Hayami 速水洋子	CSEAS	Pagodas and Wedding Vows: Buddhist and Sectarian Practices in Karen State
9	7	2008.10.	Kohei Wakimura 脇村孝平	Graduate School of Economics, Osaka City University	Health Hazards in 19th Century India: Malaria and Cholera in Semi-Arid Tropics
10	8	2008.12.	Noboru Ishikawa 石川登	CSEAS	Centering Peripheries: Flows and Interfaces in Southeast Asia
11	9	2008.12.	Makoto Nishi 西真如	CSEAS	A virus, Democracy, and Sustainable Society: the Experience of Community-based HIV/AIDS Programs among the Gurage, Southern Ethiopia
12	10	2008.12.	Junichi Hirano 平野潤一郎	ASAFAS	Historical Formation of Pan-Islamism: Modern Islamic Reformists Project for Intra-Umma Alliance and Inter-Madhahib Rapprochement
13	11	2008.12.	Toru Adachi 足立亨/Yukihiro Takahashi/Hiroyo Ohya/Fuminori Tsuchiya/Kozo Yamashita/Mamoru Yamamoto/Hiroyuki Hashiguchi	RISH	Monitoring of Lightning Activity in Southeast Asia: Scientific Objectives and Strategies
14	12	2008.12.	石川 晃士	名古屋大学大学院 国際開発研究科	Cambodia Area Studies 1 カンボジアにおけるコメ産業の現状とその課題
15	13	2008.12.	Md. Taufiqul Islam/Koichi Fujita 藤田幸一	CSEAS	Prospect of Building a Local Self-government at the Upazila/ Thana Level : Towards a Decentralized Rural Administration in Bangladesh
16	14	2009.1.	Dai Yamao 山尾大	ASAFAS	Transformation of the Iraqi Islamist Parties and their Framing in the Changing Regional and International Political Environments
17	15	2009.1.	大野 昭彦/Patcharin Lapanun	青山学院大学国際政治経済学部	東北タイにおける信用組合の展開
18	16	2009.2.	加瀬澤 雅人	東南アジア研究所	「アーユルヴェーダ」をいかに現代に活かすか インド、アメリカ、日本における実践からの一考察 How to Utilize Ayurveda in Contemporary India, United States and Japan

19	17	2009.1.	Rumi Kaida 海田るみ/Tomomi Kaku/Kei' ichi Baba/ Masafumi Oyadomari/Takashi Watanabe/Sri Hartati Enny Sudarmonowati/Takahisa Hayashi	RISH	Enzymatic Saccharification and Ethanol Production of Trunk in Tropical Trees
20	18	2009.1.	Taizo Wada 和田泰三	CSEAS	Depression of Community-Dwelling Elderly in Three Asian Countries: Myanmar, Indonesia, and Japan
21	19	2009.2.	木村 周平	東南アジア研究所	トルコにおける地震の記憶の活用をめぐって
22	20	2009.3.	石橋 誠/小張 順弘/渡邊 暁子 /細田 尚美	東南アジア研究所	可能性としてのハイパー・モビリティ:生存基盤持続型社会の潜在力の表現としての人の移動に関する広域比較研究・序説
23	21	2009.2.	Rumi Kaida 海田るみ/Takahisa Hayashi	RISH	Improving Primary Raw Materials for Biofuels
24	22	2009.2.	田畑 悦和	生存圏研究所	インドネシア海洋大陸域における日変化特性の研究
25	23	2009.2.	竹田 敏之	アジア・アフリカ地域研究研究科	現代アラブ世界の展開と学術用語の整備—タアリーブ(アラビア語化)による外来語受容とナハトによる造語法を中心に
26	24	2009.2.	Takahisa Furuichi 古市剛久	ASAFAS	Land-use Change in the Lake Inle Catchment, Myanmar: Implications for Acceleration of Soil Erosion and Sedimentation
27	25	2009.2.	Junko Koizumi 小泉順子	CSEAS	The Making of 'Thai Silk' as a National Tradition
28	26	2009.2.	市野澤 潤平	東京大学大学院総合文化研究科	リスク人類学シリーズ1 2004年インド洋大津波のブーケット観光への影響
29	27	2009.2.	松村 直樹	名古屋大学大学院国際研究科	リスク人類学シリーズ2 生活を脅かす“リスク”と浮遊する“安全な水”～バングラデシュ飲用水砒素汚染問題の事例から～
30	28	2009.2.	福井 栄二郎	島根大学法文学部	リスク人類学シリーズ3 老いはリスクか？
31	29	2009.2.	松尾 瑞穂	人文科学研究所	リスク人類学シリーズ4 生命という不確実性とリスク:インドにおける代理懐胎をめぐって
32	30	2009.2.	新ヶ江 章友	名古屋市立大学大学院看護学研究科	リスク人類学シリーズ5 日本におけるHIV/AIDS とリスクの構築—「ゲイ・コミュニティ」言説の生成プロセスに関する視点から—
33	31	2009.2.	西 真如	東南アジア研究所	リスク人類学シリーズ6 不一致と関与—エチオピアのグラゲ県住民によるHIV/AIDS への取り組み—
34	32	2009.2.	木村 周平	東南アジア研究所	リスク人類学シリーズ7 不安・リスク・不確実性:人類学的リスク研究への一考察
35	33	2009.2.	東 賢太郎	宮崎公立大学人文学部	リスク人類学シリーズ8 降りる、逃げる、旅立つ—リスク社会の人類学的オルタナティブ構想—
36	34	2009.3.	篠原 真毅	生存圏研究所	生存圏に宇宙は必要なのか—イノチのつながりと人と世界—
37	35	2009.3.	SUN Xiaogang 孫	CSEAS	Nomadic Pastoralists Adapting to the Challenge of Sedentarization in Arid Area of East Africa

38	36	2009.3.	園部 太郎/佐藤 孝宏/奥村 与志弘/広田 勲/津田 冴子/小石 和成/大村 善	東南アジア研究所	タイにおける持続可能な稲作由来バイオマス発電の現状と展望
39	37	2009.3.	黒崎 龍悟	アジア・アフリカ地域研究研究科	タンザニア南部、マテンゴ高地における農村開発の展開と住民の対応—住民参加型開発プロジェクトの「副次効果」分析から—
40	38	2009.3.	Fumikazu Ubukata 生方史数	CSEAS	Getting Villagers Involved in the System: the Politics, Economics and Ecology of Production Relations in the Thai Pulp Industry
41	39	未	藤岡 悠一郎	アジア・アフリカ地域研究研究科	ナミビア乾燥地域に暮らす農牧民の自然資源利用におけるフロンティアの役割とその変化 Changes in Natural Resource Use in the Local Frontier among Agro-pastoralists of North-Central Namibia
42	40	2009.3.	Shinsuke Nagaoka長岡伸介	ASAFAS	Reconsidering <i>Mudaraba</i> Contracts in Islamic Finance: What is the Economic Wisdom (<i>Hikma</i>) of Partnership-based Instruments?
43	41	2009.3.	鈴木 史朗/服部 武文/梅澤 俊	生存圏研究所	熱帯アカシアの育種
44	42	2009.3.	Akio Tanabe 田辺明生	Institute for Research in Humanities	Cultural Politics of Life: Biomoral Humanosphere and Vernacular Democracy in Rural Orissa, India
45	43	2009.3.	田辺 明生・加瀬澤 編	人文科学研究所・東南アジア研究所	技術と社会のネットワークb—研究課題と展望—
46	44	2009.3.	Naoki Naito 内藤直樹	ASAFAS	The Potential of Ambiguous Identities among Pastoralists in the Modern State: a Case Study of the Emergence of New Ethnic Identities in Northern Kenya Following a National Election
47	45	2009.3.	松村 圭一郎	人間環境学研究科	生存を支える地域/社会シリーズ1 ザンビアにおける食糧安全保障体制と生存基盤
48	46	2009.3.	佐川 徹	大学院アジアアフリカ地域研究研究科	生存を支える地域/社会シリーズ2 友を待つ—ダサネッチによる「敵」への歓待と贈与—
49	47	2009.3.	山北 輝裕	関西学院大学大学院社会学研究科	生存を支える地域/社会シリーズ3 野宿者にとって<地域福祉>とは何か
50	48	2009.3.	西垣 有	大阪大学大学院人間科学研究科	生存を支える地域/社会シリーズ4 公共空間をつくる—ポスト社会主義期モンゴル・ウランバートル市の事例から
51	49	2009.3.	久保 忠行	神戸大学大学院国際文化学研究科	生存を支える地域/社会シリーズ5 ビルマ: 紛争の現代の特徴と難民キャンプの生活世界
52	50	2009.3.	鈴木 玲治/竹田 晋也	東南アジア研究所/アジアアフリカ地域研究研究科	生存を支える地域/社会シリーズ6 焼畑耕作がミャンマー・バゴー山地カレン村落周辺の森林植生の長期的変化に与える影響
53	51	2009.3.	池田 昭光	東京都立大学大学院社会科学研究科	生存を支える地域/社会シリーズ7 レバノン内戦の記憶に関する予備的考察—宗派という視点—
54	52	2009.3.	長倉 美予	アジア・アフリカ地域研究研究科	生存を支える地域/社会シリーズ8 レソト山岳地の生業とその変遷
55	53	2009.3.	Sayako Kanda 神田さや子	Faculty of Economics, Keio University	Coal, Firewood and Plant Stalks: Availability of Fuel and Development of Industries in Early Nineteenth-Century Bengal

56	54	未	Esen Urmanov	Area and Culture Studies, Tokyo University of Foreign Studies	Transformation of Clan Politics into Party Politics in Kyrgyzstan (2005-2008)
57	55	2009.3.	宗野 ふもと	アジア・アフリカ地域研究研究科	現代中央アジアにおける女性の仕事:ウズベキスタン、ホラズム州ヒヴァ市の絨毯工房を取り上げて
58	56	2009.3.	Aiko Hiramatsu 平松亜衣子	ASAFAS	Islam and Democratization in Contemporary Kuwait: The Political Participation of Women and the Formation of the Civil Society
59	57	2009.3.	Kenji Kuroda 黒田賢治	ASAFAS	Games to get Hegemony in Iranian Politics: Participation of Islamic Jurists after the Revolution
60	58	2009.3.	亀井 敬史	生存基盤科学研究ユニット	SCM(Supply Chain Management)による救急医療体制の最適化
61	59	2009.3.	Yasuaki Sato 佐藤靖明	ASAFAS	Ethnobotanical Study of Local Practices Maintaining Landrace Diversity of Bananas (<i>Musa spp.</i>) and Enset (<i>Ensete ventricosum</i>) in East African Highland
62	60	2009.3.	Go Yonezawa 米沢剛	Institute of Sustainability Science	Generation of DEM for Urban Transformation of Hanoi, Vietnam
63	61	2009.3.	Toshiyuki Wakatsuki 若月俊之 /Moro M. Buri/Oladimeji I.	Kinki University School of Agriculture	West African Rice Green Revolution by Sawah Eco-technology and the Creation of African SATOYAMA Systems
64	62	2009.3.	星川 圭介	地域研究統合情報センター	東南アジアの農村はどれくらい自給的か
65	63	2009.3.	Tamaki Endo 遠藤環	Faculty of Economics, Saitama University,	Occupational Change and Upward Mobility of Low Income Residents in Bangkok
66	64	2009.3.	Mohamed Omer ABDIN	Graduate School of Area and Culture Studies, Tokyo University of Foreign Studies	The Impact of CPA's Power Sharing Arrangements on the Process of Democratic Transformation in Sudan
67	65	2009.3.	吉田 尚史	早稲田大学大学院文学研究科	Cambodia Area Studies 2 カンボジア王国の精神医学・医療についての報告
68	66	未	籠谷 直人	人文科学研究所	19世紀の東アジアにおける自由貿易原則の浸透と華僑の移動
69	67	2009.3.	中村 香子/内藤 直樹	アジア・アフリカ地域研究研究科	アイデンティティの柔軟性と重層性に関する研究－東アフリカの牧畜社会における他者と自己の構築 Construction of Self and Others in the East African Pastoralists' Societies: Flexibility and Plurality of Identities
70	68	2009.3.	渡邊 一哉	東南アジア研究所	タイ国・バンドン湾における沿岸域利用
71	69	2009.3.	松井 生子	広島大学大学院	Cambodia Area Studies 3 カンボジア農村におけるベトナム人と地方行政の関わり「不当な」料金徴収とその影響をめぐって Ethnic Vietnamese and Local Authorities A Look at B Village, Prey Veng, Cambodia
72	70	未	Shoko Kobayashi 小林祥子 /Kazadi SANGA-NGOIE	CSEAS	A Multivariate Model of the Integrated Radiometric Correction Method of Optical Remote Sensing Imageries with Consideration to Terrain Irradiance

73	71	2009.3.	Takashi Oishi 大石隆	Kobe City University	Special Focus on the Import from Japan
74	72	2009.3.	速水 洋子	東南アジア研究所	生のつながりへの想像力1 生のつながりへの想像力—再生産の文化への視点
75	73	2009.3.	宇田川 妙子	国立民族学博物館	生のつながりへの想像力2 人の断片化か、新たな関係性か：イタリアの生殖技術論争の事例から
76	74	2009.3.	砂川 秀樹	実践女子大学	生のつながりへの想像力3 同性愛者のパートナーシップと家族、次世代への継承
77	75	2009.3.	工藤 正子	東京大学大学院総合文化研究	生のつながりへの想像力4 トランスナショナルな家族にみる“つながり”の生成と再編：パキスタン人男性と日本人女性の国際結婚の事例から
78	76	2009.3.	Nanami Suzuki 鈴木七美	National Museum of Ethnology	Series on Imagining Relatedness of Life 5 Creating a New Life through Persimmon Leaves The Art of Searching for Life-design for Greater Well-being in a Depopulated Town
79	77	2009.3.	清水 展	東南アジア研究所	災害に立ち向かう地域／研究 生存基盤持続型の発展に向けた再想像＝創造のための素描 Tackling Natural Disasters Re-Imagining Area Studies for Sustainable Humanosphere
			風戸真理	地域研究統合情報センター	モンゴル牧畜社会における女性の財産—家畜と銀製品の比較より

以上 英文35 和文43

Appendix 2 G-COE 19-20年度業績リスト

(1)論文			
メンバー	発行年	著者	タイトル
速水洋子	2007	速水洋子	「カレン州パアンにおける仏教徒ポー・カレンの民俗・宗教実践と世帯の継承」『ミャンマー少数民族地域における生態資源利用と世帯戦略』科学研究費補助金基盤研究(B)報告書平成16年度-平成18年度(代表:速水洋子)217-251頁. 2007年5月
速水洋子	2007	速水洋子	「家と家をつなぐーバゴー山地カレン焼畑村から」『東南アジア研究』45巻3号359-381頁. 2007年12月
速水洋子	2007	速水洋子	”Changing “Families” in Southeast Asia: Loose Framework, Questions and Topics” in Proceedings of the CORE University International Workshop 2007年12月6-7日拠点大学プログラム国際ワークショップ 1-12頁
速水洋子	2009	速水洋子	” Relatedness and Reproduction in Rethinking “Families” in Southeast Asia: (with case studies from three Karen settings)” In Proceedings of the The Making of East Asia: from both macro and micro perspectives(Volume 2) <i>PROJECT 8: Changing “Families” Kyoto March</i>
林隆久	2007	A Alonso-Simon, P Garcia-Angulo, AE Encina, JM Alvarez, JL Acebes and T	Increase in XET activity in bean (<i>Phaseolus vulgaris</i> L.) cells habituated to dichlobenil, <i>Planta</i> , 226: 765-771 (2007)
林隆久	2007	N Nishikubo, T Awano, A Banasiak, V Bourquin, F Ibatullin, R Funada, H Brumer, TT Teeri, T Hayashi, B Sundberg and EJ Mellerowicz	Xyloglucan <i>Endo</i> -transglycosylase (XET) Functions in Gelatinous Layers of Tension Wood Fibers in Poplar—A Glimpse into the Mechanism of the Balancing Act of Trees, <i>Plant Cell Physiol</i> , 48: 843-855 (2007)
林隆久	2007	BR Urbanowicz, AB Bennett, E del Campillo, C Catalá, T Hayashi, B Henrissat, H Höfte, SJ McQueen-Mason, SE Patterson, O Shoseyov, TT Teeri, and	Structural organization and a standardized nomenclature for plant endo-1,4-b-glucanases (cellulases) of glycosyl hydrolase family 9. <i>Plant Physiology</i> , 144: 1693-1696 (2007)
林隆久	2007	T Konishi, T Takeda, Y Miyazaki, M Ohnishi-Kameyama, T Hayashi, MA O’	A plant mutase that interconverts UDP-arabinofuranose and UDP-arabinopyranose, <i>Glycobiology</i> 17: 345-354, 2007
林隆久	2008	T Hayashi, YW Park, A Isogai and T Nomura	Cross-linking of plant cell walls with dehydrated fructose by smoke-heat treatment. <i>J Wood Sci</i> , 54: 90-93 (2008)
林隆久	2008	T Taniguchi, Y Ohmiya, M, Kurita, M Tsubomura, T Kondo, YW Park, K Baba, T Hayashi	Biosafety assessment of transgenic poplars overexpressing xyloglucanase (AaXEG2) prior to field trials, <i>J Wood Sci</i> , 54:408-413 (2008)
林隆久	2008	R Kaida, T Hayashi, TS Kaneko	Purple acid phosphatase in the walls of tobacco cells, <i>Phytochem</i> , 69: 2546-2551 (2008)
林隆久	2008	T Takabe T, A Uchida A, F Shinagawa, Y Terada, H Kajita, Y Tanaka, T Takabe, T Hayashi, T Kawai, T Takabe	Overexpression of DnaK from a halotolerant cyanobacterium <i>Aphanothece halophytica</i> enhances growth rate as well as abiotic stress tolerance of poplar plants, <i>Plant Growth Reg</i> , 56: 265-273 (2008)
林隆久	2008	EJ Mellerowicz, P Immerzeel, T Hayashi	Xyloglucan: The molecular muscle of trees, <i>Annals Bot</i> , 102: 659-665 (2008)

林隆久	2008	S Hartati, E Sudarmonowati E, YW Park YW, T Kaku, R Kaida, K Baba, T Hayashi	Overexpression of poplar cellulase accelerates growth and disturbs the closing movements of leaves in sengon, <i>Plant Physiol</i> , 147: 552-561 (2008)
林隆久	2008	H Ikegaya, T Hayashi, T Kaku, K Twata, S Sonobe, T Shimmen	Presence of xyloglucan-like polysaccharide in Spirogyra and possible involvement in cell-cell attachment, <i>Phycological Res</i> , 56: 216-222 (2008)
林隆久	2008	T Hayashi, R Kaida, T Kaku, K Baba	Enhancement of saccharification by overexpression of various endoglycanase in poplar, GEO Giacaglia ed, pp 145-149, UNINDU, Taubate, Brasil (2008)
林隆久	2008	林 隆久、加来友美、海田るみ、馬場啓一	「植物でセルラーゼを過剰発現させる」, <i>Cellulose Communication</i> , 15, 148-152 (2008)
林隆久	2009	K Ozaki, A Uchida, T Takabe, F Shinagawa, Y Tanaka, T Takabe, T Hayashi, T Hattori, AK. Raid, T Takabe	Enrichment of sugar content in melon fruits by hydrogen peroxide treatment, <i>J Plant Physiol</i> , 166: 569-578 (2009)
井合進	2009	井合 進	「社会経済システムの改編と技術戦略:課題と展望」『エネルギー・資源』30(2)、98-101
籠谷直人	2008	籠谷直人	「中日全面戦争後の在日華僑、印僑ネットワーク」籠谷直人、『華僑華人歴史研究』2008年第2期、37-51頁、2008年
籠谷直人	2008	籠谷直人	「華僑華人研究から学んだこと」籠谷直人、『神戸華僑華人研究会創立20周年記念誌(1987-2007)』29-31頁、2008年
籠谷直人	2008	籠谷直人	「東アジアにおける自由貿易原則の浸透」籠谷直人、『2008東アジア韓国学国際学術会議および東アジア韓国学会』157-164頁、2008年
川井秀一	2007	Umemura K, Kawai S	Modification of Chitosan by the Maillard Reaction using Cellulose Model Compounds. <i>Carbohydrate Polymers</i> , 68(2); 242-248, 2007
川井秀一	2007	Walter T, Kartal S.N, Hang W.J, Umemura K, Kawai S	Strength, decay and termite resistance of oriented kenaf fiberboard, <i>J Wood Science</i> , 53(6), 481-486 (2007)
川井秀一	2007	Munawar SS, Umemura K, Kawai S	Characterization of the morphological, physical and mechanical properties of seven nonwood plant fiber bundles. <i>J Wood Sci</i> 53:108-113 (2007)
川井秀一	2008	Munawar SS, Umemura K, Kawai S	Effects of alkali, mild steam, and chitosan treatments on the properties of pineapple, ramie, and sansevieria fiber bundles, <i>J Wood Science</i> , 54(1),23-28 (2008)
川井秀一	2008	Umemura K, Kawai S	Preparation and characterization of maillard reacted chitosan films with hemicellulose model compounds. <i>J. Appl. Polym. Sci.</i> , 108(4), 2481-2487 (2008)
川井秀一	2008	Umemura K, Yamauchi Y, Ito T, Shibata M, Kawai S	Durability of isocyanate resin adhesives for wood V. Changes of color and chemical structure in photo degradation. <i>J. Wood Science</i> , 54(4), 289-293 (2008)
川井秀一	2008	Munawar SS, Umemura K, Kawai S	Manufacture of oriented board using the mild steam treated some plant fiber bundles. <i>J. Wood Science</i> , 54(5), 369-376 (2008)
川井秀一	2008	Kojiro K, Furuta Y, Ohkoshi M, Ishimaru Y, Yokoyama M, Sugiyama J, Kawai, S, Mitsutani T, Ozaki H, Sakamoto, Imamura	Changes in micropors in dry wood with elapsed time in the environment. <i>J. Wood Science</i> , 54(6),515-519 (2008) (Note)
河野泰之	2007	Kuroda Y. Sato Y. Bounphanousay C., Kono Y. and Tanaka K.	“Genetic Structure of Three <i>Oryza</i> AA Genome Species (<i>O. rufipogon</i> , <i>O. nivara</i> and <i>O. sativa</i>) as Assessed by SSR Analysis on the Vientiane Plain of Laos. <i>Conserv Genet</i> 8, pp.

小杉泰	2007	小杉泰	「イスラーム世界における文理融合論——「宗教と科学」の関係をめぐる考察」『イスラーム世界研究』1.2, 123-147頁.
小杉泰	2008	小杉泰	「第三章コメント コメントⅡ」ワークショップ記録「パレスチナ分割決議案<再考>—60周年を機に」『イスラーム地域研究』東京大学拠点 3, 40-47頁.
小杉泰	2009	小杉泰	「イスラーム文明の形成とその固有性をめぐって」『比較文明』24 比較文明学会. 21-47頁.
小杉泰	2009	小杉泰・岡本多平・竹田敏之	“Arabic Language Textbooks in Japan and Grammatical Terms Used in them: A Survey of the Terms in a Comparative Manner and Suggestions for their Improvement”日本におけるアラビア語教科書と文法用語——教育戦略と基本用語の邦訳をめぐって——『イスラーム世
松林公蔵	2007	Ishine M, Okumiya K, Matsubayashi K	A close association between hearing impairment and activities of daily living, depression, and quality of life in community-dwelling older people in Japan. <i>J Am Geriatr Soc</i> 55:316-317
松林公蔵	2007	Roriz-Cruz M, Rosset I, Wada T, Sakagami T, Ishine M, Roriz-Filho JS, Cruz TR, Rodrigues RP, Resmini I, Sudoh S, Wakatsuki Y, Nakagawa M, Souza AC, Kita T, Matsubayashi K	Stroke-independent association between metabolic syndrome and functional dependence, depression, and low quality of life in elderly community-dwelling Brazilian people. <i>J Am Geriatr Soc</i> 55:374-382
松林公蔵	2007	Fujisawa M, Ishine M, Okumiya K, Otsuka K, Matsubayashi K	Trends in diabetes. <i>Lancet</i> 369:1257-1257
松林公蔵	2007	Okumiya K, Ishine M, Wada T, Pongvongsa T, Boupha B, Matsubayashi K	The close association between low economic status and glucose intolerance in elderly subjects in a rural area in Laos. <i>J Am Geriatr Soc</i> 55:2101-2102
松林公蔵	2007	Fujisawa M, Ishine M, Okumiya K, Nishinaga M, Doi Y, Ozawa T,	Effects of long-term exercise class on prevention of falls in community-dwelling elderly: Kahoku longitudinal aging study. <i>Gerontol Geriatr Intern</i> 7:357-362
松林公蔵	2007	Okumiya K, Fujisawa M, Ishine M, Wada T, Sakamoto R, Hirata Y, Del Saz EG, Griapon Y, Togodly A, Sanggenafa N, Rantetampang AL, Kokubo Y, Kuzuhara S,	Fieldwork survey of neurodegenerative diseases in West New-Guinea in 2001-02 and 2006-07. <i>Rinsho Shinkeigaku</i> 47(11):977-8
松林公蔵	2007	松林公蔵	「後期高齢者の地域健康管理の課題、2 国際的観点から—特にアジアの点描—」 <i>Gerontology New Horizon</i> 19:31-35
松林公蔵	2007	松林公蔵	「「フィールド医学」からみた「学誌」レビュー」『ヒマラヤ学誌』 8:3-20
松林公蔵	2007	松林公蔵	「アジア各地の高齢者たち—フィールド医学の可能性—」. 『エコソフィア』 19:52-60
松林公蔵	2007	松林公蔵	「老化のない生き物」『エコソフィア』 19:59-60
松林公蔵	2007	松林公蔵	「アジアにおける高齢化と生活習慣病—フィールド医学的視点から」『自律神経』44:264-
松林公蔵	2008	Ishine M, Okumiya K, Hirosaki M, Sakamoto R, Fujisawa M, Hotta N, Otsuka K, Nishinaga M, Doi Y, Matsubayashi K.	Prevalence of hypertension and its awareness, treatment, and satisfactory control through treatment in elderly Japanese. <i>J Am Geriatr Soc</i> . 56(2):374-5
松林公蔵	2008	Okumiya K, Ishine M, Wada T, Fujisawa M, Otsuka K, Matsubayashi K	Lifestyle changes after oral glucose tolerance test improve glucose intolerance in community-dwelling elderly people after 1 year. <i>J Am Geriatr Soc</i> . 56(4):767-9

松林公蔵	2008	Wada T, Ishine M, Ishimoto Y, Hirosaki M, Kimura Y, Kasahara Y, Okumiya K, Hishinaga M, Otuka K, Matsubayashi K	Community-dwelling elderly fallers in Japan are older, more disabled, and more depressed than non-fallers. <i>J Am Geriatr Soc</i> 56:1570-1571
松林公蔵	2008	Ishine M, Okumiya K, Kimura Y, Kasahara Y, Wada T, Yamanaka G, Hotta N, Otsuka K, Murakami S, Matsubayashi K	Subjective sleep disturbance were closely associated with comprehensive geriatric functions in doseresponsive manner in the community-dwelling elderly people in Japan. <i>J Am Geriatr Soc</i> 56:1571-1572
松林公蔵	2008	Okumiya K, Ishine M, Wada T, Fujisawa M, Pomgvongsa T, Siengsoubone L, Boupha B, Matsubayashi K	Improvement in obesity and glucose tolerance in elderly people after lifestyle exchange 1 year after an oral glucose tolerance test in a rural area in LAO People's Democratic Republic. <i>J Am Geriatr Soc</i> 56: 1582-1583
松林公蔵	2008	松林公蔵、赤松功博、和田泰三、石根晶幸、坂上悌二、奥宮清人、竹田晋也、安藤和雄、U Soe Mynt, Saw Khin Gyi, Daw Ni Ni Khin, Sr Mary Andrew	「福祉老人ホーム入居高齢者の日常生活機能、うつとQOL—ミャンマーの宗教系ホームと日本の養護老人ホームにおける比較検討—」『東南アジア研究』45(3), 480-494
松林公蔵	2008	松林公蔵	「高知県香北町研究—老年医学的総合機能評価」『日老医誌』45:166-168
松林公蔵	2008	松林公蔵	「アジアの高齢の動向と諸問題Update 2008」『日老医誌』45:573-578
松林公蔵	2008	松林公蔵	「聖山巡礼」『エコソフィア』20:64-65
松林公蔵	2008	松林公蔵	特別寄稿「老いの人類誌と生きがい—フィールド医学の現場から—」. 『生きがい研究14』(長寿社会開発センター):4-24
松林公蔵	2008	和田泰三、松林公蔵	「主要な老年症候群の診断、治療とケア—2) 転倒・歩行障害」 <i>Geriatric Medicine</i>
松林公蔵	2008	松林公蔵	「住民参加型の健康増進活動—香北町健康長寿計画10年のエビデンス」『医学のあゆみ』227(3):159-163
松林公蔵	2009	Asayama K, Ohkubo T, Yoshida S, Suzuki K, Metoki H, Harada A, Murakami Y, Ohashi Y, Ueshima H, Imai Y; Japan Arteriosclerosis Longitudinal Study (JALS) group. Collaborators (185)	Stroke risk and antihypertensive drug treatment in the general population: the Japan arteriosclerosis longitudinal study. <i>J Hypertens</i> . Feb;27(2):357-64
松林公蔵	2009	Ishimoto Y, Wada T, Hirosaki M, Kasahara Y, Kimura Y, Konno A, Nakatsuka M, Ishine M, Okumiya K, Fujisawa M, Otsuka K, Matsubayashi K	Health-related differences between participants and nonparticipants in community-based geriatric examinations. <i>J Am Geriatr Soc</i> , 57(2):360-2
松林公蔵	2009	Kimura Y, Wada T, Ishine M, Ishimoto Y, Kasahara Y, Hirosaki M, Konno A, Nakatsuka M, Sakamoto R, Okumiya K, Otsuka K, Matsubayashi K	Community-dwelling elderly with chewing difficulties are more disabled, depressed and have lower quality of life scores. <i>Geriatr Gerontol Int</i> . Mar;9(1):102-4
水野広祐	2007	水野広祐	「インドネシアにおける村落会議と村落議会—植民地期20世紀初頭における村落集会の形成と村落協議会の試み」『東南アジア研究』45巻第2号、2007年9月号、161-183ページ

水野広祐	2007	Mizuno, Kosuke	“In Search of New Direction of Development in Indonesia-Possibility of Sustainable Humanosphere Type Development in Indonesia”, in In Search of New Paradigm on Sustainable Humanosphere, Proceeding of the 1 st Kyoto University-LIPI-Southeast Asian
水野広祐	2007	Mizuno, Kosuke	“Labor Unions in Indonesia after 1998: Their Origins, Organizations, and Activities”, Proceeding of CORE University Program Seminar Thammasat University and Kyoto University, Center for Southeast Asian Studies Co-Organized by Global COE Program "In Search of Sustainable Humanosphere" Title: Private Faces of Power and Institutions in Southeast Asia (Volume 1), Date: December 6th - 7th 2007, Royal City Hotel, Bangkok,
水野広祐	2008	Siti Sugiah Mugniesyah, Kosuke Mizuno	“Women’s Land Contribution and Its Relation to Household Food Security Among Peasant Households, (Case in an Upkand Village in West Java),” in JSPS-DGHE Core University Program in Applied Biosciences Proceedings of the Final Seminar on: Toward <i>Toward Harmonization between Development and Environmental Conservation in Biological Production</i> . Feb.28-29, 2008, pp. 168-182
水野広祐	2008	水野広祐	「インドネシアにおける新たな発展の方向をもとめて—民主化・地方分権化のインドネシアにおける生存基盤持続型の発展の可能性」『東アジアの視点』第19巻2号、2008年6月号、45-
水野広祐	2008	Mizuno, Kosuke	“From Colonial Studies to Sustainable Humanosphere: Japanese Studies on Rural Southeast Asia”, <i>Asia-Pacific Forum</i> , July 2008, 40, pp.1-20
水野広祐	2008	水野広祐	「村落行政はどうか変わったか—インドネシア的村落民主主義の再生」特集—インドネシア民主化10年—その成果と課題『アジ研 ワールド・トレンド』第154号、2008年7月、22-24
水野広祐	2008	Michele Ford, Kosuke Mizuno ed.	Special Edition on "Indonesian Labor since Suharto: Perspectives from the Region" <i>Labor and Management in Development Journal</i> Vol. 9
水野広祐	2008	Michele Ford, Kosuke Mizuno	"Indonesian Labor since Suharto: Perspectives from the Region" <i>Labor and Management in Development Journal</i> , Vol. 9,
水野広祐	2008	Mizuno, Kosuke	"Strengths and weaknesses in Law No,2/2004 about Industrial Disputes Settlement", <i>Labor and Management in Development Journal</i> , Vol. 9, pp. 1-8
岡本正明	2008	岡本正明	「細分化する地域主義と中道化・均衡化する地方政治」、『アジ研ワールド・トレンド7月号』No. 154、2008年、19-21頁
岡本正明	2008	岡本正明	An Unholy Alliance: Political Thugs and Political Islam Work Together, " <i>Inside Indonesia</i> 93", August-October 2008
岡本正明	2008	Okamoto Masaaki and Abdul Hamid	Jawara in Power, 1998-2007, " <i>Indonesia</i> 86 ", October, 2008. pp.109-138.
大村善治	2007	Y. Katoh and Y. Omura	Computer simulation of chorus wave generation in the Earth’s inner magnetospher, <i>Geophysical Research Letters</i> . Vol. 34, L03102, doi:10.1029/2006GL028594, 2007.
大村善治	2007	Y. Omura, N. Furuya, D. Summers	Relativistic turning acceleration of resonant electrons by coherent whistler-mode waves in a dipole magnetic field, <i>Journal Geophysical Research</i> , Vol. 112, A06236,
大村善治	2007	Y. Katoh and Y. Omura	Relativistic particle acceleration in the process of whistler-mode chorus wave generation, <i>Geophys. Res. Lett.</i> , 34, L13102, doi:10.1029/2007GL029758, 2007.

大村善治	2007	Y. Omura	One-dimensional Electromagnetic Particle Code: KEMPO1, Advanced Methods for Space Simulations, edited by H. Usui and Y. Omura, <i>Terra Pub</i> , pp.1-21, 2007.
大村善治	2007	F. Otsuka, Y. Omura, and O. Verkhoglyadova	Energetic particle parallel diffusion in a cascading wave turbulence in the foreshock region, <i>Nonlin. Processes Geophys.</i> , Vol. 14, pp. 587-601, 2007.
大村善治	2007	C.-M. Ryua, T. Rhee, T. Umeda, P. H. Yoon, Y. Omura	Turbulent acceleration of superthermal electrons, <i>Physics of Plasmas</i> 14, 100701, 2007.
大村善治	2007	D. Summers and Y. Omura	Ultra-relativistic acceleration of electrons in planetary magnetospheres, <i>Geophys. Res. Lett.</i> , 34, L24205, doi:10.1029/2007GL032226, 2007.
大村善治	2007	K. Tsubouchi and Y. Omura	Long-term occurrence probabilities of intense geomagnetic storm events, <i>Space Weather</i> , 5, S12003, doi:10.1029/2007SW000329, 2007.
大村善治	2008	Y. Omura, Y. Katoh, and D. Summers	Theory and simulation of the generation of whistler-mode chorus, <i>Journal of Geophysical Research</i> , vol. 113, A04223, doi:10.1029/2007JA012622, 2008.
大村善治	2008	N. Furuya, Y. Omura, and D. Summers	Relativistic turning acceleration of radiation belt electrons by whistler mode chorus, <i>Journal of Geophysical Research</i> , vol. 113, A04224, doi:10.1029/2007JA012478, 2008.
大村善治	2008	Miyake, Y., H. Usui, H. Kojima, Y. Omura, and H. Matsumoto	Electromagnetic Particle-In-Cell simulation on the impedance of a dipole antenna surrounded by an ion sheath, <i>Radio Sci.</i> , 43, RS3004, doi:10.1029/2007RS003707, 2008.
大村善治	2008	M. Okada, H. Usui, Y. Omura, H. O. Ueda, T. Murata and T. Sugiyama	Spacecraft Plasma Environment Analysis via Large Scale 3D Plasma Particle Simulation, High-Performance Computing,, Lecture Notes in Computer Science (LNCS), Springer-Verlag, Volume 4759/2008 DOI 10.1007/978-3-540-77704-5, pp. 383-392, 2008.
大村善治	2008	T. Oyama, H. Yamakawa, and Y. Omura	Orbital Dynamics of Solar Sails for Geomagnetic Tail Exploration, <i>Journal of Spacecraft and Rockets</i> vol.45, no. 2, 2008.
大村善治	2008	Y. Katoh, Y. Omura, D. Summer	Rapid energization of radiation belt electrons by nonlinear wave trapping, <i>Ann. Geophys.</i> , 26, 3451-3456, 2008.
大村善治	2009	M. Hikishima, S. Yagitani, Y. Omura, and I. Nagano	Full particle simulation of whistler-mode rising 1 chorus emissions in the magnetosphere, <i>Journal of Geophysical Research</i> , 114, A01203, doi:10.1029/2008JA013625, 2009.
大村善治	2009	Y. Kasahara, Y. Miyoshi, Y. Omura, O.P. Verkhoglyadova ³ , I. Nagano, I. Kimura, and B. T. Tsurutani	Simultaneous Satellite Observations of VLF Chorus, Hot and Relativistic Electrons in a Magnetic Storm“Recovery”, Phase, <i>Geophysical Research Letters</i> , 36, L01106, doi:10.1029/2008GL036454, 2009.
島田周平	2007	島田周平	「社会的脆弱性の分析試論」(梅津千恵子編『社会・生態システムの脆弱性とレジリエンス』総合地球環境学研究所 平成18年度PR研究プロジェクト報告 pp.112-122.
島田周平	2007	島田周平	「アフリカ小農にとっての換金作物生産を考える-ザンビアにおける小農生産の事例から-」(池野旬編『東アフリカ諸国のコーヒー産地をめぐる地域経済圏に関する実証的研究』平成16-18年度科学研究補助金[基盤研究(A)]研究成果報告書 pp.175-191.
島田周平	2007	島田周平	「脆弱性の視点からアフリカ援助を考える」『学士会会報』2007-V(866号)、pp. 21-26.

島田周平	2008	島田周平	「生態システムと社会システムの非対称的関係性とレジリエンス研究」(梅津千恵子編 『社会・生態システムの脆弱性とレジリエンス』 総合地球環境学研究所 平成19年度PR研究プロジェクト報告 pp.205-211.
島田周平	2009	島田周平	「アフリカ農村社会の脆弱性分析序説」『日本地理学会 E-Journal GEO』 Vol.3(2) pp.1-16.
篠原真毅	2007	A. K. M. Baki, Naoki Shinohara, Hiroshi Matsumoto, Kozo Hashimoto, and Tomohiko Mitani	Hiroshi Matsumoto, Kozo Hashimoto, and Tomohiko Mitani, “Study of Isosceles Trapezoidal edge tapered phased array antenna for Solar Power Station/Satellite”, <i>IEICE Trans. Electron</i> , Vol. E90-B, No.4, 2007, pp.968-977
篠原真毅	2007	Hiroshi Matsumoto, Hiroki Ishida, Satoshi Nakamoto, Hiromasa Takeno, Yasuyoshi Yasaka, Shigeaki Kawai, Tomohiko Mitani, Naoki Shinohara, and Hironori	“Fundamental Study on Localized Heating in Hyperthermia Ushing Phase Control of Long-wavelength Microwave”, <i>IEEJ Trans. EIS</i> ., Vol.127, No.11, 2007, pp.1833-1838
篠原真毅	2007	川崎 春夫, 三谷 友彦, 篠原 真毅, 松本 紘	「マグネトロン温度環境による性能変化」,『電子情報通信学会論文誌C』, Vol.J90-C, No.5, 2007, pp.428-436
篠原真毅	2007	三谷 友彦, 篠原 真毅, 松本 紘, 松嶋 孝明	「パルス駆動型位相制御マグネトロンの開発」,『電子情報通信学会論文誌C』, Vol.JJ90-C, No.12, 2007, pp.873-881
篠原真毅	2008	Naoki Shinohara, Blagovest Shishkov, Hiroshi Matsumoto, Kozo Hashimoto, and A.K.M. Baki,	“New Stochastic Algorithm for Optimization of Both Side Lobes and Grating Lobes in Large Antenna Arrays for MPT”, <i>IEICE Trans. Communications</i> , Vol.E91-B,No.1, 2008, pp.286-296
篠原真毅	2008	A.K.M.Baki, Kozo Hashimoto, Naoki Shinohara, Tomohiko Mitani, and Hiroshi Matsumoto	“Isosceles-Trapezoidal-Distribution Edge Tapered Array Antenna with Unequal Element Spacing for Solar Power Satellite”, <i>IEICE Trans. Communications</i> , Vol. E91-B, No.2 , 2008, pp.527-535
篠原真毅	2008	Taro Sonobe, Jaturong Jitputti, Kan Hachiya, Tomohiko Mitani, Naoki Shinohara, and Susumu Yoshikawa	“Optical Properties of the Carbon-Modified TiO ₂ Prepared by Microwave Carbonization Process”, <i>Japanese Journal of Applied Physics (JJAP)</i> , Vol.47, pp.8456-8460, 2008
篠原真毅	2008	Hiroshi Matsumoto, Kozo Hashimoto, and Tomohiko Mitani	“Study of Isosceles Trapezoidal edge tapered phased array antenna for Solar Power Station/Satellite”, <i>IEICE Trans. Electron</i> , Vol. E90-B, No.4, 2007, pp.968-977
篠原真毅	2008	篠原 真毅, 橋本弘藏	「マイクロ波による無線電力伝送」『真空』, Vol.51, No.8, 2008, pp.513-518
篠原真毅	2008	篠原 真毅, 松本 紘	「宇宙太陽発電所SPSのための相互間注入同期法を用いたマグネトロン・フェーズドアレーの研究」,『電気学会部門誌(電力・エネルギーB分冊)』, Vol.128-B, No.9, 2008, pp.1119-
杉原薫	2007	K. Sugihara	“The Second Noel Butlin Lecture: Labour-Intensive Industrialisation in Global History”, <i>Australian Economic History Review</i> , 47-2, pp.121-54, 2007.
杉原薫	2008	K. Sugihara	“Labour-intensive Industrialisation in Global History: Some Thoughts on Southeast Asia”, in <i>Proceedings for the Core University Program Seminar Private Faces of Power and Institutions in Southeast Asia</i> , Vol.2, 2008, pp.225-83.

杉原薫	2008	K. Sugihara	“Western Europe, East Asia and the Tropics in Global Development”, 「グローバルヒストリーの構築とアジア世界」平成17-19年度科学研究費補助金研究成果報告書(研究代表者 秋田茂)、2008年3月、pp.264-81.
杉原薫	2008	杉原薫	「戦後世界システムの変容と東アジア—歴史的展望—」財務省財務総合政策研究所『「グローバル化と我が国経済の構造変化に関する研究会」報告書』、2008年7月、99—118頁。
杉原薫	2008	K. Sugihara	“East Asia, Middle East and the World Economy: The Oil Triangle under Strain”, in Y. Kawamura, H. Nakamura, S. Sato, A. Uyar and S. Ishizaka eds, <i>Proceedings of the Third Afrasian International Symposium, Resources under Stress: Sustainability of the Local Community in Asia and Africa at Afrasian Centre for Peace and Development Studies, Ryukoku University on 23-24 February 2008</i> , Afrasian Centre for Peace and Development Studies, Ryukoku University and Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University.
杉原薫	2008	杉原薫	「東アジア・中東・世界経済—オイル・トライアングルと国際経済秩序—」『イスラーム世界研究』第2巻1号、69—91頁、2008年。
杉原薫	2008	K. Sugihara	“The Humanosphere-sustainable Path of Development: A Global Historical Perspective”, in <i>In Search of Sustainable Humanosphere in Asia and Africa: Proceedings of The First International Symposium March 12-14, 2008</i> , Kyoto University Global COE Program ‘In Search of Sustainable Humanosphere in Asia and Africa’, 2008, pp.1-29.
杉原薫	2009	K. Sugihara	“Multiple Paths of Economic Development in Global History”, in <i>Proceedings of the Symposium in commemoration of the Executive Committee Meeting of the IEHA</i> , Kyoto University Global COE Program on Sustainable Humanosphere and Osaka University Grants-in-Aid for Scientific Research Project on Global History, 2009, pp.1-29.
杉原薫	2009	K. Sugihara	“Multiple Paths, Multiple Spheres, Multiple Connections”, in <i>Proceedings of the Symposium in commemoration of the Executive Committee Meeting of the IEHA</i> , Kyoto University Global COE Program on Sustainable Humanosphere and Osaka University Grants-in-Aid for Scientific Research Project on Global History, 2009, pp.311-13.
杉島敬志	2008	杉島敬志	「複ゲーム状況について：人類学のひとつの可能な方途を考える」『社会人類学年報』34, pp.1-23.
田辺明生	2007	Tanabe, A.	"Toward Vernacular Democracy: Moral Society and Post-Postcolonial Transformation in Rural Orissa, India." <i>American Ethnologist</i> 34 (3): 558-74.
田辺明生	2008	加瀬澤雅人, 田辺明生	「民族医療の知的潜在力——持続型生存基盤パラダイムのための一考察」(加瀬澤雅人との共著)『イスラーム世界研究』第1巻2号 300-313頁
田辺明生	2009	田辺明生	「一八世紀インド・オリッサ地域社会における職分権体制——王権、市場、宗教との関連におけるその近世的性格」『西南アジア研究』69号 33-58頁
田辺明生	2009	田辺明生	「構造から生成へ——南アジア社会研究の過去・現在・未来」『南アジア研究』第20号
田辺明生	2009	田辺明生	「サバルタン・スタディーズと南アジア人類学」『国立民族学博物館研究報告——特集 世界の人類学2』

田中耕司	2009	Sharma, G., Luohui Liang, E. Sharma, J. R. Subba and Koji Tanaka	“Sikkim Himalayan-Agriculture: Improving and Scaling up of the Traditionally Managed Agricultural Systems of Global Significance.” <i>Resources Science</i> Vol. 31 No.1: 21-30, 2009.
谷誠	2007	Kosugi, Y., Mitani, T., Itoh, M., Noguchi, S., Tani, M., Matsuo, N., Takanashi, S., Ohkubo, S., Abdul Rahim	Spatial and temporal variation in soil respiration in a Southeast Asian tropical rainforest. <i>Agricultural and Forest Meteorology</i> 147, 35-47, 2007.
谷誠	2007	福井祐介、小杉緑子、松尾奈緒子、高梨聡、谷誠、	「生育地、生活形態の多様な樹種における水利用様式の比較」『水文水資源学会誌』20, 265-277, 2007。
谷誠	2008	Tani, M	Analysis of runoff-storage relationships to evaluate the runoff-buffering potential of a sloping permeable domain, <i>Journal of Hydrology</i> 360, 132-146, 2008.
谷誠	2008	Tani, M., Yamamoto, S., Leclerc, M.Y., Leuning, R.	Foreword for AsiaFlux Special Issue, <i>Agricultural and Forest Meteorology</i> 148, 697-699, 2008.
谷誠	2008	Fujimoto, M., Ohte, N. and Tani, M.	Effects of hillslope topography and hydrological responses in a weathered granite mountain, Japan: comparison of the runoff response between the valley-head and the side slope. <i>Hydrological Processes</i> 22: 2581-2594, 2008.
谷誠	2008	Saigusa, N., Yamamoto, S., Hirata, R., Ohtani, Y, Ide, R., Asanuma, J., Gamo, M., Hirano, T., Kondo, H., Kosugi, Y., Li, S.G., Nakai, Y., Takagi, K., Tani, M.,	Temporal and spatial variations in the seasonal patterns of CO2 flux in boreal, temperate, and tropical forests in East Asia. <i>Agricultural and Forest Meteorology</i> 148, 700-713, 2008
谷誠	2008	Hirata, R., Saigusa, N., Yamamoto, S., Ohtani, Y., Ide, R., Asanuma, J., Gamo, M., Hirano, T., Kondo, H., Kosugi, Y., Nakai, Y., Takagi, K., Tani, M., Wang, H.	Spatial distribution of carbon balance in forest ecosystems across East Asia. <i>Agricultural and Forest Meteorology</i> 148, 761-775, 2008.
谷誠	2008	Itoh, M., N. Ohte, K. Koba, A. Sugimoto and M. Tani,	Analysis of methane production pathways in a riparian wetland of a temperate forest catchment, using $\delta^{13}C$ of porewater CH4 and CO2. <i>Journal of Geophysical Research</i> ; doi:10.1029/2007JG000647, 2008.
谷誠	2008	Kosugi, Y., Takanashi, S., Ohkubo, S., Matsuo, N., Tani, M., Mitani, T., Tsutsumi, D, Abdul Rahim, N	CO2 exchange of a tropical rainforest at Pasoh in Peninsular Malaysia. <i>Agricultural and Forest Meteorology</i> 148, 439-452, 2008.
山越言	2008	山極寿一・竹田晋也・佐藤廉也・酒井章子・山越言	「生物多様性を理解するとはどういうことか—研究とフィールドのはざままで」『エコソフィア』20: 66-79
山越言	2008	Yamamoto, S, G. Yamakoshi, T. Humle & T. Matsuzawa.	Invention and modification of a new tool use behavior: Ant-fishing in trees by a wild chimpanzee (<i>Pan troglodytes verus</i>) at Bossou, Guinea. <i>American Journal of Primatology</i>
山本衛	2007	Patra, A. K., T. Yokoyama, M. Yamamoto, T. Nakamura, T. Tsuda, and S. Fukao	Lower E region field-aligned irregularities studied using the Equatorial Atmosphere Radar and meteor radar in Indonesia, <i>J. Geophys. Res.</i> , 112 (A1), Art. No. A01301, 2007.
山本衛	2007	Liu, J. Y., C. C. Hsiao, C. H. Liu, M. Yamamoto, S. Fukao S, H. Y. Lue, F. S.	Vertical group and phase velocities of ionospheric waves derived from the MU radar, <i>Radio Sci.</i> , 42 (4), Art. No. RS4014, 2007

山本衛	2007	Otsuka, Y., F. Onoma, K. Shiokawa, T. Ogawa, M. Yamamoto, and S. Fukao	Simultaneous observations of nighttime medium-scale traveling ionospheric disturbances and E region field-aligned irregularities at midlatitude, <i>J. Geophys. Res.</i> , 112 (A6), Art. No.
山本衛	2007	Luce, H., G. Hassenpflug, M. Yamamoto, and S. Fukao	Comparisons of refractive index gradient and stability profiles measured by balloons and the MU radar at a high vertical resolution in the lower stratosphere, <i>Ann. Geophys.</i> 25 (1), 47-57,
山本衛	2007	Luce, H., G. Hassenpflug, M. Yamamoto, M. Crochet, and S. Fukao	Range-imaging observations of cumulus convection and Kelvin-Helmholtz instabilities with the MU radar, <i>Radio Sci.</i> , 42 (1), Art. No. RS1005, 2007.
山本衛	2007	Shiokawa, K., G. Lu, Y. Otsuka, T. Ogawa, M. Yamamoto, N. Nishitani, and N. Sato	Ground observation and AMIE-TIEGCM modeling of a storm-time traveling ionospheric disturbance, <i>J. Geophys. Res.</i> , 112 (A5), Art. No. A05308, 2007.
山本衛	2007	Saito, S., M. Yamamoto, H. Hashiguchi, A. Maegawa, and A. Saito	Observational evidence of coupling between quasi-periodic echoes and medium scale traveling ionospheric disturbances, <i>Ann. Geophys.</i> , 25, 2185-2194, 2007
山本衛	2008	Yokoyama, T., Y. Otsuka, T. Ogawa, M. Yamamoto, and D. L. Hysell	First three-dimensional simulation of the Perkins instability in the nighttime midlatitude ionosphere, <i>Geophys. Res. Lett.</i> , 35, Art No. L03101, doi:10.1029/2007GL032496, 2008.
山本衛	2008	A. K. Patra, T. Yokoyama, Y. Otsuka, and M. Yamamoto	Daytime 150-km echoes observed with the Equatorial Atmosphere Radar in Indonesia: First results, <i>Geophys. Res. Lett.</i> , 35, Art No. L06101, doi:10.1029/2007GL033130, 2008.
山本衛	2008	Hassenpflug, G., M. Yamamoto, H. Luce, and S. Fukao	Description and demonstration of the new Middle and Upper atmosphere Radar imaging system: 1-D, 2-D, and 3-D imaging of troposphere and stratosphere, <i>Radio Sci.</i> , 43, RS2013, doi:10.1029/2006RS003603, 2008.
山本衛	2008	Saito, S., M. Yamamoto, and H. Hashiguchi	Imaging observations of nighttime mid-latitude F-region field-aligned irregularities by the MU radar ultra-multi channel system, <i>Ann. Geophys.</i> , 26, 2345-2352, 2008.
山本衛	2008	M. K. Yamamoto, Y. Ohno, H. Horie, N. Nishi, H. Okamoto, K. Sato, H. Kumagai, M. Yamamoto, H. Hashiguchi, S. Mori, N. O. Hashiguchi, H. Nagata, S. Fukao	Observation of particle fall velocity in cirriform cloud by VHF and millimeter-wave Doppler radars, <i>J. Geophys. Res.</i> , 113, Art No. D12210, doi:10.1029/2007JD009125, 2008.
山本衛	2008	J.-S. Chen, G. Hassenpflug, and M. Yamamoto	Tilted refractive-index layers possibly caused by Kelvin Helmholtz instability and their effects on the mean vertical wind observed with multiple-receiver and multiple-frequency imaging techniques, <i>Radio Sci.</i> , 43, Art No. RS4020, doi:10.1029/2007RS003816, 2008.
山本衛	2008	Yamamoto, M.	Digital beacon receiver for ionospheric TEC measurement developed with GNU Radio, <i>Earth Planets Space</i> , 60, e21--e24, 2008.
山本衛	2008	Saito S., S. Fukao, M. Yamamoto, Y. Otsuka, T. Maruyama	Decay of 3-m-scale ionospheric irregularities associated with a plasma bubble observed with the Equatorial Atmosphere Radar, <i>J. Geophys. Res.</i> , 113, A11318,
山本衛	2008	山本衛	特集「電波科学への誘い」第5章「大気を測るレーダ」, 39-51頁, 『RFワールドNo. 4』, CQ出版, 2008年12月.
山本衛	2009	Otsuka, Y., K. Shiokawa, T. Ogawa, T. Yokoyama, and M. Yamamoto	Spatial relationship of nighttime medium-scale traveling ionospheric disturbances and F-region field-aligned irregularities observed with two spaced all-sky airglow imagers and the MU radar, <i>J. Geophys. Res.</i> , doi:10.1029/2008JA013902, in press, 2009.

山本衛	2009	Yokoyama, T., D. L. Hysell, Y. Otsuka, and M. Yamamoto	Three-dimensional simulation of the coupled Perkins and E_s -layer instabilities in the nighttime midlatitude ionosphere, <i>J. Geophys. Res.</i> , doi:10.1029/2008JA013789, in press,
柳澤雅之	2007	柳澤雅之	「生態関連特集まえがき」『ベトナムの社会と文化 第7号』ベトナム社会文化研究会編 pp.161-163. 東京: 風響社
矢野浩之	2007	S. Ifuku, M. Nogi, K. Abe, K. Handa, F. Nakatsubo, H. Yano	Surface Modification of Bacterial Cellulose Nanofibers for Property Enhancement of Optically Transparent Composites: Dependence on Acetyl-Group DS, <i>Biomacromolecules</i> , 8(6), 1973-1978(2007)
矢野浩之	2007	S. Iwamoto, A.N. Nakagaito, H. Yano	Nano-fibrillation of pulp fibers for the processing of transparent nanocomposites, <i>Applied Physics A</i> , 89, 461-466(2007)
矢野浩之	2007	Y. Shimazaki, Y. Miyazaki, Y. Takezawa, M. Nogi, K. Abe, Kentaro, S. Ifuku; H.	Excellent Thermal Conductivity of Transparent Cellulose Nanofiber / Epoxy Resin Nanocomposites, <i>Biomacromolecules</i> , 8(9), 2976-2978(2007)
矢野浩之	2007	K.Abe, S. Iwamoto, H. Yano	Obtaining Cellulose Nanofibers with a Uniform Width of 15 nm from Wood, <i>Biomacromolecules</i> , 8(10), 3276-3278(2007)
矢野浩之	2007	矢野浩之	「植物材料イノベーション-持続型社会の構築に向けて-」『グリーンプラジャーナル』、No.25, 17-21(2007)
矢野浩之	2007	矢野浩之	「楽器と木材」、『高分子』、56(8)614-618(2007)
矢野浩之	2008	A.N. Nakagaito, H. Yano	Toughness enhancement of cellulose nanocomposites by alkali treatment of the reinforcing cellulose nanofibers, <i>Cellulose</i> , Vol15(2), 323-331(2008).
矢野浩之	2008	M. Nogi and H. Yano	Transparent nanocomposites based on cellulose produced by bacteria offer potential innovation in electronics device industry, <i>Advanced Materials</i> , 20, 1849-1852 (2008)
矢野浩之	2008	S.I wamoto, K.Abe, H. Yano	The effect of hemicelluloses on wood pulp nano-fibrillation and nanofiber network characteristics, <i>Biomacromolecules</i> , 9, 1022-1026(2008).
矢野浩之	2008	Hsieh, Y.-C., H. Yano, M. Nogi and S.J. Eichhorn	An estimation of the Young's Modulus of bacterial cellulose filaments. <i>Cellulose</i> , Published online 21 February, 2008
矢野浩之	2008	A.N. Nakagaito, H. Yano	The effect of fiber content on the mechanical and thermal properties of biocomposites based on microfibrillated cellulose, <i>Cellulose</i> , in press.
矢野浩之	2008	A. Iwatake, M. Nogi, H. Yano	Cellulose nanofiber-reinforced polylactic acid, <i>Composites Science and Technology</i> , 68(9), 2103-2106(2008).
矢野浩之	2008	Md. Iftekhar Shams and Hiroyuki Yano	Development of selectively densified surface laminated wood based composites. <i>Holz als Roh- und Werkstoff</i>
矢野浩之	2008	Md. Iftekhar Shams and Hiroyuki Yano	A new method for obtaining high strength phenol formaldehyde (PF) resin impregnated wood composites at low pressing pressure. <i>Journal of Tropical Forest Science</i>
矢野浩之	2008	矢野浩之	「セルロース系ナノコンポジット」、『材料』、57(3);310-315 (2008)
矢野浩之	2008	矢野浩之	「未来を拓くバイオナノファイバー」『ケミカルエンジニアリング』、53(1), 46-51(2008)
矢野浩之	2008	矢野浩之	「セルロースナノファイバー材料」、『木材工業』、63(10),450-455(2008).
矢野浩之	2008	矢野浩之	「未来を拓くバイオナノファイバー材料」『地球環境』No.473, 66-67(2008)

矢野浩之	2008	能木雅也、矢野浩之	「バイオナノファイバーによる透明補強」『未来材料』8(10), 6-9(2008)
矢野浩之	2009	M. Nogi , S. Iwamoto, A.N. Nakagaito and H. Yano	“Optically transparent nanofiber paper”, <i>Advanced Materials</i> , in press.
矢野浩之	2009	L. Suryanegara, A.N. Nakagaito, H. Yano	”The effect of crystallization of PLA on the thermal and mechanical properties of microfibrillated cellulose-reinforced PLA composites”, <i>Composites Science and Technology</i> .
矢野浩之	2009	矢野浩之	「バイオナノファイバーの製造と利用」『科学と工業』83(3),(2009)
矢野浩之	2009	矢野浩之	「バイオナノファイバー材料の開発」『プラスチックエージ』印刷中
Abinales, Patricio N.	2007	Abinales, Patricio N.	Mindanao in the Development Fantasy of the Philippine State, Kinaadman, <i>Journal of Southern Philippines</i> , Special Issue in Honor of Fr. Miguel Bernad, Volume 29(Fall 2007).
Abinales, Patricio N.	2008	Abinales, Patricio N.	Fragments of History, Silhouettes of Resurgence: Student Radicalism in the Early Years of the Marcos Dictatorship, <i>Tonan Aijia Kenkyu</i> , Vol. 46, No. 2 (September 2008).
足立透	2007	Frey H. U., S. B. Mende, S. A. Cummer, J. Li, T. Adachi, H. Fukunishi, Y. Takahashi, A. B. Chen, R.-R. Hsu, H.-T. Su, and Y.-S.	Halos generated by negative cloud-to-ground lightning, <i>Geophysical Research Letters</i> , 34, L18801, doi:10.1029/2007GL030908, 2007.
足立透	2007	Adachi, T	Electrical coupling between troposphere and ionosphere by lightning and sprites, <i>MTI Handbook</i> , 1-A, 2007.
足立透	2008	Enell, C.-F., E. Arnone, T. Adachi, O. Chanrion, P. T. Verronen, A. Seppala, T. Neubert, T. Ulich, E. Turunen, Y. Takahashi, and R.-R. Hsu,	Parameterisation of the chemical effect of sprites in the middle atmosphere, <i>Annales Geophysicae</i> , 26, 13-27, 2008.
足立透	2008	Adachi, T., Y. Hiraki, K. Yamamoto, Y. Takahashi, H. Fukunishi, R.-R. Hsu, H.-T. Su, A. B. Chen, S. B. Mende, H. U. Frey, and L.-C. Lee,	Electric fields and electron energies in sprites and temporal evolutions of lightning charge moment, <i>Journal of Physics D: Applied Physics</i> , 41, doi:10.1088/0022- 2727/41/234010, 2008.
足立透	2008	Sato, M., Y. Takahashi, A. Yoshida, and T. Adachi,	Global distribution of intense lightning discharges and their seasonal variations, <i>Journal of Physics D: Applied Physics</i> , 41, doi:10.1088/0022-3727/41/23/234011, 2008.
足立透	2008	足立透、大矢浩代、土屋史紀、高橋幸弘	「VLF帯電波観測網による東南アジア域の雷・電離圏活動のモニタリング」、『第22回大気圏シンポジウム講演集』、4-3、2008.
足立透	2008	足立透、山本衛、橋口浩之、森修一、櫻井南海子、大矢浩代、土屋史紀、高橋幸	「赤道域における雷活動の観測—科学目標とシステムの諸元—」、『赤道大気レーダシンポジウム講演集』、2008.
青山卓史	2008	Dello Ioio, R., Nakamura, K., Moubayidin, L., Perilli, S., Taniguchi, M., Morita, M.T., Aoyama, T., Costantino, P., and Sabatini,	A genetic framework for the auxin/cytokinin control of cell division and differentiation in the root meristem. <i>Science</i> 322, 1380-1384.

青山卓史	2008	Liu, J., Zhang, Y., Qin, G., Tsuge, T., Sakaguchi, N., Luo, G., Sun, K., Shi, D., Aki, S., Zheng, N., Aoyama, T., Oka, A., Yang, W., Umeda, M., Xie, Q., Gu, H., and	Targeted degradation of ICK/KRP6 by the RING type E3 ligases RHF1a and RHF2a is essential for mitotic cell cycle progression during <i>Arabidopsis</i> gametogenesis. <i>Plant Cell</i> 20: 1538-1554.
青山卓史	2008	Li, L., Qin, G., Tsuge, T., Hou, X., Ding, M., Aoyama, T., Oka, A., Chen, Z., Gu, H., Zhao, Y., and Qu, L.-J.	SPOROXYTELESS modulates YUCCA expression to regulate the development of lateral organs in <i>Arabidopsis</i> . <i>New Phytol.</i> 179: 751-764.
青山卓史	2008	Kusano, H., Testerink, C., Vermeer, J.E.M., Tsuge, T., Shimada, H., Oka, A., Munnik, T., and Aoyama, T.	The <i>Arabidopsis</i> phosphatidylinositol phosphate 5-kinase PIP5K3 is a key regulator of root hair tip growth. <i>Plant Cell</i> 20: 367-380.
青山卓史	2008	Li, L., Hou, X., Tsuge, T., Ding, M., Aoyama, T., Oka, A., Gu, H., Zhao, Y., and	The possible action mechanisms of indole-3-acetic acid methyl ester in <i>Arabidopsis</i> . <i>Plant Cell Rep.</i> 27: 575-584.
青山卓史	2009	Aoyama, T	Phospholipid signaling in root hair development. in “ <i>Root Hairs, Excellent Tools for the Study of Plant Molecular Cell Biology</i> ” (eds., Emons, A.M.C. and Ketelaar, T. Springer, Berlin Heidelberg New York) pp171-189.
青山卓史	in press	Matsuyama, T., Satoh, M., Nakata, R., Aoyama, T., and Inoue, H.	Functional expression of miraculin, a taste-modifying protein in <i>Escherichia coli</i> . <i>J. Biochem.</i> (in press)
藤田幸一	2007	藤田幸一	「途上国の農村研究とフィールドワーク」『経済セミナー』629号、2007年8月、pp.28-31.
藤田幸一	2007	藤田幸一、岡通太郎、Ashok Kundu	「インド・シッキム州の一農村調査報告」『アジア経済』74巻3号、2008年3月、pp.30-54.
藤田幸一	2008	藤田幸一	「ミャンマー軍政はなぜ持続するのか」『エコノミスト』86巻40号、2008年7月、pp.50-53.
藤田幸一	2008	藤田幸一	「貧困問題・食料事情」『アジア研ワールド・トレンド』155号、2008年8月、pp.42-45.
藤田幸一	2008	Fujita, Koichi	”Worlds Apart: Peasants in Japan and Agricultural Laborers in Bangladesh”, Kawamura, Y., H. Nakamura, S. Sato, A. Uyar and S. Ishizaka ed., In Proceedings of the Third Afrasian International Symposium, Resources under Stress: Sustainability of the Local Community in Asia and Africa at Afrasian Centre for Peace and Development Studies, Ryukoku University on 23-24 February 2008, Afrasian Centre for Peace and Development Studies, Ryukoku University and Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, 2008, pp.67-81.
藤田素子	2009	Motoko FUJITA and Fumito KOIKE	Landscape Effects on Ecosystems: Birds as Active Vectors of Nutrient Transport to Fragmented Urban Forests Versus Forest-Dominated Landscapes. <i>Ecosystems</i> (in press)
蓮田隆志	2008	蓮田隆志、嶋尾稔、松尾信之	「村方に残る阮朝期公文」、『文献・碑文資料による近世紅河下部デルタ開拓史研究』(科研報告書、研究課題番号 17401021 研究代表者:八尾隆生)、pp.129-148、2008
Hau, Caroline	2007	Hau, Caroline	“Feilübin ‘Huaren Wenti’: Makeshuyidejieshi [‘The Chinese Question’ in the Philippines: A Marxist Interpretation],” <i>Shijie zhi Zhongguo: Yuwai Zhongguo Xingxiangyanjiu</i> [China in the World: The Study of Images of China Abroad], edited by Zhou Ning, chapter translated by Li Jingke. Nanjing: Nanjing University Press, October 2007. pp. 382-404.

Hau, Caroline	2008	Hau, Caroline	“Editor’s Introduction” (pp. 1-2), Guest Editor, special issue on “Kyoto’s Emergent Scholarship,” <i>Philippine Studies</i> vol. 56 no. 3 (September 2008).
Hau, Caroline	2008	Hau, Caroline	“Cultural Politics of Chineseness,” 『華僑華人研究』5号 (2008): 1-20. Also translated into Japanese: 「チャイニーズ像」をめぐる文化政治. 翻訳: 山本信人、宮原暁、27-47ページ
Hau, Caroline	2009	Hau, Caroline	“Blood, Land and Conversion: ‘Chinese’ Mestizonez and the Politics of Belonging in Jose Angliongto’s <i>The Sultanate</i> ,” <i>Philippine Studies</i> 57.1 (2009): 3-48.
Hau, Caroline	2009	キャロライン・ハウ、白石隆	『『アジア主義』の呪縛を超えてー東アジア共同体再考』、『中央公論』、2009年2月号、168-179
Hau, Caroline	2009	Hau, Caroline	“Blood, Land and Conversion: Mestizonez and the Politics of Belonging in Jose Angliongto’s <i>The Sultanate</i> ”, Co-editor (with Nobuhiro Aizawa), <i>Proceedings of the CSEAS-Netherlands Institute for War Documentation Joint International Workshop on “Chinese Identities and Inter-Ethnic Coexistence and Cooperation in Southeast Asia .”</i> Kyoto: Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, 2009. pp. 89-138.
星川圭介	2008	星川圭介	「航空写真に見る東北タイ稲作変化」『アジア遊学』、162-167
星川圭介	2009	Keisuke Hoshikawa, Shintaro Kobayashi	Effects of topography on the construction and efficiency of earthen weirs for rice irrigation in Northeast Thailand, <i>Paddy and Water Management</i> 7(1). 17-25
細田尚美	2008	Naomi Hosoda	Connected through “Luck”: Samaron Migrants in Metro Manila and the Home Village. <i>Philippine Studies</i> 56(3): 313-44. 2008.
石川登	2007	ISHIKAWA, Noboru	Commodities at the Interstices: Transboundary Flows of Resources in Western Borneo, pp. 146-170, <i>Asia-Pacific Forum</i> No.36 (June 2007), Taipei: Center for Asia-Pacific Area Studies, Academia Sinica.
石川登	2008	ISHIKAWA, Noboru	State-Making and transnational Process: Transboundary Flows of Resources in a Borderland of Western Borneo, pp. 117-128, <i>Transborder Environmental and Natural Resource Management</i> (Wil de Jong ed.), CIAS Discussion Paper No.4.
伊藤正子	2008	伊藤正子	『『先住民』を認めることができないベトナム』、『人権と部落問題』特集・先住民の権利宣言、No.782, 33-41頁、2009年1月
海田るみ	2008	Rumi Kaida, Takahisa Hayashi, Takako Kaneko	Purple acid phosphatase in the walls of tobacco cells, <i>Phytochemistry</i> , 69: 2546-2551 (2008)
海田るみ	2008	S Hartati, E Sudarmonowati E, YW Park YW, T Kaku, R Kaida, K Baba, T Hayashi	Overexpression of poplar cellulase accelerates growth and disturbs the closing movements of leaves in sengon, <i>Plant Physiol</i> , 147: 552-561 (2008)
海田るみ	2008	T Hayashi, R Kaida, T Kaku, K Baba	Enhancement of saccharification by overexpression of various endoglycanase in poplar, <i>GEO Giacaglia</i> ed, pp 145-149, UNINDU, Taubate, Brasil (2008)
海田るみ	2008	林 隆久、加来友美、海田るみ、馬場啓一	「植物でセルラーゼを過剰発現させる」, <i>Cellulose Communication</i> , 15, 148-152 (2008)
梶茂樹	2007	梶 茂樹	「アフリカの言語は易しいかーバンツール系トーロ語の統語構造と声調の係わりにおいて検証するー」, <i>ARENA</i> 2007, 中部大学国際人間学研究所編、pp.44-51.

梶茂樹	2007	梶 茂樹	「多様な言語の形成と言語の大分類」、『新世界地理 アフリカI』(池谷和信、佐藤廉也、武内進一編), 朝倉書店、2007年4月, pp.68-78.
梶茂樹	2007	梶 茂樹	「コンゴ・スワヒリについて、その1: 英語からの借用とフランス語からの借用」、『スワヒリ&アフリカ研究』 第18号: 64-74, 大阪外国語大学地域文化学 科スワヒリ語・アフリカ地域文化研
梶茂樹	2008	梶 茂樹	「トーロ語—私のフィールドノートから」、『月刊言語』, Vol.37(12): 88-93.
梶茂樹	2008	梶 茂樹	「適用形—動詞が担う意味役割の多様性」、『月刊言語』, Vol.37(5): 60-65.
梶茂樹	2009	梶 茂樹	Tone and syntax in Rutooro, a toneless Bantu language of Western Uganda”, <i>Language Sciences</i> Vol.31(2-3): 239-247.
神崎護	2007	Ayako SASAKI, Shinya TAKEDA, Mamoru KANZAKI, Seiichi OHTA, Pornchai PREECHAPANYA	Ayako SASAKI, Shinya TAKEDA, Mamoru KANZAKI, Seiichi OHTA, Pornchai PREECHAPANYA. 2007. Population dynamics and land-use changes in a Miang (Chewing Tea) village, Northern Thailand. <i>Tropics</i> 16(2): 75-85.
神崎護	2007	Noguchi H, Itoh A, Mizuno T, Sri-ngernyuang K, Kanzaki M, Teejuntuk S, Sungpalee W, Hara M, Ohkubo T, Sahunalu P, Dhanmanonda P, Yamakura T.	Habitat divergence in sympatric Fagaceae tree species of a tropical montane forest in northern Thailand. <i>Journal of Tropical Ecology</i> 23:549-558.
神崎護	2007	Hla Maung Thein, M. Kanzaki, M. Fukushima, Yazar Minn.	Structure and composition of a teak-bearing forest under the Myanmar selection system: impacts of logging and bamboo flowering. <i>Southeast Asian Studies</i> 45(3): 303-316.
神崎護	2007	Fukushima M., M. Kanzaki, Hla Maung Thein, Yazar Minn.	Recovery process of fallow vegetation in the traditional Karen swidden cultivation system in the Bago mountain range, Myanmar. <i>Southeast Asian Studies</i> 45(3): 317-333.
神崎護	2008	Fukushima, Maki, Mamoru Kanzaki, Masatoshi Hara, Tatsuhiro Ohkubo, Pornchai Preechapanya, Chalathon	Secondary forest succession after the cessation of swidden cultivation in the montane forest area in Northern Thailand. <i>Forest Ecology and Management</i> 255: 1994–2006
神崎護	2008	Yoko Naito, Mamoru Kanzaki, Shinya Numata, Kyoko Obayashi, Akihiro Konuma, Sen Nishimura, Seiichi Ohta, Yoshihiko Tsumura, Toshinori Okuda, Soon Leong Lee, Norwati Muhammad	Size-related flowering and fecundity in the tropical canopy tree species, <i>Shorea acuminata</i> (Dipterocarpaceae) during two consecutive general flowerings. <i>Journal of Plant Research</i> 121:33-42.
神崎護	2008	Naito, Yoko, Mamoru Kanzaki, Hiroyoshi Iwata, Kyoko Obayashi, Soon Leong Lee, Norwati Muhammad, Toshinori Okuda, Yoshihiko Tsumura	Density-dependent selfing and its effects on seed performance in a tropical canopy tree species, <i>Shorea acuminata</i> (Dipterocarpaceae). <i>Forest Ecology and Management</i> 256 (2008) 375–383.
神崎護	2008	Nishimura, Sen, Tsuyoshi Yoneda, Shinji Fujii, Erizal Mukhtar, and Mamoru	Spatial patterns and habitat associations of Fagaceae in a hill dipterocarp forest in UluGadut, West Sumatra. <i>Journal of Tropical Ecology</i> 24:535-550.
神崎護	2008	Ito, E., M. Araki, B. Tith, S. Pol, C. Trotter, M. Kanzaki, S. Ohta	Leaf-shedding phenology in lowland tropical seasonal forests of Cambodia as estimated from NOAA satellite images. <i>IEEE Transactions on Geoscience and Remote Sensing</i> 46(10):

片岡樹	2007	片岡樹	『「ラフであること」の本質？－東南アジア大陸部山地民の民族帰属認知における柔軟性をめぐって－』『文化人類学』(日本文化人類学会) 71巻4号: 437-457. (2007)
片岡樹	2007	片岡樹	「ラフの移住－暮らしのなかの近現代政治史－」『自然と文化そしてことば』(葫蘆舎) 3号: 85-95. (2007)
片岡樹	2007	片岡樹	「山地からみた中緬辺疆政治史－18-19世紀雲南西南部における山地民ラフの事例から－」『アジア・アフリカ言語文化研究』(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所) 73号: 73-99. (2007)
片岡樹	2007	片岡樹	「アジア周縁社会における移住と国家権力－華南・東南アジアにおけるラフの事例から－」『ユーラシアと日本－境界の形成と認識－』シンポジウム「ユーラシアと日本:境界の形成と認識－移動という視点－」報告書、pp.41-50. (2007)
木村大治	2007	Tashiro, Y., G. Idani, D. Kimura and L. Bongoli	"Habitat changes and decreases in the bonobo population in Wamba, Democratic Republic of the Congo" <i>African Study Monographs</i> 28-2 pp.99-106, 2007.
木村周平	2008	木村周平	「地震・建物・社会のネットワーク:イスタンブール都市改造計画についての人類的考察」『アジア・アフリカ地域研究』8巻2号、頁数未定(掲載決定)
木村周平	2008	木村周平	「トルコ地震観測への文化人類学的アプローチ」(Cultural Anthropological Approach to Seismographic Observatory in Turkey)『日本地球惑星科学連合2008年大会予稿集(CD)』
木谷公哉	2007	木谷公哉	「OpenVPNを使ったテレビ会議システム」『Software Design』, 2007年6月号: 61-66.
木谷名都子	2007	木谷名都子	「1930年代前半のイギリス帝国と日本の通商関係－日英通商交渉(1933-34年)の挫折要因をめぐる分析を通して－」『EX-ORIENTE』Vol.14、271-294頁、2007年5月
木谷名都子	2007	木谷名都子	「1930年代前半のインド棉花輸出問題に関するタークルダースの見解－タークルダース・ペーパーの紹介を通じて－」『アジア太平洋論叢』第17号、131-148頁、2007年9月
木谷名都子	2008	木谷名都子	「両大戦間期インドにおける農業繁栄と工業発展－1926年・1932年関税委員会による政策提言を通して－」『パブリック・ヒストリー』第6号、63-79頁、2009年3月
小林祥子	2008	Kobayashi, S. and Sanga-Ngoie, K.	The integrated radiometric correction of optical remote sensing imageries', <i>International Journal of Remote Sensing</i> , 29:20, 5957-5985
小林祥子	2009	Kobayashi, S. and Sanga-Ngoie, K.	A comparative study of radiometric correction methods for optical remote sensing imagery: the IRC vs. other image-based C-correction methods', <i>International Journal of Remote Sensing</i> , 30:2, 285 - 314
小松幸平	2007	Shanks J D, Wen-Shao Chang, Kohei Komatsu	Experimental study on mechanical performance of all-softwood pegged mortice and tenon connections, <i>Biosystems Engineering</i> (2008), doi:10.1016/j.biosystemseng.2008.03.012
小松幸平	2007	片岡 靖夫、北守 顕久、越智 弘幸、豊田 洋一、小松 幸平	「中国トン族の杉による伝統木造建造物の研究:第1報 貫構造による鼓楼の構造と構築システム」、『日本建築学会構造系論文集』、(622),137-144, 2007.
小松幸平	2007	中田欣作、小松幸平	「強化LVL接合板および接合ピンを用いた木質構造フレームの開発(第1報)弾性床上の梁の曲げ理論を用いて求めた強化LVL接合のせん断性能」、『木材学会誌』 53(6), 313～
小松幸平	2007	鄭 基浩、北守 顕久、小松 幸平	「スギ圧縮込み栓の回復特性による金輪継ぎ手接合部の抗クリープ性能向上」、『木材学会誌』、53(6)、306-312、2007.

小松幸平	2007	藤井雅也, 松本慎也, 村上雅英, 杉本敏和, 井上隆二, 完山利行, 小松幸平	「上載荷重が面材釘打ち大壁耐力壁の面内せん断試験の復元力特性に与える影響の考察」、『日本建築学会構造系論文集』、(619), 105-110, 2007.
小松幸平	2007	Wen-Shao Chang, Kohei Komatsu, Min-Fu Hsu and Wei-Jye Chen	On mechanical behavior of traditional timber shear wall in Taiwan II: simplified calculation and experimental verification, <i>Journal of Wood Science</i> , 53(1), 24-30, 2007
小松幸平	2007	Wen-Shao Chang, Kohei Komatsu, Min-Fu Hsu and Wei-Jye Chen	On mechanical behavior of traditional timber shear wall in Taiwan I: background and theory derivation, <i>Journal of Wood Science</i> , 53(1), 17-23, 2007.
小松幸平	2007	小松幸平	「木質ラーメン構法と接合部、特集【木質ラーメン構法で住宅をつくる】」、『建築技術』、115-120、5月号、2007.
小松幸平	2007	小松幸平	「木造ラーメン構造の魅力」、『生存圏研究』、No.3、11-17、(2007)
小松幸平	2008	Kweonhwan Hwang, Eeding Wong and Kohei Komatsu	Flexural, in-plane shear and nail shear properties of falcalaria-rubberwood laminated veneer board for flooring, <i>Holzforschung</i> , Vol.62, pp.731-736, 2008
小松幸平	2008	Ivon Hassel, Pierre Berard and Kohei Komatsu	Development of wooden blocks' shear wall -Improvement of stiffness by utilizing elements of densified wood - <i>Holzforschung</i> , 62(5), 584-590, 2008
小松幸平	2008	小松幸平、片岡靖夫、森拓郎、瀧野真二郎、鄭基浩、北守顕久、白鳥武、南宗和	「提案住宅のコンセプトと構造性能の概要 -自然素材活用型木造軸組構造の開発(その1)-」、『日本建築学会技術報告集』第14巻第28号, 447-452, 2008年10月
小松幸平	2008	Kiho Jung, Akihisa Kitamori and Kohei Komatsu	Evaluation on structural performance of compressed wood as shear dowel, <i>Holzforschung</i> , Vol. 62, pp. 461-467, 2008
小松幸平	2008	Z.W.Guan, A. Kitamori and K. Komatsu	Experimental study and finite element modelling of Japanese “Nuki” joints — Part one: Initial stress states subjected to different wedge configurations, <i>Engineering Structures</i> 30,
小松幸平	2008	Z.W. Guan, A. Kitamori and K. Komatsu	Experimental study and finite element modelling of Japanese “Nuki” joints — Part two: Racking resistance subjected to different wedge configurations, <i>Engineering Structures</i> 30,
小松幸平	2008	中谷 誠、森 拓郎、小松幸平	「ラグスクリューボルトと特殊金物を用いた木質ラーメン構造の柱—梁接合部に関する研究」、『日本建築学会構造系論文集』、第73巻、第626号、599-606、2008
小松幸平	2008	Makoto Nakatani, Takuro Mori, Kohei Komatsu	Study on the Beam-Column Joint of Timber Frame Structures using Lagscrewbolts and Special Connectors, <i>Journal of Structural and Construction Engineering</i> , Transactions of AIJ, No.626, 599-606, 2008. (in Japanese) (2008.4.30issued)
小松幸平	2008	小松幸平、瀧野真二郎、森 拓郎、伊東洋路、片岡良二	「合板釘打ち有開口耐力壁並びに垂れ壁付き門型架構の水平せん断性能に関する研究」、『構造工学論文集』、Vol.54B、119-128、2008.
小松幸平	2008	Takeshi Shiratori, Kohei Komatsu, Adrian Leijten	Modified traditional Japanese timber joint system with retrofitting abilities, <i>Structural Control and Health Monitoring</i> , Published Online: Feb 8 2008 1:18PM, DOI:
近藤史	2009	大山修一・近藤史・淡路和江・川西陽一	「ニジェール南部におけるハウサの乾燥地農耕と耕作地の土地分類」、『農耕の技術と文化』No.27, ページ未定(採録決定済)。
近藤史	2009	大山修一、山本紀夫、近藤史	「ジャガイモの栽培化—ラクダ科動物との関係から考える—」山本紀夫編『国立民族学博物館調査報告2009 ドメスティケーション—その民族生物学的研究』ページ未定(採録決定)
近藤史	2009	近藤史	「タンザニア南部における互助労働の再編と「女性の畑」の発展」『アフリカレポート』No.48、ページ未定(採録決定済み)、2009年。

甲山治	2007	甲山治, 田中賢治, 池淵周一	「現地調査に基づく衛星解析と陸面過程モデルを用いた中国史灌河流域における水利用推定」『土木学会水工学論文集』51, pp.211-216.
甲山治	2007	Kitamura, Y., Kozan, O., Sunada, K. and Oishi, S.	“Water Problems in Central Asia”, <i>Journal of Disaster Research</i> 2 (3), pp. 134-142. 2007.
甲山治	2008	甲山治	「中央アジア・キジルクム砂漠における地表面モニタリング」『土壌水分ワークショップ2008論文集』pp.56-61. 2008.
甲山治	2008	甲山治, 大石哲, 砂田憲吾, 寶馨.	「中央アジア・キジルクム砂漠における地表面フラックス観測」『京都大学防災研究所年報』第51 (B), pp.21-28. 2008.
甲山治	2008	寶馨, 甲山治, 小林健一郎, 佐原将史, 倉増銀一, 竹内出, 角谷保.	「分布型モデルによる融雪流出解析について — 地球温暖化影響評価を目指して—」『京都大学防災研究所年報』第51 (B), pp.1-10. 2008.
甲山治	2008	Zheng, N., Takara, K., Tachikawa, Y. and Kozan, O.	“Analysis of Vulnerability to Flood Hazard Based on Land Use and Population Distribution in the Huaihe River Basin, China”『京都大学防災研究所年報』第51 (B), pp.83-91. 2008.
甲山治	2009	甲山治, 大石哲, 砂田憲吾, 馬籠純	「長期水文・気象データおよび衛星データを用いたアラル海流域における水循環の解析」『土木学会水工学論文集』53, pp.31-36. 2009.
黒崎龍悟	2007	黒崎龍悟	「経済自由化後の10年とコーヒー栽培農民—タンザニア・マテンゴ高地におけるコーヒー生産と販売の現在—」『アフリカレポート』No. 45, pp15-19.
黒崎龍悟	2008	黒崎龍悟	「ローカルバーの地酒売り—タンザニア農村女性の創意工夫」『アフリカレポート』No. 46,
黒崎龍悟	2008	黒崎龍悟	「タンザニア南部における農民グループ協議会の形成をめぐる諸相:小農によるコーヒー産地の事例」『生態人類学会ニュースレター』No.13, pp12-14.
Kusumaningtyas, Retno	2008	R. Kusumaningtyas, S. Kobayashi, and S. Takeda	The impact of local community agricultural practices on livelihood security and forest degradation around the Tesso Nilo national park in Riau Province, Sumatra, Indonesia. To be published on the up coming issue of TROPICS Vol 18.
丸山淳子	2007	丸山淳子	「“開発”だけでも”伝統”だけでもなく セントラル・カラハリ・ゲーム・リザーブの住民移転を考える」『民博通信』117 pp8-9
丸山淳子	2007	丸山淳子	「踊り継がれるスイカ・ダンス」『月刊みんぱく』31(5) pp6-7
中村香子	2009	中村香子	「ケニアの主食ウガリと牧畜民」『アジア研ワールド・トレンド〜特集号:世界は何を食べているか—第三世界の主食—』161:22-23, アジア経済研究所
中村香子	印刷中	中村香子	「牧畜民サンプルの割礼をめぐる新しい選択肢」『JANESニュースレター』18, 日本ナイルエチオピア学会
中山節子	2008	Setsuko Nakayama	Navigating urban-rural waters: labor migration, affection and the remaking of Lake Malawi fishery. In: <i>Proceedings of the 3rd International Symposium of Moral Economy in Africa, Fukui, October 7-10, 2006</i> . pp.199-218. 2008.
中山節子	2008	Setsuko Nakayama	City lights emblaze village fishing grounds: the re-imaginings of waterscape by Lake Malawi fishers. <i>Journal of Southern African Studies</i> , 34(4): 803-821.2008
中山節子	2008	中山節子	「学会展望『第3回アフリカ・モラル・エコノミー国際シンポジウム:モラル・エコノミーの地域間比較—アフリカと東南アジア—』」『アジア経済』48(3): 63-72. 2007.

西真如	2007	西真如	「参加の制度とエンパワーメントの要求:エチオピアにおける葬儀講活動と社会開発」、『アフリカレポート』(アジア経済研究所)44号16-20頁、2007年
西真如	2008	西真如	「住民組織によるエンパワーメントの政治実践:エチオピアのグラゲ道路建設協会の経験」、『アフリカ研究』72号17-31頁、2008年
西真如	2008	Makoto Nishi	“Community-based Rural Development and the Politics of Redistribution: The Experience of the Gurage Road Construction Organization in Ethiopia”, <i>Nilo-Ethiopian Studies</i> , No. 12, pp.
大石高志	2007	Takashi OISHI	“Indian Muslim Merchants in Mozambique and South Africa: Intra-regional Networks in Strategic Association with State Institutions, 1870s-1930s,” in <i>Journal of the Economic and Social History of the Orient</i> , Brill, The Netherlands, Vol.50, No.2-3, 2007. pp.287-324
大石高志	2008	大石高志	「雑貨・食糧品ビジネスの探求ーインド人商人ネットワークの広域的展開」『自然と文化そしてことば』第4号(特集インド洋をめぐる人と物の移動) 胡蘆舎2008年1月 52-59ページ
大石高志	2008	大石高志	「インド人商人のネットワーク:広域秩序と雑貨食糧品ビジネス」遠藤乾編『グローバル・ガバナンスの最前線:現在と過去のあいだ』学振選書<未来を拓く人文・社会科学>東信堂 2008年3月 222-242ページ
大石高志	2008	大石高志	「歴史研究の変化と展望:分散、拡散、還流のなかの地域像をもとめて」『南アジア研究』(日本南アジア学会編)20号、2008年、190-207
佐藤靖明	2007	Sato, Yasuaki	"Livelihood and Creativity: A Cultural Implication of Indigenous Banana Cultivation in Buganda" In the Proceedings of International Joint Symposium "Re-Contextualizing Self/Other Issues: Toward a HUMANICS in Africa", JSPS, Makerere University and Center for African Area Studies, Kyoto University, pp.30-33, 2007.
島上宗子	2007	Kokki, Goto (Edited, Annotated, and with an Introduction by Motoko Shimagami)	“‘Iriai Forests Have Sustained the Livelihood and Autonomy of Villagers’: Experience of Commons in Ishimushiro Hamlet in Northeastern Japan”, Working Paper Series No.30, Afrasin Centre for Peace and Development Studies, Ryukoku University. 2007, p.1-20
清水展	2009	清水 展	「被災・すまいの変転・民族の新生:ピナトゥボ山の大噴火がもたらしたアエタ生存基盤の激変」『すまいるん』2009年冬号,pp.34-37、2009。
白石壮一郎	2007	白石壮一郎	「選挙フィーバーー社会分節の想像と創造」『アジア・アフリカ地域研究』7巻1号、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科、pp.121-127.
白石壮一郎	2007	SHIRAISHI Soichiro	Social Changes, Modernity and Communitarity among Agrarian Societies in East Africa. In <i>Proceedings of the Joint Symposium “Re-contextualizing Self/Other Issues: Toward a HUMANICS in Africa”</i> , in <i>Kampala</i> . pp. 16-20.
白石壮一郎	2008	SHIRAISHI Soichiro	“Commercialisation and Social-ties: Labour Organization and its Transition among the Sabiny in Eastern Uganda”. in I. N. Kimambo, G. Hyden, S. Maghimbi & K. Sugimura Eds. <i>Contemporary Perspectives on African Moral Economy</i> , Dar es Salaam University Press.
白石壮一郎	2008	白石壮一郎	「アフリカで人類学的研究の可能性をさぐるー国際共同シンポジウム『〈自己/他者〉に関わる諸問題の再文脈化ーアフリカにおける人間学に向けてー』」『文化人類学』72巻3号、日本文化人類学会、pp.519-523.

白石壮一郎	印刷中	白石壮一郎	「ある土地をめぐる村びとたちの審議」『グローバルCOEプログラム生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点 <i>News Letter</i> 』第3号
白石壮一郎	印刷中	白石壮一郎	「アフリカ農村社会での土地資源アクセスをめぐるローカルな実践—東アフリカ、ウガンダ東部山地農耕民サビニ社会の事例研究 (短期共同研究員報告)」『通信』123号、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
孫 曉剛	2007	孫 曉剛	「生き続ける牧畜という生業—北ケニアのラクダ牧畜民—」『地理』通巻620号 41—49頁 2007年 古今書院
孫 曉剛	2007	Sun, X.	Pastoralists' Potential and Challenge to Development: A Case Study of the Rendille in Northern Kenya, <i>ASAFAS Special Paper</i> No.10. pp. 25-38. 2007, ASAFAS, Kyoto
孫 曉剛	2009	Sun, X.	Longitudinal and Comparative Study in Search of the Continuity and Potentiality in Pastoral Subsistence of East Africa, <i>MILA: A Journal of the Institute of African Studies, Special Issue</i> , 2009. University of Nairobi.
鈴木玲治	2007	鈴木玲治、竹田晋也、フラマウンテイン	「焼畑土地利用の履歴と休閑地の植生回復状況の解析—ミャンマー・バゴ山地区におけるカレン焼畑の事例—」『東南アジア研究』45:3: 343-358.
鈴木玲治	2007	竹田晋也、鈴木玲治、フラマウンテイン	「ミャンマー・バゴ山地区におけるカレン焼畑土地利用の地図化」『東南アジア研究』45:3:
鈴木玲治	2007	Suzuki, R., Takeda, S. and Hla Maung Thein	Chronosequence changes in soil properties of teak (<i>Tectona grandis</i>) plantations in the Bago Mountains, Myanmar. <i>Journal of Tropical Forest Science</i> 19:4: 207-217.
鈴木玲治	2007	Funakawa, S., Suzuki, R., Kanaya, S., Karbozoba-Saljniov, E., and Kosaki, T.	Distribution patterns of soluble salts and gypsum in soils under large-scale irrigation agriculture in Central Asia. <i>Soil Science and Plant Nutrition</i> 53:2: 150-161.
鈴木玲治	2007	鈴木玲治、竹田晋也、フラマウンテイン	「休閑地の植生回復に与える焼畑土地利用履歴の影響—ミャンマー・バゴ山地区におけるカレン焼畑の事例—」『熱帯農業』51:別2: 31-32.
鈴木玲治	2007	竹田晋也、鈴木玲治、フラマウンテイン	「ミャンマー・バゴ山地区におけるカレン焼畑土地利用の5年間の動態」『熱帯農業』51:別2:
鈴木玲治	2007	Rosy Ne Win, Reiji Suzuki and Shinya Takeda	”Logging impacts on land cover changes in the Kabaung reserved forest, the Bago Mountains, Myanmar.” <i>Japanese Journal of Tropical Agriculture</i> 51:Ex.2:33-34.
鈴木玲治	2008	Reiji Suzuki, Shinya Takeda, Saw Kelvin Keh and Hla Maung Thein	”Impact of forest fires on the long-term change in soil properties of teak plantations in the Bago Mountains, Myanmar.” In <i>Proceedings of the international workshop, Thinning as an essential management tool of sustainable teak plantation</i> , Bangkok, pp. 38-56.
玉田芳史	2008	玉田芳史	「タイの民主化とクーデタ」『民主化過程における選挙と政党・候補者行動ならびに投票行動の国際比較研究』(南山大学地域研究センター共同研究、2006-2007年度最終成果報告
玉田芳史		TAMADA Yoshifumi	ประชาธิปไตย การทำให้เป็นประชาธิปไตย และการออกจากประชาธิปไตยของประเทศไทย (Democracy, Democratiation and De-Democratization) (タイ語)", <i>ฟ้าเดียวกัน (Fa Dio Kan)</i> , 6(4): 98-139
田中雅一	2007	田中雅一	「ラグジュアリーな女神、ラクシュミー」『DRESSSTUDY』服飾研究 2007. Autumn
田中雅一	2007	田中雅一	「米軍チャブレンの研究——構造分析と主観的視点——」『国際安全保障』35(3):95-
田中雅一	2008	田中雅一	Introduction: Perspectives on the Anthropology of the Military, In Masakazu Tanaka (ed.) <i>Armed Forces in East and South-East Asia: Studies in Anthropology and History</i> , pp.1-10,

田中雅一	2008	田中雅一	Analysis of U.S. Military Chaplains: Structural Analysis and Subjective Perspection, In Masakazu Tanaka (ed.) <i>Armed Forces in East and South-East Asia: Studies in Anthropology and History</i> , pp11-33, 2008
田中雅一	2008	田中雅一	The Indian Community in Kobe: Diasporic Identity and Network, In K. Kesavapany, A. Mani and P. Ramasamy (eds.), <i>Rising India and Communities in East Asia</i> , pp.269-284, 2008
田中雅一	2008	田中雅一	「所のうち・そと 今村仁司と共同研究の作法」『所報 人文』55:44, 2008
生方史数	2007	生方史数	「プランテーションと農家林業の狭間で:タイにおけるパルプ産業のジレンマ」『アジア研究』53(2). 60-75.
生方史数	2007	生方史数	「コモンズにおける集合行為の2つの解釈とその相互補完性」『国際開発研究』16(1). 55-67.
生方史数	2007	生方史数	「タイ農村における共有地管理制度の進化プロセスに関する研究」財務省財務総合政策研究所研究部「開発経済学研究派遣制度 研究報告書 平成18年度」77-134.
生方史数	2007	Ubukata, F. and Akarapin, T.	“Household Differences of Tree Planting Strategy and Tree Management in Northeast Thailand”. In <i>Proceedings of International Workshop on “Thinning as an Essential Management Tool of Sustainable Teak Plantation”</i> (In press).
生方史数	2007	Ubukata, F.	“Let’s Get Villagers Involved in: The Strategic Shift of Raw Material Procurement and Its Consequences in the Thai Pulp Industry”. In <i>Proceedings for the Core University Program Seminar, Private Faces of Power and Institutions in Southeast Asia</i> , Vol.1, pp.159-174.
生方史数	2007	生方史数	「共有林管理制度と保全活動:タイ・ヤソートン県K郡の事例」『第18回国際開発学会全国大会報告論文集』325-328.
生方史数	2008	Ubukata, F.	“Changing Borders of the Management Unit: an Effect of Decentralization and Formalization in Communal Forest Management, Yasothon, Thailand”. A Paper presented at the 12th Biennial Conference, International Association for the Study of Commons, University of Gloucestershire, Cheltenham, England, July 14-18, 2008. http://iasc2008.glos.ac.uk/conference%20papers/papers/U/Ubukata_128401.pdf
生方史数	2009	Ubukata, F.	“Science in Policy Making: the Eucalyptus Debate and Villagers in Thailand”. In de Jong, W. ed. <i>Forest Policies for a Sustainable Humanosphere</i> , CIAS Discussion Paper No.8, Center for Integrated Area Studies, Kyoto University, Kyoto, pp. 57-62.
梅村研二	2007	Walther T, Kartal SN, Hwang WJ, Umemura K, Kawai S	Strength durability of oriented kenaf fiberboard. <i>J. Wood Science</i> , 53(6), 481-485
梅村研二	2008	S S Munawar, K Umemura, S Kawai	Effect of alkali, mild steam and chitosan treatments on the properties of pineapple, ramie and sansevieria fiber bundles. <i>J. Wood Science</i> , 54(1), 28-35
梅村研二	2008	Kenji Umemura, Shuichi Kawai	Preparation and characterization of maillard reacted chitosan films with hemicellulose model compounds. <i>J. Appl. Polym. Sci.</i> , 2008, 108(4), 2481-2487
梅村研二	2008	Kenji Umemura, Hidefumi Yamauchi, Takeshi Ito, Masaaki Shibata, Shuichi	Durability of isocyanate resin adhesives for wood V. Changes of color and chemical structure in photo degradation. <i>J. Wood Science</i> , 2008, 54(4), 289-293

梅村研二	2008	Sasa Sofyan Munawar, Kenji Umemura, Shuichi Kawai	Manufacture of oriented board using the mild steam treated some plant fiber bundles. <i>J. Wood Science</i> , 2008, 54(5), 369-376
梅澤俊明	2007	Suzuki, S., Yamamura, M., Hattori, T., Nakatsubo, T., Umezawa, T	The subunit composition of hinokiresinol synthase controls geometrical selectivity in norlignan formation, <i>Proc. Natl. Acad. Sci. USA</i> , 104, 21008-21013 (2007)
梅澤俊明	2007	Suzuki, S., Umezawa, T.	Recent advances of tree biotechnology in <i>Acacia mangium</i> (Fabaceae) (in Japanese), <i>Seizonken Kenkyu</i> , 3, 41-42 (2007)
梅澤俊明	2007	Umezawa, T., Suzuki, S.	Chemical components of <i>Acacia mangium</i> and <i>Acacia auriculiformis</i> (in Japanese), <i>Seizonken Kenkyu</i> , 3, 43-47 (2007)
梅澤俊明	2007	Umezawa, T., Wada, S., Yamamura, M., Sakakibara, N., Nakatsubo, T., Suzuki, S., Hattori, T., Koda, M.	Protocols for lignin analysis for Forest Biomass Analytical System of RISH, Kyoto University (in Japanese) <i>Seizonken Kenkyu</i> , 3, 73-75 (2007)
梅澤俊明	2008	Nakatsubo, T., Kitamura, Y., Sakakibara, N., Mizutani, M., Hattori, T., Sakurai, N., Shibata, D., Suzuki, S., Umezawa, T.	At5g54160 gene encodes <i>Arabidopsis thaliana</i> 5-hydroxyconiferaldehyde O-methyltransferase, <i>J. Wood Sci.</i> , 54, 312-317 (2008)
梅澤俊明	2008	Nakatsubo, T., Li, L., Hattori, T., Lu, S., Sakakibara, N., Chiang, V.L., Shimada, M., Suzuki, S., Umezawa, T.	Roles of 5-Hydroxyconiferaldehyde and caffeoyl CoA O-methyltransferases in monolignol biosynthesis in <i>Carthamus tinctorius</i> , <i>Cellulose Chem. Technol.</i> , 41, 511-520 (2007) (published in 2008)
梅澤俊明	2008	Hattori, T., Okawa, K., Fujimura, M., Mizoguchi, M., Watanabe, T., Tokimatsu, T., Inui, H., Baba, K., Suzuki, S., Umezawa, T., Shimada, M.	Subcellular localization of the oxalic acid-producing enzyme, cytochrome c-dependent glyoxylate dehydrogenase in brown-rot fungus <i>Fomitopsis palustris</i> , <i>Cellulose Chem. Technol.</i> , 41, 545-553 (2007) (published in 2008)
梅澤俊明	2008	Nakatsubo, T., Mizutani, M., Suzuki, S., Hattori, T., Umezawa, T.	Characterization of <i>Arabidopsis thaliana</i> Pinorensinol Reductase, a new type of enzyme involved in lignan biosynthesis, <i>J. Biol. Chem.</i> , 283, 15550-15557 (2008)
梅澤俊明	2008	Suzuki, S., Suzuki, Y., Yamamoto, N., Hattori, T., Sakamoto, M., Umezawa, T.	High-throughput determination of thioglycolic acid lignin from rice, <i>Plant Biotechnology</i> , in press (2009)
梅澤俊明	2008	Umezawa, T., Suzuki, S., Shibata, D.	Tree biotechnology of tropical <i>Acacia</i> , <i>Plant Biotechnology</i> , 25, 309-313 (2008)
梅澤俊明	2008	Umezawa, T., Suzuki, S.	Metabolic engineering of lignin biosynthesis (in Japanese), <i>Bioindustry</i> , 25, 50-60 (2008)
梅澤俊明	2008	Suzuki, S., Yamamura, M., Umezawa, T.	Hinokiresinol synthase (in Japanese), <i>Kagaku to Seibutsu</i> , 46, 592-594 (2008)
和田泰三	2007	奥宮清人, 藤澤道子, 石根昌幸, 和田泰三, 坂本龍太, 平田温, Del SazEva G, GriaponYosefina, TogodlyArius, SanggenafaNaffi, RantetampangA.L, 小久保康昌, 葛原茂樹, 松林公蔵.	「西太平洋地域の筋萎縮性側索硬化症/パーキンソン痴呆複合(ALS/PDC)と関連神経変性疾患 西ニューギニア地域(インドネシア・パプア州)の神経変性疾患の実態 2001-02年、2006-07年のフィールドワークより」.『臨床神経学』47: 977-978.
和田泰三	2008	Ishine M, Okumiya K, Kimura Y, Kasahara Y, Wada T, Yamanaka G, Hotta N, Otsuka K, Murakami S, Matsubayashi K.	Subjective sleep disturbances were closely associated with comprehensive geriatric functions in dose-responsive manner in the community-dwelling elderly people in Japan. <i>J Am Geriatr Soc</i> ; 56: 1571-3.

和田泰三	2008	Okumiya K, Ishine M, Wada T, Fujisawa M, Otsuka K, Matsubayashi K.	Lifestyle changes after oral glucose tolerance test improve glucose intolerance in community-dwelling elderly people after 1 year. <i>J Am Geriatr Soc</i> ; 56: 767-9.
和田泰三	2008	Okumiya K, Ishine M, Wada T, Fujisawa M, Pongvongsa T, Siengsounthone L, Xyavong X, Boupha B, Matsubayashi K.	Improvement in obesity and glucose tolerance in elderly people after lifestyle changes 1 year after an oral glucose tolerance test in a rural area in Lao People's Democratic Republic. <i>J Am Geriatr Soc</i> ; 56: 1582-3.
和田泰三	2008	Wada T, Ishine M, Ishimoto Y, Hirosaki M, Kimura Y, Kasahara Y, Okumiya K, Nishinaga M, Otsuka K, Matsubayashi K.	Community-dwelling elderly fallers in Japan are older, more disabled, and more depressed than nonfallers. <i>J Am Geriatr Soc</i> ; 56: 1570-1.
和田泰三	2008	和田泰三, 石根昌幸, 石本恭子, 木村友美, 奥宮清人, 山中学, 村上省吾, 矢野昭起, 大塚邦明, 松林公蔵.	地域在住高齢者の転倒歴・転倒スコアとうつ傾向との関連.『日本老年医学会雑誌』45: 62.
和田泰三	2008	和田泰三, 松林公蔵.	「【後期高齢者に活かす老年症候群の診断・治療・ケア】主要な老年症候群の診断、治療とケア 転倒・歩行障害」. <i>Geriatric Medicine</i> ; 46: 731-734.
和田泰三	2009	Ishimoto Y, Wada T, Hirosaki M, Kasahara Y, Kimura Y, Konno A, Nakatsuka M, Ishine M, Okumiya K, Fujisawa M, Otsuka K, Matsubayashi K.	Health-related differences between participants and nonparticipants in community-based geriatric examinations. <i>J Am Geriatr Soc</i> ; 57: 360-2.
和田泰三	2009	Ishimoto Y, Wada T, Hirosaki M, Kasahara Y, Kimura Y, Konno A, Nakatsuka M, Sakamoto R, Ishine M, Okumiya K, Fujisawa M, Otsuka K, Matsubayashi K.	Fall Risk Significantly Influenced by Age and Gender in Community-Dwelling Elderly in Japan. <i>J Am Geriatr Soc</i> : in press.
和田泰三	2009	Kimura Y, Wada T, Ishine M, Ishimoto Y, Kasahara Y, Hirosaki M, Konno A, Nakatsuka M, Sakamoto R, Okumiya K, Otsuka K, Matsubayashi K.	Community-dwelling elderly with chewing difficulties are more disabled, depressed and have lower quality of life scores. <i>Geriatr Gerontol Int</i> ; 9: 102-4.
和田泰三	2009	Hirosaki M, Ishimoto Y, Kasahara Y, Kimura Y, Konno A, Sakamoto R, Nakatsuka M, Ishine M, Wada T, Okumiya K, Otsuka K, Fujisawa M, Matsubayashi K.	Community-Dwelling Elderly with Hobbies are Healthier than Elderly Lacking Hobbies in Japan. <i>J Am Geriatr Soc</i> : in press.
和田泰三	2009	Kimura Y, Wada T, Ishine M, Ishimoto Y, Kasahara Y, Konno A, Nakatsuka M, Sakamoto R, Okumiya K, Fujisawa M, Otsuka K, Matsubayashi K.	Food Diversity is Closely Associated with ADL, Depression and QOL in Community-Dwelling Elderly. <i>J Am Geriatr Soc</i> : in press.
渡辺一生	2007	渡辺一生, 星川和俊, 宮川修一	「タイ国東北部・ドンデーン村の過去70年間における天水田域拡大過程」, 『農業農村工学会論文集』75(5), 31-37, (2007).

渡辺一生	2008	渡辺一生, 星川和俊, 宮川修一	「タイ国東北部・ドンデーン村における天水田の区画改変とその水稻生産への影響」, 『農業農村工学学会論文集』76(1), 45-52, (2008).
渡辺一生	2008	足達慶尚, 渡辺一生, 小野映介, 小手川隆志, 宮川修一,	「ラオス平野部の丘陵上の天水田における地形条件と収量との関係」, 『熱帯農業研究』1, (Extra Issue 1), 9-10, (2008).
渡辺一生	印刷中	渡辺一生, 河野泰之, 舟橋和夫, 宮川修一, 星川和俊,	「統合的村落研究に基づく時空間データベースの構築—タイ国東北部・ドンデーン村における水稻生産及び世帯調査を中心として—」, 『熱帯農業研究』(印刷中)
渡辺隆司	2007	Ohashi, Y., Y. Kan, T. Watanabe, Y. Honda and T. Watanabe	Redox silencing of the Fenton reaction system by an alkylitaconic acid, ceriporic acid B produced by a selective lignin-degrading fungus, <i>Ceriporiopsis subvermispora</i> . <i>Org. Biomol. Chem.</i> , 5, 840-847 (2007).
渡辺隆司	2007	Kohzu, A., T. Miyajima, T. Tateishi, T. Watanabe, M. Takahashi, E. Wada	Dynamics of ¹⁵ N natural abundance in wood decomposing fungi and their ecophysiological implications, <i>Isotopes in Environmental and Health Studies</i> . 43, 83-94 (2007).
渡辺隆司	2007	Sakai, S., Y. Tsuchida, H. Nakamoto, S. Okino, O. Ichihashi, H. Kawaguchi, T. Watanabe, M. Inui and H. Yukawa	Effect of Lignocellulose-Derived Inhibitors on Growth of and Ethanol Production by Growth-Arrested <i>Corynebacterium glutamicum</i> R [▽] . <i>Appl. Environ. Microbiol.</i> 73, 2349-2353 (2007).
渡辺隆司	2007	渡辺隆司	「選択的的白色腐朽菌によるバイオマス変換と脂質関連ラジカル制御因子」『木材保存』33、102-116 (2007).
渡辺隆司	2007	渡辺隆司	「バイオリファイナリーの最近の展開と白色腐朽菌によるリグノセルロースの前処理」『木材学会誌』53、1-13 (2007).
渡辺隆司	2007	渡邊崇人、渡辺隆司	「熱帯バイオマス資源のバイオリファイナリー」, 『生存圏研究』3、65-71 (2007).
渡辺隆司	2007	Fackler, K., C. Gradinger, M. Schmutzer, C. Tavzes, I. Burgert, M. Schwanninger, B. Hinterstoisser, T. Watanabe and K.	Biotechnological wood modification with selective white-rot fungi and its molecular mechanisms. <i>Food Technol. Biotechnol.</i> , 45, 269-276 (2007).
渡辺隆司	2008	Nishimura, H., S. Tsuda, H. Shimizu, Y. Ohashi, T. Watanabe, Y. Honda and T. Watanabe	<i>De novo</i> synthesis of (Z)- and (E)-7-hexadecenylitaconic acids by a selective lignin-degrading fungus, <i>Ceriporiopsis subvermispora</i> , <i>Phytochem.</i> , 69, 2593-2602 (2008).
渡辺隆司	2008	Tsukahara, T., Y. Honda, R. Sakai, T. Watanabe and T. Watanabe	Mechanism for oxidation of high-molecular-weight substrates by a fungal versatile peroxidase, MnP2. <i>Appl. Environ. Microbiol.</i> , 74, 2873-2881 (2008).
渡辺隆司	2008	渡辺隆司	「白色腐朽菌によるバイオマス変換」『菌学レビュー』17、3-18 (2008).
米澤剛	2007	米澤剛・柴山守	「GISを用いたベトナム・ハノイの都市形成」 <i>IPSJ Symposium Series</i> 、Vol.2007、No.15、139-146、2007.
米澤剛	2007	Yonezawa G., Shibayama M., Yoshida D.	Spatiotemporal Mapping for Urban Transfiguration in Hanoi City, Vietnam, Raghavan V., <i>International Journal of Geoinformatics</i> 、Vol. 3、No.4、27-34、2007.
米澤剛	2008	柴山守、河野泰之、米澤剛、中北英一、浜口俊雄	「地下構造と自然・社会・人間生態を結合する地域情報学の展開—東南アジアの都市地域を対象にして—」, 『生存基盤科学研究ユニット平成19年度研究成果報告書』、81-84、
米澤剛	2008	Shibayama M., Yonezawa G., Luan T.	Hanoi Urban Transformation - An Area Informatics Approach -, Proceedings of the GIS-IDEAS 2008, 397-402, 2008.

米澤剛	2008	Shibayama M., Yonezawa G., Sakurai Y., Luan T.	Hanoi 4D Analysis in 19th and 20th Centuries: Urbanized City, Water Area, and Villages, Proceedings of the third International Conference on Vietnamese Studies 2008 CD-Rom, 1-16, 2008.
米澤剛	2008	田中賢治、小尻利治、宝馨、中北英一、林泰一、河野泰之、米澤剛、田村正行、渡辺紹裕、甲山治	「衛星解析によるアジア域の農地データセットの作成および水資源管理支援」『生存基盤科学研究ユニット平成19年度研究成果報告書』、59-66、2008.
米澤剛	2008	米澤剛	「ハノイの三次元都市モデルの構築に向けて」『アジア遊学113』勉誠出版、168-174、2008.
米澤剛	2008	米澤剛	「最初の一步はグーグルアースから」『アジア遊学113』勉誠出版、204-205、2008.
米澤剛	2008	米澤剛、野々垣進、柴山守、ベンカテッシュ・ラガワン、升本眞二	「ベトナム・ハノイの都市変容と地形変化」『情報地質』19(2)、112-113、2008.
米澤剛	2008	Yonezawa G., Shibayama M., Luan T.	3D Topographical Analysis in Hanoi, Proceedings of the third International Conference on Vietnamese Studies 2008 CD-Rom, 1-8, 2008.
米澤剛	2008	Yonezawa G., Shibayama M., Nonogaki S., Masumoto S., Venkatesh R., Luan T.	Hanoi Urban Transformation in the 19-21 Centuries - Topographic Changes and 3-D Modeling -, Proceedings of the GIS-IDEAS 2008, 409-414, 2008.
吉村剛	2007	吉村剛、服部武文、竹松葉子	「熱帯大規模一斉植林における生物多様性の確保」『生存圏研究』No.3、35-37 (2007)
吉村剛	2009	Yoko Takematsu, Tsuyoshi Yoshimura, Sulaeman Yusuf, Wakako Ohmura and Yoshiyuki Yanase	Temporal change in the species richness of termites on Acacia Hybrid plantation, Proc. 6th Conf. Pacific Rim Termite Res. Group, Kyoto, March 2-3, 31-34 (2009).

(2) 著書				
メンバー	発行年	著者		タイトル
速水洋子	2009	速水洋子	book	『差異とつながりの民族誌:北タイ山地カレン社会の民族とジェンダー』世界思想社2009年2月
速水洋子	2007	速水洋子	chapter	「他者化するまなざしの交錯の中で—タイ—」『ジェンダー人類学を読む』宇田川妙子・中谷文美(編). 47-73頁. 世界思想社 2007年4月
速水洋子	2008	速水洋子	chapter	「カレン州パアンにおける仏教徒ポー・カレンの宗教実践」林行夫編『<境域>の実践宗教—大陸部東南アジア地域と宗教のトポロジー—』京都大学学術出版会 2009年2月
林 隆久	2008	林 隆久(編)	book(ed)	『森をとりもどすために』海青社、大津、滋賀 2008年
籠谷直人	2007	籠谷直人	chapter	「帝国経済の対立と宥和—日印会商をめぐる日英印の三国関係」石田憲編『膨張する帝国、拡張する帝国』東京大学出版会、55-79頁、2007年
籠谷直人	2008	籠谷直人	chapter	「東アジアにおける自由貿易の浸透」遠藤乾編『グローバル・ガバナンスの最前線』(日本学術振興会JSPS人文社会科学振興プロジェクト研究事業成果報告書) 東信堂、145-161頁、2008年
河野泰之	2007	河野泰之	chapter	「モンスーン林」, 秋道智彌編『図録メコンの世界—歴史と生態—』, pp.16-17, 東京:弘文堂.
河野泰之	2007	河野泰之	chapter	「東南アジアの生態史」, 秋道智彌編『図録メコンの世界—歴史と生態—』, pp.144-145, 東京:弘
河野泰之	2008	河野泰之、落合雪野、横山智	chapter	「ラオスをとらえる視点」, 横山智・落合雪野編『ラオス農山村地域研究』, pp. 13-44, 東京:めこ
河野泰之	2008	河野泰之、藤田幸一	chapter	「商品作物の導入と農山村の変容」, 横山智・落合雪野編『ラオス農山村地域研究』, pp. 395-429, 東京:めこん.
河野泰之	2008	河野泰之	chapter	「動かない森、変転する森—ラオスの森林の100年誌—」, 秋道智彌・市川昌広編『東南アジアの森に何が起きているか—熱帯雨林とモンスーン林からの報告』, pp. 23-44, 京都:人文書院
河野泰之	2008	秋道智彌(監修)、河野泰之(責任編集)	book(ed)	『論集モンスーンアジアの生態史 第1巻 生業の生態史』、東京:弘文堂、227 p.
河野泰之	2008	広田勲、中西麻美、縄田栄治、河野泰之	chapter	「東南アジア大陸部の焼畑と村落の変容」, 秋道智彌(監修), C. ダニエルス(責任編集)『論集モンスーンアジアの生態史 第2巻 地域の生態史』, pp. 165-180, 東京:弘文堂.
河野泰之	2008	富田晋介、河野泰之、小手川隆志、ベムリ・ムタヤ・チョーダ	chapter	「東南アジア大陸山地部の土地利用の技術と秩序の形成」, 秋道智彌(監修), C. ダニエルス(責任編集)『論集モンスーンアジアの生態史 第2巻 地域の生態史』, pp. 181-202, 東京:弘文堂.
河野泰之	2008	河野泰之	chapter	「熱帯林を保全するメカニズム」, 林隆久編『森を取り戻すために』, pp. 454-64, 青雲社
小杉泰	2007	小杉泰	chapter	「第5回“西洋”の衝撃とイスラーム改革」連載:「イスラームはどう変わってきたか?ムハンマドからホメイニまで」『世界史のしおり』帝国書院. 4-6頁.
小杉泰	2008	小杉泰	chapter	「第6回 第3次中東戦争後のイスラーム復興」連載:「イスラームはどう変わってきたか?ムハンマドからホメイニまで」『世界史のしおり』帝国書院. 4-6頁.
小杉泰	2008	小杉 泰・林佳代子・東長靖(編)	book(ed)	『イスラーム世界研究マニュアル』. 名古屋大学出版会. 566頁.
小杉泰	2008	小杉泰	chapter	「イスラーム原理主義」『世界史の研究』No.611 山川出版社, 40-43頁.
小杉泰	2009	小杉泰	chapter	「国際政治の中のイスラームと宗教」日本国際政治学会編『日本の国際政治学』有斐閣, 137-156
松林公蔵	2008	松林公蔵	chapter	「地域在住高齢者の転倒予防に関するCGAの活用」. 『老年医学Update 2008-09』(日本老年医学会雑誌編集委員会編)、Medical View社、pp 2-9
松林公蔵	2008	松林公蔵	chapter	「精神心理機能評価」. 『改訂第3版 老年医学テキスト』(日本老年医学会編)、pp 219-223.

松林公蔵	2008	松林公蔵	chapter	「第11章 日本、アジア、世界の高齢化の現状と今後」. 『老年医学の基礎と臨床』(大内尉義編)、ワールドプランニング社、453-459
岡本正明	2008	Okamoto, M.	chapter	Populism under Decentralization in post-Suharto Indonesia. In Mizuno Kosuke and Pasuk Pongpaichit (eds.), <i>Populism in Asia</i> (forthcoming)
岡本正明	近刊	岡本正明	chapter	「インドネシアにおける市民社会の可能性」、田坂敏雄編著『東アジア市民社会の展望』お茶の水書房(近刊)
島田周平	2007	島田周平	book	『アフリカ 可能性を生きる農民』 京都大学学術出版会 270p.
島田周平	2007	島田周平	book	『現代アフリカ農村-変化を読む地域研究の試み-』 古今書院 182p.
島田周平	2007	島田周平	chapter	「アフリカ農村の日常的環境問題」(池谷和信、武内進一、佐藤廉也共編 『朝倉世界地理講座12:アフリカII』 朝倉書店) pp.28-38
島田周平	2008	島田周平	chapter	「ナイジェリアの政治を地域問題からみる—新しい地域紛争の理解のために—」(池谷和信、武内進一、佐藤廉也共編 『朝倉世界地理講座12:アフリカII』 朝倉書店 885p.) pp.761-769
篠原真毅	2008	篠原真毅	chapter	「第6章 有機薄膜太陽電池の実用化とその市場動向 4. 宇宙太陽光発電と関連技術」『有機薄膜太陽電池の最新技術II』(監修: 上原赫, 吉川暹), シーエムシー出版, 2009, pp.304-311
杉原 薫	2007	杉原薫	chapter	「東アジアの経済発展と労働・生活の質—歴史的展望—」社会政策学会編『経済発展と社会政策 東アジアにおける差異と共通性』(社会政策学会誌18号)、法律文化社、3-18頁、2007年。
杉原 薫	2007	杉原薫	chapter	「J.S.ミル 『自由論』」、日本経済新聞社編『経済学 名著と現代』、日本経済新聞出版社、139-153頁、2007年。
杉島敬志	2007	杉島敬志	chapter	「中部フローレスにおける資源への関係行為」松井健編『資源人類学 第6巻 自然の資源化』弘文堂、251-283頁
杉島敬志	2007	杉島敬志、中村潔(編)	book(ed)	『現代インドネシアの地方社会:マイクロロジーのアプローチ』東京:NTT
田辺明生	2007	Tanabe, A.	chapter	"Understanding Ethical Basis of Local Democracy: Towards Post-Postcolonial Transformation in Rural Orissa, India." In <i>Political and Social Transformations in North India and Nepal</i> , edited by Hiroshi Ishii, David Gellner and Katsuro Nawa, 131-65. New Delhi: Manohar.
田辺明生	2008	田辺明生	chapter	「民主主義——ばらばらで一緒に生きるために」春日直樹編 『人類学で世界をみる—医療・生活・政治・経済』ミネルヴァ書房 205-226頁
田中耕司	2007	Tanaka, K., S. Yokoyama, and K. Phalakhone	chapter	“Land allocation programme and stabilization of swidden agriculture in the northern mountain region of Laos.”In Saxena, K.G et al. (eds.) <i>Shifting Agriculture in Asia: Implications for Environmental Conservation and Sustainable Livelihood</i> , Bishen Singh Mahendra Pal Singh, Dehra Dun, pp. 407-420, 2007.
谷誠	2008	谷誠	chapter	「水の循環における森林の役割」太田誠一編『森林の再発見』、133-183、京大出版
水野広祐	近刊	Mizuno Kosuke and Pasuk Pongpaichit (eds.)	book(ed)	<i>Populism in Asia</i> (forthcoming)
脇村孝平	2008	脇村孝平	chapter	「国際保健の誕生—19世紀におけるコレラ・パンデミックと検疫問題」遠藤乾編 『グローバル・ガバナンスの最前線—現在と過去のあいだ』東信堂、2008年、180-200頁。

山越言	in press	Yamakoshi G.	chapter	The early history of Bossou chimpanzees before 1976: Implications for current research and conservation. In (T. Matsuzawa & Y. Sugiyama eds.) <i>The Chimpanzees of Bossou and Nimba: A Cultural Primatology</i> . Springer-Verlag Tokyo, Tokyo.
山本衛	2008	山本衛	chapter	「セッション1赤道大気レーダーを使って大気波動を診る」『地球環境の心臓 赤道大気の鼓動を聴く』, 32-45頁, 深尾昌一郎編集, クバプロ, ISBN978-4-87805-098-5, 2008年2月.
柳澤雅之	2008	桃木至郎(代表編集)、小川英文、クリスチャン・ダニエルス、深見純生、福岡まどか、見市健、柳澤雅之、吉村真子、渡辺佳成(編)、(石井米雄、高谷好一、立本成文、土屋健治、池端雪浦、監修)	chapter	『新版 東南アジアを知る事典』平凡社
矢野浩之	2007	矢野浩之	chapter	「セルロース系ナノコンポジット」、『バイオベースマテリアルの新展開』、木村良晴、小原仁実監修、シーエムシー出版、東京、pp.63-70 (2007).
矢野浩之	2007	矢野浩之	chapter	「木材と住環境 音」、『木質の物理』、則元京監修、文永堂出版、東京、pp.245-256 (2007)
矢野浩之	2008	矢野浩之	chapter	「セルロースナノファイバー複合材料」、『セルロース利用技術の最先端』、磯貝明監修、シーエムシー出版、東京、pp.258-266 (2008).
Abinales, Patricio N.	2008	Abinales, Patricio N.	book	<i>Joys of Dislocation: Essays on Mindanao, Region, Nation</i> (Manila. Anvil Publishing, 2008).
Abinales, Patricio N.	2008	Abinales, Patricio N. with Nathan Gilbert Quimpo	book	<i>The US War on Terror and Mindanao</i> (Pasig City, Metromanila: Anvil Publishing Inc., 2008).
足立明	2008	足立明	chapter	「人とモノのネットワークーモノを取りもどすこと」田中雅一編『フェティシズム論の系譜と展望』、京都大学学術出版会、175-193頁、2009年
藤田幸一	2007	藤田幸一	chapter	「ミャンマーの「貧困」問題ー食料政策との関連を中心にー」工藤年博編『ミャンマー経済の実像ーなぜ軍政は生き残れたかー』アジア経済研究所所収、2008年3月、pp.117-145.
藤田幸一	2007	藤田幸一、河野泰之	chapter	「商品作物の導入と農山村の変容」横山 智, 落合 雪野編『ラオス農山村地域研究』、めこん、所収、2008年3月、pp.395-429.
藤田幸一	2008	Fujita, Koichi	chapter	"Rural Economy in Myanmar at the Crossroads: With Special Reference to Rice Policies" In S. Abe and N. Bhanupong eds, <i>East Asian Economies and New Regionalism</i> , Kyoto University Press and Trans Pacific Press, 2008, pp.160-192.
藤田幸一	2008	藤田幸一	chapter	「南アジアの農村社会構造と農業集約化ー「東アジア小農社会」との対比でー」竹中千春・高橋伸夫・山本信人編『現代アジア研究2 市民社会』慶應義塾大学出版会、2008年12月、pp.109-131.
藤田幸一	2008	Fujita, Koichi, F. Mieno and I. Okamoto	book	<i>Economic Transition in Myanmar after 1988: Market versus Control</i> , Kyoto University Press and NUS Press, March 2009.
蓮田隆志	2008	桃木至朗、山内晋次、藤田加代子、蓮田隆志	chapter	「総説:海城アジア史のポテンシャル」、『海城アジア史研究入門』(桃木至朗(編)、岩波書店)、pp.1-12、2008

蓮田隆志	2008	蓮田隆志	chapter	「東南アジアの「プロト国民国家」形成」、『海域アジア史研究入門』(桃木至朗(編)、岩波書店)、pp.141-148、2008
Hau, Caroline	2007	Hau, Caroline	chapter	“Introduction,” <i>Lagalag sa Nanyang ni Bai Ren</i> [Bai Ren’s Adrift in the Southern Ocean], translated by Joaquin Sy. Quezon City: University of the Philippines Press, July 2007. vii-xxvi.*
Hau, Caroline	2008	Hau, Caroline	chapter	“The Filipino Novel in English,” <i>Philippine English: Linguistic and Literary Perspectives</i> , edited by Ma. Lourdes S. Bautista and Kingsley Bolton. Hong Kong: Hong Kong University Press, 2008.
石川登	under review	ISHIKAWA, Noboru (ed.).	book(ed.)	<i>Flows and Movements in Southeast Asia: New Approaches to Transnationalism</i> , Kyoto University Academic Press (contracted), National University of Singapore Press (under review).
石川登	2009	ISHIKAWA, Noboru.	book	<i>Between Frontiers: Nation and Identity in a Southeast Asian Borderland</i> , Singapore/Copenhagen: National University of Singapore/NIAS Press (in press).
石川登	2008	石川登	book	『境界の社会史 --- 国家が所有を宣言するとき』京都大学学術出版会.
石川登	2007	石川登	chapter	「マイクロ・トランスナショナリズム:ボルネオ島西部国境の村落社会誌」『現代インドネシアの地方社会:ミクロロジーのアプローチ』杉島敬志;中村潔(編), pp.214-232. 東京:NTT
伊藤正子	2008	伊藤正子	book	『民族という政治ーベトナム民族分類の歴史と現在ー』三元社、2008年
片岡樹	2008	チャレ著・片岡樹編訳	book (trans.)	『ラフ族の昔話ービルマ山地少数民族の神話・伝説ー』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 (2008)
片岡樹	2008	チャレ著・片岡樹編訳	book (trans.)	『ラフ族の昔話ービルマ山地少数民族の神話・伝説ー』雄山閣 (2008)
梶茂樹	2007	Kaji, Shigeki	book	<i>A Rutooro Vocabulary</i> , 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
梶茂樹	2007	梶茂樹	chapter	「トーロ語の地名」、『生きる場の人類学ー土地と自然の認識・実践・表象過程』(河合香史編), 京都大学学術出版会, pp.185-194.
神崎護	2007	神崎護	chapter	「森林の多様性と動態を読み解く」太田誠一編『森林の再発見』, pp.259ー284. 京都大学出版会.
風戸真理	2009	風戸真理	book	『現代モンゴル遊牧民の民族誌』2009年、世界思想社
木谷名都子	2007	籠谷直人・木谷名都子	chapter	「帝国経済の対立と宥和ー日印会商(1933-34年)をめぐる日英印の三国関係」、石田憲編著『膨張する帝国 拡散する帝国ー第二次大戦に向かう日英とアジアー』第二章、東京大学出版会、55-79頁、2007年4月
甲山治	2007	Toderich, K., Black, C. C., Juylova, E., Kozan, O. Mukimov, T. and Matsuo,	chapter	N. C3/C4 plants in the vegetation of Central Asia, geographical distribution and environmental adaptation in relation to climate, <i>Climate Change and Terrestrial Carbon Sequestration in Central Asia</i> , pp. 33-64, London: Taylor & Francis Ltd.
甲山治	2008	Toderich, K., Ismail, S., Juylova, A. E., Gismatullina, G. L., Kozan, O. and	chapter	New approaches for biosaline agriculture development, management and conservation of sandy desert ecosystems, <i>Biosaline Agriculture and High Salinity Tolerance</i> , pp. 247-264, Basel: Birkhäuser ; London : Springer [distributor].
黒崎龍悟	2008	黒崎龍悟	chapter	「日常生活を手伝うータンザニアでの農村開発をめぐる出来事からー」『アクション別フィールドワーク入門』武田丈・亀井伸孝編, pp. 188-199. 世界思想社.
丸山淳子	印刷中	丸山淳子	chapter	「開発政策によるサンの集住化と脱狩猟採集民化:経済格差と食物分配に注目して」岸上伸啓編『開発と先住民族』明石書店

丸山淳子	印刷中	丸山淳子	chapter	「開発政策と先住民運動のはざままで:ボツワナの再定住地におけるサンの居住形態の再編」窪田幸子編『先住民とは誰か?』世界思想社
丸山淳子	2008	丸山淳子	chapter	「政治論争にまきこまれる:ボツワナ共和国における開発政策と先住民運動の渦中で」武田丈・亀井伸孝編『アクション別フィールドワーク入門』世界思想社 pp63-75
増原善之	2008	増原善之	chapter	「人魚伝説とゴールドラッシュ」横山智・落合雪野編『ラオス農山村地域研究』めこん、121-130頁、
西 真如	2009	西真如	book	『現代アフリカの公共性:エチオピア社会にみるコミュニティ・開発・政治実践』、昭和堂、2009年
西 真如	2008	西真如	chapter	「病と共存する社会をのぞむ:エチオピアのHIV/AIDS予防運動」、(共著)武田丈・亀井伸孝編『アクション別フィールドワーク入門』世界思想社、204-217頁、2008年
島上宗子	2007	島上宗子	chapter	「『いりあい交流』がつなぐ日本とインドネシア——山村の知恵と経験に学ぶ」加藤剛編『国境を越えた村おこし——日本と東南アジアをつなぐ』NTT出版、2007年9月、31-61頁
清水展	2007	清水展	chapter	「文化を資源化する意味付与の実践:フィリピン先住民イフガオの村における植林運動と自己表象」山下晋司(編)『資源化する文化』弘文堂 pp.123-150、2007。
清水展	2007	清水展	chapter	「グローバル化時代に田舎が進める地域おこし—北部ルソン山村と丹波山南町をつなぐ草の根交流、植林、開発の取り組み—」加藤剛編『国境を越えた村おこし:日本と東南アジアをつなぐ』NTT出版 pp.165-198、2007。
清水展	2007	清水展	chapter	「被災のなかの苦難と希望:1991年ピナトゥボ山代噴火と先住民アエタ・コミュニティの新生」浦野正樹・大矢根淳・吉川忠寛(編)『復興コミュニティ論入門・シリーズ災害と社会②』弘文堂pp.179-
清水展	2007	清水展	chapter	「辺境から中心を撃つ礫:アフガニスタン難民の生存を支援する中村医師とペシャワール会の実践」松本常彦・大島明秀(編)『<九州>という思想—九州スタディーズの試み—』花書院、pp.111~166、2007。
清水展	2008	清水展	chapter	「火山灰に消された歴史」東京大学東洋文化研究所編『アジア学の明日にむけて』東京大学東洋文化研究所pp.188-193、2008。
白石壮一郎	2008	白石壮一郎	chapter	「調査者に期待されること」武田丈・亀井伸孝編『アクション別フィールドワーク入門』世界思想社、pp.202-203.
白石壮一郎	2008	白石壮一郎	chapter	「『文化』か、それとも『自由』か?」武田丈・亀井伸孝編『アクション別フィールドワーク入門』世界思想社、pp.234-236.
玉田芳史	2008	玉田芳史・船津鶴代	book	『タイ政治行政の変革1991-2006年』千葉:アジア経済研究所、368頁。
玉田芳史	2008	TAMADA Yoshifumi	book	<i>Myths and Realities: The Democratization of Thai Politics</i> . Kyoto: Kyoto University Press, 356p.
玉田芳史	2009	玉田芳史	chapter	「これからどうなるタイの政治」日本タイ協会編『現代タイ動向2006-2008』めこん、14-39頁。
玉田芳史	2008	玉田芳史	chapter	「タイにおける中核的執政の変容」伊藤光利編『比較政治叢書4政治的エグゼクティブの比較研究』早稲田大学出版部、155-174頁。
田中雅一	2007	田中雅一・川橋範子(編)	book(ed	『ジェンダーで学ぶ宗教学』世界思想社、pp.272、2007
田中雅一	2008	田中雅一(編)	book(ed	『東アジアと東南アジアを中心とする軍隊の歴史人類学的研究』平成16年度~平成18年度科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書 pp.285. 2008
田中雅一	2008	Masakazu TANAKA (ed.)	book(ed	<i>Armed Forces in East and South-East Asia: Studies in Anthropology and History</i> , pp.285 2008

田中雅一	2007	田中雅一	chapter	「貨幣と共同体——スリランカ・タミル漁村における負債の贈与的資源性をめぐって」春日直樹責任編集『貨幣と資源』(内堀基光総合編集『資源人類学』05)弘文堂、pp.59-107、2007
田中雅一	2008	田中雅一	chapter	「軍隊を人類学する——ナショナルとトランスナショナル」春日直樹編『人類学で世界をみる——医療・生活・政治・経済——』ミネルヴァ書房 pp.185-203、2008
田中雅一	2009	田中雅一編	book(ed	『フェティシズム研究1 フェティシズム論の系譜と展望』京都大学学術出版会 380頁 2009
渡辺一生	2008	河野泰之, 宮川修一, 渡辺一生	chapter	「一つの村の水稻収量図から社会の変化を読み取る——東南アジアの農業発展——」『地域研究のためのGIS入門』水島司, 柴山守編, 東京:古今書院, (2008).
渡辺隆司	2007	Watanabe, Takashi, Y. Ohashi, T. Tanabe, Takahito Watanabe, Y. Honda and K.	chapter	Lignin biodegradation by selective white rot fungus and its potential use in wood biomass conversion. In ACS Symposium Series 954, <i>Materials, Chemicals and Energy from Forest Biomass</i> . American Chemical Society. pp 409-421 (2007).
渡辺隆司	2008	渡辺隆司	chapter	「微生物機能を利用したバイオマス前処理技術開発」『バイオリファイナリー技術の工業最前線——自動車用バイオ燃料の技術開発——』、シーエムシー出版、207-222 (2008).
渡辺隆司	2008	渡辺隆司	chapter	「微生物機能を利用したバイオマス前処理技術開発」『セルロース利用技術の最先端』シーエムシー出版、334-349 (2008).
渡辺隆司	2007	渡辺隆司	chapter	「リグノセルロース系バイオリファイナリー」『ウッドケミカルスの新展開』シーエムシー出版、87-106
米澤 剛	2007	ベンカテッシュ・ラガワン, 升本眞二, サラウット・ニンサワット, 吉田大介, 野々垣 進, 米澤 剛, グエン・ホア・ビン,	book	『フリーオープンソースソフトウェアを用いた空間情報処理データシェアリングのためのトレーニングノート』大阪市立大学FOSS4Gプロジェクト, 166p, 2007.

(3) 講演、発表				
メンバー	年		講演者、発表者	タイトル
速水洋子	2007		Hayami, Yoko	パネル組織・序論 Families in Flux: Southeast Asian Families Across Borders and Categories 第5回ICAS (International Convention of Asian Scholars) 2007年8月2日
速水洋子	2007		Hayami, Yoko	“More or less Buddhist? Sectarian Religious Practices in Karen State, Burma.” Presented in the panel “Paths Taken and Not Taken in the Anthropology of Buddhism: Assessment of the Field and Current Directions of Research”. 第106回アメリカ人類学会研究大会(ワシントンD.C.) (American Anthropological Association, 106th Annual Meeting) 2007年12月1日
速水洋子	2007		Hayami, Yoko	”Family” and Cultural Reproduction against Mobility and Transience: Three cases of Karen across the border” Private Faces of Power and Institutions in Southeast Asia. 拠点大学プログラム国際ワークショップ 2007年12月6-7日
速水洋子	2007		速水洋子	「先住民の自称とエコツーリズムに見る表象と戦術: タイの多文化主義の動向の中で」国立民族学博物館共同研究会「先住民」とはだれか? — 先住民族イデオロギーの潜勢的/顕在的形態とその社会歴史的背景に関する研究」2007年12月22日
速水洋子	2008		Hayami, Yoko	“Seeds and Taboos: Cultural Reproduction and Domestic Networks among Karen in Bago Mountains, Burma”, International Workshop on Local Knowledge and Its Positive Practice, Addis Ababa, Ethiopia (G-COE イニシアティブ4) 2008年2月14日
速水洋子	2008		速水洋子	「生のつながりへの想像力—三つのカレン社会の事例に見る再生産の文化」(G-COEイニシアティブ4 研究会) 2008年7月4日
速水洋子	2008	招待	速水洋子	「飼い慣らされる山地民文化: 北タイ・カレンの場合」南山大学人類学博物館オープンリサーチセンター主催 ヤオ族研究会(招待講演) 2008年10月18日
速水洋子	2009		Hayami, Yoko	” Relatedness and Reproduction in Rethinking “Families” in Southeast Asia: (with case studies from three Karen settings)” In the final workshop of the CORE University Project. The Making of East Asia: from both macro and micro perspectives Kyoto February 23, 2009
速水洋子	2009		速水洋子	「ビルマのキリスト教と民族: カレンにみる民族と宗教」国立民族学博物館共同研究『キリスト教文明とナショナリズム—人類学的研究』2009年3月20日
林隆久	2007		T. Hayashi, M. Takeuchi, Y.W. Park, T. Kaku, M. Yoshida, T. Awano, R. Kaida,	Xyloglucan creates tensile stress in the secondary wall. XI Cell Wall Meeting 15 th August 2007.
林隆久	2007		T. Hayashi	Tropical trees in Southeast Asia - A reformation scenario from deforestation, Plant Science and Genetics seminar, the Hebrew University of Jerusalem, Rehovot, Israel, 18 th December
林隆久	2007	招待	林隆久	Current situation of researches on genetically modified trees in Japan、フォーラム: 少資源国日本のバイオマス研究、日本分子生物学会生化学会合同大会、パシフィコ横浜、12月14日(2007)(招待講演)
林隆久	2008		T Hayashi	Transgenic poplars, Plant biology seminar, Sao Paulo University, Sao Paulo, Brasil, 12 th December (2008)

林隆久	2008		T Hayashi	Transgenic poplars, Plant feedstock seminar, Joint BioEnergy Institute, Emeryville, USA, 15 th December (2008)
林隆久	2008	招待	T Hayashi	Enhancement of saccharification by overexpression of various endoglycanase in poplar, International Symposium on Clean Energy for the World, Ethanol Biodiesel and Natural Gas, Ubatuba, Brasil, December 7-10, 2008 (招待講演)
林隆久	2008	招待	林隆久、馬場啓一	さまざまな細胞壁分解酵素を発現する組換えポプラ、理研シンポジウム、理研横浜、2月18日(2008)(招待講演)
林隆久	2009	招待	T Hayashi	Loosening xyloglucan accelerates the enzymatic hydrolysis of cellulose in wood, Nissan International Tree Biology, Tokyo, February 26, 2009 (招待講演)
林隆久	2009		T Hayashi	Proposed strategies and prospects for Riau biosphere reserve, Workshop on Riau biosphere researve, Pekanbaru, Indonesia, February 20, 2009
井合進	2008		Susumu, Iai	Risk management approach to seismic hazard and its application to environmental crisis, International Symposium on Sustainability Science, Potsdam, 2008
井合進	2008		Susumu, Iai	Keynote Lecture, Bandung, Indonesia, 2008
井合進	2008		井合進	環境変動への対応、循環型社会に関する日中シンポジウム、京都、2008
籠谷直人	2007		籠谷直人	The Chinese and Indian Merchants' Networks and Modern Japan 1890-1946 僑務委員会、国際学術研討会「全球化下華僑華人問題的転変」台湾、(研究報告)。2007年5月
籠谷直人	2008		籠谷直人	香港、マカオ、「グローバル・ガバナンスの最前線」研究成果報告、香港中文大学歴史学科(研究報告)。2008年3月
籠谷直人	2008		籠谷直人	韓国、仁川、仁荷大学「東アジアにおける自由貿易原則の浸透」『2008東アジア韓国学国際学術会議および東アジア韓国学会』(研究報告)。2008年12月
川井秀一	2007		Munawar SS, Umemura K, Tanaka F, Kawai S	The Properties of Mild Steam and Chitosan Treated Ramie and Pineapple Plant Fiber Bundles, 2007 IUFRO All Division 5 (Forest Products) Conference, Taipei, 29 October-2
川井秀一	2007		Umemura K, Kawai S	Characterization of chitosan-glucose film. International Symposium on Advanced Biomass Science and Technology for Bio-based Products, Beijing, China, May 23-25, 2007.
川井秀一	2007		Kawai S	Development of Wood-Based Materials for Establishing the Resource-Sustainable Society, 2007.02.27 RISH/LIPI Spring School(Chibinon, Inodnesia, Lecturer)
川井秀一	2007		Kawai S	Research Cooperation between Indonesia-Japan in Forest/Wood Science: Past, Present and Future (Key Note), 2007.08.25 The 16 th Indonesian Scientific Conference in Japan (Kyoto)
川井秀一	2007	招待	Kawai S	Perspective on the International Academic Collaboration of RISH (Invited), 2007.12.14 USM-RISH Joint Symposium (Penang)
川井秀一	2007	招待	Kawai S	Sustainable Production and Utilization of Acacia, 2007.07.25 Science for Sustainable Humanosphere 2007 (Bandung, Indonesia) (invited)
川井秀一	2007	招待	Kawai S	Seeking Sustainable Society through Science and Technology, 2007.11.26, 2007.11.26 Indonesia Grobal COE Program (Invited)

川井秀一	2008		川井秀一	泥炭湿地の持続的開発は可能か？ タイ、ナラチワ地域のケーススタディ2008.10.21 G-COE イニシャティブ3研究会
川井秀一	2008	招待	Kawai S	Development of high-performancce fiber composites from non-wood plant fiber bundles (Invited), 2008.06.05 VTT-RISH Joint Symposium(99 th Humanosphere Symposium)
川井秀一	2008	招待	Kawai S	Development of Wood-Based Materials for Establishing the Resource-Sustainable Society (Invited), 2008.09.26 China North-East Forestry University Special Lecture
川井秀一	2008		Shuichi KAWAI, Kenji Umemura, and Sasa S	Development of High-performance Fiber Composites, 2008.09.27 IAWPS2008 (Harbin) (Key Note)
川井秀一	2008	招待	Shuichi Kawai, Misao Yokoyama, Miyuki Matsuo, and Junji Sugiyama	Research on the Aging of Wood in RISH, 2008.11.06 Wood CulTher COSTSymposium
川井秀一	2008		Umemura K, Yamauchi H, Ito T, Shibata M, Kawai S	Effect of UV Irradiation on the Color and Chemical Structure of PMDI Cured with Water, International Symposium on Wood Science and Technology. Harbin, China, September 27-
川井秀一	2008	招待	Kawai S	Sustainable Forest Management and Regional Environment in South-East Asia (Invited), 2008.03.13 G-COE International Workshop (Kyoto)
川井秀一	2008	招待	Kawai S	Humanosphere Science -An overview- (Lecturer), 2008.02.24 The Humanosphere Science School 2008 (Chibinong)
川井秀一	2009		Widyorini R, Kawai S, etc.	Evaluartion of Biomass Production of Plantation Forest in Tropical Area; A Case Study of Acacia Plantation Forest, P.T. Musi Hutan Persada, Indonesia. (Poster), 2009.03.09 The Second International Conference of Kyoto University Global COE Program In Search of Sustainable Humanosphere in Asia and Africa
川井秀一	2009		Kobayashi S,	Estimation of Forest Biomass in South Sumatra using Ground-based and Satellite Remote Sensing Data (Poster), 2009.03.09 The Second International Conference of Kyoto University Global COE Program In Search of Sustainable Humanosphere in Asia and Africa
河野泰之	2007		河野泰之	山地生態資源の持続的利用のための技術融合と制度設計－東南アジアを中心として－、生存基盤科学研究ユニット学際交流セミナー、京都、2007年9月
河野泰之	2007	招待	河野泰之	生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点、動き出したグローバルCOEプログラム：地域研究の展開と研究教育体制の課題、仙台、2007年11月。
河野泰之	2007		河野泰之	Wrap-up report, The First Kyoto University Southeast Asian Forum in Indonesia: In Search of New Paradigm on Sustainable Humanosphere, Jakarta, Indonesia, 2007年11月
河野泰之	2007		河野泰之	Mechanism of Land Use Changes in the Mountainous Region of Mainland Southeast Asia, International Workshop on Sustainable Natural Resources Management of Mountainous Regions in Laos, Luang Nam Tha, Laos, 2007年11月
河野泰之	2007	招待	河野泰之	地域研究と生存圏科学をつなぐ、第82回生存圏シンポジウム(招待講演)、京都、2007年12
河野泰之	2007		河野泰之	What are nature-inspired Technologies and Institutions? International Symposium of the Global COE Program “In Search of Sustainable Humanosphere in Asia and Africa”, 京都、

河野泰之	2007		河野泰之	熱帯の自然とは、その潜在力を生かす技術とは、G-COEパラダイム研究会「生存基盤持続型発展を目指した研究 活動報告」、京都、2008年4月
河野泰之	2007		河野泰之	タイ東部の天水田水稲作における水利技術の展開、日本地球惑星科学連合2008年大会、千葉、2008年5月
河野泰之	2007		河野泰之	農業の変容と水利調整 —インド・タミルナドゥ州を事例として—、日本地球惑星科学連合2008年大会、千葉、2008年5月
河野泰之	2008		河野泰之	東南アジア大陸山地部の生業の生態史、東南アジア学会第79回研究大会パネル4「東南アジア生態史の構築に向けて」、大阪、2008年6月
河野泰之	2008	招待	河野泰之	Environment, Technology and Institutions for Sustainable Humanosphere: A Water Perspective, International Conference on GeoInformatics for Spatial-Infrastructure Development in Earth and Allied Sciences, Hanoi, Vietnam, 2008年12月
河野泰之	2008		河野泰之	Impacts of Population Growth on Land Use in the Northern Mountain Region of Vietnam: A Village-level Analysis, International Conference on GeoInformatics for Spatial-Infrastructure Development in Earth and Allied Sciences, Hanoi, Vietnam, 2008年12月
河野泰之	2008		河野泰之	農業の変容と水利調整 —インド・タミルナドゥ州を事例として—、日本地球惑星科学連合2008年大会、千葉、2008年5月
河野泰之	2008		河野泰之	Impacts of Population Growth on Land Use in the Northern Mountain Region of Vietnam: A Village-level Analysis, International Conference on GeoInformatics for Spatial-Infrastructure Development in Earth and Allied Sciences, Hanoi, Vietnam, 2008年12月
河野泰之	2007	招待	河野泰之	地域研究と生存圏科学をつなぐ、第82回生存圏シンポジウム、京都、2007年12月
小杉泰	2007		小杉泰	「現代イスラームと中東政治」社団法人 大阪倶楽部 定例午餐会2007.5.16
小杉泰	2007		小杉泰	「イスラームのいま」日本記者クラブ「中東ベーシック」2007.5.17
小杉泰	2007		小杉泰	「イスラーム世界の動態とグローバル化: 中東・イスラーム地域の再編成とその展望」京都産業大学世界問題研究所研究会 2007.7.26
小杉泰	2007		小杉泰	「越境するイスラーム? : 宗教・政治・経済の関係をめぐって」南山大学地域研究センター「政治と宗教のインターフェイス」研究会 2007.10.18
小杉泰	2007		小杉泰	「イスラーム復興とグローバル化する国際社会」聖学院大学総合研究所「グローバリゼーション研究」研究会 2007.12.03
小杉泰	2008		小杉泰	「乾燥オアシス地帯と文明の「3項連環」論——中東の持続型生存基盤システムをめぐって——」グローバルCOE: イニシアティブ1「環境・技術・制度の長期ダイナミクス研究」第2回研究会 2008.1.7
小杉泰	2008		小杉泰	“Back to the Genuine Humanosphere: The Future Gate We Ought to Open” In Search of Sustainable Humanosphere in Asia and Africa: The First International Symposium
小杉泰	2008		小杉泰	「国際的イスラーム運動——急進派と中道派——」財団法人 中東調査会 2008.3.24
小杉泰	2008		小杉泰	「イスラーム世界の特質と現代イスラーム復興の影響」国際経済研究所 2008.6.6

小杉泰	2008		小杉泰	「モノと人のネットワーク——イスラームの場合」科研基盤研究B「地域研究における人・モノ・言葉のネットワーク」研究会 2008.7.23
小杉泰	2008		小杉泰	「イスラーム復興とウラマーの役割」財団法人 中東調査会 2008.9.19
小杉泰	2008		小杉泰	「イスラーム経済を考える——比較文明論および生存基盤論から——」グローバルCOE:イニシアティブ1研究会 2008.11.20
小杉泰	2008		小杉泰	「イスラーム文化と現在のアラブ諸国」第133回ポバール会 特別講演2008.12.6
小杉泰	2009		小杉泰	“Islamic Revival Revisited: The State of the Study and Our Prospective Tasks in Japan”国際ワークショップ "New Approaches in Central-South Asia and Middle Eastern Scholarship"[Middle East & Asia Studies Workshop]グローバルCOE:イニシアティブ1研究会 2009.2.8
松林公蔵	2007	招待	松林公蔵	「地域在住高齢者の健康実態に関するアジアの地域間比較」シンポジウム:「地域研究と情報学:新たな地平を拓く」
松林公蔵	2007		松林公蔵	「開会の挨拶」「瞬間の記録」—未来の映像アーカイブセンター設立にむけて—
松林公蔵	2007	招待	松林公蔵	「山岳部からフィールド医学へ」登山・探検・フィールドワーカー地球の高みにむけて—(山本紀夫退官記念)
松林公蔵	2007	招待	松林公蔵	「アジアの高齢者に関するフィールド医学」美濃加茂セミナー
松林公蔵	2007	招待	松林公蔵	講演
松林公蔵	2007	招待	松林公蔵	「高齢者医療とフィールド医学—本邦とアジアの比較から—」第9回高齢者医療フォーラム 特別講演
松林公蔵	2007	招待	松林公蔵	Neurodegenerative in West New Guinea (第43回日本神経学会サテライトシンポジウム)
松林公蔵	2007	招待	松林公蔵	「神経学、老年学からフィールド医学へのパラダイム転換」高知神経内科研究会
松林公蔵	2007	招待	松林公蔵	「人の老化とは何か—フィールド医学の現場から—」ジェーン・グドール講演会
松林公蔵	2007	招待	松林公蔵	The effects of Community-based Geriatric Intervention on Kahoku: KLAS The 3rd International Symposium on Geriatrics and Gerontology "Epidemiological Studies on Aging
松林公蔵	2007	招待	松林公蔵	“The effects of community-based geriatric intervention in Japan as well as in Asian countries. On Japan-Korea Geriatric Symposium
松林公蔵	2007	招待	松林公蔵	神経学・老年学からフィールド医学へ(第43回OSK)
松林公蔵	2008	招待	松林公蔵	「高齢者医療とフィールド医学」第15回広島老年医学研究会
松林公蔵	2008		松林公蔵	Local Neurological Diseases in Tropical Forest in New Guinea. On LIPI, RISH, CSEAS合同シンポジウム
松林公蔵	2008	招待	松林公蔵	The Effects of Community-Based Geriatric Intervention in Kahoku, JapanKahoku Longitudinal Aging Study (KLAS) 京都大学医学研究科 老化・代謝セミナー
松林公蔵	2008	招待	松林公蔵	Neurological Disease in Papua Kyoto Neurological Seminar
松林公蔵	2008		松林公蔵	「脳科学から見た高齢化社会 -生存の意味をめぐるパラダイム転換」G-COEパラダイム研究
松林公蔵	2008	招待	松林公蔵	「登山医学を考える:病院医学からフィールド医学へ」飛騨高山セミナー
松林公蔵	2008	招待	松林公蔵	Agenda on Ageing in Asia from the Standpoint of View of "Field Medicine" Korea and Japan Ageing Seminar

松林公蔵	2008		松林公蔵	「高所医学からフィールド医学へ」チョコリザ初登頂50周年記念シンポ(AACK)
松林公蔵	2008		松林公蔵	「人の生老病死について」第3回自然学研究会
松林公蔵	2008	招待	松林公蔵	Water and Life in Asia 150th anniversary of Japan-France relationship ”Water Seminar”
松林公蔵	2009		松林公蔵	「高地文明と医学」第3回高地文明研究会
松林公蔵	2009	招待	松林公蔵	”豊かな老い”を求めて一本邦とアジアにおけるフィールドの現場から（富山大学学長裁量経費公開シンポ「在来知・技・芸」）
水野広祐	2007	招待	Mizuno Kosuke	“Sistem Penyelesaian Perselisihan Perburuhan di Indonesia: Musyawarah atau <i>rule of law</i> ? Mutu Penyelesaian Perselisihan Perburuhan (Indonesian Labor Dispute Settlement System, consultation or Rule of Law? The Quality of Labor Dispute Settlement)”, Seminar Nasional Hakim Ad-hoc Indonesia, Labor Union Right Center, June, 10 th , 2007, in Hotel Milenium, Jakarta, Indonesia (招待講演)
水野広祐	2007		Mizuno Kosuke	“Night Watch and Night Guarding, - Violence and Community in Indonesia, Jakarta”, International Workshop on Security and Violence n Contemporary Southeast Asa, organized by Mekong Research Unit, Institute of Asian Studies, Chulalongkorn University and Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, July 18 th , - 19 th , 2007, Mekong Delta Hotel,
水野広祐	2007		Mizuno Kosuke	“Pola Keorganisasian Buruh di Tingkat Pabrik dan Hubungan Industrial di Indonesia (Pattern of Labor Organization at the Plant Level and Industrial Relation in Indonesia)”, Refleksi 7 Tahun Kebebasan Berserikat di Indonesia, Semiloka dan Pelncuran Direktori Serikat Pekerja/Serikat Buruh, AKATIGA-Pusat Analisis Sosial & CSEAS-Kyoto University, 7,
水野広祐	2007	招待	水野広祐	国際東アジア研究センター第116回アジア講座「インドネシアにおける新たな発展の方向を求めてー民主化・地方分権化のインドネシアにおける生存基盤確保型発展の可能性ー」国際東アジア研究センター、北九州、2007年9月25日（招待講演）
水野広祐	2007		Mizuno Kosuke	“In Search of New Direction of Development in Indonesia-Possibility of Sustainable Humanosphere Type Development-“, The First Kyoto University - LIPI Southeast Asian Forum: Sustainable Humanosphere In Indonesia, Jakarta, November 26-27 2007, Gedung Widvagraha LIPI, Jakarta Indonesia
水野広祐	2007		Mizuno Kosuke	“Labor Unions in Indonesia after 1998: Their Origins, Organizations and Activities”, CORE University Program Seminar Thammasat University and Kyoto University, Center for Southeast Asian Studies Co-Organized by Global COE Program "In Search of Sustainable Humanosphere" Title: Private Faces of Power and Institutions in Southeast Asia Date: December 6th - 7th 2007, Royal City Hotel, Bangkok, Thailand
水野広祐	2008	招待	Mizuno Kosuke	“Area Study and Humanosphere, -The Possibility of Sustainable Humanosphere Type Development in Indonesia-“, The 92nd RISH Symposium Towards Establishment of Sustainable Humanosphere (Co-organized by RISH, CSEAS and RDUB-LIPI, and supported by Kyoto University and G-COE Program– In Search for Sustainable Humanosphere in Asia and Africa), February 23, 2008, Cibinong, Indonesia, (招待講演)

水野広祐	2008		Mizuno Kosuke	“Rural Industry as a Sustainable Humanosphere Type Industry in Indonesia, -A Case Study of Roof-tile Industry as a Prosperous Development-“JSPS-NRCT Core University Program: Project 9 / Global COE Program: Initiative 1, Joint Workshop on Labour-intensive Industrialisation in Southeast Asia, March 1 (Sat.) - 2 (Sun.), 2008, CSEAS, Kyoto
水野広祐	2008		Mizuno Kosuke	Organizer, JSPS-NRCT Core University Program / Global COE Program, Joint Workshop on "Populism in Asian Clothes" March 7th and 8th, 2008, Kyodai Kaikan, Kyoto, Japan,
水野広祐	2008	招待	Mizuno Kosuke	“Japanese Study on Rural Southeast Asia and CSEAS Kyoto University, From Colonial Studies to Sustainable Humanosphere”, in Spring Conference of Korean Association of Southeast Asian Studies, Korean Association of Southeast Asian Studies, April 4- 5, 2008 at Junbuk University, Jeonju, South Korea (招待講演)
水野広祐	2008		Mizuno Kosuke	“Retrospectif Hubungan Ekonomi Indonesia dan Jepang, dan Arah Perkembangan Masa Depan”, in Seminar Memperingati 50 Tahun Hubungan Diplomatik Republik Indonesia dan Jepang, April 17, 2008, di Universitas Gajah Mada, Yogyakarta, Indonesia.
水野広祐	2008		Mizuno Kosuke	“Social Movement and Changing Governance in Southeast Asia” at JSPS-NRCT Core University International Workshop on ”Future Perspective of Asian Way of Social Movement in the Era of Globalization" at CSEAS, Kyoto University, June 14, 2008
水野広祐	2008		Mizuno Kosuke	Organizer, opening remark, CSEAS- NIOD Joint International Seminar on “Chinese and Inter-ethnic Coexistence and Cooperation in Southeast Asia” at CSEAS, Kyoto University,
水野広祐	2008		Mizuno Kosuke	“Labor Unions in Indonesia after 1998: Their Origins, Organizations and Contentions”, presented at the 5th International Seminar of Anthropology Indonesia, July 22-25, 2008,
水野広祐	2008	招待	Mizuno Kosuke	Integrated rural development based on sustainable humanospher and IT network, in Workshop Pengembangan Komptanisasi SDM TIK, Batusangkara, Tanahdatar, 28-29 Juli, 2008, Sumatra Barat, Indonesia (招待講演)
水野広祐	2008	招待	Mizuno Kosuke	“Vietnamese Economy in the Context of Asian Economic Development”, Key Note Lecture, The 4 th Vietamese Students’ Science Exchange Conference, November 15 th , and 16 th , 2008, Kyoto University (招待講演)
水野広祐	2008	招待	水野広祐	APEX第161回公開セミナー 「インドネシアにおける新たな発展の方向を求めて--生存基盤確保型発展の可能性」2008年11月29日(於 JICA地球ひろば)(招待講演)
水野広祐	2009		Mizuno Kosuke	“Introduction to a New Model of East Asian Economy, and challenges to Current Global Economic Crisis” presented at the Final Symposium of the JSPS-NRCT Core University Program,”The Making of East Asia: from both macro and micro perspectives”,Co-sponsored by GCOE Program “Towards a Sustainable Humanosphere”February 23 rd -24th, 2009,Inamori Memorial Building, CSEAS, Kyoto University

水野広祐	2009	招待	水野広祐	インドネシア講演会「改革インドネシアの11年、権威主義・開発体制はどう変わったのか」(財)岡山県国際交流協会・岡山インドネシア友好協会、於:岡山県国際交流センター 2009年2月25日 (招待講演)
岡本正明	2008		岡本正明	「民主化・分権化後のインドネシアにおける市民社会論と社会運動の趨勢について」、『東アジア市民社会研究会』、2008年5月31日、大阪市立大学創造都市研究科・梅田駅前第3ビル6階115号室
岡本正明	2008		岡本正明	「東南アジアの事例」、京都大学地域研究統合情報センター(CIAS)主催『ポスト新自由主義時代のアンデス諸国－社会変動の比較研究』、2008年6月15日、京都大学百周年時計台記念館2階国際交流ホールIII
岡本正明	2008		Okamoto Masaaki	New "Moderate" Politics of Islamism in Post-Suharto Java, 東南アジア研究所、アジア太平洋地域研究所 (CAPAS)(台湾) 共催“Islam for Social Justice and Sustainability: New Perspectives on Islamism and Pluralism in Indonesia”, 2008年9月11日～12日、京大会館
岡本正明	2008		岡本正明	Lokalogi di Jepang(日本における地元学)、パムカサン県主催「第一回マドゥラ語国際会議」、2008年12月16日、パムカサン高等学校講堂
岡本正明	2008		Okamoto Masaaki	Unexpected political stabilization under the neo-liberal economy: Indonesia, 京都大学地域研究統合情報センター(CIAS)主催”Linkage of disparities; Reorganization of power and opportunities in the globalized world”, 2009年1月30日～2月1日、京都大学稲盛財団記念
大村善治	2007	招待	Omura, Y.	One-dimensional Electromagnetic Particle Code,8th International School for Space Simulations (ISSS-8) ,Kauai, Hawaii, USA, 25 February- 3 March, 2007.
大村善治	2007	招待	Omura, Y.	Relativistic turning acceleration of resonant electrons by coherent whistler-mode waves in a dipole magnetic field. The CAWSES Workshop "Comparative study of solar flares and magnetospheric substorms as a basis of space weather research" , Fairbanks, Alaska, USA, 18
大村善治	2007	招待	Omura, Y., Y. Katoh, D. Summers	Simulations of chorus waves and acceleration of electrons to relativistic energies (solicited), European Geosciences Union (EGU) General Assembly 2007, Vienna, Austria,
大村善治	2007	招待	Omura, Y., N. Furuya, D. Summers	Theory and simulations on whistler-mode chorus generation and relativistic electron acceleration in the radiation belts, Union Radio-Scientifique Internationale (URSI) 2007, Ottawa, Canada, 22- 26 July 2007.
大村善治	2007	招待	Omura, Y., Y. Katoh, N. Furuya, D. Summers	Simulations of chorus waves and accelerations of electrons to relativistic energie, International Symposium on Radio Systems and Space Plasma (ISRSSP), Sofia, Bulgaria, 2-5
大村善治	2008	招待	Y. Omura and D.Summers	"Relativistic Electron Acceleration by Whistler-mode Chorus Emissions Associated with Substorms", Asia Oceania Geosciences Society (AOGS) 2008, Busan, Korea, 16-20 June
大村善治	2008	招待	Y. Omura	Nonlinear wave growth theory of whistler-mode chorus emissions induced by substorms, 37th Committee on Space Research(COSPAR) Scientific Assembly, Montreal, Canada, 13-20
大村善治	2008	招待	Y. Omura	Theory and simulation of the generation of whistler-mode chorus emissions, 3rd VERSIM Workshop 2008, Tihany, Hungary, 15-20 September 2008

島田周平	2007		Shimada, Shuhei	Back to the field study with fresh question in Geography, Seminar of the Graduate School of Geography, University of Ibadan, 2007.11.2
島田周平	2008	招待	島田周平	脆弱性の視点からアフリカの農村開発を考える FASID Brown Bag Lunch Seminar
島田周平	2009	招待	島田周平	地域研究から見た環境問題 東北大学環境科学研究科 招待講演 2009.3.18
篠原真毅	2007	招待	Tomohisa Kimura, Kenichi Anma, Yoshiharu Fuse, Naoki Shinohara, and Kozo	“Study on High Efficient Microwave Power Transmission Unit for Space Solar Power System”, International Symposium on Radio System and Space Plasma, Blugaria, 2007.9-2-4, Proceedings CD-ROM
篠原真毅	2007	招待	Izumi Mikami, Tomohiro Mizuno, Atsushi Yamamoto, Hiroshi Ikematsu, Hiroyuki Satoh, Koji Namura, Naoki Shinohara, Kozo Hashimoto, and Hiroshi Matsumoto	“Study on SPS with Satellites in Formation Flight and High Sensitivity Rectenna”, International Symposium on Radio System and Space Plasma, Blugaria, 2007.9-2-4, Proceedings CD-ROM
篠原真毅	2007	招待	Naoki Shinohara, Tomohiko Mitani, and Hiroshi Matsumoto	“Development of High Power Rectenna for Ground Applications of Microwave Power Transmission”, International Symposium on Radio System and Space Plasma, Blugaria, 2007.9-2-4, Proceedings CD-ROM
篠原真毅	2007	招待	篠原真毅	“宇宙太陽光発電所SPSと無線電力送電技術の現状と将来展望”, パワーエレクトロニクス学会, 講演集Vol.33, pp.28-46, 2007.12.22
篠原真毅	2007		Tomohiko Mitani, Naoki Shinohara, and Hiroshi Matsumoto	“Development of a Pulse-Driven Phase-Controlled Magnetron”, International Vacuum Electronics Conference (IVEC2007), Kitasyusyu, 2007.5.15-17, Proceeding pp.425-426
篠原真毅	2007		Haruo Kawasaki, Tomohiko Mitani, and Naoki Shinohara	“The DC-RF Conversion Efficiency Change of Magnetron with Thermal Condition”, International Vacuum Electronics Conference (IVEC2007), Kitasyusyu, 2007.5.15-17,
篠原真毅	2007		Naoki Shinohara	“Development of Wearable Rectenna for Ubiquitous Power Source”, IMS2007 Workshop WFG, Hawaii, 2007.6.8, CD-ROM
篠原真毅	2007		Naoki Shinohara, Kenji Nagano, Tadashi Ishii, Shigeo Kawasaki, Teruo Fujiwara, Susei Nakayama, Yoshiro Takahashi, Susumu Sasaki, Koji Tanaka, Yasumasa Hisada, Yoshiyuki Fujino, Shoichiro Mihara, Tokuo	“Experiment of Microwave Power Transmission to the Moving Rover”, International Symposium on Antennas and Propagation (ISAP2007), Niigata, 2007.8.21-24, Proceedings CD-ROM 3B1-1.pdf
篠原真毅	2007		Tomohiko Mitani, Naoki Shinohara, Kozo Hashimoto, and Hiroshi Matsumoto	Research and Development of Low-Noise Magnetrons for Microwave Power Transmission and Solar Power Station/Satellite”, International Symposium on Radio System and Space Plasma, Blugaria, 2007.9-2-4, Proceedings CD-ROM

篠原真毅	2007	Taro Sonobe, Tomohiko Mitani, Naoki Shinohara, Kan Hachiya, and Susumu	“Study on the microwave processing of oxide ceramics”, 5th Eco-Energy and Materials Science and Engineering Symposium, Thailand, 2007.11.21-24
篠原真毅	2007	Taro Sonobe, Hiroaki Suzuki, Tomohiko Mitani, Naoki Shinohara, and Kozo	”Novel Thermal Conversion Process for Bio-energy by Microwave Heating at Research Institute for Sustainable Humanosphere (RISH), Kyoto University”, 1st Kyoto University - LIPI Southeast Asian Forum in Indonesia, Indonesia, 2007.11.26-27
篠原真毅	2007	杉浦弘幸, 植松弘行, 佐藤裕之, 苗村康次, 三原荘一郎, 小林裕太郎, 斎藤孝, 篠原真毅	“大規模レクテナアレイからの電磁再放射特性”, 電子情報通信学会第18回宇宙太陽発電研究会, 2007.7.4, 信学技報SPS2007-04 (2007-07) pp.1-6
篠原真毅	2007	川崎繁男, 清田春信, 川井重明, 篠原真毅, 橋本弘藏, 三原荘一郎, 森雅裕	“無線送電・情報通信用高出力アクティブ集積アレーアンテナの薄型・軽量化の検討”, 電子情報通信学会第18回宇宙太陽発電研究会, 2007.7.4, 信学技報SPS2007-07 (2007-07) pp.23-30
篠原真毅	2007	藤原暉雄, 高橋吉郎, 長野賢司, 古川 実, 石井忠司, 川崎繁男, 篠原真毅, 佐々木進, 田中孝治, 久田安正, 藤野義之, 三原荘一郎, 安西徳夫, 小林	“作業ロボット用マイクロ波受電システムの試作”, 2007.8.2-3, 第10回宇宙太陽発電システム(SPS)シンポジウム, 講演集in print
篠原真毅	2007	川崎繁男, 清田春信, 川井重明, 山本剛司, 中島勝利, 篠原真毅, 橋本弘藏, 三原荘一郎, 小林裕太郎, 藤田辰人, 森雅	“宇宙エネルギー送電・情報通信同時伝送システムのマイクロ波工学的検討”, 2007.8.2-3, 第10回宇宙太陽発電システム(SPS)シンポジウム, 講演集in print
篠原真毅	2007	山川宏, 橋本弘藏, 川崎繁男, 篠原真毅, 三谷友彦, 平野敬寛, 米倉秀明, 藤原暉雄, 長野	“マイクロ波無線伝送技術の飛行実証実験の試み”, 第10回宇宙太陽発電システム(SPS)シンポジウム, 2007.8.2-3, 講演集in print
篠原真毅	2007	丹羽直幹, 高木賢二, 浜本研一, 篠原真毅, 三谷友彦, 宮川	“建築構造物を用いたマイクロ波無線ユビキタス電源の実現 (その3) 負荷調整可能なRF/DC変換器の開発”, 日本建築学会大会, 2007.8.29-31, 予稿集D-2環境工学II pp.1255-
篠原真毅	2007	丹羽直幹, 高木賢二, 浜本研一, 佐藤稔, 野木茂次, 篠原真毅, 三谷友彦	“建築構造物を用いたマイクロ波無線ユビキタス電源の実現 (その4) 高性能可変分岐アダプタの開発”, 日本建築学会大会, 2007.8.29-31, 予稿集D-2環境工学II pp.1257-1258
篠原真毅	2007	宮田侑是, 三谷友彦, 篠原真毅, 橋本弘藏	“位相制御マグネトロン有位相変調特性に関する研究”, 電子情報通信学会ソサイエティ大会, 2007.9.10-14, エレクトロニクス講演論文集1, p.114
篠原真毅	2007	佐藤稔, 濱島浩志, 野木茂次, 浜本研一, 丹羽直幹, 高木賢二, 篠原真毅, 三谷友彦	“機械的に分配比を可変できる導波管型電力分配器の設計”, 電子情報通信学会ソサイエティ大会, 2007.9.10-14, エレクトロニクス講演論文集1, p.79
篠原真毅	2007	橋本弘藏, 篠原真毅	“宇宙太陽発電に関する研究活動について”, 電子情報通信学会EMCJ研究会, 2007.9.21, 信学技報vol. 107, no. 226, EMCJ2007-51, pp. 49-52

篠原真毅	2007	園部太郎, 三谷友彦, 篠原真毅, 蜂谷寛, 吉川暹	“酸化チタン(TiO ₂)に対するマイクロ波照射効果”, 第1回日本電磁波エネルギー応用学会シンポジウム, 2007.9.25-27, 講演要旨集pp.118-119
篠原真毅	2007	鈴木宏明, 三谷友彦, 篠原真毅, 親泊政二三, 渡辺隆司, 都宮孝彦	“木質バイオマスからのエタノール生産のためのマイクロ波前処理容器の開発”, 第1回日本電磁波エネルギー応用学会シンポジウム, 2007.9.25-27, 講演要旨集pp. 162-163
篠原真毅	2007	山川宏, 橋本弘藏, 川崎繁男, 篠原真毅, 三谷友彦, 平野敬寛, 米倉秀明, 藤原暉雄, 長野	“マイクロ波無線電力伝送技術の飛行実証とアプリケーションの開拓”, 第51回宇宙科学技術連合講演会, 2007.10.29-31, 講演CD-ROM 1K12.pdf
篠原真毅	2007	橋本弘藏, 篠原真毅, 川崎繁男, 三谷友彦, 山川宏	“京都大学における宇宙太陽発電研究”, 第51回宇宙科学技術連合講演会, 2007.10.29-31, 講演CD-ROM 1K10.pdf
篠原真毅	2007	篠原真毅	“宇宙太陽発電所SPSのためのマイクロ波送電システムロードマップ”, 第51回宇宙科学技術連合講演会, 2007.10.29-31, 講演CD-ROM 1K07.pdf
篠原真毅	2007	山本剛司, 清田春信, 川崎繁男, 山下清隆, 石崎俊雄, 田村昌也, 年吉洋, 篠原真毅, 三谷	“LTCC基板を用いたアクティブ集積フェーズドアレイアンテナ用移相器の試作”, 電子情報通信学会マイクロ波研究会, 2007.12.18, 信学技報vol. 107, no. 394, MW2007-129, pp.13-18
篠原真毅	2007	川井重明, 川崎繁男, 清田春信, 篠原真毅, 三谷友彦	“アクティブフェーズドアレイアンテナ用小型高出力増幅器の試作”, 電子情報通信学会マイクロ波研究会, 2008.1.12, 信学技報vol. 107, no. 421, MW2007-153, pp.87-92
篠原真毅	2007	篠原真毅, 三谷友彦, 兒島淳一郎, 橋谷真紀	“大電力マイクロ波無線電力伝送用レクテナの開発”, 第27回宇宙エネルギーシンポジウム, 2008.3.7, プロシーディング集 pp.83-87
篠原真毅	2007	園部太郎, ジッタブティ・チャロン, 三谷友彦, 篠原真毅, 蜂谷寛, 吉川暹	“可視光応答型炭素ドーパド酸化チタンの合成と光触媒作用”, 2008年電気化学学会第75回大会, 2008.3,
篠原真毅	2007	根岸稔, 辻正哲, 篠原真毅, 三谷友彦, 小泉裕樹, 椎橋顕	”マイクロ波を利用したコンクリート中の鉄筋位置及びかぶりの推定に関する研究”, 第35回土木学会関東支部技術研究発表会, 2008.3.10, V-037
篠原真毅	2007	兒島淳一郎, 篠原真毅, 三谷友彦, 橋本隆志, 岸則政, 外村博史, 岡崎昭仁	“マイクロ波を用いた電気自動車無線充電システムの高効率化”, 電子情報通信学会第20回宇宙太陽発電研究会, 第7回宇宙太陽発電と無線電力伝送に関する研究会, 2008.3.11, 信学技報SPS2007-16 (2008-03) pp.1-4
篠原真毅	2007	竹野裕正, 松本博, 中本聡, 八坂保能, 川井重明, 三谷友彦, 篠原真毅, 並木宏徳	“長波長マイクロ波を用いた低侵襲ハイパーサーミアの基礎研究II”, 電子情報通信学会第20回宇宙太陽発電研究会, 第7回宇宙太陽発電と無線電力伝送に関する研究会, 2008.3.11, 信学技報SPS2007-20 (2008-03) pp.21-26
篠原真毅	2007	米倉秀明, 藤原暉雄, 長野賢司, 三谷友彦, 平野敬寛, 篠原真毅, 橋本弘藏, 山川宏, 上田英樹, 安藤真	“飛行船実験用ラジアルラインスロットアンテナに関する無線LANとの干渉実験・高出力性能確認実験”, 電子情報通信学会第20回宇宙太陽発電研究会, 第7回宇宙太陽発電と無線電力伝送に関する研究会, 2008.3.17, 信学技報SPS2007-23 (2008-03) pp.1-6

篠原真毅	2007		鈴木宏明, 三谷友彦, 篠原真毅, 親泊政二三, 渡辺隆司, 都宮孝彦	“木質バイオマス前処理用マイクロ波照射容器の開発研究”, 電子情報通信学会第20回宇宙太陽発電研究会, 第7回宇宙太陽発電と無線電力伝送に関する研究会, 2008.3.17, 信学技報SPS2007-24 (2008-03) pp.7-10
篠原真毅	2007		辻正哲, 篠原真毅, 三谷友彦, 並木宏徳, 竹野裕正, 小泉裕樹, 椎橋頭一, 宮田浩充	“マイクロ波を利用したフレッシュコンクリートの単位水量および硬化コンクリート中の鉄筋位置推定方法”, 電子情報通信学会第20回宇宙太陽発電研究会, 第7回宇宙太陽発電と無線電力伝送に関する研究会, 2008.3.17, 信学技報SPS2007-25 (2008-03) pp.11-16
篠原真毅	2007		濱島浩志, 佐藤稔, 野木茂次, 浜本研一, 丹羽直幹, 高木賢二, 篠原真毅, 三谷友彦	“建物内マイクロ波配電システムのための可変電力分配器の特性”, 電子情報通信学会総合大会, 2008.3.18-21, C-2-53
篠原真毅	2007		川井重明, 清田春信, 川崎繁男, 篠原真毅, 三谷友彦	“5.8GHz帯送信用アクティブ集積フェーズドアレーアンテナに用いる小型増幅器の試作”, 電子情報通信学会総合大会, 2008.3.18-21, C-2-39
篠原真毅	2007		山川宏, 橋本弘藏, 川崎繁男, 篠原真毅, 三谷友彦, 平野敬寛, 米倉秀明, 藤原暉雄, 長野	“マイクロ波無線電力伝送技術の飛行船による飛行実証構想”, 電子情報通信学会総合大会, 2008.3.18-21, C-2-126
篠原真毅	2007		伊藤秀起, 高橋健介, 原内貴司, 岡田政也, 胡成余, 敖金平, 河合弘治, 篠原真毅, 丹羽直幹, 大野泰夫, 井川裕介	“マイクロ波整流用GaNショットキーダイオードの特性評価”, 電子情報通信学会総合大会, 2008.3.18-21, C-10-13
篠原真毅	2008	招待	Naoki Shinohara	“Roadmap of Microwave Power Transmission from Ground to Space”, The 4th International Symposium on Innovative Aerial/Space Flyer Systems, Tokyo, 2008.1.14-15, Proceedings
篠原真毅	2008	招待	篠原真毅	“電磁波エネルギー利用の現状とロードマップ“, 日本機械学会マイクロナノ工学専門会議マイクロエネルギー研究会第一回会合, 2008.3.6
篠原真毅	2008	招待	篠原真毅	“ユビキタス電源の現状と期待”, 第7回ケータイ国際フォーラム, 2008.3.12
篠原真毅	2008	招待	篠原真毅	“ユビキタス電源の将来展望”, 電子情報通信学会総合大会, 2008.3.18-21, BS-12-5
篠原真毅	2008	招待	篠原真毅	“マイクロ波の電力応用 – 電波の第4の利用方法 –“, 神奈川県ものづくり技術交流会, 2008.10.15-17, p.251
篠原真毅	2008	招待	篠原真毅	“宇宙太陽発電所SPSとマイクロ波無線電力伝送技術”, 日本マイクログラフィティ応用学会, 2008.11.25-26
篠原真毅	2008		Naoki Shinohara	“Roadmap of Microwave Power Transmission from Ground to Space”, The 92nd RISH Symposium Towards Establishment of Sustainable Humanosphere, Indonesia, 2008.2.23,
篠原真毅	2008		Tomohiko Mitani, Naoki Shinohara, Hiroshi Matsumoto, Masayuki Aiga, Nagisa Kuwahara and Takeshi	“Experimental Study on Axial Distribution of Anode Current in 2.45GHz Oven Magnetrons”, International Vacuum Electronics Conference (IVEC2008), Monterey, 2008.4.22-24, Proceeding pp.443-444
篠原真毅	2008		Naoki Shinohara	“Space Solar Power Station Research Center”, ASEAN COST+3 : New Energy Forum for Sustainable Environment (NEFSE), Kyoto, 2008.5.25-27

篠原真毅	2008	Takashi Watanabe, Masafumi Oyadomari, Takahito Watanabe, Yoichi, Honda, Hiroaki Suzuki, Tomohiko Mitani, and Naoki Shinohara	“Current status of bioethanol production in Japan and technological challenge for lignocellulose conversion in RISH”, VTT-RISH Joint Symposium — Sustainable Utility of Wood Biomass —, Kyoto, 2008.6.5, Proceedings p.18
篠原真毅	2008	Tomohiko Mitani and Naoki Shinohara	“Phase-and-Amplitude-Controlled Magnetron and Its Application for Microwave Heating”, Global Congress on Microwave Energy Applications, Shiga, 2008.8.4-8
篠原真毅	2008	Taro Sonobe, Jaturong Jitputti, Kan Hachiya, Tomohiko Mitani, Naoki Shinohara, and Susumu Yoshikawa	“Synthesis of visible-light-active TiO ₂ Photocatalyst by Microwave Carbon-Modification”, Global Congress on Microwave Energy Applications, Shiga, 2008.8.4-8
篠原真毅	2008	Kensuke Takahashi, Jin-Ping Ao, Yusuke Ikawa, Cheng-Yu Hu, Hiroji Kawai, Naoki Shinohara, Naoki Niwa, and	“GaN Schottky Diodes for Microwave Power Rectification”, 2008 International Conference on Solid State Devices and Materials (SSDM 2008), 2008.9.23-26
篠原真毅	2008	Taro Sonobe, Jaturong Jitputti, Kan Hachiya, Tomohiko Mitani, N. Shinohara and Susumu Yoshikawa	“Optical Properties of the Microwave Carbon-Modified TiO ₂ Photocatalyst”, Pacific Rim Meeting on Electrochemical and Solid-State Science (PRiME 2008), 2008.10.12-17
篠原真毅	2008	Naoki Shinohara, Yushi Miyata, Tomohiko Mitani, Naoki Niwa, Kenji Takagi, Ken-ichi Hamamoto, Satoshi Ujigawa, Jing-Ping Ao, Yasuo	“New Application of Microwave Power Transmission for Wireless Power Distribution System in Buildings”, 2008 Asia-Pacific Microwave Conference (APMC), Hong Kong, 2008.12.16-20, CD-ROM H2-08.pdf
篠原真毅	2008	上田英樹, 安藤真, 篠原真毅, 山川宏, 藤原暉雄, 長野賢司	“ユビキタス電源を目指した、飛行船によるマイクロ波送電実験用ハニカムラジアルラインスロットアンテナの設計試作”, 電子情報通信学会第21回宇宙太陽発電研究会, 2008.4.22, 信学技報SPS2008-03 (2008-04) pp.11-15
篠原真毅	2008	篠原真毅, 三谷友彦, 兒島淳一郎, 橋谷真紀	“大電力マイクロ波無線電力伝送用レクテナの小型化・高効率化に関する研究”, 電子情報通信学会マイクロ波研究会, 2008.5.28-29 信学技報vol. 108, no. 63, MW2008-16, pp.7-10
篠原真毅	2008	三谷友彦, 篠原真毅	“超高周波真空管開発の現状”, 学振委員会(真空ナノエレクトロニクス), 2008.6.26
篠原真毅	2008	篠原真毅	“負荷依存性のある電源接続法に関する検討- 宇宙太陽発電所SPS研究からのアプローチ-“, 第4回有機太陽電池シンポジウム, 2008.7.16-17, 講演要旨集pp. 38-39
篠原真毅	2008	高橋健介, 伊藤秀起, 井川裕介, 岡田政也, 胡成余, 篠原真毅, 丹羽直幹, 敖金平, 大野泰	“マイクロ波整流用GaNショットキーバリアダイオードの試作”, 応用物理学会, 2008.9.2-5

篠原真毅	2008	高橋健介, 伊藤秀起, 原内貴司, 井川裕介, 岡田政也, 胡成余, 赦金平, 河合弘治, 篠原真毅, 丹羽直幹, 大野泰夫	“GaNを用いたマイクロ波整流用ショットキーバリアダイオード”, 応用物理学会, 2008.9.2-5
篠原真毅	2008	山川宏, 橋本弘藏, 川崎繁男, 篠原真毅, 三谷友彦, 高橋文人, 米倉秀明, 平野敬寛, 藤原暉雄, 長野賢司	“飛行船を用いたマイクロ波無線電力伝送実験: 実験概要”, 第11回宇宙太陽発電システム(SPS)シンポジウム, 2008.9.17-18, 講演集in print
篠原真毅	2008	浜本研一, 丹羽直幹, 高木賢二, 宇治川智, 篠原真毅, 三谷友彦, 佐藤稔, 野木茂次	“建築構造物を用いたマイクロ波無線ユビキタス電源の実現 (その6) 統合システムの製作と検証”, 日本建築学会大会, 2007.9.18-20, 予稿集D-2環境工学II pp.1249-1250
篠原真毅	2008	仲井一志, 三谷友彦, 吉村剛, 篠原真毅, 角田邦夫, 今村祐	“シロアリに対する非破壊的マイクロ波処理法の検討—各種シロアリに対するマイクロ波の影響—”, 環境動物昆虫学会, 2008.11
篠原真毅	2008	山川宏, 橋本弘藏, 川崎繁男, 篠原真毅, 三谷友彦, 高橋文人, 平野敬寛, 米倉秀明, 藤原暉雄, 長野賢司	“飛行船を用いたマイクロ波無線電力伝送実験”, 第52回宇宙科学技術連合講演会, 2008.11.5-6
篠原真毅	2008	高橋文人, 橋本弘藏, 篠原真毅	“宇宙太陽発電所SPSのためのマイクロ波送電屋外実験系の開発及び雑音に強い到来方向推定法の研究”, 日本マイクログラビティ応用学会, 2008.11.25-26
篠原真毅	2008	三谷友彦, 鈴木宏明, 親泊政二三, 篠原真毅, 渡辺隆司, 都宮孝彦, 瀬郷久幸	“木質バイオマスからのバイオエタノール生産に向けたマイクロ波加熱前処理装置の研究開発”, 日本化学会, 2009.3
篠原真毅	2008	宮田侑是, 篠原真毅, 三谷友彦, 丹羽直幹, 高木賢二, 浜本研一, 宇治川智, 赦金平, 大野	“GaNショットキーダイオードを用いた大電力レクテナの研究開発”, 2009.3.17-20, 電子情報通信学会総合大会
篠原真毅	2008	鈴木宏明, 三谷友彦, 篠原真毅, 親泊政二三, 渡辺隆司, 都宮孝彦	“木質バイオマス糖化前処理用バッチ式マイクロ波照射容器の検討”, 2009.3.17-20, 電子情報通信学会総合大会
篠原真毅	2008	佐藤稔, 松端孝太, 野木茂次, 浜本研一, 宇治川智, 丹羽直幹, 高木賢二, 三谷友彦, 篠原	“同軸アダプタを用いない導波管型電力分配器から台形導波管への出力結合”, 2009.3.17-20, 電子情報通信学会総合大会
篠原真毅	2008	親泊政二三, 鈴木宏明, 三谷友彦, 篠原真毅, 渡邊崇人, 本田与一, 瀬郷久幸, 都宮孝彦, 渡辺隆司	“マイクロ波照射を用いた木質バイオマス酵素糖化前処理装置の研究開発”, 日本農芸化学会2009年度大会, 福岡国際会議場, 2009.3

篠原真毅	2008		澤田剛一, 高橋健介, 胡成余, 敖金平, 篠原真毅, 丹羽直幹, 大野泰夫	“マイクロ波整流用表面p層GaNショットキーバリアダイオード”, 応用物理学会, 2009.3.30-4.2
篠原真毅	2009	招待	Naoki Shinohara and Shigeo Kawasaki	“Recent Wireless Power Transmission Technologies in Japan for Space Solar Power Station/Satellite”, 2009 IEEE Radio & Wireless Symposium, San Diego, 2009.1.18-22, Proceedings CD-ROM MO2A-4-234.pdf
篠原真毅	2009		篠原真毅, 三谷友彦	“真空技術と宇宙太陽発電所マイクロ波無線電力伝送技術”, 学振委員会(真空ナノエレクトロニクスシンポジウム), 2009.3.4, 予稿集 pp.117-126
篠原真毅	2009		橋本弘藏, 山川宏, 篠原真毅, 三谷友彦, 川崎繁男, 高橋文人, 米倉秀明, 平野敬寛, 藤原暉雄, 長野賢司	“マイクロ波による電力と情報の同時伝送”, 第28回宇宙エネルギーシンポジウム, 2009.3.9
篠原真毅	2009		三谷友彦, 鈴木宏明, 親泊政二三, 篠原真毅, 渡辺隆司, 都宮孝彦, 瀬郷久幸	“木質バイオマスからのバイオエタノール生産を目指したマイクロ波照射前処理用装置の研究開発”, 電子情報通信学会第24回宇宙太陽発電研究会, 第8回宇宙太陽発電と無線電力伝送に関する研究会, 2009.3.16, 信学技報SPS2008-18 (2009-03)
篠原真毅	2009		吉川昇, 園部太郎, 三谷友彦, 篠原真毅, 橋本弘藏, 佐藤元泰, Samuel Kingman, 長崎百	“空間伝送マイクロ波エネルギーによる物質の加熱実験”, 電子情報通信学会第24回宇宙太陽発電研究会, 第8回宇宙太陽発電と無線電力伝送に関する研究会, 2009.3.16, 信学技報SPS2008-19 (2009-03)
篠原真毅	2009		竹野裕正, 田畑陽平, 中本聡, 八坂保能, 三谷友彦, 篠原真毅, 並木宏徳	“長波長マイクロ波を用いた低侵襲ハイパーサーミアの基礎研究III”, 電子情報通信学会第24回宇宙太陽発電研究会, 第8回宇宙太陽発電と無線電力伝送に関する研究会, 2009.3.16, 信学技報SPS2008-20 (2009-03)
篠原真毅	2009		辻正哲, 椎橋頭一, 根岸稔, 並木宏徳, 竹野裕正, 篠原真毅, 三谷友彦, 土屋公則, 渡井祐	“マイクロ波を利用したRC構造物中の鉄筋および欠陥探査方法に関する研究”, 電子情報通信学会第24回宇宙太陽発電研究会, 第8回宇宙太陽発電と無線電力伝送に関する研究会, 2009.3.16, 信学技報SPS2008-21 (2009-03)
杉原薫	2007		杉原薫	「時空間で読み解く歴史—英国議会資料—」、第31回東南アジアセミナー「時空間で地域を観る・解く・語る—地域研究と空間情報科学—」、京都大学東南アジア研究所、2007年9
杉原薫	2007		杉原薫	「持続型生存基盤パラダイムの創出に向けて」、グローバルCOE第1回パラダイム研究会、京大会館、2007年9月10日。
杉原薫	2007		杉原薫	「資本主義の論理と環境の持続性—欧米、東アジア、熱帯の比較史から—」、グローバルCOE 第3回パラダイム研究会、京都大学生存圏研究所、2007年11月19日。
杉原薫	2007		杉原薫	杉原 薫「南アジア史にとって『生存基盤の確保』とは何か」、日本南アジア学会20周年記念連続シンポジウム 第1回「南アジアという方法と視角—比較と連鎖」、京大会館、2007年11月24日。
杉原薫	2007		Sugihara, K.	“The Humanosphere-sustainable Path of Economic Development: A Global Historical Perspective”, The First Kyoto University Southeast Asian Forum in Indonesia on ‘In Search of New Paradigm on Sustainable Humanosphere’, LIPI, Jakarta, 26 th November 2007.

杉原薫	2007		Sugihara, K.	“Labour-intensive Industrialisation in Global History: Some Thoughts on Southeast Asia”, Core University Program Workshop on ‘Private Faces of Power and Institutions in Southeast Asia’, Royal City Hotel, Bangkok, December 6 th 2007.
杉原薫	2007		Sugihara, K.	“Labour-intensive Industrialization in Global History: Its Impact on Global Income Distribution”, 21C COE Workshop on ‘Wealth and Poverty in Economic Development’, Faculty of Economics, University of Tokyo, 9th December 2007.
杉原薫	2007		Sugihara, K.	「The Bumpy Road to Oxford University Press」グローバルCOE「英語出版に向けたワークショップ」第1回、東南アジア研究所、2007年12月13日。
杉原薫	2007		Sugihara, K.	“The West, East Asia and the Tropics in Global Economic Development”, Global History Workshop on ‘Cross-regional Chains in Global History’, Nakanoshima Center, Osaka University, 16 th December 2007.
杉原薫	2007	招待	杉原薫、河野泰之	「生存基盤の持続的発展を目指す地域研究拠点」、シンポジウム「動き出したグローバルCOEプログラム：地域研究の展開と研究教育体制の課題」（地域コンソーシウムなどの共催）、東北大学、2007年11月11日。
杉原薫	2008		杉原薫	(コメント)「小杉泰「乾燥オアシス地帯と文明の『3項連環』論」」グローバルCOE、イニシアティブ1 第2回班研究会、東南アジア研究所、2008年1月7日。
杉原薫	2008		杉原薫	「戦後世界システムと『東アジアの奇跡』—歴史的展望—」、財務省財務総合政策研究所「グローバル化とわが国経済の構造変化に関する研究会」第4回会合、2008年1月29日。
杉原薫	2008		Sugihara, K.	“East Asia, Middle East and the World Economy: The Oil Triangle under Strain”, Afrasia Centre for Peace and Development Studies Symposium on ‘Resources under Stress: Sustainability of the Local Community in Asia and Africa’, Ryukoku University, 24th
杉原薫	2008		Sugihara, K.	“Labour-intensive Industrialisation in Southeast Asia: A Preliminary Comparative Perspective”, Workshop on ‘Labour-intensive Industrialisation in Southeast Asia’, CSEAS, Kyoto University, 1 st March 2008.
杉原薫	2008		Sugihara, K.	“The Humanosphere-sustainable Path of Development: A Global Historical Perspective”, The First International Conference for the Global COE on ‘In Search of Sustainable Humanosphere in Asia and Africa’, Kyodai Kaikan, 12 th March 2008.
杉原薫	2008	招待	Sugihara, K.	“The West, East Asia and the Tropics in Global Economic Development”, Santa Fe Institute Conference on ‘History, Big History and Metahistory: An Approach Through the Sciences of Complexity’, Moana Surfrider Hotel, Honolulu, 19 th March 2008.
杉原薫	2008	招待	Sugihara, K.	“(plenary speaker) Gunder Frank, the East Asian Miracle and Global History”, Conference on ‘Andre Gunder Frank’s Legacy of Critical Social Science’, University of Pittsburgh, Pittsburgh, 12 th April 2008.
杉原薫	2008	招待	Sugihara, K.	“Labour-intensive Industrialisation in Global History”, The Robert S. Strauss Center for International Security and Law, University of Texas at Austin, 16 th April 2008.

杉原薫	2008		Sugihara, K.	“Labour-intensive Industrialisation in Global History”, Economic History Seminar, Department of Economics, Northwestern University, Chicago, 17 th April 2008.
杉原薫	2008		杉原薫	『化石資源世界経済』の形成と構造－エネルギー効率の改善と環境破壊の200年－、グローバルCOE第11回パラダイム研究会、京都大学東南アジア研究所、2008年9月22日。
杉原薫	2008		Sugihara, K.	“Multiple Paths of Economic Development in Global History”, Symposium in commemoration of the Executive Committee Meeting of the International Economic History Association at Kyoto, Inamori Foundation Memorial Hall, Kyoto University, 8 th November
杉原薫	2008		杉原薫	「持続型生存基盤パラダイムの創成－環境・政治・経済を総合する新しいアジア研究－」ワークショップ「地域研究と大学院教育の未来」京都大学吉田キャンパス総合研究2号館、
杉原薫	2008		杉原薫	『化石資源世界経済』の形成と構造－エネルギー効率の改善と環境破壊の200年－、「グローバル化と市民社会」研究会、国際高等研究所、12月13日。
杉原薫	2008		杉原薫	「グローバルヒストリーと複数経済発展径路」グローバルCOEイニシアティブ1研究会、12月
杉原薫	2008		Sugihara, K.	“The South Asian Path of Economic Development”, Workshop on Labour-intensive Industrialisation in South and Southeast Asia, Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, 20 th to 21 st December 2008.
杉原薫	2008	招待	Sugihara, K.	“Kyoto University’s Collaborative Research in Southeast Asia: Contributions of Area Studies”, JSPS International Workshop on ‘International Collaboration for Formation and Development of Science and Technology Community in Southeast Asia: Strategy for Internationalization’, Pullman King Power Bangkok, Bangkok, 1 st February 2008.
杉原薫	2008	招待	Sugihara, K.	(総括コメント: G-COEの紹介を含む) The Fourth Afrasian International Symposium ‘The Question of Poverty and Development in Conflict and Conflict Resolution’, Ryukoku University, 16 th November 2008.
杉原薫	2009		Sugihara, K.	“Multiple Paths of Economic Development in Global History”, Session 19 ‘Globalizing the Historiography. Reciprocal Integration and Future Directions’, Annual Meeting for the American Historical Association, Hilton Hotel, New York, 2 nd January 2009.
杉原薫	2009		Sugihara, K.	(Chair) Session 110. ‘Globalizing the Historiography of State Formation. Comparing Trajectories of State Formation: The Role of Values, Sociopolitical Institutions and Demographic-ecological Conditions’, Annual Meeting for the American Historical Association, Hilton Hotel, New York, 4 th January 2009.
杉原薫	2009		Sugihara, K.	“(Comments) Comments on Islamic Economics from the Perspective of the East Asian Path of Economic Development”, International Workshop on ‘Islamic Economic System and Divergent Paths of Economic Development’, ASAFAS, Kyoto University, 18 th February

杉原薫	2009		Sugihara, K.	(Comments) “Comments on East Asia’s Response to the Global Financial Crisis”, in Session 3 for Group 7 ‘East Asian Economy and Global Financial Crisis’ of the Final Symposium of the JSPS Core University Program ‘The Making of East Asia: from both Macro and Micro Perspectives’, 24 th February 2008.
杉原薫	2009		Sugihara, K.	“Geosphere, Biosphere and Humanosphere: A New Perspective of Modern Global History”, The Second International Conference for the Global COE on ‘Biosphere as a Global Force of Change’, Inamori Foundation Memorial Hall, Kyoto University, 9 th March 2009.
杉原薫	2009		杉原薫	「人類が生き延びて来られたのはなぜかーグローバル・ヒストリーの新しい問いー」第4回京都大学附置研究所・センターシンポジウム「学問のつながりのユニークさ:それがつくる明るい未来」、名鉄ホール、3月14日。
杉原薫	2009	招待	杉原薫	「京都大学グローバルCOEプログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」中間報告」京都大学グローバルCOEプログラム「地球温暖化時代のエネルギー科学拠点」キックオフシンポジウム、京都大学、1月28日。
田辺明生	2007		田辺明生	「ヴァナキュラー・デモクラシーの可能性ーインド・オリッサにおけるポスト・ポストコロニアル的変容」大阪大学グローバルCOEプログラム「コンフリクトの人文国際教育研究拠点」「コンフリクトの人文」セミナー 第2回
田辺明生	2008		Tanabe, A	“Cultural Politics of Life: Vernacular Democracy and Possibilities for Humanosphere-sustainable Development in Contemporary Rural Orissa, India” In Search of Sustainable Humanosphere in Asia and Africa: The First International Workshop, 12-14 March 2008,
田辺明生	2008		Tanabe, A, Tokita, Y	“Cultural Politics of Life: Biomoral Humanosphere and Vernacular Democracy in Rural Orissa, India” (常田夕美子との共同発表). American Anthropological Association 107th Annual Meeting, 19–23 November 2008, San Francisco, California, U.S.
田辺明生	2009		Tanabe, A	“Political Ecology of Life: Ideas on Humanosphere” The Second International Workshop: "Biosphere as a Global Force of Change", 9-11 March 2009, Kyoto University.
田中耕司	2007		Koji Tanaka	“Land and Labor Intensive Agricultural Systems in Monsoon Asia: Comparative Perspectives on the Technological Development in Wet-Rice-Based Farming in Early Modern and Modern Periods” In Search of Sustainable Humanosphere in Asia and Africa: The First International Conference, G-COE, March 2008
田中耕司	2008		田中耕司	「『地域』とグローバル・スタンダード: 地域研究の現場から」日本熱帯生態学会第18回シンポジウム、東京大学弥生講堂、2008年6月22日
田中耕司	2008		田中耕司	「稲と米をめぐるアジア的視野」Humanities Korea「米と生と文明研究」講演会、全北大学、2008年9月24日
田中耕司	2008		Koji Tanaka	“Developing Sulawesi Area Studies: Fifty Year Collaboration between Kyoto University and Hasanuddin University.” International Symposium “Sulawesi Area Studies in 50 Years: In Search of Its Identity and Local Systems,” Gudung PKP, Hasanuddin University, October 11,

谷誠	2007		Tani, M.	Basic characteristics of water distribution within a soil layer on hillslope, The AsiaFlux Workshop 2007, Taoyuan, Taiwan, October 19-22, 2007.
谷誠	2007		Tani, M.	Evaluating an ambivalent effect of slope length on runoff generation using a water storage index, HW1002 - Patterns, thresholds and non-linearities: Towards a new theory of catchment hydrology, The 24th IUGG general Assembly, Perugia, Italy July 10-23, 2007.
谷誠	2008	招待	Tani, M.	Huge contributions of forest to the present water cycle - Findings from recent hydro-meteorological studies, The 5th World water Forum (第5回世界水フォーラム)
脇村孝平	2008		脇村孝平	'Cholera and British Empire in Asia: Trade and Public Health', presented at the International Workshop on 'Networks and Global Governance in the Past and at the Present: Japanese Scholars' Perspectives', History Department, The Chinese University of Hong Kong, March
脇村孝平	2008		脇村孝平	'Health Hazards in 19 th Century India: Malaria and Cholera in Semi-Arid Tropics', presented at the First International Workshop on 'In Search of Sustainable Humansphere in Asia and Africa', Kyoto University, March 12-14, 2008.
脇村孝平	2008		脇村孝平	'Malaria Control, Rural Health and Urban Health: "Social Determinants of Health" in a Historical Perspective' presented at the International Conference on the 'The World Health Organization and the Social Determinants of Health: Assessing Theory, Policy and Practice', The Wellcome Trust Center for the History of Medicine, University of College, London,
脇村孝平	2008		脇村孝平	'Scarcity of Land, Division of Labour and Service Sector: The Labour-intensive Industrialisation in South and Southeast Asia', Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, December 20-21, 2008.
山越言	2007		山越言	「霊長類学にとっての人間＝ヒト問題：野生チンパンジー研究からの視点」第23回日本霊長類学会大会、人類学関連学会協議会合同シンポジウム「人間＝ヒトの謎をめぐって」滋賀県立大学、彦根、2007年7月16日
山越言	2007		Gen Yamakoshi	"Ecology and History of Peri-Village Forest in the Forested Guinea, West Africa." International Symposium, Forest Stewardship and Community Empowerment: Local Commons in Global Context. Kyoto International Community House, Kyoto, 11-12 October,
山越言	2007		山越言	「ギニア共和国森林地域における景観デザインの在来知」「資源と地球環境学」プログラム第1回ワークショップ(秋道・門司・奥宮・山内プロジェクト合同ワークショップ)『資源・食・健康からみた「人間の安全保障」』総合地球環境学研究所、京都、2007年10月27-28日
山越言	2007		山越言	「西アフリカのサバンナ・森林遷移帯の環境史－原植生という幻想の行方－」平成19年 国立民族学博物館共同研究会「地球環境史の構築に関する人類学的研究」国立民族学博物館、吹田市、2007年11月10日
山越言	2008		山越言	「ギニアにあったトトロの森？ーチンパンジーのいる村ボツソウから学んだことー」ジェーングドールインスティテュート・ジャパン平成20年度総会、キャンパスイノベーションセンター東京、東京、2008年4月12日

山越言	2008		山越言	「"創られた"森林景観ーチンパンジーが住む森のなりたちー」グローバルCOEプロジェクト「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」第4イニシアティブ「地域の知的潜在力」研究会、京都大学東南アジア研究所、京都、2008年4月21日
山越言	2008		Gen Yamakoshi	“Nos voisins Chimpanzés: Ecologie de la coexistence avec les hommes et les chimpanzés au village en Guinée” Symposium on Comparative Cognitive Science 2008 “Primate Origins of Human Mind” / Workshop for the 150th anniversary of the French-Japanese relations Day 3. Yoshida Izumidono, Kyoto University, May 31, 2008
山越言	2008		Gen Yamakoshi & Kathelijne Koops	“Life history profiles of female chimpanzees in Bossou over 40 years” XXII Congress of the International Primatological Society. Edinburgh, UK, August 3-8, 2008.
山越言	2008		山越言	「野生動物とともに暮らす知恵: 西アフリカ農村の動物観とチンパンジー保全」ヒトと動物の関係学会関西シンポジウム2008「野生動物の生息地域に暮らす人々の動物観」、大阪ペピイ動物看護専門学校セミナーホール、大阪、2008年12月14日
山本衛	2007	招待	山本衛	中緯度電離圏イレギュラリティの構造と発生機構に関する研究, 田中館賞受賞記念講演, 地球電磁気・地球惑星圏学会第122回講演会, 名古屋大学野依記念学術交流館カンファレンスホール, 2007年9月28日～10月1日.
山本衛	2007	招待	山本衛	中緯度の電離・中性大気相互作用と電離圏結合, 中間圏・熱圏・電離圏研究会基調講演, (独)情報通信研究機構, 2007年11月13日～14日.
山本衛	2007	招待	Yamamoto, M., S. Watanabe, T. Ono, T. Abe, M.-Y. Yamamoto, T. Adachi, A. Saito, A. Chen, R.-R. Hsu, and	WIND, FERIX-2 and ISUAL F-region imaging: Ionospheric Observation Campaigns over Japan in 2007, 2007 AGU Fall Meeting, SA12A-01, San Francisco, December 10-14, 2007.
山本衛	2007		Yamamoto, M., T. Kawamura, S. Fukao, Y. Otsuka, T. Yokoyama, S. Saito, and T.	Low-latitude E-region irregularity and its relationship to background ionosphere and atmosphere studied under the CPEA project, International Symposium on Coupling Processes in the Equatorial Atmosphere, 4-P21, Kyoto University, March 20-23, 2007.
山本衛	2007		Yokoyama, T., S. Fukao, and M. Yamamoto	EAR Contribution to Equatorial Spread F by Taking Successive Snapshots, International Symposium on Coupling Processes in the Equatorial Atmosphere, 4.1-3, Kyoto University,
山本衛	2007		Balan, N., S. Kawamura, A. D. Aylward, T. Nakamura, M. Yamamoto, S. Fukao, M. E. Hagan, W. L. Oliver, H. Alleyne1, and MTEC-S team	MLT and thermospheric F region coupling through mean winds, tides and waves: Observations and modeling International Symposium on Coupling Processes in the Equatorial Atmosphere, 4.2-5 Kyoto University, March 20-23, 2007.
山本衛	2007		Yamamoto, M., T. Adachi, Y. Aoki, A. Saito, Y. Otsuka, S. Saito, and T. Yokoyama	Multi-Instrument Observations of F- and E-Region Ionosphere Coupling over Japan, International CAWSES Symposium, SA31-3, Kyoto University, October 23-27, 2007.

山本衛	2007		Yamamoto, M. K., T. Horinouchi, M. Niwano, N. Nishi, M. Yamamoto, H. Hashiguchi, and S. Fukao	Vertical Wind Observation in the Tropical Upper Troposphere by VHF Wind Profiler - A Case Study -, International CAWSES Symposium, P3-060, Kyoto University, October 23-27, 2007.
山本衛	2007		青木裕一, 山本衛, 斎藤享, 齊藤昭則, 大塚雄一	レーダーによる中緯度電離圏F-E 領域相互作用の統合観測FERIX-2, 日本地球惑星科学連合2007年大会, E114-P021, 幕張メッセ国際会議場, 2007年5月19日～24日.
山本衛	2007		山本衛	GNUradioを用いた衛星ビーコン観測用2周波デジタル受信機の開発, 地球電磁気・地球惑星圏学会第122回講演会, B005-39, 名古屋大学, 2007年9月28日～10月1日.
山本衛	2007		青木裕一, 山本衛, 斎藤享, 齊藤昭則, 大塚雄一	レーダーによる中緯度電離圏F-E 領域相互作用の統合観測FERIX-2, 地球電磁気・地球惑星圏学会第122回講演会, B005-29, 名古屋大学, 2007年9月28日～10月1日.
山本衛	2007		斎藤享, 小川忠彦, 山本衛, 橋口浩之	MUレーダー超多チャンネルイメージングによる中緯度電離圏Type-1 エコーの空間構造の研究, 地球電磁気・地球惑星圏学会第122回講演会, B005-26, 名古屋大学, 2007年9月28
山本衛	2007		山本衛	衛星ビーコン観測用2周波デジタル受信機-システム開発とテスト観測状況-, 電離圏の利用と影響に関するシンポジウム, (独)情報通信研究機構, 2007年11月15日.
山本衛	2008	招待	Yamamoto, M., G. Hassenpflug, S. Saito, H.	MU radar 1D, 2D, and 3D imaging of atmosphere and ionosphere, 12th International Symposium on Equatorial Aeronomy (ISEA-12), Crete, Greece, May 18-24, 2008.
山本衛	2008	招待	Fukao, S. and M. Yamamoto	New aspects of mid-latitude plasma plumes revealed by radio and optical observations, 12th International Symposium on Equatorial Aeronomy (ISEA-12), Crete, Greece, May 18-24,
山本衛	2008	招待	Yamamoto, M., A. Yuichi Aoki, and S. Saito	Radar study of coupling processes between mid-latitude ionospheric E and F regions based on the FERIX experiment, Asia Oceania Geosciences Society (AOGS) 5th Annual Meeting, Busan, Korea, June 16-20, 2008.
山本衛	2008	招待	山本衛	MUレーダー・赤道大気レーダーの経験から見たPANSYの可能性, 地球惑星圏学会第124回講演会, S001-07, 仙台市戦災復興記念館, 2008年10月9日～12日.
山本衛	2008		Yamamoto, M.	New development of digital beacon receiver based on GNU Radio, 12th International Symposium on Equatorial Aeronomy (ISEA-12), Crete, Greece, May 18-24, 2008.
山本衛	2008		Yamamoto, M.-Y., Y. Yokoyama, H. Habu, T. Abe, S. Watanabe, M. Yamamoto, Y. Otsuka, A. Saito, T. Ono, and M. Nakamura	WIND rocket campaign: Lithium release experiment in evening midlatitude thermosphere, 12th International Symposium on Equatorial Aeronomy (ISEA-12), Crete, Greece, May 18-24, 2008.
山本衛	2008		Patra, A. K., N. V. Rao, T. Yokoyama, Y. Otsuka, and M. Yamamoto	Intriguing details of 150km radar echoes revealed by off-equatorial observations made from Gadanki and Kototabang, 12th International Symposium on Equatorial Aeronomy (ISEA-12), Crete, Greece, May 18-24, 2008.
山本衛	2008		Yokoyama, T., Y. Otsuka, M. Yamamoto, and D. L. Hysell	Study on the Perkins instability by E-F coupled three-dimensional simulation model, 12th International Symposium on Equatorial Aeronomy (ISEA-12), Crete, Greece, May 18-24,

山本衛	2008		Yamamoto, M., and K. Okumura	New Development of Digital Beacon Receiver Based on GNU Radio, Asia Oceania Geosciences Society (AOGS) 5th Annual Meeting, Busan, Korea, June 16-20, 2008.
山本衛	2008		Watanabe, S., S. Nanbu, T. Abe, H. Habu, T. Ono, Y. Otsuka, A. Saito, M. Yamamoto, and M.-Y.	WIND Campaign -Rocket Experiment for Lithium Release-, Asia Oceania Geosciences Society (AOGS) 5th Annual Meeting, Busan, Korea, June 16-20, 2008.
山本衛	2008		Patra, A. K., T. Yokoyama, Y. Otsuka, and M. Yamamoto	Daytime 150-km Echoes Observed with the Equatorial Atmosphere Radar in Indonesia: First results, Asia Oceania Geosciences Society (AOGS) 5th Annual Meeting, Busan, Korea, June
山本衛	2008		Saito, A., M. Yamamoto, S. Watanabe, S. Nanbu, T. Ono, T. Abe, H. Habu, Y. Otsuka, and M. Y. Yamamoto	Growth of Medium-Scale Traveling Ionospheric Disturbances Observed During the WIND Rocket Campaign Period, Asia Oceania Geosciences Society (AOGS) 5th Annual Meeting, Busan, Korea, June 16-20, 2008.
山本衛	2008		Yamamoto, M., Y. Aoki, and S. Saito	Radar study of coupling processes between midlatitude ionospheric E and F regions based on the FERIX experiment, 37 th COSPAR Scientific Assembly, Montreal, Canada, July 13-20,
山本衛	2008		Yokoyama, T., Y. Otsuka, M. Yamamoto, and D. L. Hysell	Study on the Perkins instability by E-F coupled three-dimensional simulation model, 37 th COSPAR Scientific Assembly, Montreal, Canada, July 13-20, 2008.
山本衛	2008		Yamamoto, M.-Y., S. Watanabe, Y. Yokoyama, H. Habu, T. Abe, M. Yamamoto, Y. Otsuka, A. Saito, T. Ono,	Thermospheric neutral wind measurement by three rocket-released Lithium clouds: WIND Campaign, 37 th COSPAR Scientific Assembly, Montreal, Canada, July 13-20, 2008.
山本衛	2008		Watanabe, S., T. Abe, H. Habu, M. Nakamura, T. Ono, Y. Otsuka, A. Saito, M. Yamamoto, and M.-Y.	Lithium release experiment in the thermosphere, 37 th COSPAR Scientific Assembly, Montreal, Canada, July 13-20, 2008.
山本衛	2008		Fukao, S., and M. Yamamoto	Two-dimensional radar imaging of field-aligned irregularities at midlatitude ionosphere with the MU Radar, XXIX General Assembly of the International Union of Radio Science (Union Radio Scientifique Internationale-URSI), Chicago, USA, August 7-16, 2008.
山本衛	2008		Yokoyama, T., A. K. Patra, Y. Otsuka, M. Yamamoto, and D. L. Hysell	Zonal asymmetry of daytime E-region and 150-km echoes observed by Equatorial Atmosphere Radar in Indonesia, XXIX General Assembly of the International Union of Radio Science (Union Radio Scientifique Internationale-URSI), Chicago, USA, August 7-16,
山本衛	2008		Yamamoto, M., M. Ishii, Y. Otsuka, K. Shiokawa, A. Saito, T. Tsuda, and S. Fukao	Japan contribution to studies of low-latitude and equatorial ionosphere over Southeast Asia, 2008 AGU Fall Meeting, San Francisco, December 15-19, 2008.

山本衛	2008	田畑悦和, 橋口浩之, 山本真之, 山本衛, 柴垣佳明, 下舞豊志, 山中大学, 森修一, Fadli Syamsudin, Timbul	ウィンドプロファイラー観測に基づくインドネシア海洋大陸における日変化特性, 第22回大気圏シンポジウム, 2008年2月27～28日, JAXA宇宙科学研究本部, 相模原.
山本衛	2008	斎藤享, 深尾昌一郎, 山本衛, 大塚雄一	赤道大気レーダーにより観測されたプラズマバブルFAIの衰退過程, 第22回大気圏シンポジウム, 2008年2月27～28日, JAXA宇宙科学研究本部, 相模原.
山本衛	2008	大塚雄一, 小川忠彦, 横山竜宏, 山本衛, Effendy, A. K.	インドネシアにおける沿磁力線不規則構造のVHFレーダー観測, 第22回大気圏シンポジウム, 2008年2月27～28日, JAXA宇宙科学研究本部, 相模原.
山本衛	2008	深尾昌一郎, Hubert LUCE, 山本衛, 橋口浩之	MUレーダーによる対流圏界面のケルビンヘルムホルツ不安定の観測, 第22回大気圏シンポジウム, 2008年2月27～28日, JAXA宇宙科学研究本部, 相模原.
山本衛	2008	山本真行, 横山雄生, 渡部重十, 阿部琢美, 羽生宏人, 大塚雄一, 齊藤昭則, 山本衛, 小野	S-520-23号ロケット放出リチウム共鳴散乱光による熱圏風測定, 第22回大気圏シンポジウム, 2008年2月27～28日, JAXA宇宙科学研究本部, 相模原.
山本衛	2008	青木裕一, 斎藤享, 足立透, 山本衛	統合観測FERIX-2による中緯度電離圏E-F領域相互作用に関する研究, 第22回大気圏シンポジウム, 2008年2月27～28日, JAXA宇宙科学研究本部, 相模原.
山本衛	2008	山本真之, 岸豊久, 中村卓司, 山本衛, 橋口浩之, 深尾昌一郎, 西憲敬	MUレーダーとレイリー/ラマンライダーによる中緯度域の巻雲観測, 第22回大気圏シンポジウム, 2008年2月27～28日, JAXA宇宙科学研究本部, 相模原.
山本衛	2008	山岡雅史, 足立透, 山本衛, Alfred Chen, Chun-Chieh Hsiao, Rue-Ron Hsum	FORMOSAT-2衛星搭載光学観測器ISUALによる630nm大気光の鉛直構造解析, 第22回大気圏シンポジウム, 2008年2月27～28日, JAXA宇宙科学研究本部, 相模原.
山本衛	2008	奥村健太, 山本衛	デジタル受信機を用いた衛星ビーコン観測からの電離圏全電子数推定法の開発, 第22回大気圏シンポジウム, 2008年2月27～28日, JAXA宇宙科学研究本部, 相模原.
山本衛	2008	山本衛, 青木裕一, 斎藤享, 深尾昌一郎	統合観測FERIX-2による中緯度電離圏E-F領域相互作用に関する研究, 日本地球惑星科学連合2008年大会, E114-P032, 幕張メッセ国際会議場, 2008年5月25日～30日.
山本衛	2008	渡部重十, 南部慎吾, 阿部琢美, 大塚雄一, 齊藤昭則, 山本衛, 山本真行	リチウム放出実験による熱圏電離圏結合過程の研究-WINDキャンペーン-, 日本地球惑星科学連合2008年大会, E114-007, 幕張メッセ国際会議場, 2008年5月25日～30日.
山本衛	2008	山岡雅史, 足立透, 山本衛, 大塚雄一, A. Chen, C.-C. Hsiao, R.-R. Hsu	FORMOSAT-2/ISUALによる電離圏F領域の630nm大気光の鉛直構造の観測, 日本地球惑星科学連合2008年大会, E114-011, 幕張メッセ国際会議場, 2008年5月25日～20日.
山本衛	2008	斎藤享, 深尾昌一郎, 山本衛, 大塚雄一, 丸山隆	赤道大気レーダーにより観測されたプラズマバブルFAIの衰退過程, 日本地球惑星科学連合2008年大会, E114-015, 幕張メッセ国際会議場, 2008年5月25日～30日.
山本衛	2008	大塚雄一, 横山竜宏, 塩川和夫, 小川忠彦, 山本衛	インドネシアにおけるF領域沿磁力線不規則構造のレーダー観測, 日本地球惑星科学連合2008年大会, E114-P031, 幕張メッセ国際会議場, 2008年5月25日～30日.

山本衛	2008	中村卓司, 山本衛, 橋口浩之, 山本真之	ひらめき☆ときめきサイエンスによる京都大学信楽MU観測所の中高校生向アウトリーチ「レーザービームで気象観測をやってみよう」, 日本地球惑星科学連合2008年大会, A003-P013, 幕張メッセ国際会議場, 2008年5月25日～30日.
山本衛	2008	山本衛, S. V. Thampi	GNU Radioを用いた衛星ビーコン観測用2周波デジタル受信機の開発(2), 地球惑星圏学会第124回講演会, B005-P025, 仙台市戦災復興記念館, 2008年10月9日～12日.
山本衛	2008	山岡雅史, 足立透, 山本衛, 大塚雄一, 塩川和夫, A. Chen, C.-C. Hsiao, R.-R. Hsu	630nm大気光の衛星・地上同時観測に基づく中規模伝搬性電離圏擾乱の構造解析, 地球惑星圏学会第124回講演会, B005-19, 仙台市戦災復興記念館, 2008年10月9日～12日.
山本衛	2008	足立透, 山岡雅史, 山本衛, 大塚雄一, H. Liu, 渡部重十, C.-C. Hsiao, A. Chen, R.-	FORMOSAT-2/ISUALによって観測された630nm大気光の高度・緯度分布: プラズマ密度観測との比較, 地球惑星圏学会第124回講演会, B005-20, 仙台市戦災復興記念館, 2008年10月9日～12日.
山本衛	2008	水谷徳仁, 大塚雄一, 塩川和夫, 横山竜宏, 山本衛, A. K. Patra	赤道大気レーダーで昼間に観測された高度150km沿磁力線不規則構造, 地球惑星圏学会第124回講演会, B005-06, 仙台市戦災復興記念館, 2008年10月9日～12日.
山本衛	2008	Thampi, S. V., 山本衛, 齊藤昭則,	First results of ionospheric tomography of beacon TEC data from a network experiment along 135° E longitude over Japan, 地球惑星圏学会第124回講演会, B005-22, 仙台市戦災復興記念館, 2008年10月9日～12日.
山本衛	2008	齊藤昭則, 阿部琢美, 坂野井健, 大塚雄一, 田口真, 吉川一朗, 山崎敦, 鈴木睦, 中村卓司, 山本衛, 河野英昭, 石井守, 星野尾一明, 坂野井和代, 藤原均, 久保田実, 江尻省	国際宇宙ステーションからの地球超高層大気撮像観測計画, 地球惑星圏学会第124回講演会, B005-43, 仙台市戦災復興記念館, 2008年10月9日～12日.
山本衛	2008	坂野井健, 大塚雄一, 山崎敦, 武山芸英, 小淵保幸, 齊藤昭則, 江尻省, 中村卓司, 阿部琢美, 鈴木睦, 久保田実, 田口真, 吉川一朗, 星野尾一明, 坂野井和代, 藤原均, 山本衛, 石井守, 河野英昭	Current status of ISS-IMAP/VISI: the observation plan of visible airglow distributions in the wide-range, 地球惑星圏学会第124回講演会, B005-P008, 仙台市戦災復興記念館, 2008年10月9日～12日.

山本衛	2008	山崎敦, 吉川一朗, 村上豪, 吉岡和夫, 齊藤昭則, 阿部琢美, 鈴木睦, 坂野井健, 大塚雄一, 田口真, 中村卓司, 山本衛, 河野英昭, 石井守, 星野尾一明, 坂野井和代, 藤原均, 久保田実, 江尻省	Ionospheric and plasmaspheric observation plan by an EUV imaging on the ISS-IMAP mission, 地球惑星圏学会第124回講演会, B005-P009, 仙台市戦災復興記念館, 2008年10月9日～12日.
山本衛	2008	南部慎吾, 渡部重十, 阿部琢美, 羽生宏人, 中村正人, 小野高幸, 大塚雄一, 山本衛, 齊藤昭則, 山本真行	リチウム放出実験 —WINDキャンペーン—, 地球惑星圏学会第124回講演会, B005-P017, 仙台市戦災復興記念館, 2008年10月9日～12日.
山本衛	2009	山本衛, S. V. Thampi	GNU Radioビーコン受信機の開発状況, 第23回大気圏シンポジウム, JAXA宇宙科学研究本部, 相模原, 2009年2月26～27日.
山本衛	2009	山岡雅史, 足立透, 山本衛, 大塚雄一, 塩川和夫, A. Chen, C.-C. Hsiao, R.-R. Hsu	FORMOSAT-2/ISUALを用いた630nm大気光観測に基づく電離圏三次元構造の研究, 第23回大気圏シンポジウム, JAXA宇宙科学研究本部, 相模原, 2009年2月26～27日.
山本衛	2009	Thampi, S. V., 山本衛, C. H. Lin	First observations of the mid-latitude summer night time anomaly using beacon tomography over Japan, 第23回大気圏シンポジウム, JAXA宇宙科学研究本部, 相模原, 2009年2月26～
山本衛	2009	横山竜宏, D. L. Hysell, 大塚雄一, 山本衛	中緯度電離圏E-F領域結合数値モデルによる北西-南東波面構造の形成, 第23回大気圏シンポジウム, JAXA宇宙科学研究本部, 相模原, 2009年2月26～27日.
山本衛	2009	深尾昌一郎, H. Luce, 妻鹿友昭, 山本真之, 山本衛, 田尻拓也, 中里真久	Radar observations of mammatus clouds and turbulence in three frequency bands, 第23回大気圏シンポジウム, JAXA宇宙科学研究本部, 相模原, 2009年2月26～27日.
山本衛	2009	妻鹿友昭, 山本真之, 橋口浩之, 山中大学, H. Luce, 山本衛, 深尾昌一郎	赤道大気レーダーの周波数干渉法を用いた熱帯の乱流の初期観測結果, 第23回大気圏シンポジウム, JAXA宇宙科学研究本部, 相模原, 2009年2月26～27日.
山本衛	2009	田畑悦和, 橋口浩之, 山本真之, 山本衛, 柴垣佳明, 下舞豊志, 山中大学, 森修一, F. Shamsdin, T. Manik, Erlansyar	インドネシア海洋大陸域における客観解析データの精度評価, 第23回大気圏シンポジウム, JAXA宇宙科学研究本部, 相模原, 2009年2月26～27日.
山本衛	2009	前川泰之, 柴垣佳明, 佐藤亨, 山本衛, 橋口浩之, 深尾昌一	赤道域および温帯対流圏におけるKu帯衛星通信電波の降雨減衰特性, 第23回大気圏シンポジウム, JAXA宇宙科学研究本部, 相模原, 2009年2月26～27日.

山本衛	2009	坂野井健, 山崎敦, 大塚雄一, 田口真, 阿部琢美, 武山芸英, 小淵保幸, 齊藤昭則, 江尻省, 中村卓司, 鈴木睦, 久保田実, 吉川一朗, 星野尾一明, 坂野井和代, 藤原均, 山本衛, 石井守, 陣英克, 河野英昭	ISS-IMAP搭載可視分光撮像装置VISIによる大気光観測計画, 第23回大気圏シンポジウム, JAXA宇宙科学研究本部, 相模原, 2009年2月26~27日.
山本衛	2009	水谷徳仁, 大塚雄一, 塩川和夫, 横山竜宏, 山本衛, A. K. Patra, 丸山隆, 石井守	赤道大気レーダーで昼間に観測された高度150kmの沿磁力線不規則構造, 第23回大気圏シンポジウム, JAXA宇宙科学研究本部, 相模原, 2009年2月26~27日.
柳澤雅之	2007	柳澤雅之	「ベトナム紅河デルタ農村社会の変容 -コックタイン合作社における農業生産構造の変化-」、ベトナム社会主義化研究会(国立民族学博物館共同研究「社会主義的近代化の経験に関する歴史人類学的研究」主催)、国立民族学博物館、2007年4月21日
柳澤雅之	2007	柳澤雅之	「バッコクの農業生産 -合作社と農民の役割分担-」、研究会「日本におけるベトナム村落研究の現在とその可能性」(ベトナム村落研究会主催)、東京大学、2007年5月6日
柳澤雅之	2007	柳澤雅之	「フィールドワークから紡ぎだす -地域研究を教育する-」、研究会「地域研究と教育」(京都大学地域研究統合情報センター個別共同研究ユニット「地域研究における記述」主催)、京都大学地域研究統合情報センター、2007年7月21日
柳澤雅之	2007	柳澤雅之	「時空間で語る社会変容 -東南アジア大陸部山地-」、第31回東南アジアセミナー「時空間で地域を観る・解く・語る -地域研究と空間情報科学-」、京都大学東南アジア研究所、2007年9月5日
柳澤雅之	2007	柳澤雅之	「人と自然の共生研究」、グローバルCOE第1回パラダイム研究会、京大会館、2007年9月
柳澤雅之	2007	Yanagisawa, M. and Nghiem Phuong Tuyen	“A Border Town between Two Economic Tigers”, Presentation at International symposium on Transborder environmental and natural resource management, December 5-6, Kyoto University, Kyoto, Japan.
柳澤雅之	2008	Yanagisawa, M	“Comments on Forest-based production systems in Mainland Southeast Asia”, International Workshop on “Towards sustainable land-use in tropical Asia” The Association for Tropical Biology and Conservation, 23rd-26th April 2008, Kuching, Sarawak, Malaysia
柳澤雅之	2008	柳澤雅之	「自然生態資源の利用における地域コミュニティ・制度・国際社会」、京都大学地域研究統合情報センター・全国共同研究ワークショップ「地域がかえる制度、制度がかえる地域：資源と国家をめぐって」、2008年4月26日~27日、京大会館
柳澤雅之	2008	柳澤雅之	「複合共同研究「自然生態資源の利用における地域コミュニティ・制度・国際社会」」、京都大学地域研究統合情報センター平成19年度全国共同利用研究報告会、2008年4月27日、
柳澤雅之	2008	柳澤雅之	「東南アジア大陸部における資源管理国家体制の比較」、京都大学地域研究統合情報センター平成19年度全国共同利用研究報告会、2008年4月27日、京大会館

柳澤雅之	2008		柳澤雅之	「コメント: 東南アジア生態史の構築に向けて」、第79回東南アジア学会セッション『東南アジア生態史の構築に向けて』、2008年6月8日、大阪大学
柳澤雅之	2008		柳澤雅之	「地域社会の制度や社会に埋め込まれた自然環境条件を探る」、地域研究方法論研究会(第1回)(京都大学地域研究統合情報センター共同研究会『地域研究方法論』)、2008年11月14日、東京大学
柳澤雅之	2009		柳澤雅之	「地域研究は科学か?」、地域研究方法論研究会(第2回)(京都大学地域研究統合情報センター共同研究会『地域研究方法論』)、2009年2月10日、早稲田大学
柳澤雅之	2009		Yanagisawa, M	“Biosphere as a mediator between Geosphere and Humanosphere: Overview of the Session 2” The 2nd International Conference of Kyoto University G-COE Program “Biosphere as a Global Force of Changes” Inamori Memorial Hall, Kyoto University March 9-11, 2009,
矢野浩之	2007	招待	矢野浩之	International Nanofiber Symposium 2007
矢野浩之	2007	招待	矢野浩之	International Cellulose Conference 2007
矢野浩之	2007	招待	矢野浩之	International Academy of Wood Science 2007 Annual Meeting
矢野浩之	2007	招待	矢野浩之	European-Japanese Workshop on Cellulose and Functional Polysaccharides 2007
矢野浩之	2007		矢野浩之	第57回日本木材学会大会:8件(矢野)
矢野浩之	2008		矢野浩之	第58回日本木材学会大会:8件(矢野)
矢野浩之			矢野浩之	セルロース学会第14回年次大会 3件(矢野)
矢野浩之	2007		矢野浩之	2007年度繊維学会秋季研究発表会 2件(矢野)
矢野浩之			矢野浩之	日本材料学会第56期学術講演会 2件(矢野)
矢野浩之			矢野浩之	第56回高分子討論会 1件(矢野)
矢野浩之			矢野浩之	2 nd International Cellulose Conference 7件(矢野)
矢野浩之			矢野浩之	Gordon Research Conference Composites 1件(矢野)
矢野浩之			矢野浩之	The 10th Pacific Polymer Conference 1件(矢野)
矢野浩之			矢野浩之	Research Institute for Sustainable Humanosphere (Kyoto University) - School of Biological Sciences (universiti Sains Malaysia) Seminar (The 83rd RISH Symposium) 1件(矢野)
矢野浩之		招待	矢野浩之	京都大学春秋講義
矢野浩之		招待	矢野浩之	京都大学農学研究科シンポジウム
矢野浩之		招待	矢野浩之	京都市産業技術研究所工業技術センター成果発表会(講師)
矢野浩之		招待	矢野浩之	バイオマス産業社会ネットワーク京都バイオマス・スクール
矢野浩之		招待	矢野浩之	日本接着学会セミナー
矢野浩之		招待	矢野浩之	食品の物性に関するシンポジウム
矢野浩之		招待	矢野浩之	新材料新技術利用研究会
矢野浩之		招待	矢野浩之	炭化物利用研究会
矢野浩之		招待	矢野浩之	日本接着学会セミナー
矢野浩之		招待	矢野浩之	近畿化学協会高機能材料セミナー
矢野浩之		招待	矢野浩之	高分子学会水と膜研究会

矢野浩之		招待	矢野浩之	活性炭研究会
矢野浩之		招待	矢野浩之	9th International Conference on Wood & Biofiber Plastic Composites
矢野浩之		招待	矢野浩之	The 10th Pacific Polymer Conference
Abinales, Patricio N.	2007		Abinales, Patricio N.	When 'Baby' Kills: Violence in a Philippine Golden Ghetto, paper presented at the Core University Program Special Seminar Project 8 on Changing 'Families', Bangkok, Thailand, 2-
Abinales, Patricio N.	2007		Abinales, Patricio N.	Frontier, Empty, Wild and Undeveloped: National Development and Mindanao Island, Southern Philippines, to be presented at the conference on Checkpoints and Chokepoints; Learning from Mindanao Development Paradigms and Practices, sponsored by the Mindanao Studies Consortium. Davao City, Philippines, February 23-24, 2007.
Abinales, Patricio N.	2007		Abinales, Patricio N.	The Rise and Fall of the Philippine Student Movement, presented at the Seminar on Social Movements, Third World Studies Center, University of the Philippines, February 27, 2007.
足立明	2008		足立明	「活動における多様な知のありよう」「人・モノ・技術のネットワークへのイントロダクション」(イニシアティブ4 研究会)、2008年6月20日
足立透	2007		Adachi, T., H. Fukunishi, Y. Takahashi, R.-R. Hsu, H.-T. Su, A. B. Chen, S. B. Mende, H. U. Frey, and L.-C. Lee,	Electrodynamical processes in sprites derived from FORMOSAT-2/ISUAL measurements, 日本地球惑星科学連合2007年大会、千葉、幕張、2007.
足立透	2007		Adachi, T., M. Yamamoto, Y. Takahashi, A. B. Chen, H.-T. Su, R.-R. Hsu, H. U. Frey, and S. B. Mende	Vertical and horizontal structures of 630-nm airglow observed with FORMOSAT-2/ISUAL, 第122回地球電磁気・地球惑星圏学会、愛知、名古屋、2007.
足立透	2007		Adachi, T., H. Fukunishi, Y. Takahashi, Y. Hiraki, R.-R. Hsu, H.-T. Su, A. B. Chen, S. B. Mende, H. U. Frey, and L.-C. Lee,	New results of SPRITE by ISUAL/FORMOSAT-2 – Estimation of electric fields in sprites - 2007 ITT meeting, 奈良、奈良、2007.
足立透	2007	招待	足立透	雷・スプライトによる対流圏・電離圏間の結合～Overview～、2007 MTI研究会、東京、小金井、2007.
足立透	2008		足立透、大矢浩代、土屋史紀、高橋幸弘	「VLF帯電波観測網による東南アジア域の雷・電離圏活動のモニタリング」第22回大気圏シンポジウム
足立透	2008		足立透	東南アジア域における雷放電活動のモニタリング、GCOE次世代イニシアティブ研究助成第3回研究会、京都、宇治、2008.
足立透	2008		足立透	スプライトと気象、全国SSH校コンソーシアム「高々度発光現象スプライトの同時観測」に関する第2回研究会、高知、高知、2008.
足立透	2008		足立透	東南アジア域における雷放電活動のモニタリング、GCOE次世代イニシアティブ研究助成報告会、京都、京都、2008.

足立透	2008	招待	T. Adachi, Y. Takahashi, R.-R. Hsu, H.-T. Su, A. B. Chen, S. B. Mende, and H. U. Frey,	Transient Luminous Events as Lightning Effects in the Lower Ionosphere: Recent Progresses by ISUAL Measurements on FORMOSAT-2 satellite, International Symposium on Equatorial Atmosphere-12, Crete, Greece, 2008.
足立透	2008		Adachi, T., Y. Takahashi, A. B. Chen, R.-R. Hsu, H.-T. Su, H. U. Frey, and S. B. Mende,	Implications of lightning processes for initiations of sprites and halos derived from ISUAL measurements, 日本地球惑星科学連合2007年大会、千葉、幕張、2008.
足立透	2008		足立透、大矢浩代、土屋史紀、高橋幸弘、山本衛	東南アジアにおける雷活動の光学・電磁波観測システムの構築、日本地球惑星科学連合2008年大会、千葉、幕張、2008.
足立透	2008		Adachi, T., H. Ohya, F. Tsuchiya, and Y. Takahashi,	VLF observation network in the Southeast Asia, Working Group Meeting for the Sprite Study, 千葉、幕張、2008.
足立透	2008		足立透、山本衛、橋口浩之、森修一、櫻井南海子、大矢浩代、土屋史紀、高橋幸弘、	赤道域における雷活動の観測－科学目標とシステムの諸元－、赤道大気レーダーシンポジウム、2008.
足立透	2008		Adachi, T., M. Yamaoka, M. Yamamoto, Y. Otsuka, H. Liu, S. Watanabe, C.-C. Hsiao, A. B. Chen, R.-R. Hsu	Altitude-latitude distribution of 630-nm airglow observed with the FORMOSAT-2/ISUAL: A comparison with plasma density measurements, 第124回地球電磁気・地球惑星圏学会、宮城、仙台、2008.
足立透	2008		Adachi, T., H. Frey, Y. Takahashi, A. B. Chen, R.-R. Hsu, H.-T. Su, and S. B.	Multi-spectral measurements of sprites with FORMOSAT-2/ISUAL: consistency and inconsistency with theories, 第124回地球電磁気・地球惑星圏学会、宮城、仙台、2008.
足立透	2008		Adachi, T., S. Cummer, J. Li, Y. Takahashi, R.-R. Hsu, H.-T. Su, A. B. Chen, S. B. Mende, and H. U. Frey,	Correlated optical and radio signatures in sprite-producing lightning, 2008 AGU fall meeting, San Francisco, California, USA, 2008.
足立透	2008		Adachi, T.	Multi-spectral Measurements of TLEs & Lightning with FORMOSAT-2/ISUAL, ONR Lightning-Ionosphere Workshop, Stanford, California, USA, 2009.
青山 卓史	2008	invited	Takashi Aoyama, Hiroaki Kusano, Christa Testerink, Joop E. M. Vermeer, Tomohiko Tsuge, Hiroaki Shimada, and Atsuhiko Oka	The 9 th International Congress on Cell Biology, October 7-10, 2008 (Seoul, Korea), "Phospholipid Signaling in Root Hair Development.", Teun Munnik (Chair of Session, Invited)
青山 卓史	2008		青山卓史	第31回日本分子生物学会年会、第81回に本生化学会大会、合同大会、シンポジウム、2008年12月9-12日、「植物細胞形態形成におけるリン脂質シグナルの役割」
青山 卓史	2008		佐藤麻紀子、松山友美、中田理恵子、青山卓史、井上裕康	第31回日本分子生物学会年会、第81回に本生化学会大会、合同大会、2008年12月9-12日、「大腸菌を用いた味覚修飾活性を有する組換えミラクリンの発現」

青山 卓史	2008		草野博彰、シヤクタカシ、内藤夏佳、鶴巻由美、田中 基、佐々木忠将、青山卓史、山川博幹、島田浩章	第31回日本分子生物学会年会、第81回に本生化学会大会、合同大会、2008年12月9-12日、「イネの胚乳形成におけるOsCEO遺伝子の機能解析」、草野博彰、シヤクタカシ、内藤夏佳、鶴巻由美、田中 基、佐々木忠将、青山卓史、山川博幹、島田浩章
青山 卓史	2008		谷口幸美、下島美恵、太田啓之、青山卓史	第21回植物脂質シンポジウム、2008年11月28-29日、「シロイヌナズナのホスホリパーゼD遺伝子PLD α 2の発現と機能」
青山 卓史	2008		谷口幸美、柘植知彦、岡 穆宏、青山卓史	日本植物生理学会・2008年度年会、2008年3月20-22日、「リン酸欠乏下におけるシロイヌナズナ・ホスホリパーゼD(PLD α 2)の機能解析」
青山 卓史	2008		真木祐子、佐古香織、山崎直子、園田 裕、今井久美子、青山卓史、山口淳二	日本植物生理学会・2008年度年会、2008年3月20-22日、「トライコームの形成を指標とした26SプロテアソームサブユニットRPT2aの機能解析」
青山 卓史	2008		草野博彰、Christa Testerink、Joop E. M. Vermeer、安田敬子、柘植知彦、島田浩章、岡穆宏、Teun Munnik、青山卓	日本植物生理学会・2008年度年会、2008年3月20-22日、「ホスファチジルイノシトールリン酸5-キナーゼPIP5K3は根毛先端伸長の鍵調節因子である」
藤田幸一	2008		藤田幸一	『緑の革命』と経済的離陸：インドの経験から何を学ぶか？」2008年10月20日、パラダイム研究会。
藤田素子	2009		Motoko FUJITA	Biodiversity and Ecosystem Function in the Human-made Landscape: Birds Transport Human-Derived Nutrients into Urban Forests. The Second International Conference of Kyoto University Global COE Program, 2009.3.9
藤田素子	2009		Motoko Fujita, Dewi M. Prawiradilaga and Tsuyoshi Yoshimura	The Role of Remnant Forest in Conserving Bird Diversity in Acacia Plantation in Indonesia. The Second International Conference of Kyoto University Global COE Program, 2009.3.10
藤田素子	2008		Motoko Fujita, Tsuyoshi Yoshimura, Dewi Prawiradilaga, Yuli Lestari,	熱帯大規模アカシア植林地における生物多様性の評価および鳥類相の変化に起因する物質循環への影響. GCOE-次世代イニシアティブ報告会. 2008.4.12
藤田素子	2008		藤田素子, Dewi Prawiradilaga, 吉村剛	鳥類の多様性を損なわない熱帯大規模植林は可能か？日本生態学会第55回(福岡). 2008.3.16
藤田素子	2008		Motoko Fujita, Dewi M. Prawiradilaga and Tsuyoshi Yoshimura	Evaluation of bird diversity in Acacia plantation forests. ATBC-Asia International Conference, Kuching, Malaysia. 2008.4.24
藤田素子	2008		藤田素子	持続可能なアカシア植林地に関する生態学的研究. 第94回生存圏シンポジウム 生存圏萌芽・融合ミッションシンポジウム. 2008.3.10
藤田素子	2007	招待	Motoko Fujita	Evaluation of biodiversity of birds with special references to avian contribution to nutritional cycling in Acacia planation forests, SBS-RISH Seminar, 13 December, 2007, Penenag,
藤田素子	2008	招待	Motoko Fujita	Biodiversity in Tropical Plantation Forests – The importance of conserving biodiversity -, Humanosphere Science School, 22 February, 2008, Cibinong, Indonesia.

古市剛久	2008		古市剛久	持続可能な社会を目指す研究の枠組みと地理学. 東北地理学会2008年春季大会シンポジウム「地理学の社会貢献」
古市剛久	2008		古市剛久・Wasson, R.・Olley, J	土砂の化学性を用いた土砂起源地特定手法—粒度及び化学組成保存の組み込み—. 日本地形学連合2008年秋季大会. 口頭発表.
蓮田隆志	2008		蓮田隆志	「ベトナム鄭氏政権の成立過程に関する一考察 ——鄭検期の政権構造——」広島史学研究会2008年度大会東洋史部会、2008年10月26日、於広島大学
蓮田隆志	2008		蓮田隆志	“Một vài nét về vai trò của hoạn quan trong thế kỷ 17”. The third international conference on Vietnamese studies, Vietnam: integration and development. 4-7, December 2008, My Dinh national convention centre, Hà Nội.
蓮田隆志	2008		蓮田隆志	「ベトナムにおける族結合の出現とその確立についての一試論 ——良舎鄧氏を素材として——」次世代の地域研究研究会、2009年2月24日、於京都大学東南アジア研究所
Hau, Caroline	2008		(co-presenter)	“On Asianism as Fantasy and Network,” GRIPS Global COE Program Workshop on “Political Networks in Asia,” Graduate Research Institute of Policy Studies, Tokyo, February
Hau, Caroline	2009		Hau, Caroline	“Family Matters: Kinship, Politics, Business and the “Chinese”/”Mestizo” in the Philippines,” JSPS Core University Symposium on “The Making of East Asia from Both Macro and Micro Perspectives,” CSEAS, Kyoto University, February 23, 2009.
Hau, Caroline	2008		Hau, Caroline	“Blood, Land, and Conversion: The Politics of Belonging in Jose Angliongto’s <i>The Sultanate</i> ,” paper read at the CSEAS-Netherlands Institute for War Documentation Joint International Workshop on “Chinese Identities and Inter-Ethnic Coexistence and Cooperation in Southeast Asia,” July 4, 2008, CSEAS, Kyoto University.
Hau, Caroline	2008		Hau, Caroline	“Mestizoness and the Politics of Belonging in Post-Independence Philippines,” Seminar, Institute for Research in the Humanities, Kyoto University, November 15, 2008.
Hau, Caroline	2008		Hau, Caroline	“Blood, Land, Conversion: The Politics of Belonging in Post-Independence Philippines,” 12 th Kyoto University International Symposium on “Transforming Racial Images: Analyses of Representations,” Kyoto University, December 5, 2008.
Hau, Caroline	2008		Hau, Caroline	“Political Passions: Asianist Revolutionary Networks in East Asia,” Colloquium, Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, March 27, 2008.
Hau, Caroline	2007	invite d	Hau, Caroline	“The Cultural Politics of Chineseness,” Keynote Speech delivered at the annual meeting of the Association for the Study of Overseas Chinese, Keio University, November 18, 2007.
星川圭介	2008		星川圭介	「生存基盤の持続的発展と「文明崩壊」」、G-COE研究会(ダイヤモンド会)、京都大学、2008年5月26日
星川圭介	2008		星川圭介	「20世紀、東北タイのコメ生産はどのように変容したか—情報学的手法を用いた解明の試み」、東南アジア学会、大阪大学、2008年6月7日
星川圭介	2008		星川圭介	「東北タイ・カンボジア・サラワクにおける農民の生存戦略変容過程の解明」、G-COE研究会(イニシアチブ2)、京都大学、2008年6月18日
星川圭介	2008		星川圭介	スリン師範学校大学院講座招待講演、タイ国スリン、2008年8月7日

細田尚美	2009		細田尚美	「移動と交歓—フィリピン向都移民の民族誌」. G-COEシンポジウム「生存を支える『地域／社会』の再編成」(KKRホテルびわこ)2009年1月23日
細田尚美	2009		細田尚美	「フィリピン人にとって海外就労とは」. 国際ワークショップ「始動する外国人による看護・介護—受け入れ国と送り出し国の対話—」(日本財団ビル)2009年1月15日
細田尚美	2007		Naomi Hosoda	Exchange and Reciprocity among <i>Homo Mobilitas</i> : A View from a Samar Village. Toyo University International Workshop "A Preliminary Study on Transnational Communities in Asian Peripheries" (東洋大学)2007年11月23日
細田尚美	2007		Naomi Hosoda.	The Sense of <i>Pamilya</i> from a Migrant-Source Village of the Philippines. International Convention of Asia Scholars 第5回大会(クアラルンプール)2007年8月2日
細田尚美	2008		細田尚美	「東南アジアにおける海外出稼ぎの社会的影響:EPAとフィリピン看護師・介護士を中心に」. 第32回東南アジアセミナー(京都大学東南アジア研究所)2008年9月3日
細田尚美	2008		細田尚美	「移民と母村とのつながり:フィリピン・サマール島の漁村を例として」. 拠点プログラム共同研究8「変貌する『家族』」研究会(京都大学東南アジア研究所)2008年3月23日
細田尚美	2008		細田尚美	「フィリピンにおけるサパララン・モデルの地域間比較:『ハイパー・モビリティ社会』研究・序説」. 「ハイパー・モビリティ社会」研究プロジェクト第1回セミナー(京都大学東南アジア研究所)2008年3月18日
細田尚美	2007		細田尚美	「遊動する家族と「幸運」分配型社会関係—フィリピン国内移民の事例」. 拠点プログラム共同研究8「変貌する『家族』」研究会(京都大学東南アジア研究所)2007年10月6日
細田尚美	2007		細田尚美	「フィリピンにおける向都移動現象再考:『幸運探し』を手がかりに」. 手法研究会(京都大学地域研究情報統合センター)2007年4月19日
石川登	2009		ISHIKAWA, Noboru	Resilience and Regime Shift: Metamorphoses of a Biomass Society in Sarawak, Malaysia, Poster Presentation, the 2 nd GCOE International Conference, Biosphere as a Global Force of Change, Kyoto, Japan, 9-11 March 2009.
石川登	2008		ISHIKAWA, Noboru	「東マレーシア北部流域社会における「仕事」の諸相:マレーシア、サラワク州のイバンならびにシハン社会から」分科会『仕事の人類学』が拓く地平—労働・ジェンダー・社会変容—』文化人類学学会第42回大会、2008年6月1日、京都大学
石川登	2008		ISHIKAWA, Noboru	"Biomass Society in the Tropics: Genesis and Metamorphoses" Session 2: Forest metabolism - Changing Nature of Biomass in Humanosphere, 1 st International Conference, In Search of Sustainable Humanosphere in Asia
石川登	2008		石川登	"Social Flows and Interfaces: A new Look at Hill-Plain Binary in Southeast Asia" 北海道大学スラブ研究センター 21世紀COE総括シンポジウム『スラブ・ユーラシア学の幕開け』第一パネル『地域をつくる』2008年1月24日 東京神田学士会館
石川登	2007		ISHIKAWA, Noboru	"Commodifying Bornean Forest: From Jungle Produce to Agro-industry in the Kemena Basin, Northern Sarawak", Canadian Council of Southeast Asian Studies (CCSEAS) Biennial Conference, Beyond Intellectual and Political Boundaries: Southeast Asian Studies in the 21th Century. 19 October, University of Laval, Quebec City, Canada

石川登	2007		ISHIKAWA, Noboru	Beyond Hills/Plains Binary: New Approaches to Spatial Ecology of Southeast Asia, a paper presented at Workshop“Revisiting the‘Frontier’ in the Southeast Asian Massif”, National University of Singapore, Singapore Dec 12-13, 2007
石川登	2007		ISHIKAWA, Noboru	“State-making and Transnational Process: Transboundary Flows of Resources in a Borderland of Western Borneo”, International Symposium "Transborder Environmental and Natural Resource Management”, Center for Integrated Area Studies, Kyoto University,
石川登	2007		ISHIKAWA, Noboru	From Borneo to Russian Far East: The Place of Timber in Global Ethnography, ARI Seminar, National University of Singapore, 28 March 2007
石川登	2007		ISHIKAWA, Noboru	“Between Frontiers: Nation and Identity in a Southeast Asian Borderland”Program Seminar, Southeast Asian Studies Program, National University of Singapore, Singapore 9 - 10
石川登	2007		ISHIKAWA, Noboru	“Sarawak and Area Informatics: a New Approach to History and Space, at Area Studies and Informatics” The Center for Integrated Area Studies, Kyoto University, Kyoto, Japan, 4 - 5 February 2007.
伊藤正子	2007		ITO, Masako	「State Policies towards Ethnic Minorities and the Shift in Ethnic Identity: The Case of a Village of Tay and Nung People in North Vietnam」INTERNATIONAL CONFERENCE 『MODERNITIES AND DYNAMICS OF TRADITION IN VIETNAM: ANTHROPOLOGICAL APPROACHES.』Binh Chau Resort, Vietnam, 2007年12月15-18日
海田るみ	2009		海田るみ、加来友美、馬場啓一、林隆久、Sri Hartati, Enny Sudarmonowati	「セルラーゼ発現による糖化性の向上」第59回 日本木材学会大会 2009年3月15日
海田るみ	2009		海田るみ、加来友美、馬場啓一、林隆久、Sri Hartati, Enny Sudarmonowati	「ポプラセルラーゼ発現を構成発現するファルカータ」第59回 日本植物生理学会年会 2009年3月24日
海田るみ	2008		海田るみ、加来友美、澤田真千子、親泊政二三、渡辺隆司、馬場啓一、林隆久、Sri Hartati, Enny Sudarmonowati	「熱帯樹木の糖化性」第58回 日本木材学会大会 2008年3月18日
海田るみ	2008		加来友美、海田るみ、澤田真千子、親泊政二三、渡辺隆司、馬場啓一、林隆久、Sri Hartati, Enny Sudarmonowati	「様々な糖鎖分解酵素を発現する組換えポプラの糖化性」第58回 日本木材学会大会 2008年3月18日
海田るみ	2007		Rumi Kaida, Yumi Satoh, Vincent Bulone, Tomomi Kaku, Takahisa Hayashi,	Enhancement of cellulose synthesis by overexpression of purple acid phosphatase in tobacco cells. 2 nd International Cellulose Conference 23 th October 2007.

海田るみ	2007		T. Hayashi, M. Takeuchi, Y.W. Park, T. Kaku, M. Yoshida, T. Awano, R. Kaida,	Xyloglucan creates tensile stress in the secondary wall. XI Cell Wall Meeting 15 th August 2007.
亀井敬史	2007		亀井敬史	「窓の有効利用による持続可能な都市エネルギー需要の評価」、10月29日 G-COEイニシアティブ4研究会
神崎護	2007		神崎護	森林資源の現状とその利用:日本のスギ林はほんとうに劣化しているのか?東南アジアの森林の資源にどこまで頼れるのか? G-COE 生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点 イニシアティブ2 研究会 2007年12月4日. 東南アジア研究所. 京都大学. 京都.
神崎護	2008		Kanzaki M, Fukushima M, Wakita C, Hara M, Tani A, Ito E, Ikeda K, Murata H, Sasaki A, Sri-ngernyuang K, Sahunalu P, Wachrinrat C, Preechapanya P, Hla Maung Thein, Jivana, Agus	Geographical and Ecological Interpretation of the distribution of Schima wallichii: Is it invading the Lowland of Humid Tropics? Towards sustainable land-use in Tropical Asia. 2008年4月23-26日. クチン, マレーシア.
神崎護	2008		神崎 護, 福島万紀, 脇田千鶴, 原 正司, 谷 明洋, 伊藤江利子, 池田邦彦, 村田 博司, 佐々木綾子, Sri-ngernyuang K, Sahunalu P, Wachrinrat C, Preechapanya P, Hla Maung Thein, Jiyana, Agus Wicaksono 清野嘉之	東南アジア二次林におけるSchima wallichii: 湿潤熱帯における耐火性樹種の拡大. 日本熱帯生態学会第18回年次大会. 2008年6月21日. 東京大学農学研究科. 東京.
神崎護	2009		Mamoru Kanzaki, Hla Maung Thein, Min Than Zin, Maki Fukushima, Kunihiko Ikeda	Examine the sustainability of teak selective logging in a mixed deciduous forest with bamboo: the difficulties of the management of mixed forest. 6 th Workshop of Uneven-aged silviculture IUFRO Group in Shizuoka“Feasibility of Silviculture for Complex Stand Structures –Designing stand structures for sustainability and multiple objectives-. 2009年10
神崎護	2008		Mamoru Kanzaki, Hideyuki Kawaguchi, Shoko Kiyohara, Tsuguaki Kajiwara, Takayuki Kaneko, Seiichi Ohta, Witchaphart Sungpalee, Chongrak Wachrinrat	Long-term study on the carbon storage and dynamics in a tropical seasonal evergreen forest of Thailand. FORTROP II. “Tropical Forestry Change in a Changing World”.2008年11月17-20日. バンコク, タイ.
神崎護	2009		Mamoru Kanzaki	(Keynote Lecture) Botanical and ecological impacts of logging and land-use change in Southeast Asia. Asia Forest Workshop 2008. Interdisciplinary and Transnational Discussion on Multiple Impacts of Forestry and Land Use Change in Tropical Asia. 2008年20-21日. プ

片岡樹	2008		片岡樹	「妖術師はいない方がよいのか?—タイ山地民ラフの憑きもの現象—」日本文化人類学会第42回研究大会(於京都大学)2008.6.1
片岡樹	2008		Kataoka Tatsuki	“The Baba Culture in Thailand: Reconstruction of Ethnic Distinctiveness and Cultural Localization of the Hokkien Descendants in Phuket.” paper presented at the international workshop on “Chinese Identities and Inter-Ethnic Coexistence and Cooperation in Southeast Asia”, CSEAS Kyoto University, July 4-5, 2008
片岡樹	2008		片岡樹	片岡樹「基督教与跨境民族:泰国拉祜族的族群认同」中日国际学术研讨会“中国边境民族的迁徙, 交流和文化动态”(于云南大学)2008.9.2
片岡樹	2008		片岡樹	「国家のはざまを生きる—タイ山地少数民族からみた現代アジア—」日本財団APIフェロシップ国際シンポジウム「分断のアジア、融和のアジア—ゆるやかな『共同性』を求めて—」(於浜離宮朝日ホール)2008.10.4
風戸真理	2009	招待	風戸真理	「モノの終わりと再生—民族誌映像『モンゴル国の銀鍛冶師による指輪づくり』をめぐって」 「モノをめぐる記憶と表象の生成と変容—近代性の脱構築の観点から」京都大学地域研究統合情報センター共同利用プロジェクト構想委員会主催 2009年2月1日 東北大学東北
風戸真理	2008		風戸真理	「モンゴル牧畜社会における銀製品(口頭発表)」文化人類学会第42回大会 文化人類学会 2008年5月31日 京都大学
風戸真理	2008		風戸真理	「モンゴル国の銀鍛冶師による指輪づくり(映像発表)」文化人類学会第42回大会 文化人類学会 2008年6月1日 京都大学
木村大治	2008		木村大治	「コンゴ民主共和国ワンバにおけるティラピア養殖と小家畜飼養の試み」日本アフリカ学会 2008年5月
木村大治	2008		木村大治	「インタラクションの境界と接続」電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーション基礎研究会 基調講演 2008年11月
木村周平	2007		木村周平	「トルコ・イスタンブルにおける社会の地震的編成」第726回東京都立大学・首都大学東京社会人類学研究会(於:首都大学東京)・2007.10.19
木村周平	2007		木村周平	「地震・建物・社会:イスタンブル都市改造計画をめぐって」大阪大学GCOE 研究会『『コンフリクト』を理解する理論的・方法論的な研究』(於:学士会館分館)・2008.1.26
木村周平	2007		木村周平	「将来の天災とその忘却をめぐって:トルコ・イスタンブルの地震とその影響」京都サステイナビリティ・イニシアティブ「社会・環境に与える人災と天災の影響セミナー」(於:芝蘭会館別館)2008.3.22
木村周平	2008		木村周平	「過去と未来の間にあること:トルコの地震をめぐって」東京外大AA研共同研究会「社会空間論の再検討—時間論的視座から」第6回(於:東京外大AA研)2008.5.10
木村周平	2008		木村周平	「トルコ地震観測への文化人類学的アプローチ」日本地球惑星科学連合2008年大会(於:幕張メッセ)2008.5.26
木村周平	2008		木村周平	「人・モノ・技術のネットワークへのイントロダクション」GCOEイニシアティブ4研究会(於:京大人文研)2008.6.20

木村周平	2008		木村周平	「トルコでの地震の文化人類学的調査」平成20年度海外学術調査総括班フォーラム地域別分科会(南・西アジア・北アフリカ)(於:東京外大AA研)2008.6.21
木村周平	2008		木村周平	「地震の不安と地域社会:トルコ、イスタンブルの事例から」シンポジウム「災害に立ち向かう地域/研究」(於:京都大学東南アジア研究所)2008.7.11
木村周平	2008		KIMURA, Shuhei	"Future earthquakes in Japan and Turkey: An analysis of the social arrangement of seismology", the Joint 4S/EASST Meeting, Erasmus University, Rotterdam, 2008.8.21
木村周平	2008		阪本真由美、牧紀男、木村周平、松多信尚、松岡格	「海外における博物館を通じた災害記憶の語り継ぎに関する調査結果報告:トルコ、台湾、インドネシア」世界災害語り継ぎ研究会(於:人と防災未来センター)2008.10.11
木村周平	2008		木村周平	「不安、リスク、不確実性:人類学的リスク研究への一考察」シンポジウム「人類学的リスク研究の探求」(於:京都大学)
木村周平	2008		木村周平	「リスクの人類学のこれまで:リスクという問題に取り組むための足掛かりとして」国立民族学博物館共同研究「リスク、不確実性、および未来にかんする人類学的研究」(於:国立民族
木村周平	2008		木村周平、松多信尚、阪本真由美、松岡格	「地震の記憶の比較研究:トルコ、台湾、インドネシア」日本活断層学会研究大会(於:東京大学山上会館)
木村周平	2008		木村周平	「災害から見る生存基盤のネットワーク」GCOEイニシアティブ4研究会(於:京大東南アジア研究所)2009.1.20
木村周平	2009		KIMURA, Shuhei	"To Live with Earthquake: An Attempt to build a better relationship between the Humanosphere and the Geosphere in Istanbul, Turkey" Second International Symposium In Search of Sustainable Humanosphere in Asia and Africa, 2009.3.11
木谷公哉	2007		木谷公哉	「CMSによるウェブサイト構築とGeeklogを使った実習」, 第1回CMS研究会, 2008年7月18日, 地域研究統合情報センター
木谷公哉	2007		木谷公哉	テレビ会議システムを利用した海外を含む拠点間コミュニケーションの構築, 2007年12月17日報告, http://www.humanosphere.cseas.kyoto-u.ac.jp/images/library/Image/pdf/20071217_VideoConference-GCOE.pdf , 貢献先:インドネ
木谷名都子	2008		木谷名都子	「B. R. トムリンソンのインド経済史」G-COEイニシアティブ1研究会<古典の中のアジア経済史>(於京都大学)、2008年3月29日
木谷名都子	2008		木谷名都子	「1920年代のボンベイにおける企業家ネットワーク」第46回経営史学会中部ワークショップ(於名城大学)、2008年5月24日
小林祥子	2007		Sanga-Ngoie K. and Kobayashi S.	"The image-based correction method of atmospheric and topographic effects in optical remote sensing imageries", <i>Proceedings of the 43th Fall Conference of the Remote Sensing Society of Japan</i> , 44-45.
小林祥子	2007		Sanga-Ngoie K. and Kobayashi S.	"Human ecology, land use and biomass burning in DRC, Central Africa, using GIS and remote sensing", <i>Poster Presentation</i> , 2007 American Geographic Union Annual Conference, Acapulco, Mexico.

小林祥子	2008		Sanga-Ngoie K. and Kobayashi S.	“Assessment of the Integrated Radiometric Correction (IRC) method by comparison with prior image-based methods for optical remote sensing data”, <i>Proceedings of the 44th Spring Conference of the Remote Sensing Society of Japan</i> , (37-38).
小松幸平	2007		Kohei Komatsu	“Research and Developments for Enhancing Seismic Performance of Wooden Dwelling Houses in Recent Japan”, 73rd Symposium on Sustainable Humanosphere - RISH-LAPAN-LIPI International Symposium, Science for Sustainable Humanosphere, International Collaborative Programs in Indonesia, LAPAN, Bandung, Indonesia, July 25, 2007
小松幸平	2007	招待	Kohei Komatsu	“State of the Arts on Timber Constructions in Japan”, National Seminar - System of Preparing Quality Timber for Construction-, Building Research Institute, Division of Human Settlement, Bandung, Indonesia, 27 November, 2007
小松幸平	2008		Atsushi Tabuchi, Yoshihiro Murata, Takuro Mori and Kohei Komatsu	“Development of an Aesthetic and Strong Shear Wall using Kitayama-maruta Logs”, <i>Proceedings of the World Conference on Timber Engineering 2008</i> , paper.440 (CD-ROM), Miyazaki, June 2-5, 2008.
小松幸平	2008		Yasunobu Noda, Takuro Mori and Kohei Komatsu	“Experimental Study on the Moment Transmitting Performance of Large Finger Joint”, <i>Proceedings of the World Conference on Timber Engineering 2008</i> , paper.437 (CD-ROM), Miyazaki, June 2-5, 2008.
小松幸平	2008		Makoto Nakatani, Takuro Mori and Kohei Komatsu	“Design method for Moment-Resisting Joint Composed by Multiple Lagscrewbolts”, <i>Proceedings of the World Conference on Timber Engineering 2008</i> , paper.435 (CD-ROM), Miyazaki, June 2-5, 2008.
小松幸平	2008		Shigeaki Kawahara, Takushi Nakashima, Takeshi Shimizu, Makoto Nakatani, Takuro Mori and Kohei Komatsu	“Introduction of Joint System and Timber Constructions Composed of Lagscrewbolt (LSB)”, <i>Proceedings of the World Conference on Timber Engineering 2008</i> , paper.425 (CD-ROM), Miyazaki, June 2-5, 2008.
小松幸平	2008		Kiho Jung, Akihisa Kitamori, Munekazu Minami and Kohei Komatsu	“Development of Joint System using by Compressed Wooden Fastener”, <i>Proceedings of the World Conference on Timber Engineering 2008</i> , paper.304 (CD-ROM), Miyazaki, June 2-5, 2008.
小松幸平	2008		Maryoko Hadi, Bambang Subiyanto, Anita Firmanti and Kohei Komatsu	“The Braced Frame Shear Wall made of Acacia Mangium Fastened by nails for Anti-Seismic Wooden House”, <i>Proceedings of the World Conference on Timber Engineering 2008</i> , paper.270 (CD-ROM), Miyazaki, June 2-5, 2008.
小松幸平	2008		Satoru Murakami, Tomihiko Tamaoka, Hidenobu Kadowaki and Kohei Komatsu	“The Improvement of Single-braced Shear Wall System”, <i>Proceedings of the World Conference on Timber Engineering 2008</i> , paper.262 (CD-ROM), Miyazaki, June 2-5, 2008.
小松幸平	2008		Takuro Mori, Makoto Nakatani, Shigeaki Kawahara, Takeshi Shimizu and Kohei	“Influence of the Number of Fastener on Tensile Strength of Lagscrewbolted Glulam Joint”, <i>Proceedings of the World Conference on Timber Engineering 2008</i> , paper.197 (CD-ROM), Miyazaki, June 2-5, 2008.

小松幸平	2008		Kohei Komatsu, Mitsushi Akagi, Chiori Kawai, Takuro Mori, Shingo Hattori and Kiyoshi Hosokawa	“Improved Column-Beam Joint in Glulam Semi-Rigid Portal Frame”, Proceedings of the World Conference on Timber Engineering 2008, paper.185 (CD-ROM), Miyazaki, June 2-5, 2008.
小松幸平	2008		Ying H. Chui, Kohei Komatsu, Kiho Jung, Yasunobu Noda, Yoshinori Ohashi and Masahiko Toda	“Reinforcement of wood I-joists with natural fibers”, Proceedings of the World Conference on Timber Engineering 2008, paper.175 (CD-ROM), Miyazaki, June 2-5, 2008.
小松幸平	2008		Akihisa Kitamori, Kiho Jung, Munekazu Minami and Kohei Komatsu	“Improvement of Shear Resistance on Traditional Lattice Shear Wall”, Proceedings of the World Conference on Timber Engineering 2008, paper.124 (CD-ROM), Miyazaki, June 2-5, 2008.
小松幸平	2008	招待	小松幸平	「木造超長期住宅を目標とした自然素材活用型木質構造の提案」、京都大学大学院農学研究科森林科学専攻・生存圏研究所 共催 公開講座「森が拓く未来」、平成20年10月25日(土)、26日(日)
近藤史	2008		近藤史	「タンザニア南部高地における焼畑の集約化」、日本生態人類学会第13回研究大会、2008年3月、於富山。
近藤史	2008		近藤史	「在来農業の技術的な展開と連動した互助労働の変化:タンザニア南部・ベナの事例から」、日本文化人類学会第42回研究大会、2008年5月、京都大学。
近藤史	2009		近藤史	「なにがアグロフォレストリーへの移行を支えたのか—タンザニア南部・焼畑農耕民の社会生態史—」、東南アジアの自然と農業研究会第138回定例会、2009年2月、京都大学。
近藤史	2009		近藤史	「タンザニア南部高地の生産的休閒システム—モリシマアカシア林の利用と管理—」、日本森林学会第120回大会テーマ別シンポジウム(T27「熱帯林の再生—学際的研究アプローチの再考」)、2009年3月26日、京都大学。
近藤史	2007	招待	近藤史	「タンザニア・ベナの人びとに学ぶ多様な農業」、恵泉女学園大学国際社会学科国際関係論特講、於東京、2007年10月。
甲山治	2007		甲山治, 大石哲, 砂田憲吾	「中央アジア・キジルクム砂漠における地表面モニタリング」『水文・水資源学会2007年研究発表会要旨集』, pp.144-145. 2007.
甲山治	2007		岡部真佳, 甲山治, 砂田憲吾, 大石哲	「衛星データを用いたトンレサップ湖の水面積変動および水域内植物分布の特定に関する研究」『土木学会第62回年次学術講演会講演概要集』(CD-ROM), II-044. 2007.
甲山治	2008		Kozan, O.	“Water Resources and Its Problems in Central Asia”, <i>Proceedings of Water Down Under 2008</i> , (CD-ROM) ST1-02-A11-355 (8 pages). 2008.
甲山治	2008		甲山治, 大石哲, 砂田憲吾	「中央アジア・キジルクム砂漠における水・熱フラックス観測」『水文・水資源学会2008年研究発表会要旨集』, pp.8-9. 2008.
甲山治	2008		岡部真佳, 砂田憲吾, 甲山治, 大石哲	「トンレサップ湖氾濫域における植物被覆の変化特性について」『土木学会第63回年次学術講演会講演概要集』(CD-ROM), II-266. 2008.

甲山治	2008		甲山治	「水熱循環研究からみた自然の変動と潜在力に関する考察」 G-COEイニシアティブ2研究会. 2008
甲山治	2008		甲山治	「温暖化および気候変動にどう対応するか? :水災害を事例として」G-COE研究会「災害に立ち向かう地域／研究」, 2008
甲山治	2009		Kozan, O.	“Interrelationship between Hydrological Cycle and Human Activities”, G-COE, Kyoto University, 2009.
黒崎龍悟	2009		黒崎龍悟	ファシリテーターとしての研究者は可能か:フィールドワークの二段階プロセス(アジア福祉社会開発の方法:ワークショップ「現場から生まれるアクションとファシリテーション」於日本福祉大学2009年3月)
黒崎龍悟	2008		黒崎龍悟	「農村開発における内発性の発現プロセス—タンザニアの事例から」(日本アフリカ学会第45回学術大会「地域開発フォーラム」於龍谷大学2008年5月)(口頭発表)
黒崎龍悟	2007		黒崎龍悟	「タンザニア南部における農村開発と住民による活動の展開:キャパシティ・ディベロップメントの検討」(日本アフリカ学会第44回学術大会「地域開発フォーラム」於長崎大学2007年5月)
Kusumaningtyas, Retno	2009		R. Kusumaningtyas, S. Kobayashi, and S. Takeda	Assessing the potential of different collaborative schemes for forest resource management of a timber plantation and local communities in Riau Province, Sumatra, Indonesia. International workshop on Research and Management Priority in Giam Siak – Bukit Batu Area (the “Riau Biosphere Reserve Project”), University of Riau, Pekanbaru, Riau, Sumatra.
Kusumaningtyas, Retno	2009		R. Kusumaningtyas, S. Kobayashi, and S. Takeda	Addressing the food-energy dilemma with a mixed species cultivation approach using sengon as bio-ethanol feedstock. The Second International Conference of Kyoto University Global COE Program; In Search of Sustainable Humanosphere in Asia and Africa; Biosphere as a Global Force of Change. Inamori Hall, 3 rd Floor, CSEAS, Kyoto University. 9 – 11 March
Kusumaningtyas, Retno	2009		R. Kusumaningtyas, S. Kobayashi, and S. Takeda	Presentation commenting on the presentations of guest speakers, Prof. Andre Faaij and Prof. Kinya Sakanishi, at the Second International Conference of Kyoto University Global COE Program; In Search of Sustainable Humanosphere in Asia and Africa; Biosphere as a Global Force of Change G-COE (Session 3), March 10, 2009.
丸山淳子	2008		Maruyama, Junko	“Development, Nature Conservation and Indigenous Peoples Movement: The Experiences of the Bushmen in Botswana” International Workshop “Biological Conservation and Local Community's Needs: Lessons from Field Studies on Nature-Dependent Societies” France Chambre de l'Agriculturer, Yaoundé, Cameroon 2008年2月7日
丸山淳子	2008		丸山淳子	「南部アフリカのHIV/AIDS問題に関する報告:南アフリカとボツワナのフィールドワークを通して考えたこと」リスクと公共性研究会 京都大学 2008年6月22日
丸山淳子	2008		丸山淳子	「ポスト狩猟採集社会への移行に関する研究—ボツワナにおけるサンの再定住と社会関係の再編」2008年度第1回近畿地区研究懇談会(博士論文発表会) 京都大学 2008年6月21日
丸山淳子	2008		丸山淳子	「開発政策と先住民運動のはざままで:ボツワナの再定住地に暮らすサンの事例から」日本文化人類学会第42回研究大会 京都大学 2008年6月1日

丸山淳子	2008		Maruyama, Junko	“The Dynamics of Contemporary Livelihood and Social Relationships among the Gui and Gana San in Botswana” Department of African Languages and Literature Seminar, University of Botswana 2008年2月22日
丸山淳子	2007		丸山淳子	「開発政策と先住民運動のはざままで:再定住地に暮らすセントラル・カラハリ・サンの生活から[2]」国立民族学博物館共同研究会『「先住民」とはだれか?—先住民族イデオロギーの潜勢的／顕在的形態とその社会歴史的背景に関する研究』国立民族学博物館 2007年12月
丸山淳子	2007		丸山淳子	「開発政策とマイノリティ:セントラル・カラハリ・ゲーム・リザーブにおけるサンの再定住問題」ワークショップ「アフリカの平和力」2007年6月17日
丸山淳子	2007		丸山淳子	「再定住地におけるサンの生業と生産の社会的布置:開発計画と先住民運動に着目して」国立民族学博物館共同研究会『生業と生産の社会的布置』国立民族学博物館 2007年6月
丸山淳子	2008	招待	丸山淳子	公開講座「アフリカの環境保全と開発—人類学・地域研究の視点から」(法政大学人間環境学セミナー)2008年11月15日、22日
丸山淳子	2008	招待	丸山淳子	アフリカ理解講座「アフリカの言葉と話そう」(京都府国際センター)2008年10月4日
丸山淳子	2007	招待	丸山淳子	特別授業「いま環境学公開講座2007」(兵庫県立西宮今津高等学校生物 I B, 生物 II) 2007年10月16日
中村香子	2008		中村香子	「サンプルのビーズ装飾:観光化・グローバル化の文脈」「POP AFRICAアフリカの今にノル?!」シンポジウム(国士舘大学, 2008年11月15日~16日)
中村香子	2008		中村香子	「ケニア・サンプル社会における年齢体系の変容動態に関する研究—青年期にみられる集団性とその個人化に注目して」日本文化人類学会・民族学研究懇談会(近畿地区)(京都大学, 6月21日)
中村香子	2008		中村香子	『モランをやる』『モランをやめる』—ケニア・サンプル社会における若者の割礼・結婚の個人化傾向と年齢体系の変容—日本アフリカ学会第45回学術大会(龍谷大学, 2008年5月)
中村香子	2008		中村香子	『観光の文脈』と『本来の文脈』—ケニア・サンプルの観光地への出稼ぎの事例より—日本文化人類学会第42回研究大会(京都大学, 2007年5月31日)
中山節子	2008		中山節子	『半面』としてのアカウントビリティ—マラウイ湖漁獲分配における場所の二面性の操作—、中山節子、第42回日本文化人類学会(2008年5月31日、京都大学)
中山節子	2008		中山節子	「マラウイ湖漁労者による湖沼資源認識の変遷に関する歴史人類学的研究」、中山節子、2007年度次世代イニシアティブ研究助成報告会(2008年4月12日)
中山節子	2008		中山節子	「マラウイ湖上空間への都市イメージの投影」、中山節子、イニシアティブ4研究会(2008年1月28日)
西真如	2009		Nishi, Makoto	“A Virus, Democracy, and Sustainable Humanosphere: The Experience of Community-based HIV/AIDS Initiatives among the Gurage, Southern Ethiopia”, The Second International Conference of Kyoto University Global COE Program: In Search of Sustainable Humanosphere in Asia and Africa, Kyoto, 9-11 March 2009.
西真如	2007		西真如	「HIV感染者と非感染者との共存に向けた取り組み:エチオピアにおけるフィールドワークにもとづく報告」国際開発学会第19回全国大会, 広島修道大学, 2007年11月22-23日.

西真如	2008	西真如	「不一致と関与: エチオピアのグラゲ県におけるHIV/AIDS問題と地域住民の取り組み」公開シンポジウム「人類学的リスク研究の探求」(リスク人類学研究会, グローバルCOEプログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」), 京都大学, 2008年10月11日.
西真如	2008	西真如	「ウイルスと民主主義: エチオピアのグラゲ県におけるHIV/AIDS問題と地域社会の取り組み」シンポジウム「災害に立ち向かう地域/研究」(グローバルCOEプログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」), 京都大学東南アジア研究所, 2008年7月11-12日.
西真如	2008	Nishi, Makoto	“Community-based Rural Development and the Politics of Redistribution: The Experience of the Gurage Road Construction Organization in Ethiopia”, International Workshop on Local Knowledge and Its Positive Practice, Addis Abeba, 14-15 February 2008.
西真如	2008	西真如	『『ポスト福祉国家』社会とラディカル・デモクラシー論』、イニシアティブ1第2回研究会, 京都大学, 2008年1月7日.
西真如	2007	西真如	「エチオピアの農村社会における住民主導のHIV/AIDS予防運動と感染者のエンパワーメント」国際開発学会第18回全国大会, 沖縄大学, 2007年11月24-25日.
大石高志	2007	Takashi OISHI	“Hesitant Touch: Diaspora Networks of Indian Muslim Merchants and their Linkage with Homeland, 1870-2000” in <i>The International Conference on Globalization and Diasporas</i> . A proceeding volume edited by Research Team for Indian Diasporas, Channam National University, Korea, 11-12 May, 2007. pp.13-28.
大石高志	2007	Takashi OISHI	“Dynamics of Niches carved out by Indian Muslim Merchants in the Trade with Southeast Asia: Betel-nuts on the Intra-regional Networks, 1880s-1940s.” 国際会議提出ペーパー ICAS(International Convention of Asia Scholars) 5, Kuala Lumpur Aug.2-5, 2007. 31pp.
大石高志	2008	Takashi OISHI	“Intra-regional Network and Trust: Indian Muslim merchants over to East Asia, c.1890-1950.” The European Social Sciences History Conference, Lisbon, Portugal, 28 February 2008. Session: Colonialism, Capitalism and Network Formation: the Indian Ocean Region,
大石高志	2008	Takashi OISHI	“Aspects of Labour Intensive Economy around Bicycles in Modern India with Special Focus on the Import from Japan.” Global COE Program: Initiative 1 “Joint Workshop on Labour-intensive Industrialisation in Southeast Asia” Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University 1st to 2nd March 2008 18pp
大石高志	2008	大石高志	「ムスリムにおけるアイデンティティとその物象化」日本南アジア学会、20周年記念連続シンポジウム、2008年4月26日、東京大学
大石高志	2008	大石高志	「インド系ムスリム商人と東南アジア: 広域ネットワークの地域接合とその歴史的変容」第53回 国際東方学者会議(部会「近代における東南アジアのイスラームとインド洋ネットワーク」) 2008年5月16日、日本教育会館(東京)
大石高志	2008	大石高志	「インド人商人ネットワーク: ニッチとしての雑貨貿易」日本学術振興会人文・社会科学振興プロジェクト研究事業 サイエンスカフェ「近代アジアの商人ネットワークー制度とニッチ」 2008年10月18日、神戸大学

大石高志	2008		Takashi OISHI	Japanese Business Sojourners in Calcutta: Living the Business, City, Empire and Networks. 国際会議Migration, Diaspora and the City: Mobility and Dwelling in Calcutta (社会科学研究所とロンドン大学との共催)2008年12月12-13日
大石高志	2008		Takashi OISHI	Intra-Asian Diffusion/Mobility of Labour Intensive Economy: Focus on Matches and Glassware, 京都大学G-COE「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」国際会議 Labour-intensive Industrialisation in South and Southeast Asia
佐藤孝弘	2008		T. Sato	Water: Key medium of sustainable humanosphere. The First International Conference of Kyoto University Global COE Program “In Search of Sustainable Humanosphere in Asia and
佐藤孝弘	2008		佐藤孝宏、ムニアンディ・ジェガデーサン、河野泰之	インド・グンダール川上流域における農業水利と作付変容、日本熱帯農業学会第103回講演会
佐藤孝弘	2008		T. Sato, M. Jegadeesan, Y. Kono	What changed agriculture, how water use adjusted: A case study in Tamil Nadu, India, 日本地球惑星科学連合2008年大会
佐藤孝弘	2008		佐藤孝宏	「農業水利変容とその影響: インド・タミルナドゥ州の事例」、京都大学東南アジア研究所シンポジウム「災害に立ち向かう地域/研究 生存基盤持続への寄与をめざして」
佐藤孝弘	2009		T. Sato, T. Wada	How to Assess the Sustainability of Our Humanosphere? <i>Towards the development of Humanosphere Index</i> . The Second International Conference of Kyoto University Global COE Program “In Search of Sustainable Humanosphere in Asia and Africa”.
佐藤靖明	2007		Sato, Yasuaki	"Anthropological Approach to Landrace Diversity of Bananas" Special Seminar: Interface of Anthropology and Biodiversity, Bioversity International, Kampala, Uganda, 2 August 2007.
佐藤靖明	2007		Sato, Yasuaki	"Anthropological Approach to in situ Conservation of Landrace Diversity of Bananas" The Banana Research Network for Eastern and Southern Africa (BARNESA) Steering Committee Meeting and Training, Dar es Salaam, Tanzania, 21 August 2007.
佐藤靖明	2007		Sato, Yasuaki	"Livelihood and Creativity: A Cultural Implication of Indigenous Banana Cultivation in Buganda" International Joint Symposium "Re-Contextualizing Self/other Issues: Toward a HUMANICS in Africa", JSPS, Makerere University and Center for African Area Studies, Kyoto University, Kampala, Uganda. 2 October 2007.
佐藤靖明	2007		佐藤靖明	「東アフリカ大湖地方におけるバナナの品種多様性に関する人類学的研究 —Bioversity Internationalでのインターンシップ活動—」魅力ある大学院教育イニシアティブ・プログラム「臨地教育研究による実践的地域研究者の養成」フィールドワーク・インターンシップによる臨地教育研究成果報告会、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科(京都大学、
佐藤靖明	2008		佐藤靖明	「東アフリカの生業基幹作物バナナ (<i>Musa</i> spp.) とエンセーテ (<i>Ensete Ventricosum</i>) の遺伝資源をめぐる在来知の変容プロセス」G-COEプログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」次世代イニシアティブ平成19年度研究助成報告会(京都大学、2008年4月
佐藤靖明	2008		佐藤靖明	「ウガンダのバナナ農耕—人—植物関係論からのアプローチ」京都大学人文科学研究所・人文研究アカデミー・リレー講義「身体論のすすめ」講義(2008年5月12日)

佐藤靖明	2008		佐藤靖明	「東アフリカ高地のバショウ科作物を中心とするホームガーデン: 作物・地域間比較の視角から」第45回日本アフリカ学会(龍谷大学、2008年5月25日)
佐藤靖明	2008		Sato, Yasuaki	"Modes in Recongion of Banana Plants in Buganda, Central Uganda" The 11th International Congress of the International Society of Ethnobiology, Cusco, Peru, June 28 2008.
佐藤靖明	2009		佐藤靖明	「東アフリカ大湖地方のバナナ農耕と商品化の節合をめぐって」東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究会「アジア・アフリカ地域におけるグローバル化の多元性に関する人類学的研究」2008年度第3回研究会(東京外国語大学、2009年1月10日)
島上宗子	2007		Laudjeng, Hedar, and Motoko Shimagami	“Toward the Legal Recognition of Customary Forest”, presented at the International Symposium on “ <i>Forest Stewardship and Community Empowerment: Local Commons in a Global Context</i> ”, organized by Center for Integrated Area Studies, Kyoto University, Biodiversity & Ecosystem Restoration Research Project, The 21 st COE Program, The University of Tokyo, and Afrasian Center for Peace and Development Studies, Ryukoku University., held at Kyoto International Community House on 11-12 October, 2007.
島上宗子	2007		Petrus, Keron, A. and Motoko Shimagami	“Empowering Local Institutions for Sustainable Forest Management: Lessons from “Facilitative Research” on Community Forestry in Sumber Agung Village, Lampung Province”, presented at the First Kyoto University and LIPI Southeast Asian Forum in Indonesia “ <i>In Search of New Paradigm on Sustainable Humanosphere</i> ”, held at LIPI (the Indonesian Institute of Sciences) on 25-26 November, 2007
島上宗子	2008		島上宗子	「住民主体を促す社会調査と外部者の関与」国際開発高等教育機構(FASID)NGOディプロマコース『住民主体の開発とNGO～地域の現場から学ぶ～』2008年2月10日
島上宗子	2008		島上宗子	“Pengalaman Jepang dalam Pengelolaan Hutan Berbasis Masyarakat” (コミュニティを基盤とした森林管理と日本の経験) JICAグヌン・ハリムンサラク国立公園管理計画・本邦研修、2008年2月15日[インドネシア語]
島上宗子	2008		Shimagami, Motoko	“Hutan Iriai: Pengalaman Jepang dalam Pengelolaan Hutan Berbasis Masyarakat” (入会林野をめぐる日本の経験)、Workshop “ <i>Hutan Adat dan Undang-Undang Kehutanan</i> ” (慣習林と森林法)、MUSWIL I AMAN SULSEL (ヌサンタラ慣習社会連合南スラウェシ地区第一回地区会議)、2008年3月15日[インドネシア語]
島上宗子	2008		Shimagami, Motoko and Hedar Laudjeng	“Sharing Experience on <i>Iriai</i> Commons: Lessons from Participatory Joint Research Linking Japan and Indonesia” presented at “ <i>Governing Shared Resources: Connecting Local Experience to Global Challenges</i> ,” 12th Biennial Conference of the International Association for the Study of Commons, Cheltenham, England, July 14-18, 2008.
島上宗子	2008		Shimagami, Motoko	“Reclaiming the Customary Rights to Forest: Forestry Policy and <i>Masyarakat Adat</i> in Post-Suharto’s Indonesia” presented at the Fourth Afrasian International Symposium on “ <i>The Question of Poverty and Development in Conflict and Conflict Resolution</i> ” held at Ryukoku University, 15-16 November, 2008.

島上宗子	2008		Shimagami, Motoko	“Community-based Forest Governance in Indonesia: Action-Research for Interactive Learning and Partnership Building” presented at the 7 th Workshop of the API Fellowship Program “Asian Alternatives for a Sustainable World: Transborder Engagement in Knowledge Formation” held at Yogyakarta, Indonesia, 21-28 November, 2008
島上宗子	2008		島上宗子	「インドネシアにおけるコミュニティ・フォレストリー政策の展開と媒介者の役割」ワークショップ『アジアの森林保護制度による人々の暮らしへの影響と対応』於：総合地球環境学研究所、2008年12月26-27日
島上宗子	2009		島上宗子	Motoko Fujita; Keron Petrus; and Koji Tanaka. “Protecting Forest, Empowering Communities: Development of Community Forestry Policy in Decentralizing Indonesia” poster presented at the Second G-COE Conference In Search of Sustainable Humansphere in Asia and Africa “Biosphere as a Global Force of Change” held at Kyoto University, 9-11
清水展	2008		清水展	『『地域』は後からやって来る：人類学者／地域研究者のあいだで悩んでいることから』地域研究コンソーシアム 2008年度公開シンポジウム「地域研究の実践的活用—開発・災害・医療の現場から」於：民族学博物館、2008/11/08。
清水展	2008		清水展	「東マレーシア(北ボルネオ)・サバ州から見た多民族・多文化社会の可能性」福岡アジア文化賞・市民フォーラム「多民族・多文化社会、そして一つの<国民>：マレーシアの実験」於アクロス・福岡、2008/9/14。
清水展	2008		清水展	「災害に立ち向かう地域/研究」G-COE若手養成・研究部会、イニシアティブ4、萌芽科研「防災教育・自然災害復興支援のための地域研究を目指して」(代表清水)共催シンポジウム「災害に立ち向かう地域/研究」(7月11～12日)における基調報告、於東南アジア研究所、
清水展	2008		清水展	「生存基盤が壊れるということ—ピナトゥボ山大噴火(1991)による先住民アエタの被災と新生の事例から—」G-COEパラダイム研究会+イニシアティブ4研究会、2008/5/19。
白石壮一郎	2009		白石壮一郎	2009年3月 「アジア・アフリカにおける<市民社会>と<参加>の現在」研究会『持続的な社会を構築するための「参加的民主主義」の検討：アジア・アフリカにおけるローカルな政治実践の経験から学ぶ』(京都大学グローバルCOEプログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」次世代イニシアティブ助成による)
白石壮一郎	2008		白石壮一郎	2008年6月 「失墜する象徴、変化の語りと他者化の実践—アフリカ農村部における地酒の社会的含意とその変化」日本文化人類学会第42回研究大会分科会・経済の生態人類学(於京都大学)
白石壮一郎	2007		SHIRAISHI Soichiro	October, 2007 Social Changes, Modernity and Communitarity among Agrarian Societies in East Africa. <i>Re-contextualizing Self/Other Issues: Toward a HUMANICS in Africa</i> , in Makerere University, Uganda.
白石壮一郎	2007		白石壮一郎	2007年6月 「社会関係の再定義の場としての土地争議—土地所有を正当化する言説の分析を中心に」日本文化人類学会第41回研究大会 (於名古屋大学)

白石壮一郎	2007		白石壮一郎	2007年5月「援助プログラムによる『エンパワーメント』評価はいかにして可能か？—ウガンダ共和国の貧困削減プログラム県別事前調査報告書[2000]を題材として」日本アフリカ学会第44回研究大会・地域開発フォーラム（於長崎市）
白石壮一郎	2007	招待	白石壮一郎	2007年5月『『近代的な個人』への主体化のプロジェクト—『社会開発』・『人間開発』を考える』公開ワークショップ「ADB(アジア開発銀行)は必要か？」(於京都精華大学黎明館)における招待講演
孫 曉剛	2009		Sun, X.	“Coping with Natural and Socio-economic Uncertainty in Arid Africa,” at The Second International Workshop "Biosphere as a Global Force of Change", 2009, G-COE, Kyoto
孫 曉剛	2008		Sun, X.	“Longitudinal and Comparative Study in Search of the Continuity and Change in Pastoral Subsistence of East Africa”, at International Workshop “Pastoral Societies in Africa: New Possibilities for Sustainable Development through the Interaction of Scientific Researchers and Development Workers”. 2008, Nairobi
孫 曉剛	2008		孫 曉剛	「グローバル社会における生業牧畜民の適応戦略：非平衡生態系、脆弱性、持続可能性」G-COEイニシアティブ2研究会 2008
孫 曉剛	2008		孫 曉剛	「東アフリカ牧畜社会における不確実性への対応とリスクマネジメント」生存圏研究所 第72回定例オープンセミナー 2008
鈴木玲治	2009		鈴木玲治	「長期休閑型の焼畑移動耕作が森林植生の長期的変化に与える影響—ミャンマー・バゴ—山地のカレン集落の事例—」東南アジア学会関西部会、京都大学、2009年1月31日
鈴木玲治	2009		鈴木玲治	「ミャンマー・カレンの営む焼畑土地利用の履歴と森林植生の長期的変化」GCOEシンポジウム「生存を支える『地域／社会』の再編成」、KKRホテルびわこ、2009年1月24日
鈴木玲治	2008		鈴木玲治、竹田晋也、フラマウンテイン	「ミャンマー・バゴ—山地のチーク皆伐跡地におけるタウンヤ造林間作期の立地環境と参加農民の土地選択」、日本熱帯生態学会、東京大学、2008年6月21日
鈴木玲治	2008		鈴木玲治、竹田晋也、フラマウンテイン	「伝統的焼畑を営むカレン集落における土地被覆の長期的変化—ミャンマー・バゴ—山地の事例—」、日本森林学会、東京農工大学、2008年3月27日。
鈴木玲治	2007		Suzuki, R., Takeda, S., Saw Kelvin Keh and Hla Maung Thein	Impact of forest fires on the long-term change in soil properties of teak plantations in the Bago Mountains, Myanmar, International workshop on Thinning as an essential management tool of sustainable teak plantation, Kasetsart University, Bangkok 25 th November 2007.
鈴木玲治	2007		鈴木玲治、竹田晋也、フラマウンテイン	「休閑地の植生回復に与える焼畑土地利用履歴の影響—ミャンマー・バゴ—山地におけるカレン焼畑の事例—」、日本熱帯農業学会、宮崎大学、2007年10月13日。
玉田芳史	2007		玉田芳史	「2つの民主主義とポピュリズム」日本タイ学会第9回大会、2007年7月7日、北海道大学
玉田芳史	2007		TAMADA Yoshifumi	‘Prachathipatai kap prachaniyom song yang chon kan (in Thai)’, Chiang Mai University, Seminar at the department of history, 17 July 2007
玉田芳史	2007		玉田芳史	「タイの民主化とクーデタ」南山大学アジア太平洋研究センター、2007年10月11日
玉田芳史	2007		玉田芳史	「タイのクーデタと民主化」アジア政経学会2007年度全国大会共通論題「東アジア民主政治の方向性」、2007年10月14日、東京女子大学
玉田芳史	2007		玉田芳史	「タイ政治の現状と展望」東京外国語大学日本タイ修好120周年特別講演会、2007年12月

玉田芳史	2008		玉田芳史	「外国人受け入れ国としてのタイ:流入と国籍をめぐる歴史」アジア政経学会東日本大会、東京外国語大学、2008年5月24日
玉田芳史	2008		TAMADA Yoshifumi	(Keynote Speech) Democracy, Democratization and De-Democratization in Thailand”(タイ語)タイ政治学・行政学会第9回研究大会、タイ・チュラーロンコーン大学政治学部、2008年
田中雅一	2007		Tanaka Masakazu	2007年4月6-7日(金・土)U.S. Military Chaplain in the Time of Peace and War, 国際ワークショップWORKSHOP ON “WAR, PEACE AND MILITARY IN ASIA ” at Palace Side,
田中雅一	2007		田中雅一	2007年6月2日(土)日本文化人類学会 第41回研究大会 「天皇家のおくりもの——外交贈答台帳の分析」
田中雅一	2007		田中雅一	2007年7月15日(日)第40回南アジア研究集会「誘惑するインド——性とエージェンシーの視点から」
田中雅一	2007		田中雅一	2007年9月17日(日)第66回学術大会 日本宗教学会2007『宗教——存在の深層へ』 「合衆国陸軍従軍牧師の性格——関連文書の分析から」
田中雅一	2007		田中雅一	2007年9月30日(日)東京外大AA研「もの」の人類学的研究——もの・身体・環境のダイナミクス」第2回研究会 「性交する身体——アニマル化とサイボーグ化のはざまで」
田中雅一	2008		田中雅一	2008年1月29日(火)筑波大学 宗教学・比較思想学研究会 「宗教学におけるジェンダー研究の位置づけ」
田中雅一	2008		田中雅一	2008年2月22日(金)京都サステナビリティ・イニシアティブ学内ワークショップ(第6回)「環境変化への現実的対応」メルパルク京都 井合進「変動に強い社会の構築に向けて」についてのコメント
田中雅一	2008		田中雅一	2008年3月22日(土)京都サステナビリティ・イニシアティブ「社会・環境に与える人災と天災の影響」芝蘭会館別館 「構築主義・戦略・モラル——伝統的な請託学的知識(TEK)再考
田中雅一	2008		田中雅一	2008年4月21日(月)人文研 共同研究「複数文化接触領域の人文学」 「複数文化接触領域研究の中間総括」
田中雅一	2008		田中雅一	2008年5月11日(日)東京外大AA研 研究会「人類社会の進化史的基盤研究(1)」 「ネットワーク編成における誘惑と信頼」
田中雅一	2008		田中雅一	2008年6月1日(日)日本文化人類学会第42回研究大会 京都大学 「強壯剤から見た男性
田中雅一	2008		田中雅一	2008年6月5日(木)人文研アカデミー 共同研究セミナー「身体=フェティッシュをめぐる技術」 「野生の技法 強壯する男性身体」
田中雅一	2008		田中雅一	2008年9月13日(土)日本宗教学会第67回学術大会 公開シンポジウム「現代社会における宗教学の役割を問う」筑波大学 「誘惑する宗教学」
田中雅一	2008		田中雅一	2008年10月18日(土)民博共同研究会「日本人類学史の研究」 「京都探検大学における人類学の系譜」
田中雅一	2008		田中雅一	2008年12月6日(土)東京外大AA研 研究会「社会空間論の再検討:時間的視座から」 「わたしがこわれるとき——売春経験を考える」

生方史数	2007		Ubukata, F.	“The ‘Scaling-up’ Attempts of Community Forest Management: Two Contrasting Cases in Yasothon Province, Northeast Thailand”. International Symposium on “Forest Stewardship and Community Empowerment: Local Commons in Global Context.” Kyoto International Community House, Oct. 11-12, 2007.
生方史数	2007		生方史数	『「プカランガン」からみたジャワ系移民の生活世界』G-COE次世代研究イニシアティブ 研究助成第1回研究会. 京都大学. 2007年11月20日
生方史数	2007		生方史数	「共有林管理制度と保全活動:タイ・ヤソートン県K郡の事例」第18回国際開発学会全国大会. 沖縄大学. 2007年11月24日-25日.
生方史数	2007		生方史数	「ユーカリ論議から見えてくるもの」G-COE「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」シンポジウム「技術と社会のネットワーク—研究課題と展望」 京都大学東南アジア研究所 2007年12月14日.
生方史数	2007		Ubukata, F.	“Let’s Get Villagers Involved in: The Strategic Shift of Raw Material Procurement and Its Consequences in the Thai Pulp Industry”. JSPS – NRCT Core University Program by JSPS and NRCT on Private Faces of Power and Institutions in Southeast Asia, Royal City Hotel, Bangkok, Dec. 6-7, 2007.
生方史数	2008		生方史数	『「プカランガン」からみたジャワ系移民の生活世界』G-COE次世代研究イニシアティブ 研究助成報告会. 京都大学. 2008年4月12日
生方史数	2008		生方史数	「コモンズにみるローカルな制度形成プロセスの現代性」第4回G-COEイニシアティブ1研究会 京都大学東南アジア研究所 2008年5月12日.
生方史数	2008		生方史数	「コメント アジアの経済発展とその制約要因」アジア政経学会西日本大会. 桃山学院大学. 2008年6月28日
生方史数	2008		生方史数	「塩と共に生きる?: タイ東北部における塩害と生存基盤」東南アジア研究所シンポジウム『災害に立ち向かう地域/研究: 生存基盤持続への寄与を目指して』京都大学東南アジア研究所 2008年7月11-12日.
生方史数	2008		Ubukata, F.	“Changing Borders of the Management Unit: an Effect of Decentralization and Formalization in Communal Forest Management, Yasothon, Thailand”. The 12 th Biennial Conference, International Association for the Study of Commons, University of Gloucestershire, Cheltenham, England, July 14-18, 2008.
生方史数	2008		生方史数	「二元論を超えて: タイの林業・森林保全の現場から考える」ワークショップ『アジアの森林保護政策・制度による人々の暮らしへの影響と対応』総合地球環境学研究所 2008年12月26
生方史数	2009		Ubukata, F.	“Bridging the Formal-informal Gap? Changing Institutional Arrangements in Communal Forest Management in Thailand,” The Second International Conference of Kyoto University Global COE Program, In Search of Sustainable Humanosphere in Asia and Africa, “Biosphere as a Global Force of Change,” Inamori Center, Kyoto, March 9-11, 2009.
生方史数	2007		生方史数	「タイ農村における共有地管理制度の進化プロセスに関する研究」平成18年度開発経済学研究派遣者報告会. 財務省財務総合政策研究所研究部. 2007年3月30日.

生方史数	2007	Ubukata, F. and Akarapin, T.	“Household Differences of Tree Planting Strategy and Tree Management in Northeast Thailand”. International Workshop on “Thinning as an Essential Management Tool of Sustainable Teak Plantation”, Faculty of Forestry, Kasetsart University, Bangkok, November
生方史数	2009	Ubukata, F.	“Science in Policy Making: the Eucalyptus Debate and Villagers in Thailand”. International Symposium on Forest Policies for a Sustainable Humanosphere, Center for Integrated Area Studies, Kyoto University, Inamori Center, Kyoto, February 17-18, 2009.
梅村研二	2007	Sasa Sofyan Munawar, Kenji Umemura, Fumio Tanaka, Shuichi Kawai	The Properties of Mild Steam and Chitosan Treated Ramie and Pineapple Plant Fiber Bundles, Proc. CD p. 371, The 2007 IUFRO All Division 5 (Forest Products) Conference, Taipei, 29 October-2 November (2007)
梅村研二	2007	Sasa Sofyan Munawar, Kenji Umemura, Fumio Tanaka, Shuichi Kawai	The Properties of Chitosan and Mild Steam Treated Pineapple, Ramie and Sansevieria Fiber Bundles, Proc. CD ISSN:1881-4034, The 16th Indonesian Scientific Conference 2007 in Japan, Kyoto, 25 August (2007)
梅村研二	2007	Kenji Umemura, Shuichi Kawai	Characterization of chitosan-glucose film. International Symposium on Advanced Biomass Science and Technology for Bio-based Products, Beijing, China, May 23-25, 2007
梅村研二	2007	Sasa Sofyan Munawar, Kenji Umemura, Fumio Tanaka, Shuichi Kawai	The Properties of Chitosan and Mild Steam Treated Pineapple, Ramie and Sansevieria Fiber Bundles, The 16th Indonesian Scientific Conference 2007 in Japan, Kyoto, 25 August (2007)
梅村研二	2007	Sasa Sofyan Munawar, Kenji Umemura, Fumio Tanaka, Shuichi Kawai	The Properties of Mild Steam and Chitosan Treated Ramie and Pineapple Plant Fiber Bundles, The 2007 IUFRO All Division 5 (Forest Products) Conference, Taipei, 29 October-2 November (2007)
梅村研二	2007	梅村研二、川井秀一	キトサンとグルクロン酸反応物の諸特性、日本接着学会第45回年次大会、東京、6/28-29
梅村研二	2007	梅村研二、川井秀一	タンニン酸添加によるキトサンフィルムの特性変化、第57回日本木材学会大会、広島、8/8-10 (2007)
梅村研二	2007	石川綾子、梅村研二、川井秀一	グルコースを添加したキトサンのフィルム特性と接着性能、第57回日本木材学会大会、広島、8/8-10 (2007)
梅村研二	2007	Sasa SM, Kenji Umemura, F. Tanaka, S. Kawai	The properties of alkali and steam treated ramie and sansevieria fiber bundles、第57回日本木材学会大会、広島、8/8-10 (2007)
梅村研二	2007	Han Guangping, Wu Qinglin, Kenji Umemura, Yoichi Kojima, Shigehiko Suzuki	Bamboo-fiber filled high density polyethylene composites: Effect of coupling treatment and nanoclay, 第57回日本木材学会大会、広島、8/8-10 (2007)
梅村研二	2008	梅村研二、海法圭司、川井秀一	キトサンで接着したバガスパーティクルボードの特性、第58回日本木材学会大会、つくば、3/17-19 (2008)
梅村研二	2008	Sasa SM, Kenji Umemura, S. Kawai	The properties of oriented fiber board using mild steam-treated plant fiber bundles, 第58回日本木材学会大会、つくば、3/17-19 (2008)
梅村研二	2008	梅村研二、石川綾子、川井秀一	キトサンの接着性能に及ぼす単糖の添加効果、日本接着学会第46回年次大会、大阪、6/26-27 (2008)

梅村研二	2008		Kenji Umemura, Hidefumi Yamauchi, Takeshi Ito, Masaaki Shibata, Shuichi	Effect of UV Irradiation on the Color and Chemical Structure of PMDI Cured with Water, International Symposium on Wood Science and Technology. Harbin, China, September 27-29 (2008)
梅澤俊明	2007		Toshiaki Umezawa, Shiro Suzuki, Daisuke Shibata	Tree Biotechnology of Tropical Acacia, 第8回コロキウム「植物バイオテクノロジーの最前線」(JSPS- Sweden (SU)/Japan (NAIST) Colloquium on Frontiers of Plant Biotechnology), Stockhorm University, 2007/10/4
梅澤俊明	2007		Toshiaki Umezawa,	Tree Biotechnology of Tropical Acacia, THE FIRST KYOTO UNIVERSITY - LIPI SOUTHEAST ASIAN FORUM:SUSTAINABLE HUMANOSPHERE IN INDONESIA,
梅澤俊明	2007		梅澤俊明,	イネリグニン生合成の代謝工学, 草本系バイオマスの収集・保管・前処理を中心にして、バイオマス研究会、東京, 2008/3/12
梅澤俊明	2007		梅澤俊明, 鈴木史朗	木質バイオマスの改良技術, 日本農芸化学会2008年度大会シンポジウム 未来型バイオリファイナリーの新展開, 名古屋, 2008/3/29
梅澤俊明	2008		梅澤俊明, 鈴木史朗	バイオマスデザインとリファイナリー -競合から共存へ-リグニンの代謝制御による木質バイオマスの改良, 藪田セミナー (日本農芸化学会) 神戸, 2008/5/9
梅澤俊明	2008		Toshiaki Umezawa	The Subunit Composition of Hinokiresinol Synthase Controls Both Geometric and Enantiomeric Selectivities in Hinokiresinol Formation 1st International Conference on Plant Secondary Metabolism, Kunming, China, 2008/6/8-11
梅澤俊明	2008		梅澤俊明	バイオ燃料開発におけるリグニンの制御, モノづくりフェア2008 自動車産業におけるバイオ燃料の将来は? ~食料と競合しない植物資源からのバイオマスエネルギー開発最前線~, 福岡, 2008/10/24
梅澤俊明		招待	梅澤俊明	The Second International Conference of Kyoto University Global COE Program <i>In Search of Sustainable Humanosphere in Asia and Africa</i> , Biosphere as a Global Force of Change <i>Biofuel as a Global Force of Change session paneler</i>
和田泰三	2008		佐藤孝宏 和田泰三	地域サステナビリティ指数の作成にむけて GCOEイニシアティブ1研究会 2008年6月23日(月) 京都大学 東南アジア研究所
和田泰三			Sato T, Wada T.	How to assess the sustainability of our humanosphere? -Towards the development of humanosphere index -, GCOE The Second International Workshop "Biosphere as a Global
渡辺一生	2008		Kazuo Watanabe, Kazutoshi Hoshikawa and Shuichi Miyagawa	Expansion and Alteration of Rain-fed Paddy Field in Don Daeng Village, Northeast Thailand, International Symposium in Khon Kaen 2008 "Sustainable Resource Use and Management in Lao Lowland and Northeast Thai Villages under the Contemporary Economic Transition: Comparative Integrated Rural Studies", Khon Kaen University, (2008).
渡辺隆司	2007		Watanabe, T.	10th International Congress on Biotechnology in the Pulp and Paper Industry(ICBPPI) (平成19年6月)
渡辺隆司	2007		渡辺隆司	G-COE第2回パラダイム研究会 (平成19年10月)
渡辺隆司	2007		渡辺隆司	第1回 学際交流ワークショップーバイオエタノール生産拠点としての東南アジア人工林展望ー (平成19年7月)

渡辺隆司	2007		Watanabe, T.	International Academy of Wood Science 2007 Annual Meeting (平成19年10月)
渡辺隆司	2007		Watanabe, T.	The first Kyoto University- LIPI South East Asian Forum: Sustainable Humansphere in Indonesia (平成19年11月)
渡辺隆司	2007		Watanabe, T.	Research Institute for Sustainable Humansphere (Kyoto University) - School of Biological Sciences (Universiti Sains Malaysia) Seminar (平成19年12月)
渡辺隆司	2008		Watanabe, T.	ASEAN COST+3: New Energy Forum for Sustainable Environment, Pre-Symposium, 6th Eco-Energy and Materials Science and Engineering Symposium (EMSES) (平成20年5月)
渡辺隆司	2008		Watanabe, T.	99th RISH Symposium VTT-RISH Joint Symposium -Sustainable Utility of Wood Biomass (平成20年6月)
渡辺隆司	2008	招待	渡辺隆司	日本応用糖質科学会近畿支部大会 (平成20年10月)
渡辺隆司	2008	招待	渡辺隆司	日本農芸化学会関西支部大会シンポジウム (平成20年9月)
渡辺隆司	2008	招待	Watanabe, T.	Mie Bioforum 2008 Biotechnology of Lignocellulose Degradation, Biomass Utilization and Biorefinery (平成20年9月)
渡辺隆司	2008	招待	渡辺隆司	第60回日本生物工学大会シンポジウム (平成20年9月)
渡辺隆司	2008	招待	渡辺隆司	第3回木質科学シンポジウム“バイオ燃料生産ならびにバイオリファイナリー技術革新に向けて” (平成20年5月)
渡辺隆司	2007	招待	渡辺隆司	岩手生物工学研究センター (平成19年12月)
渡辺隆司	2007	招待	Watanabe, T.	University of Indonesia-Special Seminar (平成19年11月)
渡辺隆司	2007	招待	Watanabe, T.	LIPI Biotechnology Center -Workshop (平成19年11月)
渡辺隆司	2007	招待	渡辺隆司	庄原バイオマスフォーラム2007 (平成19年11月)
渡辺隆司	2007	招待	渡辺隆司	日本材料学会、第30回材料講習会“カーボンニュートラル材料最前線” (平成19年11月)
渡辺隆司	2007	招待	渡辺隆司	NTSセミナー”食料資源に頼るな！！セルロース原料による最新バイオエタノール製造技術” (平成19年11月)
渡辺隆司	2007	招待	渡辺隆司	2007年度日本菌学会西日本支部大会 (平成19年10月)
米澤剛	2009		米澤剛	基盤(S)地域情報学の創出・地域研究統合情報センター全国共同利用研究共催「ベトナム・ハノイプロジェクト研究会」開催・参加・発表、ハノイの地形と地下構造、2009年2月4日、京
米澤剛	2008		Yonezawa, G.	GIS-IDEAS 2008, PNC, ECAI Joint International Symposium 参加・発表、Hanoi Urban Transformation in the 19-21 Centuries - Topographic Changes and 3-D Modeling -, 2008年12月4-6日、ベトナム・ハノイ工科大学
米澤剛	2008		Yonezawa, G.	The third International Conference on Vietnamese Studies 2008 参加・発表、3D Topographical Analysis in Hanoi、2008年12月4-7日、ベトナム・ハノイコンベンションセン
米澤剛	2008		米澤剛	2008年度第1回HGIS研究会 参加・発表、地域情報学的手法を用いたベトナム・ハノイの都市変容の解明、2008年6月22日、京都大学
米澤剛	2008		米澤剛	日本情報地質学会Geoinforum2008 参加・発表、ベトナム・ハノイの都市変容と地形変化、2008年6月12-13日、北海道大学

米澤剛	2008		米澤剛	地域・環境情報ネットワークワークショップ 参加・発表、京都大学東南アジア研究所における地図資料とメタデータ、2008年5月10日、総合地球環境学研究所
米澤剛	2007		米澤剛	情報処理学会:人文科学とコンピュータシンポジウム2007 参加・発表、GISを用いたベトナム・ハノイの都市形成、2007年12月13-14日、京都大学
米澤剛	2007		Yonezawa, G.	Workshop on Spatiotemporal Analysis of Hanoi using the Area Informatics Approach - Historical and Geological Viewpoint, 3-D Topographical Analysis in Hanoi, 2007年9月13
米澤剛	2007		米澤剛	第31回東南アジアセミナー「時空間で地域を観る・解く・語る—地域研究と空間情報科学—」参加・発表、地下のしくみと地上をつなぐ空間情報分析、2007年9月6日、京都大学
米澤剛	2008	招待	米澤剛	OSGeo財団(The Open Source Geospatial Foundation), 招待講演「GISを用いたベトナム・ハノイの都市形成変容」, 2008年5月27日, 大阪市立大学
吉村剛	2007	招待	Tsuyoshi Yoshimura	Biodiversity in Tropical Plantation Forests – Termite fauna as a bioindicator in plantation forests -, Humanosphere Science School 2008, February 21-22, 2008, Cibinong, Indonesia
吉村剛	2007	招待	吉村剛	シロアリ・環境・住宅、フクビ化学工業(株)、研修会、平成20年3月12日、大阪(2008)
吉村剛	2008		Yoko Takematsu, Tsuyoshi Yoshimura, Sulaeman Yusuf, Wakako Ohmura and Yoshiyuki Yanase	Temporal change in the species richness of termites on Acacia Hybrid plantation, The 6th Conf. Pacific Rim Termite Res. Group, Kyoto, March 2-3 (2009).
吉村剛	2008		山下聡、吉村剛、佐藤大樹、服部力	人為活動が多孔菌類群集に及ぼす影響 —温帯、亜熱帯、熱帯間での比較、第120回日本森林学会、京都、2009年3月25～28日(2009)

(4) G-COE関連国際会議の成果としてのプロシーディングス等出版物		
会議開催日時	主催	プロシーディングス等
2007/11/26-27	GCOE, HAKU and LIPI	Proceedings: LIPI SOUTHEAST ASIAN FORUM Sustainable Humansphere in Indonesia
2007/12/5-7	CIAS and GCOE	CIAS Discussion Paper No.4: Transborder Environmental and Natural Resource Management. Wil
2007/12/6-7	JSPS, NRCT and GCOE	Proceedings: Private Faces of Power and Institutions in Southeast Asia Proceedings Volume 1 "Entrepreneurship in East Asia: Establishing a New Model of East Asian Proceedings Volume 2 "Changing "Families"; Comparative Asian Economic History: Institutions
2008/02/21-23	LIPI and GCOE	Proceedings: "Humansphere Science School Feb 21 to 22, 2008"
2008/2/1-2	GCOE and JSPS	Islamic System, Modernity and Institutional Transformation
2008/7/4-5	GCOE and Netherlands Institute for War	Chinese Identities and Inter-Ethnic Coexistence and Cooperation in Southeast Asia
2008/11/8-9	GCOE and Osaka University	Multiple Paths of Economic Development in Global History
2008/11/17-20	Kasetsat University and GCOE	The FORTROP II Conference
2008/12/4-6	JVGC, HUMG, and GCOE	GIS-IDEAS 2008 , PNC , ECAI Joint International Symposium
2009/2/17-18	CIAS and GCOE	Forest Policies for a Sustainable Humansphere
2009/3/3-4	GCOE and JSPS	New Paradigm for Human Beings and Nature: Frontier of Asian Area Studies
2009/3/9-11	GCOE	Biosphere as a Global Force of Change

(5) その他文章、および社会貢献			
林隆久	2007	特許	糖化用植物および植物由来原料の調製方法, 特願2008-077110, 2007, 林 隆久、馬場啓一
林隆久	2007	エッセイ	産業利用をめざした遺伝子組換えポプラの野外試験がはじまる, 科学技術動向月報(2007).
林隆久	2007	エッセイ	民族の問題, サステナ, 2, 46-47 (2007).
林隆久	2007	エッセイ	遺伝子組換えポプラ, サステナ, 3, 42-43 (2007).
林隆久	2007	エッセイ	セルラーゼ, サステナ, 4, 36-37 (2007).
林隆久	2007	エッセイ	自由研究, サステナ, 5, 34-35 (2007).
林隆久	2008	インタビュー	「(インタビュー)植物で未来をつくる」、松永和紀著、2008年3月30日、化学同人出版.
林隆久	2008	新聞	「(サイエンス)最新技術を駆使した森林復元」、『日本経済新聞』2008年3月30日.
林隆久	2008	エッセイ	知の融合のかたち, サステナ, 6, 40-41 (2008).
林隆久	2008	エッセイ	一病息災, 二病長命, サステナ, 7, 38-39 (2008).
林隆久	2008	エッセイ	おあがり, サステナ, 8, 42-43 (2008).
林隆久	2009	エッセイ	人口爆発問題, サステナ, 9, 40-41 (2009).
林隆久	2009	エッセイ	インドネシアの冬, サステナ, 10, 42-43 (2009).
林隆久		委員	生物多様性影響評価検討会林木分科会委員(平成17年度～)
林隆久		委員	Journal of Wood Science編集委員
林隆久		委員	Cellulose編集委員
林隆久		委員	糖質学会評議員
籠谷直人	2008	エッセイ	「アジア史の古典研究をとおした帝国とネットワークの解明」京都大学 “Newsletter No.2 Global COE Program” 生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点
川井秀一	2007	TV、新聞	テレビ・新聞報道 NHKニュース平成19年12月18日および19日毎日新聞朝刊、日本経済新聞朝刊、京都新聞朝刊19年12月19日マレーシアKHP社とのアカシア造林木の持続的な生産・利用と環境貢献に関する共同研究に関
川井秀一	2008	特許	特許第4097249号「木材用接着剤および木材の接着方法」、発明者:梅村研二、川井秀一、特許権者:独立行政法人森林総合研究所、独立行政法人科学技術振興機構、登録日:2008年3月21日出願
川井秀一	2008	TV	テレビ報道 NHKスペシャル(NHKハイビジョン特集) 平成20年3月22日放映 木と土と紙 伝統を受け継ぐ 西本願寺御影堂 平成大修復
川井秀一		NPO活動	日本木材学会主催の「日本の森を育てる木づかい円卓会議」議長を経て、2006年にNPO法人木を設立、理事長に就任。木材利用と森づくりを通じた環境教育の普及・啓発事業と調査活動を行っている。
河野泰之		委員	日本学術会議連携会員
小杉泰	2007	講義	「イスラーム世界の文明と社会」泉北教養講座 ライフセミナー講座2007.6.8
小杉泰	2007	講義	「現代のイスラーム世界——暮らしと発想法——」京都大学春秋講義(水曜講義)2007.10.31
小杉泰	2007	講義	「激動するイスラーム世界と国際社会」木曜講座(西宮市立西宮東高校開放講座):「自爆テロの陰に—イスラーム政治と現代世界」2007.11.01
小杉泰	2008	講義	「国際社会と日本」大阪YWCA専門学校 2008.2.13
小杉泰	2008	講義	「イスラームの考え方と最近の動向」京都府警察本部 2008.4.14
小杉泰	2008	講義	「外国人をとりまく諸問題(3)イスラーム編」大阪YWCA専門学校 日本語教師養成講座(基礎コース)2008.7.16

小杉泰	2008	講義	「イスラームの基礎知識」ひょうご講座「中東問題とイスラームへの理解を深める」第2回 2008.9.16
小杉泰	2008	講義	「イスラームの社会と暮らし」ひょうご講座「中東問題とイスラームへの理解を深める」第3回 2008.9.30
小杉泰	2008	講義	「現代イスラームの諸相」ひょうご講座「中東問題とイスラームへの理解を深める」第4回 2008.10.7
小杉泰	2008	講義	「イスラーム社会の文化と暮らし」泉北教養講座 2008.10.10
小杉泰	2008	書評(朝日新聞)	『イスラームの人間観・世界観—宗教思想の深淵へ』[著]塩尻和子 2008.4.6
小杉泰	2008	書評(朝日新聞)	『アラブ・ミュージック—その深遠なる魅力に迫る』[編]関口義人 2008.5.11
小杉泰	2008	書評(朝日新聞)	『ブータンに魅せられて』[著]今枝由郎 2008.5.25
小杉泰	2008	書評(朝日新聞)	『イラクは食べる—革命と日常の風景』[著]酒井啓子 2008.6.1
小杉泰	2008	書評(朝日新聞)	『現代イスラーム思想の源流』[著]飯塚正人 2008.6.8
小杉泰	2008	書評(朝日新聞)	『イスラームから考える』[著]師岡カリーマ・エルサムニー 2008.6.29
小杉泰	2008	書評(朝日新聞)	『ウィキペディアで何が起きているのか』[著]山本まさき、古田雄介／情報化時代のプライバシー研究 [著]青柳武彦 2008.7.13
小杉泰	2008	書評(朝日新聞)	『五輪ボイコット—幻のモスクワ、28年目の証言』[著]松瀬学 2008.8.3
小杉泰	2008	書評(朝日新聞)	『世界遺産—ユネスコ事務局長は訴える』[著]松浦晃一郎 2008.9.14
小杉泰	2008	書評(朝日新聞)	『者たちの国—ベンガルの宗教文化誌』[著]外川昌彦 2008.9.28
小杉泰	2008	書評(朝日新聞)	『来—世界の川が干上がるとき』[著]フレッド・ピアス 2008.10.5
小杉泰	2008	書評(朝日新聞)	『イラク崩壊—米軍占領下、15万人の命はなぜ奪われたのか』[著]吉岡一／
小杉泰	2008	書評(朝日新聞)	『中東激変 石油とマネーが創(つく)る新世界地図』[著]脇祐三 2008.10.19
小杉泰	2008	書評(朝日新聞)	『国際緊急人道支援』[編]内海成治・中村安秀・勝間靖 2008.11.2
小杉泰	2008	書評(朝日新聞)	『「国連」という錯覚』[著]内海善雄 2008.11.30
小杉泰	2008	書評(朝日新聞)	『インドネシア 展開するイスラーム』[著]小林寧子 2008.12.7
小杉泰	2008	書評(朝日新聞)	『ヒュログリフ解説史』[著]ジョン・レイ 2008.12.14
小杉泰	2008	書評(朝日新聞)	書評委員お薦め「今年の3点」小杉泰 2008.12.21
小杉泰	2009	講義	「国際社会と日本」大阪YWCA専門学校 2009.2.25
小杉泰	2009	書評(朝日新聞)	『パスポートの発明—監視・シティズンシップ・国家』[著]ジョン・トーピー 2009.1.25
小杉泰	2009	書評(朝日新聞)	『現代のイスラーム金融』[著]北村歳治、吉田悦章 2009.2.22
小杉泰	2009	書評(朝日新聞)	『すごい本屋!』[著]井原万見子 2009.3.8
小杉泰	2009	書評(朝日新聞)	『砂糖のイスラーム生活史』[著]佐藤次高 2009.3.15
松林公蔵		検診	高知県土佐町高齢者検診(07-08年8月)
松林公蔵		検診	介護付き高齢者マンション「ライフイン京都」定期検診と介入(07-08年)
水野広祐	2008	辞書	「農村副業」「ボゴール」桃木至朗他編『新版 東南アジアを知る事典』東京:平凡社 2008年6月
水野広祐	2008	新聞	Banjarmasin Post, 2008, 7, 25、において、「Tata Kota Banjarmasin Perlu dibenahi (バンジャールマシンの都市計画は是正の必要)」として水野に対するインタビュー記事が大きく報道される。生存基盤概念も紹介
水野広祐	2007	講演	国際東アジア研究センター第116回アジア講座「インドネシアにおける新たな発展の方向を求めて—民主化・地方分権化のインドネシアにおける生存基盤確保型発展の可能性—」国際東アジア研究センター、北九州、2007年9月

水野広祐	2008	講演	APEX第161回公開セミナー「インドネシアにおける新たな発展の方向を求めて--生存基盤確保型発展の可能性」、於 東京広尾、JICA地球ひろば、2008年11月29日
水野広祐	2009	講演	インドネシア講演会「改革インドネシアの11年、権威主義・開発体制はどう変わったのか」(財)岡山県国際交流協会・岡山インドネシア友好協会、於:岡山県国際交流センター 2009年2月25日
岡本正明	2008	辞書	「LIPI」、「アンダーソン」、「カラ」、「スラウェシ」、「マカッサル」、「マナド」、「地方自治」、「独立闘争」、「暴力」、「犯罪」、「国民国家形成」、桃木至・深見純生・柳沢雅之・見市建編『東南アジアを知る辞典』、平凡社、2008年
篠原真毅		委員	電子情報通信学会宇宙太陽発電時限研究専門委員会 H19 幹事, H20 委員
篠原真毅		委員	電子情報通信学会マイクロ波研究専門委員会 H19, H20 委員
篠原真毅		委員	日本学術会議 電気電子工学委員会 URSI分科会 無線通信システム信号処理小委員会 (URSI-C小委員会) H19 総括幹事, H20 副委員長
篠原真毅		委員	IEEE MTT-S Kansai Chapter Technical Committee委員 H19, H20
篠原真毅		委員	日本機械学会マイクロナノ工学専門会議マイクロエネルギー研究会委員 H19, H20
篠原真毅		委員	2009 International Symposium on Electromagnetic Compatibility(EMC09) Local委員 H19, H20
篠原真毅		委員	ASEAN COST+3 (ASEAN Committee of Science and Technology with China, Korea, and Japan) New Energy Forum for Sustainable Environment (NEFSE) Local Organization Committee member H19
篠原真毅		委員	電子情報通信学会 第8次ハンドブック/知識ベース委員会 編幹事 H19, H20
篠原真毅		委員	宇宙航空研究開発機構 宇宙エネルギー利用システム検討委員会委員 H19, WGメンバー H19, WG4リーダー H19, WG10副リーダー H19
篠原真毅		委員	(財)無人宇宙実験システム研究開発機構(USEF) 太陽光発電利用委員会 委員 H19, 太陽光発電利用委員会発送電技術専門委員会 委員長 H19, 太陽光発電利用委員会システム専門委員会 委員 H19, 太陽光発電無線送受電技術研究開発評価委員会 委員 H20
篠原真毅		委員	(財)機械振興協会経済研究所 日本発グローバル発信型ユビキタスネット向エネルギー変換デバイス調査 エネルギー変換デバイス調査委員会 委員 H19
篠原真毅		委員	宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究本部 宇宙工学委員会エネルギー班 H19
篠原真毅		委員	(独)科学技術振興機構研究開発戦略センター(JST)「希薄分散エネルギー利用技術に関する科学技術未来戦略ワークショップ」副コーディネータ H19
篠原真毅		新聞	2009.3.10 京都新聞夕刊1面「空からの電波 地上で発電」
篠原真毅		新聞	2009.3.11 毎日新聞朝刊京都版23面「飛行船から無線で送電」
杉原薫	2007	書評	(書評)「鳩澤歩『ドイツ工業化と鉄道業』」、『日本経済新聞』2007年11月3日。(『日本経済研究センター会報』962号、2007年12月1日、68-69頁に再録)
杉原薫	2008	講演	“Japanese Economic Development in Comparative Asian Perspective”, 国際交流基金関西国際センター 平成20年度日本社会文化講義(アジア・ユース・フェロシップ高等教育奨学金訪日研修参加者向け)、関西国際センター、2008年12月2日。
杉原薫	2008	エッセイ	「(経済教室)原油高騰下の世界の貿易収支」、『日本経済新聞』2008年2月25日。
杉原薫	2008	エッセイ	「英国議会資料-学術的利用の新段階-」紀伊國屋書店『電子商品ニュース』EP-158, 2008年9月。

杉原薫	2009	新聞	「(インタビュー)『生存基盤』考えてみて」(知のあけぼのー京大附置研・センターシンポを前にー2)『読売新聞』2009年2月22日
谷誠	2008	新聞	森林利用と環境の抜本的施策をー花粉症の警告ー毎日新聞 2008年4月20日、発言席、2008。
脇村孝平	2008	エッセイ	「趣旨説明:特集 日本南アジア学会第20回全国大会・全体シンポジウム『南アジア・日本・世界ーグローバル化と南アジア認識の変貌』』『南アジア研究』第20号、2008年12月、140-1頁。
脇村孝平	2008	書評	書評:「エドワード・ルース(田口未和訳)『インド 厄介な経済大国』』日本経済新聞、2008年12月7日。
脇村孝平	2009	書評	Book Review: <i>Decolonizing International Health: India and Southeast Asia, 1930-65</i> , <i>International Journal of Asian Studies</i> , Vol. 6, Part 1, January 2009, pp. 140-3.
山越言	2008	コメント	「コメント」(大橋岳著[トランスフロンティアに分布するチンパンジーの生態と保全])エコソフィア20: 105.
山本衛		委員	日本学術会議 第20期地球惑星科学委員会国際対応分科会IAGA小委員会委員
山本衛		委員	地球電磁気・地球惑星圏学会(SGEPSS)運営委員
矢野浩之	2007	TV	NHKサイエンスゼロ
矢野浩之	2008	新聞	バイオマス繊維複合材を開発 化学工業日報 2007/5/21
矢野浩之	2008	新聞	植物繊維原料の樹脂研究 日本経済新聞 2008/3/10
矢野浩之	2008	新聞	鉄を越える樹脂開発 日本経済産業新聞 2008/3/11,12
矢野浩之	2008	新聞	知の最前線:強く軽い樹木繊維の車 読売新聞 2008/2/15
足立明		委員	日本南アジア学会理事(2008-2012)
足立透	2008	講演	高校生への研究指導及び講演、全国Super Science High-school コンソーシアム「高々度発光現象スプライトの同時観測」、2008.
足立透	2008	講演	一般講演、第124回地球電磁気・地球惑星圏学会アウトリーチ活動「教えて!はかせ!」コーナー、宮城、仙台、
藤田幸一	2007	書評	「須田敏彦著『インド農村金融論』』『アジア経済』48巻5号、2007年5月、pp.84-87.
藤田幸一	2008	書評	「大塚啓二郎・櫻井武司編著『貧困と経済発展:アジアの経験とアフリカの現状』』『農業経済研究』80巻1号、2008年6月、pp.40-41.
Hau, Caroline	2008	Book review	Review of Vicente Rafael, <i>The Promise of the Foreign: Nationalism and the Technics of Translation in the Spanish Philippines</i> . <i>Southeast Asian Studies</i> 46.1 (June 2008): 163-65.
Hau, Caroline	2008	Book review	Book review, Patricio Abinales, <i>The Joys of Dislocation: Mindanao, Nation and Region</i> , ABS-CBN News Online. Posted June 11, 2008/06/11
Hau, Caroline	2008	Book review	Book review, Vicente Rafael, <i>The Promise of the Foreign</i> , <i>Tonan Ajia Kenkyu</i> (Southeast Asian Studies), vol. 46, no.1 (June 2008): 163-65.
石川登	2008	講義	京都大学東南アジア研究所東南アジアセミナー講義「ボルネオのバイオマス社会の今:プランテーション、地球温暖化、バイオ燃料」、2008年9月1日、京都大学東南アジア研究所
石川登	2008	講演	マンディの会講演「ボルネオは地球温暖化を救う? 激動するサラワクの今と、その将来」2008年1月8日、大阪市総合生涯学習センター
石川登	2007	新聞	「『自然』の境界」(シリーズ)「グローバル化する現代社会を地域から観る」京都新聞 2007年7月22日掲載
石川登	2007	新聞	「国境、国家 現場で考える」京都新聞 2008年12月3日掲載
伊藤正子	2008	新聞	ベトナム、タイニエン(Thanh Nien)紙掲載"Hoa giai tu bai hoc Viet Nam"(ベトナムの経験から学ぶ和解)2008年3月

伊藤正子	2008	新聞	ベトナム タイニンエン(Thanh Nien)紙掲載"Co gai Nhat voi toc nguoi O Du"(日本人女性とオドゥ族)2008年7月24
片岡樹	2008	エッセイ	「南タイ福建人社会のババ文化と土地公祭祀—ブーケットの事例より—」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』122号: 60. (2008)
片岡樹	2009	書評	「現代ベトナムの少数民族政策の変遷を追う—書評・伊藤正子著『民族という政治』—」『図書新聞』2904号(2009年2月7日): 3.
木村大治	2007	新聞	「アフリカの声の世界(ボンガンド)」『京都新聞 2007年12月14日 地域から読む現代—グローバル化の中で 23』木村大治, 2007
木村大治	2007	新聞	「焼畑とアフリカ熱帯林(ボンガンド)」『京都新聞 2008年1月11日 地域から読む現代—グローバル化の中で 24』木村大治, 2008
木村大治	2008	事業報告書	「コンゴ民主共和国赤道州ワンバ地区における住民の森林利用に関する研究」 http://www.pri.kyoto-u.ac.jp/hope/reports/19-042-j.html , 2007
木村大治	2008	対談	木村大治, 佐藤真「どのように〈共に在る〉のか……双対図式からみた『共在感覚』」『談』no.81「特集〈共に在る〉哲学」pp.11-37, たばこ総合研究センター, 2008
木村大治	2008	辞書	「相互行為」「挨拶」「携帯とインターネット」木村大治『文化人類学事典』(日本文化人類学会編)
木村周平	2008	書評	「書評『災害の人類学』」『文化人類学』73巻4号、頁数未定(掲載決定)、2009年
木村周平	2008	講演	国際交流基金主催の異文化理解講座「災害に向き合うアジアの人びと」にて講演(2009年3月25日)
木谷公哉	2008	インターネット記事	CNET オープンソース記事「大学がオープンソースに貢献する」, 2008年3月30日, http://japan.cnet.com/blog/geeklog/2008/05/16/entry_27001533/
木谷公哉	2008	講義	「CMSによるウェブサイト構築とGeeklogを使った実習」, 第1回CMS研究会, 2008年7月18日, 地域研究統合情報セ
木谷公哉	2008	インターネット記事	CNET オープンソース記事「GoogleMapsAPI をGeeklog で使う簡単便利なプラグイン」, 2008年5月16日, http://japan.cnet.com/blog/geeklog/2008/05/16/entry_27001533/
木谷公哉	2008	インターネット記事	「GCOEと社会貢献 —情報発信におけるコミュニティとの連携—」, 2008年7月7日, GCOE運営委員会, http://www.humanosphere.cseas.kyoto-u.ac.jp/images/library/Image/pdf/200807_koho_kitani.pdf
木谷公哉	2007	イベント	関西オープンフォーラム2007, 主催: 関西オープンフォーラム2007実行委員会, 開催: 2006年11月9日~10日, 開催地: 大阪南港ATC, イベント運営: 実行委員 (http://k-of.jp/2007/about.html)
木谷公哉	2007	新聞	「東南アジアフォーラム開催 持続的生存圏の構築目指し 京都大学と科学院が協力 テレビ会議で大いに討論」, 『じゃかるた新聞』(インドネシア発行), 2007年11月30日. 第1回京都大学東南アジアフォーラム
近藤史	2008	エッセイ	「自転車モドキ」『アフリカをめぐる10の物語』服部志帆・丸山淳子・他(編)、NPO法人アフリック・アフリカ, pp.3-4,
黒崎龍悟	2009	エッセイ	「貧困削減戦略の現場から」GCOEフィールドコラム http://www.humanosphere.cseas.kyoto-u.ac.jp/article.php?story=20090105&query=%25E3%2582%25B3%25E3%2583%25A9%25E3%2583%25A0
丸山淳子		委員	NPO法人アフリック・アフリカ副代表理事
丸山淳子	2008	新聞	「京都発 サル学の60年 第3部 人の生態を見つめ “定住化 分かち合う心は今も”」 京都新聞2008年2月28日
増原善之	2008	辞書	「ラオス【歴史】」他9項目、桃木至朗他編『東南アジアを知る事典』平凡社、2008
島上宗子	2007	新聞	「地域から読む現代—グローバル化の中で⑥:『森の守り人』(パル市)」京都新聞第11面、2007年6月22日
島上宗子		NGO活動	NGOいりあい・よりあい・まなびあいネットワーク共同代表

白石壮一郎	2008	書評	「石井洋子(2007)『開発フロンティアの民族誌—東アフリカ・灌漑計画の中に生きる人びと』御茶ノ水書房」 『JANESニューズレター』17号 日本ナイル・エチオピア学会
白石壮一郎		農林水産省委託調査	2007年11月 農林水産省委託調査 財団法人アジア人口・開発協会調査員、ウガンダ共和国にてにおいてコミュニティ基盤の協働型森林管理政策の進展に関する現地サーベイ(調査団長)
玉田芳史	2007	新聞	Prachathai(Online journal, http://www.prachatai.com/) 21 July 2007, “Kanmuang thai ruamsamai, ratthaprahan ratthathamnanun, prachathipatai jak mummong sattrajan chao yipun”(2007年7月17日のチェンマイ大学での講演の要旨を紹介)
玉田芳史	2007	新聞	『東京新聞・中日新聞』2007年12月25日「タイ総選挙」に関する談話を国際欄に掲載
玉田芳史	2008	エッセイ	「タイと太平洋戦争--『熱い絹』の背景--」『松本清張研究』第9号、90-97頁
玉田芳史	2008	一般紙	タイ政治についての談話『週間ダイヤモンド』2008年10月11日号、69頁
玉田芳史	2008	新聞	「政権をどう倒したのか」『図書新聞』2900号(2009年1月1日号)
玉田芳史	2008	一般紙	「タイ民主党新政権の前途多難」『週刊ダイヤモンド』2009年3月7日号、127頁.
田中雅一	2007	コメント	Fluid Boundaries, Institutional Segregation and Buddhist Sexual Tolerance: A Responce (2) <i>Religion and Society: An Agenda for the 21st Century</i> , Gerrie ter Haar & Yoshio Tsuruoka (eds.), Koninklijke Brill NV: Leiden, The Netherlands, pp.161-164, 2007
田中雅一	2007	コラム	コラム3 サティール 椎野若菜編『やもめぐらし——寡婦の文化人類学——』明石書店pp.193-199, 2007
田中雅一	2007	翻訳	イヤル・ベン=アリ 「イスラエル軍隊研究に向けての個人的な旅立ち」『人文学報』94:149-157, 2007
田中雅一	2007	書評	杉本星子『「女神の村」の民族誌——現代インドの文化資本としての家族・カースト・宗教——』『南アジア研究』第19号 日本南アジア学会、pp.169-174、2007
田中雅一	2007	書評	関根康正『宗教紛争と差別の人類学』『宗教研究』第81巻第3号 pp.196-201、2007
田中雅一		書評	<i>Legible Bodies: Race, Criminality and Colonialism in South Asia</i> . By Claire Anderson. Oxford: Burg, 2004. pp.245, <i>International Journal of ASIAN STUDIE S</i> , volume 5, part 1:121-123.
田中雅一	2008	書評	<i>Genders, Transgenders and Sexualities in Japan</i> . By Mark McLalland and Romit Dasgupta. Social Science Japan Journal 11(1) Summer 2008:155-158.
田中雅一	2008	書評	河合香吏編『生きる場の人類学——土地と自然の認識・実践・表象過程』『文化人類学』73-2:259-263、日本文化人類学会、2008
田中雅一	2009	事典項目	着衣と脱衣 日本文化人類学会(編)『文化人類学事典』、pp.78-79、丸善株式会社、2009
田中雅一	2009	事典項目	性的誘惑 日本文化人類学会(編)『文化人類学事典』、pp.522-525、丸善株式会社、2009
生方史数	2007	書評	書評「井上真編 躍動するフィールドワーク:研究と実践をつなぐ」『林業経済』60(4). 28-31.
生方史数	2007	講演	「タイ農村の社会変化と人々の暮らし」第16期ひろしまアジア塾公開講座 ひろしま国際センター 2007年9月26日.
生方史数	2008	講演	「地域社会と開発 パート1:タイの共有林管理を事例に」日本福祉大学 国際社会開発研究科修士課程 テキスト科目集中講義 2008年5月11日.
渡辺隆司		委員	資源エネルギー庁(バイオ燃料技術革新協議会エタノールWG委員)
渡辺隆司		委員	経済産業省地域新生コンソーシアム研究開発事業「木質バイオマスからの新規バイオエタノール生産技術の開発」
渡辺隆司		委員	(財)バイオインダストリー協会(研究開発委員会委員、分科会委員)
渡辺隆司		委員	独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO技術委員)

渡辺隆司		委員	(財)有機質資源再生センター(客員研究員)
渡辺隆司		新聞	日本経済新聞(平成21年2月23日朝刊)「木材の糖効率よく採取 マイクロ波当てて離れやすく」
渡辺隆司		新聞	朝日新聞(平成20年8月22日朝刊)「木くず発酵バイオガスキノコの菌ふりかけ成分分解」
渡辺隆司		新聞	日本経済新聞(平成19年5月4日朝刊)「キノコ(白色腐朽菌)とマイクロ波を用いた木質バイオマスの糖化・発酵前処
渡辺隆司		新聞	日経産業新聞(平成19年1月22日)「マイクロ波使い資源化 エタノール生産へ糖抽出」
渡辺隆司		新聞	朝日新聞(平成19年8月3日、東北版)「秋田杉からバイオ燃料」
渡辺隆司		新聞	秋田さきがけ(平成19年8月3日)「木質からエタノール」

(6)受賞		
島田周平	2008	日本地理学会賞(優秀賞)
島田周平	2008	大同生命地域研究奨励賞
矢野浩之	2008	第49回日本木材学会学会賞:セルロース系ナノ材料の開発(H.20.1.24)
山本衛	2007	地球電磁気・地球惑星圏学会 田中館賞(平成19年5月受賞), 論文名: 中緯度電離圏イレギュラリティの構造と発生機構に関する研究
石川登	2008	第三回樫山純三賞
米澤剛	2008	平成20年度日本情報地質学会論文賞受賞, 2008年6月12日

(7)学位論文		
藤田素子	2007	「都市から山地に至るランドスケープにおける鳥類排泄物による栄養塩の運搬」横浜国立大学環境情報学府提出. 博士学位論文.
Sasa Sofyan Munawar	2007	PROPERTIES OF NON-WOOD PLANT FIBER BUNDLES AND THE DEVELOPMENT OF THEIR COMPOSITES, 京都大学農学研究科提出、課程博士学位論文、2008年3月
木村周平	2008	「社会の災害的編成:トルコ、イスタンブルにおける、地震災害をめぐる知識・政策および社会関係についての人類学的研究」東京大学大学院総合文化研究科提出博士学位論文
近藤史	2008	「タンザニア南部高地における在来農業の創造的展開と互助労働システム—谷地耕作と造林焼畑をめぐる—」京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 博士論文
黒崎龍悟	2008	「タンザニア、マテンゴ高地における外部インパクトと内発性の発現過程に関する研究」京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士学位論文.
丸山淳子	2008	『ポスト狩猟採集社会への移行に関する研究:ボツワナにおけるサンの再定住と社会関係の再編』平成19年度京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士論文
中村香子	2008	「ケニア・サンプル社会における年齢体系の変容動態に関する研究—青年期にみられる集団性とその個人化に注目して—」京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科提出. 博士学位論文.
渡辺一生	2008	タイ国東北部・天水田集落における農業基盤の変遷に関する研究, 岐阜大学大学院連合農学研究科博士論文.
佐々木綾子	2008	Socio-economic Studies on Transformation of Traditional Tea Cultivation in Northern Thailand. Dr. Agr. Thesis, Kyoto University.
中村香子	2008	「ケニア・サンプル社会における年齢体系の変容動態に関する研究—青年期にみられる集団性とその個人化に注目して—」京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科提出. 博士学位論文.
和田泰三	2007	Orthostatic hypotension in older people and its association with mortality. MSc.Thesis, University of London.

(8) 特許		
篠原真毅	特許取得	松本 紘, 篠原 真毅, “マイクロ波発生装置”, 特願2003-350463号, 2003.10.9, 特開2005-117451号, 2005.4.28, 4022624号, 2007.10.12
篠原真毅	特許取得	篠原 真毅, 七日市 一嘉, 三谷 友彦, 松本 紘, 木村 友久, 鬼頭 克巳, “導波管スロット結合を用いた電力分配器”, 特願2004-160272号, 2004.5.28, 特開2005-341443号, 2005.12.8, 4010419号, 2007.9.14 確定
篠原真毅	特許取得	H. Matsumoto and N. Shinohara, “Oscillator Array, and Synchronization Method of the Method of the Same”, US7,427,901 B2,
篠原真毅	特許取得	H. Matsumoto and N. Shinohara, “Microwave Generator”, US7,471,945 B2, 2008.12.30 確定
篠原真毅	特許公開	松本 紘, 篠原 真毅, “マイクロ波発生装置”(特願2003-350463号の分割), 特願2007-6184号, 2007.1.15, 特開2007-97233号, 2007.4.12,
篠原真毅	特許公開	松本 紘, 篠原 真毅, 山本 敦士, 桶川 弘勝, 水野 友宏, 池松 寛, “平衡二線線路式レクテナおよびそれを使用したレクテナ装置”, 特願2005-307097号, 2005.10.21, 特開2007-116515号, 2007.5.10, 出願中
篠原真毅	特許公開	木村 友久, 森 健, 篠原 真毅, 松本 紘, 三谷 友彦, 七日市 一嘉, “導波管スロット結合を用いた電力分配器”, 特願2005-325130号, 2005.11.9, 特開2007-134897号, 2007.5.31, 出願中
篠原真毅	特許出願	木村 友久, 森 健, 篠原 真毅, 松本 紘, “アンテナ”, 特願2007-059684号, 2007.3.9, 出願中
篠原真毅	特許出願	篠原 真毅, 三谷 友彦, 宮川 哲也, 松本 紘, 丹羽直幹, 高木賢二, 浜本研一, “無線電力受電アダプタ”, 特願2007-202305号, 2007.8.2,
篠原真毅	特許出願	橋本隆志, 藤田晋, 篠原 真毅, 三谷 友彦, 松本 紘, “車両用給電装置”, 特願2007-237130号, 2007.9.12, 出願中
篠原真毅	特許出願	丹羽直幹, 浜本研一, 高木賢二, 佐藤稔, 野木茂次, 篠原真毅, 三谷 友彦, “無線電力の可変分配方法及び装置”, 特願2007-262793号, 2007.10.7, 出願中
篠原真毅	特許出願	園部太郎, 吉川暹, 篠原真毅, 三谷友彦, 蜂谷寛, “マイクロ波を用いた不純物ドーブ金属酸化物の製造方法”, 特願2008-42652号, 2008.2.25, 出願中
篠原真毅	特許出願	渡邊隆司, 篠原真毅, 三谷友彦, 親泊政二三, 都宮孝彦, 瀬郷久幸, 高見泰博, “マイクロ波照射装置、及び連結型マイクロ波照射装置”, 特願2008-193434号, 2008.7.28, 出願中
矢野浩之	特許出願	特願2007-142560
矢野浩之	特許出願	特願2007-153897
矢野浩之	特許出願	特願2007-234080
矢野浩之	特許出願	特願2008-153489
矢野浩之	特許出願	特願2008-82027
矢野浩之	特許出願	特願2008-169959
渡辺隆司	特許公開	特許公開2007-104937号「薬剤耐性遺伝子の利用」、発明者: 甲 真理、仲亀 誠司、塚本 晃、杉浦 純、渡邊 隆司、本田 与一、王子製紙株式会社、公開日: 2007年4月26日
渡辺隆司	特許公開	特許公開2006-240125号「リグノセルロース系植物材料の糖化方法」、発明者: 渡辺 隆司、小峰 法子、椎葉 究、日清製粉株式会社、国立大学法人京都大学、公開日: 2007年4月19日